

中国東北部のカンを持つ農村住居の炊事空間の変容に関する研究

A STUDY ON THE TRANSFORMATION OF COOKING SPACE COMPOSITION
OF FARMHOUSE WITH KANG IN NORTHEAST CHINA

新潟大学自然科学研究科 環境共生科学専攻
Environmental Science and Technology,
Graduate School of Science and Technology, Niigata University

棒田 恵
Satoshi BODA

論文要旨
Abstract

論文要旨

研究の背景・目的

中国では、1978年の改革開放政策後、都市の拡大や農村の都市化によって、集落が消滅し、地域性を失ったユニバーサルな集合住宅に急速に置き換わっている。しかし、そのような状況下でも中国に広く分布している暖房設備であるカン(炕:kang)を持つ住居は、消滅せずに残っている。これらの住居には、住居形態や住まい方をその時代の需要により少しずつ変化させ、画一化、硬直化しない柔軟な仕組みが存在している。中国東北部のカンを持つ住居は、現在の農村住居でも残され利用されており、変化を受容する住まい方の仕組みがあると考えられる住居である。

本研究は、奥行き一段構成の横長方形住宅の変容と、その他の多様な平面構成における炊事空間の変容の2つの視点から、中国農村住居の変容を捉える。一つ目は、カンと炊事空間との強い結びつきに着目し、住まい方、改修と増築による空間の変化との関連性を分析し、居住者の新しい住要求を従来の農村住居の中で成立させている仕組みを明らかにする。次に、カンを持つ農村住居の重要な空間要素の1つである炊事空間の利用形態からカマドのある炊事空間の変容を、カンとの関連性から考察する。これらの仕組みの解明によって、今後さらに多様化する住まい方、新たな家族形態を受け入れ変容し、継承される住居の持続性の解明が本研究の目的である。

論文の構成と概要

本研究は、全6章で構成されており、各章の概要を以下に示す。

第1章では、研究背景、目的の他に、既往研究(中国の住居研究、カンの研究、炊事空間の研究)と新潟大学・北海道大学で行った中国東北部の共同研究より本研究の位置づけを行った。また、本研究のプロセスについて記述した。

第2章では、本研究の調査体制、調査方法、調査地域の概略について記述した。

本研究は、中国東北部の複数の都市近郊の農村において、主に漢族の住む住居の生活実態の調査を実施した。調査方法は、訪問調査を原則として、実測調査とインタビューを行い、居住者に空間と家具との関係を確認しながら生活の状況を質問した。

本研究は、漢族のカンが広く分布する中国東北部の主要都市である遼寧省大連市、黒竜江省哈爾濱市の都市近郊の農村地域を対象地域として、2005年から2013年に調査を行った。また、分析にあたり、新潟大学西村伸也研究室が1993年から2001年に行った大連市、哈爾濱市での調査データも一部利用した。

第3章では、カンを持つ農村住居の基本的な空間構成と住まい方を示すとともに、建設年代によ

るカンとカマドの形態的な変容の傾向を説明し、カンとカマドのある厨房との関連性を示した。

中国東北部のカンを持つ農村住居は、入口兼厨房であるカマドのある厨房(外地)とカンの設置される寝室(臥室)で構成されている。外地に設置されているカマドは、カンと隣り合う構成であるため緊密な関係である。従来の農村住居のカン上では接客、就寝、食事、団欒などが行われ、また外地では炊事、洗濯、夏の食事、簡易な接客が行われており、様々な行為が重層している。そのため、カンとカマドのある厨房が、お互いに影響し合いながら変容していると考えられる。また、同一住居の異なる世帯毎でカンとカマドを所有していたため、居住者の減少などによる家族構成の変化が、カンでの住まい方とカマドのある厨房の利用形態へ影響すると考えられる。カンとカマドのある厨房は共に建設年が新しくなるにつれて、従来の農村住居とは異なる位置に設置され、カンとカマドのある厨房を左右非対称に設置する住居が発生していた。

カンの利用と強い関連性を持つ炊事空間は、カマドのある厨房の設えの変化、炊事設備の近代化、家族構成の変化の影響を強く受けていると考えられる。そのため、カンを持つ農村住居の住まいの仕組みの解明には、生活の中心であるカンと炊事空間の変容との関連の中から捉えることが重要であるとした。

第4章では、農村住居、奥行きが一段の横長方形住宅の改修と増築による変容を捉えた。農村住居の改修と増築による空間構成や住まい方の変容を炊事空間(外地や厨房)の変容を手がかりとして、従来の農村住居の中に新しい住要求を成立させているカンを持つ農村住居の空間更新の仕組みの解明を行った。

改修による主要な変化としてカンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置があり、また、主要な改修場所としてカマドのある炊事空間が多く、炊事空間の改善がこれらの住居には重要であった。また、正房の増築でも、新たに炊事空間を増築して、その位置を外地から別の場所に移行することからも読み取れる。複数の改修と増築を組合せる住居では、炊事空間を伴う組合せが多く、炊事空間と関連している空間が変容していると考えられる。また、これらの改修と増築の変化により、就寝の移行、カン上の食事や接客の移行、世帯の分離が、主な改修と増築による生活行為の変化として捉えられた。就寝の移行は、カンの取り壊しによって空間が確保され、客厅や餐厅を確保する為に行われているわけではなかった。空間の分割による生活行為の移行は、外地奥の空間がカン上の行為を受容する空間となることで移行が可能となっていた。さらに複数の改修と増築により、親世帯と子世帯の空間を分離し、親世帯はカンを中心とした従来通りの生活を送り、子世帯はカンを就寝の場所として利用できる空間を形成していた。これらの住居では、就寝、接客、食事を中心として生活行為が機能分化しており、単純に分化しているのではなく、使い分けを行いながら季節や状況に応じて機能分化していた。特に、食事は季節による使い分けが多く、接客は状況による使い分けが特徴として挙げられ、

行為による異なる性質が捉えられた。

カンの上の生活が、改修や増築によりベッドのある臥室や外地奥の餐庁や客庁に移行し、外地がカン上の生活行為の移行の影響を受けて変容していた。これら改修と増築の変容は、単純に住居にカン上の機能を分離するものではなく、カンでの生活をより充実させるために、炊事空間である外地を変化させることで対応していることを明らかにした。

第5章では、炊事空間の変容に焦点を絞り、カンを持つ農村住居の炊事空間と利用方法の特徴、その仕組みについて分析している。外地で行われていた行為のうち、炊事と洗濯の生活行為に着目して、炊事空間の形態的特徴について分析した。その後、炊事と洗濯の空間利用に着目して、生活行為の繋がりにから炊事空間の変容の仕組みを考察した。

炊事空間の変容は、カマドのある厨房の位置を変化させることに加え、炊事場所と洗濯場所の拡張、分離、またカマドのある厨房の複数化といった形態の変容により、空間を拡大していた。炊事場所は、専用の場所を設ける住居も存在するが、多くの住居では、炊事拡張を行っており、また他の行為と場所を共有している。一方、洗濯場所は、カマドのある厨房から分離し、炊事場所との混在が避けられている。また、空間を準備するだけではなく、カマドのある厨房と炊事場所あるいはカマドとコンロの季節、時間帯、調理工程による使い分けを行い、状況による利用形態が異なっていた。さらに、炊事拡張を行うことで、カン上の生活と炊事空間の改善が行われていた。さらにカマドのある厨房は、カン上の行為を行えるように空間の利用形態を変化させていた。一方、洗濯は、炊事ほど複雑な利用形態とはならず、洗濯場所で炊事とは混在させない利用形態となっていた。カマドのある厨房の複数化は、世帯毎の独立した生活を確保しつつ、生活の一部を共有する住まい方も可能とする住居形態であった。2世帯の生活空間を分離するためにカマドのある厨房を複数化する住居があるが、将来の2世帯同居の準備として複数化を行っている住居も存在していた。これら炊事空間の変容は、カマドのある厨房の改善だけではなく、カンでの生活を含めた居住環境の改善、入口空間としての利用形態の変更、新たな家族形態への対応といった要望に関連して空間構成を変容していた。

第6章では、全体を総括するとともに、中国東北部のカンを持つ農村住居の改修と増築、炊事空間の変容による持続的な仕組みと住環境形成について考察した。

カンを持つ農村住居の空間構成の変容は、カンでの生活の保持、炊事空間の改善を行うために、改修と増築、炊事拡張、炊事分離、洗濯分離などの炊事空間の変容があった。中国東北部のカンを持つ農村住居の炊事空間は、カン上の生活を支えるように空間や炊事方法を変化させて、個々の住居の状況に応じた変化をしていた。家族構成の変容に対しても従来の住まい方を継承するだけではなく、世帯毎で異なる住まい方を行えるようにカマドのある厨房を複数化することで対応していた。中

国東北部のカンを持つ農村住居では、カンと炊事空間の相補的な関係が動的な機能分化を引き起こし、カンのある空間を軸とした炊事空間の変容が行われ、持続的な仕組みを形成していることを明らかにした。

ABSTRACT

A rapid development and expansion of urbanized cities is occurring in China. Due to these influences, low-rise housing in agricultural areas is being replaced with electrical components factories, high-rise buildings and so on. However, traditional homes like farmhouses with kang have long existed in northeast China. For centuries, applying rigid and uniformed features has been avoided in these farmhouses, instead maintaining systems which are gradually transformed through resident's demands of the times. The kind of house has unique elements within farmhouse composition and resident's behaviour, including lifestyle and farming, in traditional society. In severe environments, residents supported themselves, so that they get along until now.

Pinpointing a cold district in northeast China, the study aims to explore sustainable systems within a village and its farmhouses in order to adapt new living demands and family configuration, analyzing the transformation of space composition and recent lifestyle changes.

Two main focuses of the study are:

1) The transformation of space composition of kang in conjunction with home renovation and extension influenced by recent lifestyle changes. A key transformation is the shift in kang usage from a multifunctional space to a mono-functional one. Another included the establishment of entertaining and eating space influenced by changing cooking space with kamado. In addition, the study uncovered multi-functional differentiation, more specifically, the flexibility to adapt to recent lifestyle while sustaining kang-centred living.

2) The transformation of cooking space with kamado related to kang in conjunction with behavior in the food preparation area. This study found that the characteristics of transformation were expansion of the cooking space and separation of part of the cooking space with kamado. Meanwhile, the laundry space was separated from the cooking area. These transformations were linked with not only improvement of the cooking space, but also kang-centred living style and two-generation living. We clarified that the systematic change of the cooking space with kamado contributes to the sustainability of the farmhouse so as to maintain the local living environment.

The study clarified that the farmhouse with kang possess multi-functional differentiation by kang centred living. In addition, the house transformed in conjunction with reciprocal relationship between kang and cooking space with kamado in order to keep living on the kang. The study concluded two unique features, the multi-functional differentiation and the reciprocal relationship, both of which are created to provide an adaptable system for sustainability.

目次
Table of contents

目次／Table of Contents

論文要旨

目次

はじめに

1章 研究背景・目的	003
1-1. 研究背景	
1-2. 既往研究	
1-2-1 中国の住居に関する研究	
1-2-2. カンに関する研究	
1-2-3. 炊事空間に関する研究	
1-2-4. 新潟大学西村研究室・北海道大学野口研究室による中国東北部の住居研究	
1-3. 研究の位置付け	
1-4. 研究目的	
1-5. 研究方法	
2章 調査概要	015
2-1. 調査対象と方法	
2-2. 調査内容	
2-3. 調査対象地域概要	
2-3-1. 遼寧省大連市	
2-3-2. 黒竜江省哈爾浜市	
2-4. 調査住居概要	
3章 中国東北部の住居について	033
3-1. 本章の構成	
3-2. 中国東北部のカンを持つ農村住居	
3-2-1. カンを持つ農村住居の基本的な空間構成	
3-2-2. カンを持つ農村住居の屋外の空間構成	
3-2-3. 中国東北部の暖房設備カン	
3-2-4. カンと繋がるカマドのある厨房とカンでの採暖方法	
3-3. 多様化するカンとカマドのある厨房	
3-3-1. カンの位置の変容	
3-3-2. カマドのある厨房の位置の変容	
3-4. 小まとめ	

4章 改修・増築によるカンと炊事空間の変容と機能分化	047
4-1. 本章の構成	
4-2. 改修と増築による農村住居の変化	
4-2-1. カンを持つ農村住居の主な改修	
4-2-1-1. 暖房に関する改修	
4-2-1-2. 平面に関する改修	
4-2-1-3. カマドに関する改修	
4-2-1-4. その他の改修	
4-2-2. カンを持つ農村住居の主な増築	
4-2-3. 改修による変化の特徴	
4-2-4. 正房の増築の特徴	
4-2-5. 改修と増築の組み合わせ	
4-3. 改修と増築による住まい方の変化	
4-3-1. カンの取り壊しによる住まい方の変化	
4-3-1-1. カンの取り壊しと就寝形態の変化	
4-3-1-2. 季節による場所の使い分け	
4-3-1-3. カン上の生活行為の分化	
4-3-1-4. カンとカマドの改修と増築による生活行為の分化	
4-3-2. 空間の分割による生活行為の分化	
4-3-2-1. 分割による季節の使い分け	
4-3-2-2. 外地奥への生活行為の分化	
4-3-2-3. 空間の分割によるカン上の生活行為の分化	
4-3-3. 改修と増築による世帯の独立	
4-3-4. 改修と増築による生活行為の分化と場所の使い分け	
4-3-4-1. 生活行為の分化と場所の使い分け	
4-3-4-2. 接客と食事のカン上からの移行	
4-3-5. 改修と増築による機能分化の特徴	
4-4. 小まとめ	

5章 カンを持つ農村住居の炊事空間の変容 069

5-1. 本章の構成

5-2. 従来の外地からの行為の分離

5-2-1. 炊事場所・洗濯場所の発生

5-2-2. 複数化するカマドのある厨房

5-2-3. カマドのある厨房の位置の変容

5-2-4. カマドのある厨房の位置と炊事場所の数

5-3. 炊事空間の形態変容

5-3-1. カマドのある厨房での行為の拡張と分離

5-3-2. 複数化したカマドのある厨房での 行為の拡張と分離

5-3-3. 炊事や洗濯を行う場所と行為の関係

5-3-4. 炊事と洗濯の空間利用

5-3-5. 炊事空間の拡大と洗濯場所の分離

5-4. 炊事設備とその使い分け

5-4-1. 炊事設備の利用

5-4-2. 炊事設備の使い分け

5-5. 炊事空間の利用形態の変容

5-5-1. 季節による空間の使い分けと炊事空間の改善

5-5-2. カマドのある厨房からの炊事と洗濯の分離

5-5-3. カマドのある厨房の機能の変容

5-5-4. カマドのある厨房の複数化と2世帯同居

5-5-5. 住まい方の変容と拡大する炊事空間

5-6. 小まとめ

6章 まとめ 089

あとがき

謝辞

付章

はじめに

2004年の学部生だった頃に当時修士課程の先輩の中国調査に同行し、異国の土地でみた住居は、当時の私には非常に新鮮であった。その当時、行動や行為によって意味が付加され、立ち現れる建築空間に興味があり、中国での調査の際に、現地のカン(炕:kang)を持つ農村住居にとっても惹かれた。これらの農村住居は、形骸化した空間ではなく、居住者が日常的に空間を使いこなすことで、住居がより豊かになっていると感じた。中国東北部のカンを持つ農村住居には、無秩序で、特徴のないような空間の中に、居住者の様々な工夫があり、住環境が形成されていた。特に、カンは、居住者が時代遅れの空間だと口をそろえて述べていたが、どの住居でも重要な空間として位置付けられ、残されていた。また、外地と呼ばれる炊事空間の半屋外としての在り方が、日本の農村住居の土間と台所の在り方に似ており、興味が引かれた。さらに、これら2つの空間は、家族の中心的空间(カン)とそれを支える空間(外地)であり、対を成す空間であった。居住者の住環境への工夫、カン、炊事空間の特徴を捉える事で、住居で感じた魅力を説明できるのではないかと考えたことが、研究を始める切っ掛けであった。また、人口の減少する社会において、既存の住まいを如何に残し、活用していくかが重要になる。そのため、地域の中で継承されながら残っているカンを持つ農村住居の仕組みの解明は、中国のみならず、日本や他の国での持続的な住環境形成を考えるために有効である。空間と住まい手、環境と行動が相互に影響し合いながら成立する住居の設計手法の提案に寄与することが最終的に可能であると考え、本研究が企図された。

1章 研究背景・目的 Research Background & Purpose

- 1-1. 研究背景
- 1-2. 既往研究
- 1-3. 研究の位置付け
- 1-4. 研究目的
- 1-5. 研究方法

1章 研究背景・目的／ Research Background & Purpose

1-1. 研究背景

本研究の対象は、建築史の中で記述されてきた住居では無く、民族学や民俗学の発達によってその存在が見直されてきた庶民の住居である。建築の分野では、B.ルドルフスキーが、1964年のニューヨークでの展覧会をまとめた『建築家なしの建築』¹⁾の中で、これまでの建築史が庶民の住宅について触れられてこなかったことを指摘している。また、「これまで建築史の正系から外れていた建築の道の世界を紹介することによって、建築芸術についての私たちの狭い概念を打ち破ることを目指している。」とし、建築家なしの建築から学ぶべき教訓が多く存在するとしている。エイモス・ラポポートも『住まいと文化』²⁾の中で、B.ルドルフスキーと同様に庶民の建築が建築学の理論と歴史に無視されてきたと主張し、建築環境は「風土建築」がつくり出してきたものであり、これら風土建築の建築形態と行動や生活様式に焦点を当てることによって建築環境を理解するための概念的枠組を提示しようとしている。また、太田邦夫は、B.ルドルフスキーの「建築家なしの建築」を「知られざる建築」と呼び、その包括的な呼称として民族の建築を意味する「エスノ・アーキテクチャ」³⁾をあてている。太田は、このエスノ・アーキテクチャを近代社会以外の社会や文化を支えていた建築として評価し、エスノ・アーキテクチャが存続した社会は、特定の社会や文化に固有な技術があり、独自の技術の運用方法や捉え方が存在していたとしている。そして、これらが、今後の建築の在り方を示唆する建築の捉え方であるとしている。このように庶民の住居は、地域、社会、文化の影響を受けて形成され、持続的に使われ続ける特性を持つと考えられる。さらに、庶民の住居には、時代、家族構成などによって変化する住要求を受け入れ修正しながら蓄積された工夫が空間構成や住まい方に刻まれている。このように持続的に使われ続ける庶民の住居には、エイモス・ラポポートの言葉を借りると、創造的適応⁴⁾と呼ぶべき変化の仕組みが存在していると考えられる。庶民の住居の持つ変化を許容する空間や住まい方の工夫は、住民の住まい方の多様化、重層化を可能とし、近代的な住まい方と共存する変容の方向性を示すものであると考えられる。本研究で考える持続的な住居は、「建築家なしの建築」、「エスノ・アーキテクチャ」のような現在でも残っている庶民の住居としてだけではなく、住まいの要求とともに少しずつ修正され、かたちを変化させながら残っていく住居である。庶民の住居の中にある変化を許容する空間や住まい方の工夫の構造を解明することによって、継承された住まいを保持しながら更新し、住生活の向上に寄与する手法の開発が可能であると考えられる。

中国東北部には伝統的に利用され続けている「カン：炕(Kang)」と呼ばれる暖房設備を持つ庶民の住居が現在でも存在している。また、カンは暖房設備としてだけではなく、就寝、食事、団欒、接客などの生活の中心となる空間として利用されている。中国国内にはカンを持つ住居が広く分布しており、特に中国東北部では地域や民族の違いによって多様な住空間を形成している。中国では、1978年の改革開放政策後、都市の拡大や農村の都市化によって、集落が消滅し、地域性を失ったユニバーサル

な集合住宅に急速に置き換わっている。しかし、そのような状況下でも農村では、カンを持つ農村住居が建設され続けている。また、ラジエータなどの新しい暖房設備を採用する住居が多くなる中、重要な暖房としてカンは残っており、生活の中心的な空間としても位置づけられ続けている。住居のかたちや住まい方をその時代の需要により少しずつ変化させ、画一化、硬直化しない柔軟な仕組みがカンを持つ農村住居に存在している。この柔軟な仕組みは、空間の意味や役割、またその作法が住居のかたちや住まい方として、重層し、複雑に関連し合いながら成立していると考えられる。これらの関係を読み解くことは、住居や集落を維持あるいは更新していく住空間を計画する上で、多くの知見を与えてくれると考えられる。

1-2. 既往研究

1-2-1 中国の住居に関する研究

中国の住居研究では、『中国の住宅』(劉敦楨)⁹⁾で、中国全土に広がっている漢民族の住宅を中心に歴史的観点からその状況を示し、15世紀末から20世紀初頭までの住宅を分類し、多様に変化したこれら住宅の特徴を説明している。この他、青木正夫らの四合院住宅の研究⁶⁾⁻⁸⁾では、中国の住宅の基本単位である一明両暗を手掛かりに、非一明両暗型住宅の正房、門房、廂房の平面構成を生活との関わりから分析を行い、その生成過程と中国全土での地域分布の解明をしている。さらに、古文献、遺跡及び出土物の分析より、一明両暗型住宅が漢代を境に普及、成立したことを明らかにしている。井上えり子らによる中国の古羌系民族の研究⁹⁾⁻¹¹⁾では、羌族、木雅チベット族、納西族の集落と住居を対象に、その空間構成を就寝方法、イロリ周りの着座位置、非日常の空間領域などを比較分析することで、古羌系民族の持つ空間概念の解明を行っている。また、伴丈正志・岡田知子ら¹²⁾⁻¹⁵⁾による研究では、集落にある共生のしくみを集落、住居の空間構成と行事や儀礼に着目し、住居と集落の空間構成が構造的に同じであることを指摘し、これらの構造の一致、行事が継承され行われることにより共同性を育んでいると述べている。『中国の農村住居における近代化の変容過程に関する研究』(張磊、片野博他)¹⁶⁾では、中国南京市の都市近郊の農村住居を対象とし、新しい生活設備の導入による空間構成と空間機能の変化を把握し、生計と社会構造との関係を明らかにしている。さらに増築による住居の改善は、利便性の向上と共に地域社会への見栄などの影響を示している。

このように四合院住宅や民族特有の集落構造や住居の特徴について研究がされているが、都市郊外の農村住居とその変容に焦点を当て空間構成と住まい方との関係を捉えた研究は少ない。

1-2-2. カンに関する研究

カンに関する文献として、『中国古代建築技術史』（中国科学院自然科学史研究所）¹⁷⁾の採暖技術の発展に関する報告では、中国の採暖方式は、採暖と炊事を兼ねた設えから技術の発展や民族の作法の違いによりカンを含む様々な暖房方式が出現したことを報告している。この他、『吉林民居』（張馭寰）¹⁸⁾では、吉林地区において、漢族の南カン、北カンを持つ住居の他に満族、朝鮮族、蒙古族の民族毎にカンの特徴と住居形態、住まい方について報告されている。浅川滋男¹⁹⁾による黒竜江省での調査を中心とした研究では、中国東北部の農村住居について民族毎に住空間の作法と住居平面との関係について歴史民族学的な視点から分析している。青木正夫ら²⁰⁾の烟台地区の農村住宅研究^{注1)}では、オンドルにおける公私機能の混同と夏のオンドルの暑さを住宅の更新における課題と捉え、旧来からのオンドルに形態が強く規定されながらもこれらの課題を克服する過程として住宅の多様な変化を分析している。また、岡田知子ら²¹⁾は、カンを持つ農村住居の近代化を住民のライフスタイルと住居の設えの変化に着目し、カンでの生活を中心としながらも臥室が付加され大型化すること、息子の結婚を機に家の新築や改修を行うこと、家電製品の購入は家事の向上や家族の団欒や快適性に関わるものが多いことを捉えている。

このようにカンに関する研究は、考古学、歴史学からその起源、技術、民族の違いによる住居平面との関係に関する研究が行われているが、カンでの生活の保持と関連する住居平面構成の変化、家具や設えの近代化に関する研究のように、カンを持つ住居の形態とカンでの住まい方の変容を捉えた研究が少ない。

1-2-3. 炊事空間に関する研究

中国の農村住居に関する研究は数多く報告されているが、炊事空間を分析の対象としている研究は少なく、以下が代表的な研究として挙げられる。青木正夫、浦良一ら²⁰⁾の研究では、中国山東省の農村住宅を対象として、農村における住宅建設の状況をふまえ、住宅配置、宅地内の利用、住宅平面の変容に関する報告を行っている。特にオンドル^{注2)}を持つ伝統的な農村住宅の問題点として、堂屋における炊事や食事などの私的空間と入口としての公的空間の混在、夫婦の寝室と家族の寛ぐ場及び接客空間の混在、カマドとオンドルの関係による夏の暑さの3つの問題点を指摘し、これらへの対応という視点から住宅の平面構成の変化を考察している。土田充義ら²²⁾の、中国湖南省瑶族民家のイロリとカマドの変遷過程を明らかにした研究では、イロリの炊事機能がカマドへ融合されて形態が変化し、イロリは採暖機能のみの火盆へと規模が縮小されたことを捉えている。また、浅川滋男²³⁾は江南漢族と華南少数民族の住居において、民族考古学と歴史学を統合した民族建築学的視点から分析を行っている。その中の炊事空間に関する報告として、華南地域の各民族固有の空間構成が漢化される過渡期にあるとし、台所の設えやカマドの造り、使い方の作法を比較・分析し、習俗や社会背景との

関係性を読み解いている。胡恵琴ら²⁴⁾による四合院住居の研究では、漢族の都市住居である四合院の調理と食事に関わる空間と様式の変遷を複数の史料を用いて歴史的視点から分析している。

このように炊事空間に関する研究は、考古学、歴史学、民族学的視点からイロリとカマドの変遷、炊事に関わる空間と様式の変容を捉えた研究があるが、カンを持つ農村住居の炊事空間に着目した研究は少ない。

1-2-4. 新潟大学西村研究室・北海道大学野口研究室による中国東北部の住居研究

新潟大学西村伸也研究室と北海道大学野口研究室では²⁵⁾⁻⁴¹⁾では1993年から現在に至るまで中国東北部の遼寧省大連市、瀋陽市、黒竜江省哈爾濱市で広く分布しているカンを持つ農村住居が保持している持続的な集落形成の仕組みに関する共同研究を継続的に行っている。中国東北部におけるカンのある住居に関する研究(西村伸也、野口孝博他)では、積雪寒冷地である中国東北部のカンの位置と住まい方の変容により、生活行為と家具の配置などにある細かな区分と作法、履物の位置で示される家族の領域形成が変容していることを捉えている。また、別報では、農村住居の変容と床の上下足領域との関係について考察し、伝統的住居のカン上の行為が、新築住居ではカン上以外の場所に移行し領域を形成していることを報告している。

1-3. 研究の位置付け

本研究が、対象とする中国東北部のカンを持つ農村住居を取り上げる研究は少なく、住居の考古学的、歴史学的視点から住居の特徴を明らかにする研究や民族学的な視点から少数民族の特徴的な住空間に関する研究が多く行われている。また、カンを持つ農村住居を対象とする研究は、カン上での生活の変容、住居の平面構成との関係性の分析が中心であり、カンが接続されるカマドあるいは炊事空間との関係を捉えた研究は少ない。さらに、炊事空間は電気やガスの普及の影響を受ける空間であるが、これら炊事空間の変容と空間構成や住居全体での住まい方との関係を分析した研究が少ない。特に、炊事、洗濯などの生活行為が重層するカンを持つ農村住居の炊事空間に着目し、カンを持つ農村住居の変容を分析した研究はこれまで行っていない。中国東北部のカンを持つ農村住居の持続的な仕組みを、生活を支える空間(カマドのある厨房)と生活の中心となる空間(カン)の2つの住空間の更新から、農村住居の持つ相互浸透的な関係として捉える点は、持続的な住環境の解明にとって独創的な視点である。

1-4. 研究目的

本研究は、中国東北部のカンを持つ農村住居の空間構成と住まい方との関係及びその変容の仕組みを捉え、カンを持つ農村住居の持続性の解明を行う。カンは、壁を挟んで直接つながるカマドのある厨房^{注1)}と対を成して存在する空間であり、お互いに住まい方や空間構成と強い影響を及ぼす関係があると考えられる。そのため、カンを持つ農村住居の空間構成の変容の仕組みを明らかにするには、カンの上での住まい方と炊事空間の利用形態に着目し、この対となっている空間の変容を捉えることは重要である。中国のカンを持つ農村住居のカマドのある厨房は、近年になり、住居内での位置づけが大きく変容している空間のひとつである。カマドのある厨房を伝統的な形式として遵守するのではなく、変化を積極的に取り込みながらも、カンと切り離すことの出来ない重要な空間として利用している。カマドのある厨房は、生活の中心であるカンでの生活を支える空間として捉えることができ、住居を支える空間(カマドのある厨房)と中心的な空間(カン)の緊密な関係より、変化を許容することが可能となり、持続的な空間として成立していると考えられる。さらに、カン上は、就寝が行われる私的な空間であるが、接客、家族の団欒や食事などが行われ、住まいと地域、世帯間を繋ぐ公的な空間でもある。そのため、カンとカマドのある厨房空間は、地域、家族のかたちを表す空間として捉える事が出来る。カンとカマドのある厨房の変容を読み解くことで、地域、家族の変容との関連性の中で、住居の持続的な仕組みを解明することが可能であると考えられる。

本研究では、カンを支える空間であるカマドのある厨房に着目して、カンを持つ農村住居の空間構成と住まい方を分析する。本研究は、奥行き一段構成の横長方形住宅の変容と、その他の多様な平面構成における炊事空間の変容の2つの視点から、中国農村住居の変容を捉える。一つ目は、カンと炊事空間との強い結びつきに着目し、住まい方、改修と増築による空間の変化との関連性を分析し、居住者の新しい住要求を従来の農村住居の中で成立させている仕組みを明らかにする。次に、カンを持つ農村住居の重要な空間要素の1つである炊事空間の利用形態からカマドのある炊事空間の変容を、カンとの関連性から考察する。これらの仕組みの解明によって、今後さらに多様化する住まい方、新たな家族形態を受け入れ変容し、継承される住居の持続性の解明が本研究の目的である。

本研究では、1993年から2013年の調査データを基にして、カンとカマドのある厨房である外地との強い結びつきに着目し、それら変容の関連性を分析し、以下の解明を行う。

- 1) 改修と増築による空間構成と住まい方の変容
- 2) 炊事空間の形態的変容の特徴
- 3) 炊事空間の変容と利用形態の関係性
- 4) 中国東北部のカンを持つ農村住居の炊事空間の変容の仕組み

1-5. 研究方法

本研究は、全6章の構成をとっている(図1-1)。

第1章では、研究の背景と目的を示した上で、国内外の既往研究(中国の住居研究、カンに関する研究、炊事空間に関する研究)、新潟大学西村伸也研究室と北海道大学野口孝博研究室の共同研究により、本研究の位置づけを行った。本研究は、奥行き一段構成の横長方形住宅の変容と、その他の多様な平面構成における炊事空間の変容の2つの視点から、カンを持つ農村住居の変容の仕組みを捉える。これらの仕組みの解明によって、今後さらに多様化する住まい方や新たな家族形態を受け入れて変容し、継承される住居の持続性の解明が本研究の目的とした。

第2章では、本研究が対象とする調査地域の概略、調査体制と調査方法について記述した。本研究が行った訪問調査(実測調査とインタビュー)についての概略を説明した。また、調査を行った農村住居に関する概要を記述した。

第3章では、カンを持つ農村住居の基本的な空間構成と住まい方を示すとともに、建設年代によるカンとカマドの形態的な変容の傾向を説明し、カンとカマドのある厨房との関連性を示した。特に、カンの利用と強い関連性を持つ炊事空間は、カマドのある厨房の設えの変化、炊事設備の近代化、家族構成の変化の影響を強く受けられていると考えられる。そのため、カンを持つ農村住居の住まいの仕組みの解明には、生活の中心であるカンを炊事空間の変容との関連の中から捉えることが重要であるとした。

第4章では、農村住居、特に頻繁に見られる奥行きが一段の横長方形住宅の改修と増築による変容を捉えた。農村住居の改修と増築による空間構成や住まい方の変容を炊事空間(外地や厨房)の変容を手がかりとして、従来の農村住居の中に新しい住要求を成立させているカンを持つ農村住居の空間更新の仕組みの解明を行った。

第5章では、炊事空間の変容に焦点を絞り、カンを持つ農村住居の炊事空間と利用方法の特徴、その仕組みについて分析している。外地で行われていた行為のうち、炊事と洗濯の生活行為に着目して、炊事空間の形態的特徴について分析した。その後、炊事と洗濯の空間利用に着目して、生活行為の繋がりから炊事空間の変容の仕組みを考察した。

第6章では、全体を総括するとともに、中国東北部のカンを持つ農村住居の改修と増築、炊事空間の変容による持続的な仕組みを明らかにし、持続的な住環境形成について考察した。

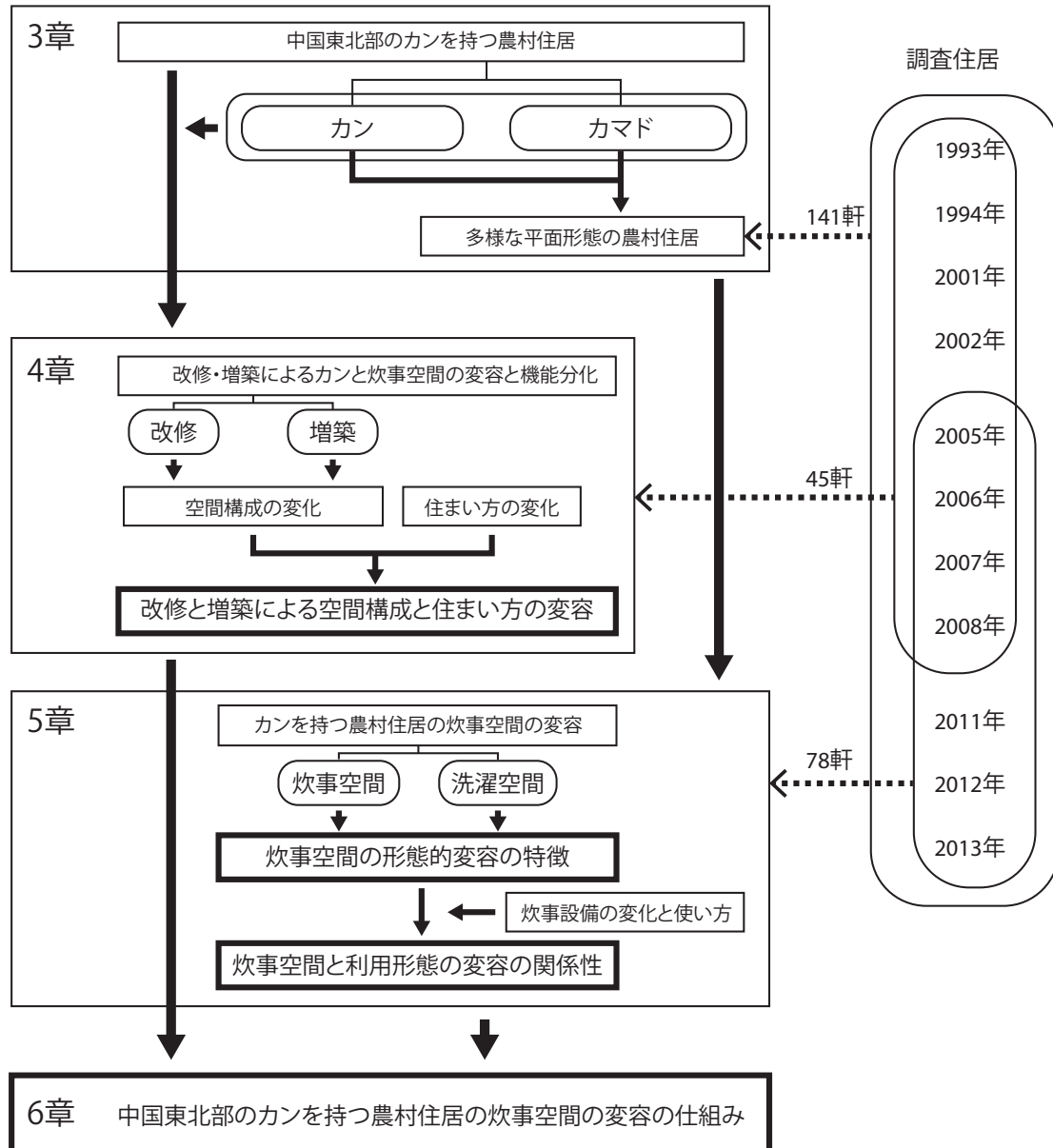


図 1-1 研究の流れ

注釈

- 注1) 建設年の古い住居では、入口兼カマドのある厨房を外地と呼び、新しくなり炊事空間の位置が変化するにつれ厨房と呼ばれるようになる。そのため、建設年の古い住居での炊事空間のみを指す場合には、外地という呼称を用い、新旧関係なくカマドのある厨房を指すときは、カマドのある厨房という呼称を用いる。
- 注2) 当該研究の調査対象とされている山東省の農村住居が持つ暖房設備は、当該論文でオンドルとされているが、論文中の平面図と写真から本研究で扱うカンと同様のものであると判断し、参考文献とした。

既往研究・参考文献

- 1) バーナード・ルドフスキー (Bernard Rudofsky) : 建築家なしの建築 (渡辺武信訳), 鹿島出版会, 1976
- 2) エイモス・ラポポート (Amos Rapoport) : 住まいと文化 (山本正三、佐々木史郎、大嶽幸彦共訳), 大明堂, 1987
- 3) 太田邦夫 : エスノ・アーキテクチャ, 鹿島出版会, 2010
- 4) エイモス・ラポポート (Amos Rapoport) : 文化・建築・環境デザイン (大野隆造、横山ゆりか訳), 彰国社, 2008
- 5) 劉敦楨 : 中国の住宅 (田中淡、沢谷昭次訳), 鹿島出版会, 1976
- 6) 周南、青木正夫、上和田茂、西田勝、鈴木義弘 : 中国における「非一明両暗」型住宅の平面構成及び住まい方に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 第 518 号, pp.105-112, 1999.4
- 7) 周南、青木正夫、上和田茂 : 中国における「非一明両暗」型四合院に関する研究 - その 1 四合院の平面類型と「非一明両暗」型住宅の分布 -, 日本建築学会計画系論文集 第 518 号, pp.181-188, 1999.4
- 8) 周南、青木正夫、上和田茂、西田勝、傅開楠 : 中国における一明両暗住宅の成立過程について, 日本建築学会計画系論文集 第 548 号, pp.89-95, 2001.10
- 9) 井上えり子 : 羌族の住居の空間構成 - 中国の古羌系民族の住居と集落に関する研究 その 1 -, 日本建築学会計画系論文集 第 522 号, pp.139-146, 1998.8
- 10) 井上えり子 : 木雅チベット族の住居の空間構成 - 中国の古羌系民族の住居と集落に関する研究 その 2 -, 日本建築学会計画系論文集 第 530 号, pp.111-118, 2000.4
- 11) 井上えり子 : 納西族の住居の空間構成 - 中国の古羌系民族の住居と集落に関する研究 その 3 -, 日本建築学会計画系論文集 第 539 号, pp.111-118, 2001.1
- 12) 伴丈正志、岡田知子 : 中国・雲南少数民族における集住の空間構成 2 - 西盟ワ族の住居に関して -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.353-354, 1998.9
- 13) 伴丈正志、岡田知子 : 西双版纳ダイ族集落の住居にみる共同性の空間特性 - 中国・雲南少数民族における集住の空間構成 3 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.403-404, 1999.9

- 14) 岡田知子、伴丈正志：西双版纳ダイ族の集落にみる共同性の空間特性 - 中国・雲南少数民族における集住の空間構成 4-, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.405-406, 1999.9
- 15) 岡田知子、伴丈正志、加藤仁美：西双版纳ダイ族の集落にみる共同空間と共同性のしくみ - 中国・雲南少数民族における集住の空間構成 5-, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.645-646, 2000.9
- 16) 張磊、片野博、井上朝雄：中国の農村住居における近代化の変容過程に関する研究 - 中国南京市江洲鎮永定村第二村民小組を事例として -, 日本建築学会計画系論文集 第 614 号, pp.145-152, 2007.7
- 17) 「中国古代建築技術史」(中国科学院自然科学史研究所), 科学出版社, 1985
- 18) 「吉林民居」(張馭寰), 天津大学出版社, 2009.9
- 19) 浅川滋男：北東アジアのツングース系諸民族住居に関する歴史民族学的研究 - 黒竜江省での調査を中心に, 住宅総合研究財団研究年報 (23), pp.87-96, 1997.3
- 20) 青木正夫、浦良一、下河辺千穂子、荻原正三、林泰義、山田晴義、東正則、川嶋雅章：烟台地区における農村住宅型とその発展過程 - 中国山東省農村集落・住宅調査報告(Ⅲ) -, 農村計画学会誌 vol.2 No.3, pp.36-49, 1983.12
- 21) 韓犇、有馬可奈、岡田知子、井上朝雄、近藤加代子：中国東北部農村における現代農村の住まい, 日本建築学会九州支部研究報告計画系 第 51 号, pp.185-188, 2012.3
- 22) 王暉、土田充義、北野隆、伊東龍一：中国湖南省江華県瑤族民家におけるイロリとカマドの変遷について - 中国湖南省瑤族民家に関する研究(その2) -, 日本建築学会計画系論文集 第 590 号, pp.159-166, 2005.4
- 23) 浅川滋男：「住まいの民族建築学 江南漢族と華南少数民族の住居論」, 建築資料研究社, 1994
- 24) 胡恵琴、平井聖：四合院住居における厨房の歴史に関する研究(明末清初～清末民初), 日本建築学会計画系論文集 第 561 号, pp.263-269, 2002.11
- 25) 西村伸也、野口孝博、陸偉、朝野剛、鈴木晋：中国東北部(大連・瀋陽)における居住空間と住まい方に関する研究 - カンと部屋の構成・住まい方の関係について -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E, pp.49-50, 1994.9
- 26) 西村伸也、野口孝博、陸偉、朝野剛、鈴木晋、藤塚慎一郎：中国東北部におけるカンのある住居に関する研究 その2 - 現代住居に残されるカンの住まい方 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.313-314, 1995.8
- 27) 西村伸也、野口孝博、陸偉、朝野剛、鈴木晋、藤塚慎一郎：中国東北部におけるカンのある住居に関する研究 その3 - 現代住居に内包される伝統的空間構成 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.315-316, 1995.8
- 28) 西村伸也、鈴木晋、藤塚慎一郎、小山朝子：中国東北部におけるカンのある住居に関する研究 その4 - 外部空間と内部空間の秩序 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.1-2, 1996.9
- 29) 西村伸也、藤塚慎一郎、鈴木晋、小山朝子：中国東北部におけるカンのある住居に関する研究 その5 - 空間構成要素の配列の変容 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.3-4, 1996.9

- 30) 野口孝博、西村伸也、月舘敏栄、森下満、池上重康、岡本浩一、林文潔、橋爪隆一、山下義行、常広陽子、陸偉、周燕珉：庁を中心にみた住空間構成の変化について - 大連を中心とする中国東北部の住宅・住様式に関する調査研究（１）-, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.539-540, 2001.9
- 31) 山下義行、野口孝博、西村伸也、月舘敏栄、森下満、池上重康、岡本浩一、林文潔、橋爪隆一、常広陽子、陸偉、周燕珉：農村住宅における「カン」の様式と住まい方 - 大連を中心とする中国東北部の住宅・住様式に関する調査研究（２）-, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.541-542, 2001.9
- 32) 佐藤匠、西村伸也、林文潔、野口孝博、月舘敏栄、森下満、池上重康、陸偉、周燕珉：ハルビン・瀋陽市の郊外農村住居の変容と床の上下足領域, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.5-6, 2003.9
- 33) 鈴木健之、荒木智、西村伸也、林文潔、野口孝博、月舘敏栄、森下満、池上重康、岡本浩一、佐藤匠、陸偉、周燕珉、周博：中国東北部の住居における床領域に関する研究その１ - 農村住居における平面の変容と上下足領域 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.65-66, 2004.8
- 34) 山田文宏、西村伸也、野口孝博、月舘敏栄、周博、林文潔、川岸昇、棒田恵：炕に対する認識とその住まい方について - 中国東北地方の農村住居における空間構成のしくみに関する研究 その１ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.153-154, 2006.9
- 35) 棒田恵、西村伸也、野口孝博、月舘敏栄、周博、林文潔、川岸昇、山田文宏：領域形成と炕・厨房の構成についての考察 - 中国東北地方の農村住居における空間構成のしくみに関する研究 その２ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.155-156, 2006.9
- 36) 門岩由布子、西村伸也、周博、林文潔、棒田恵：農村住居の増築・改築とカンの変化 - 中国東北地方の農村住居における空間構成の変容に関する研究 その１ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.63-64, 2007.8
- 37) 棒田恵、西村伸也、周博、林文潔、門岩由布子：農村住居の増築・改築と住要求の変化 - 中国東北地方の農村住居における空間構成の変容に関する研究 その２ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.65-66, 2007.8
- 38) 棒田恵、西村伸也、周博、林文潔、門岩由布子、工藤裕、後藤洋平：カン・厨房の変容について - 中国東北地方の農村住居における空間構成と住まい方に関する研究 その１ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.175-176, 2008.9
- 39) 工藤裕、西村伸也、林文潔、周博、棒田恵、門岩由布子、後藤洋平：カン・厨房の住まい方の変化における空間構成の仕組みについて - 中国東北地方の農村住居における空間構成と住まい方に関する研究 その２ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.177-178, 2008.9
- 40) 棒田恵、西村伸也、工藤裕、小林勉、小林成光：カン位置・方位とその住まい方について - 中国東北地方の農村住居における空間構成の変容と領域形成に関する研究 その１ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.5-6, 2010.9
- 41) 小林成光、西村伸也、棒田恵、工藤裕、小林勉：床領域と家族構成の関係について - 中国東北地方の農村住居における空間構成の変容と領域形成に関する研究 その２ -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp.7-8, 2010.9

2章 調査概要 Research Method

- 2-1. 調査対象と方法
- 2-2. 調査内容
- 2-3. 調査対象地域概要
- 2-4. 調査住居概要

2章 調査概要 Research Method

2-1. 調査対象と方法

本研究は、中国東北部の複数の都市近郊の農村において、主に漢族の住む住居の生活実態の調査を実施した。都市近郊の農村は、大規模な開発によって高層集合住宅群に置き換わる地域が多いが、一方で従来の農村住居も新しい生活様式や近代化された設備を取り込み、手を加えられながら残っている地域も存在している。その移行期にある農村集落を対象とすることで、住まい方の移り変わりから現代の住居への要求を読み解くことができると考えた。また、カンの持続性の解明には、民族、地域、住居形式により異なる特徴を持つカンの住まい方を捉える必要があるが、数多く分布している中国東北部の漢族の横長方形住宅を対象とする。

本研究は、中国東北部の主要都市である大連市と哈爾濱市郊外や近郊の農村を対象として行っている。中国側の5大学(大連理工大学、哈爾濱工業大学、清華大学、北方工業大学、華僑大学)の協力を得て、日中の共同体制をとっている。調査集落の選定には中国側の大学のアドバイスを得て選定している。調査は日中の研究者と学生が合同チームを形成して実施している。また、中国語文献の調査は、共同研究者の協力を基に翻訳した内容を基に分析を行っている。



図 2-1 調査対象都市

2-2. 調査内容

調査内容は、地域や年次によって変更を行っているが、各地域でほぼ共通の内容である。調査方法は、訪問調査を原則として、実測調査とインタビューを行い、居住者に空間と家具との関係を確認しながら生活の状況を質問した。調査班は、日中の共同研究者と学生で構成されており、調査員の参加状況によって1班あるいは2班で行い、インタビューは1名あるいは2名、住居内部の実測調査は2名、屋外の実測調査も2名、通訳1から2名の調査員の構成で実施している。

実測調査は、住居室内と外部の平面構成、室内家具の配置の採取、及び写真撮影を行った。インタビューでは、家族構成、建物概要、改修・増築による空間の変化、カン・ラジエータ・ペチカなどの暖房設備、接客、食事、団欒、就寝、炊事、洗濯など基本的な生活行為、洗面器の利用、上下足の履き替えについての生活の作法、多世帯居住、住居の維持管理について質問した。また、基本的な生活行為に関しては夏と冬での住まい方の変化についても質問を行った。

調査住居は、家族で同一敷地内で居住している場合でも、異なる入口を持ち内部空間の繋がっていないものは、生計を別にしている住居として扱っている。

2-3. 調査対象地域概要

2-3-1. 遼寧省大連市

調査対象都市である大連は、中国東北部の遼東半島の最南端に位置し、新潟市とほぼ同緯度の北緯38度にある。大連市は、11月から4月の平均気温は10℃以下となり、最も寒い1月には月平均気温が－5℃以下となる寒冷地域であり、中国東北部の中では比較的温暖な気候である¹⁾。大連市は、6市轄区(西崗区、中山区、沙河口区、甘井子区、旅順口区、金州区)、3県級市(瓦房店市、普蘭店市、庄河市)、1県(長海県)から構成されている。本研究で調査対象とした地域は、旅順口区、金州区、普蘭店市であり、調査集落は各市街地から1時間から2時間程度移動した農村を対象としている。



写真 2-1 大連中心市街地



写真 2-2 調査対象農村（旅順口区黄泥川村）



写真 2-3 調査対象農村（旅順口区小南村）



写真 2-4 調査対象農村（金州区向座鎮）



写真 2-5 調査対象農村（普蘭店市長店堡）

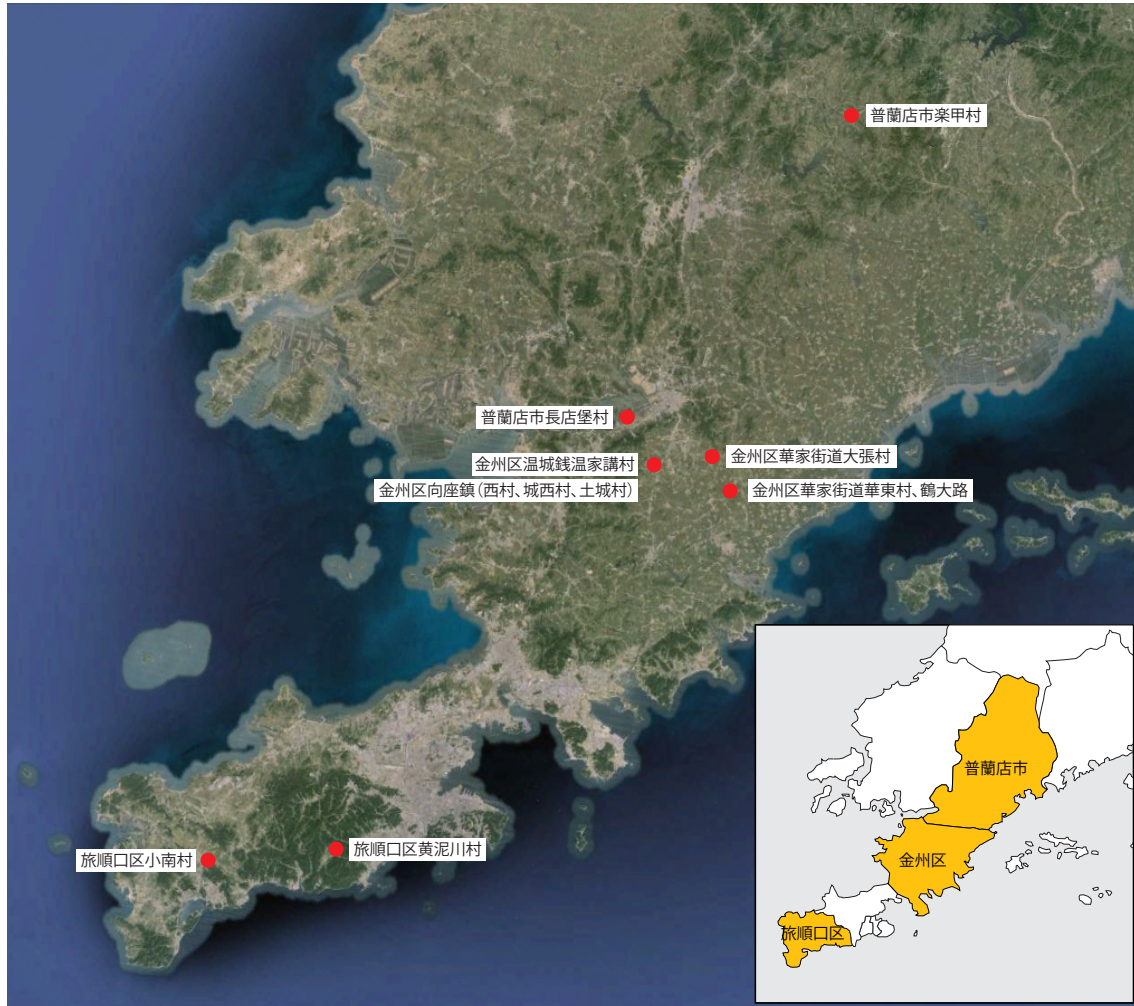


写真 2-6 大連市航空写真と調査集落
(2014 年頃航空写真 ©2014TerraMetrics GoogleEarth より)

・遼寧省大連市旅順口区



写真 2-7 黄泥川村（2006 年調査）
（2006 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-8 小南村（2006 年、2007 年調査）
（2006 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）

・遼寧省大連市金州区



写真 2-9 温城銭温家講村（2011 年、2013 年）
（2013 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-10 向座鎮（西村、城西村、土城村）（2013 年）
（2013 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-11 華家街道華東村、鶴大路 (2013 年)
(2013 年頃航空写真 ©2014CNES/Astrium,DigitalGlobe GoogleEarth より)



写真 2-12 華家街道大張村 (2013 年)
(2013 年頃航空写真 ©2014CNES/Astrium,DigitalGlobe GoogleEarth より)

・遼寧省大連市普蘭店市



写真 2-13 長店堡村（2005 年調査）
（2010 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-14 樂甲村（2011 年調査）
（2014 年頃航空写真 ©2014Nokia, DigitalGlobe, Microsoft Corporation Bing map より）

2-3-2.黒竜江省哈爾濱市

調査対象都市である哈爾濱市は、中国最北東部の黒竜江省の中南部に位置し、北海道幌延町と同緯度の北緯45度にある。哈爾濱市は、10月から4月の平均気温が10度以下となり、11月から3月まで零下となる。最も寒い12月、1月には月平均気温が -20°C 以下となる厳寒地域である²⁾。哈爾濱市は、9市轄区(松北区、道里区、南岗区、道外区、香坊区、平房区、呼蘭区、阿城区、双城区)、2県級市(尚志市、五常市)、7県(依蘭県、方正県、賓県、巴彦県、木蘭県、通河県、延寿县)から構成されている。本研究で調査対象とした地域は道里区、道外区の集落で、哈爾濱市の市街地から2時間程移動した場所である。



写真 2-15 哈爾濱中心市街地



写真 2-16 調査対象農村（道外区民主郷）



写真 2-17 調査対象農村（道外区民主郷）



写真 2-18 調査対象農村（道外区永源鎮）



写真 2-19 調査対象農村（道里区新農鎮）

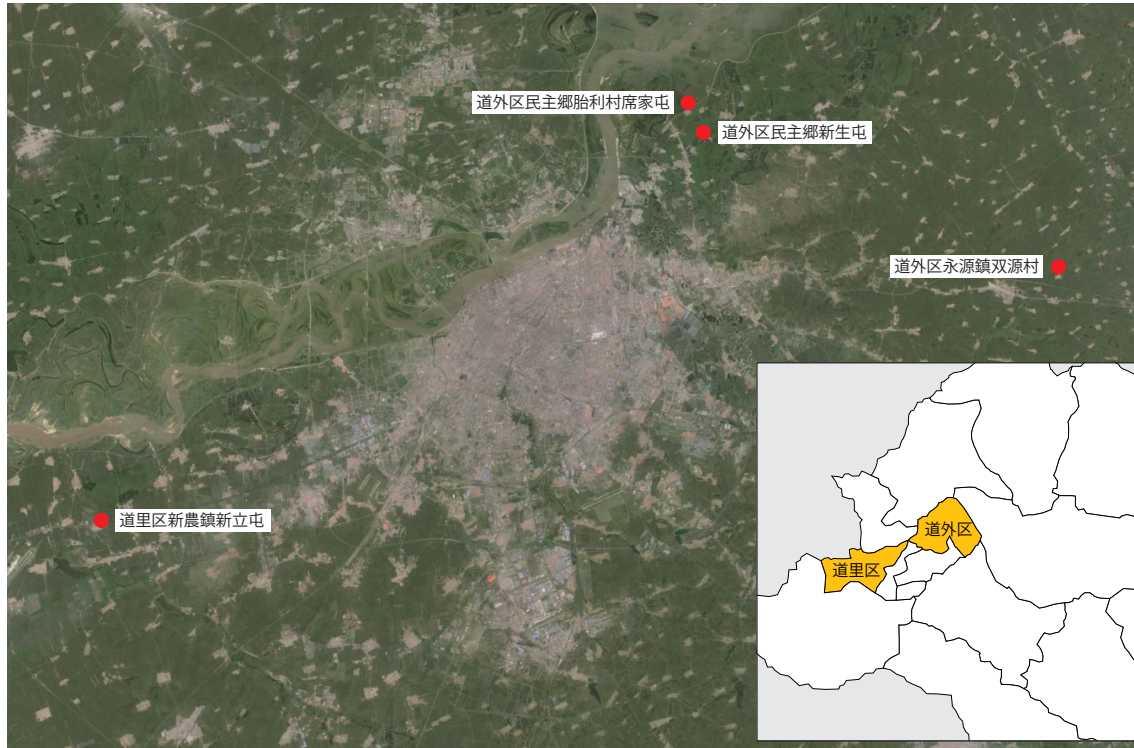


写真 2-20 哈爾濱市航空写真と調査集落
(2014 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より)

・黒竜江省哈爾濱市道外区



写真 2-21 民主鄉席家屯（2008 年調査）
（2008 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-22 民主鄉新生屯（2008 年調査）
（2008 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）



写真 2-23 永源鎮双源村（2012 年調査）
（2012 年頃航空写真 ©2014CNES/Astrium GoogleEarth より）

・黒竜江省哈爾濱市道里区



写真 2-24 新農鎮新立屯（2008 年調査）
（2005 年頃航空写真 ©2014DigitalGlobe GoogleEarth より）

2-3-4.調査住居概要

本研究では、漢族のカンが広く分布する中国東北部の主要都市である遼寧省大連市（普蘭店市、旅順口区、金州区）（表2-1、表2-2、表2-3）、黒竜江省哈爾濱市（道外区、道里区）（表2-4）の都市近郊の農村地域を対象地域として、調査を行った。

2005年から2013年に行った調査を主要データとして分析を行っているが、新潟大学西村伸也研究室が1993年から1994年に行った大連市甘井子区と金州区の調査データ（表2-5）、2001年から2002年に行った哈爾濱市阿城区と賓県で行った調査データ（表2-6）も一部利用している。3章では、1993年から2013年までの全調査住居141軒を対象として、カンやカマドのある厨房の形態的傾向を捉えるためにデータを用いている。4章では、1993年から2008年までの調査住居113軒を対象として、改修と増築を行うカンを持つ農村住居45軒について空間構成と住まい方の変容を分析している。また、5章では2005年から2013年までの調査の内、炊事と洗濯の行為が確認できる調査住居68軒を対象として、カンとつながる重要な空間である炊事空間に着目して分析を行っている。

本研究は、住居や住まい方に都市の影響を少なからず受けている都市郊外あるいは都市近郊の農村を選定している。これらの農村では、複数の世帯が同居する拡大家族の場合、世帯主以外が都市へ働きに出かけている住居がみられる。都市との距離が近いということもあり、子世帯が、子育て世代の場合には、子どもを実家に預けて、週末あるいは月に1、2度帰省する住まい方もみられる。

調査した農村住居の住居形式の多くは、戸建ての平屋である。2階建の住居や連続住居もあるが、全体に対する割合は低い。2階建を建設する住居は、経済的に余裕がある住居が多く、住居規模も大きい。住宅の規模は40㎡に満たない住居から、200㎡に近い住居まで幅広く分布しているが、殆どが100㎡未満の住居である。戸建の平屋住居に限ると、調査住居の平均延床面積は約74.3㎡であった。

既往研究・参考文献

- 1) 大連市統計局、国家统计局大連調査隊：大連統計年鑑 2011，中国統計出版社，2011
- 2) 哈爾濱市統計局、国家统计局哈爾濱調査隊：哈爾濱統計年鑑 2013，中国統計出版社，2013

2章 調査概要
2. Research Method

表 2-1 大連市普蘭店市調査住居概要

	調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注3)	3章	4章	5章
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0501	1999	戸建・2階建	夫婦+子	174.2	○	○	○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0502	1980	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子	79.8	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0503	1975	戸建・平屋	夫婦+子(娘別居、祖母輪居)	55.5	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0504	1985	戸建・平屋(高基礎)	主人+娘+息子夫婦+孫	85.0	○	○	○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0505	1994	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子	86.0	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0506	1905	戸建・平屋	夫婦	47.7	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0507	1987	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子	63.4	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0508	1996	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子	110.1	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0509	1994	戸建・2階建	夫婦+子(2人)	133.2	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0510	1989	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子(2人)	81.5	○		○
*	遼寧省大連市普蘭店市	P0511	1989	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子	81.6	○		○

計11軒

表 2-2 大連市旅順口区調査住居概要

	調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注3)	3章	4章	5章
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0512	1961	戸建・平屋	主人(息子3人、娘3人別居)	45.0	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0513	1978	戸建・平屋	夫婦+子	124.8	○	○	
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0601	1926	戸建・平屋	主人	70.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0602	1936	戸建・平屋	夫婦+子+息子夫婦+孫(2人)	77.3	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0603	1940	戸建・平屋	夫婦+子(息子敷地内同居、娘2人別居)	38.0	○	○	
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0604	1936	戸建・平屋	夫婦+息子夫婦+孫	125.3	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0605	1936	戸建・平屋	主人+息子夫婦+孫	74.5	○	○	
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0606	1986	連続建・平屋	夫婦(息子夫婦敷地内同居)	159.1	○		○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0607	1960	連続建・平屋	主人+息子夫婦+孫2人	65.3	○	○	
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0608	1760	戸建・平屋	主人+息子夫婦+孫2人	62.6	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0609	1936	戸建・平屋	主人+息子夫婦+孫3人	84.3	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0610	1886	戸建・平屋	主人+息子夫婦(孫別居)	69.2	○	○	
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0611	1930	戸建・平屋	夫婦+次男夫婦+孫(次男)+孫(長男)	85.3	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0612	1971	戸建・平屋	夫婦	80.3	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0701	2002	戸建・平屋(高基礎)	夫婦+子(2人)	168.6	○		○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0702	2002	戸建・2階建	夫婦+子	131.4	○		
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0703	1972	戸建・平屋	夫婦(息子2人別居)	42.8	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0704	1973	戸建・平屋	夫婦(娘4人別居)	51.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0705	1983	戸建・平屋	主人+息子夫婦(孫別居)敷地内で同居	74.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0706	1974	戸建・平屋	夫婦	43.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0707	1974	戸建・平屋	夫婦(長女、長男、孫2人別居)	51.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0708	1974	戸建・平屋	夫婦	49.7	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0709	1983	戸建・平屋	夫婦+母親+息子夫婦+孫	93.9	○	○	○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0710	1995	戸建・平屋(高基礎)	夫婦	161.2	○		○
*	遼寧省大連市旅順口区	Lu0711	1995	戸建・2階建(高基礎)	夫婦+息子夫婦(娘敷地内同居)	185.2	○		○

計25軒

- 注1) “*”は、2005年から2013年までに調査を行った住居であり、それら以外は、新潟大学西村研究室が過去に行った調査データである。
 注2) 同一の敷地内で壁を共有している住居を連続建とし、壁を共有していたとしても同一敷地でない住居は、戸建としている。
 注3) 住居面積は、壁の柱心より算出した居住部分の面積である。また、2階建て以上の場合で、居住部分に加え、店舗や倉庫が併設されている場合には、これらの面積を含めない。

2章 調査概要
2. Research Method

表 2-3 大連市金州区調査住居概要

	調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注2)	3章	4章	5章
*	遼寧省大連市金州区	K1101	1911	戸建・平屋	夫婦(子2人別居)	58.4	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1102	1983	戸建・平屋	夫婦+子2人	57.5	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1104	1979	戸建・平屋	夫婦(息子別居)	43.5	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1301	2002	戸建・平屋	夫婦+子	96.8	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1302	1984	戸建・平屋	夫婦(子2人別居)	62.1	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1303	1976	戸建・平屋	夫婦(子、母別居)	79.0	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1304	1987	連続建・平屋	主人+子夫婦+孫	92.3	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1305	1988	戸建・平屋	夫婦(子3人別居)	72.5	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1307	2012	戸建・平屋	主人(子2人別居)	42.2	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1308	1990	連続建・平屋	夫婦(息子夫婦、子、孫別居)	86.1	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1310	1990	戸建・平屋	子夫婦+孫+母(輪居)(娘別居)	60.3	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1311	1993	戸建・平屋(高基礎)	夫婦(子別居)	113.5	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1312	1982	戸建・平屋	子夫婦+孫(親夫婦敷地内同居)	101.2	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1313	2000	戸建・平屋	夫婦(子4人別居)	44.7	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1314	1980	戸建・平屋	子夫婦+母+子2人	122.8	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1315	1982	戸建・平屋	夫婦(子4人別居)	85.0	○		○
*	遼寧省大連市金州区	K1316	2007	戸建・平屋	夫婦(子別居)	112.8	○		○

計17軒

表 2-4 哈爾濱市道外区・道里区調査住居概要

	調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注2)	3章	4章	5章
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0801	1983	連続建・平屋	親夫婦(息子夫婦+孫敷地内同居)	128.0	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0802	1980	戸建・平屋	親夫婦(娘夫婦+孫別居)	52.8	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0803	1980	戸建・平屋	主人+子夫婦(親、次男敷地内同居)	53.6	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0804	2007	戸建・平屋	夫婦+子(親敷地内同居)	109.2	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0805	1998	戸建・平屋	夫婦	57.5	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H0806	2007	戸建・平屋	主人+子夫婦+孫2人	67.9	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1201	1996	連続建・平屋	親夫婦+子夫婦+子(2人)	81.3	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1202	2003	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+子	90.4	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1203	2003	戸建・平屋	夫婦(娘別居)	95.0	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1206	1983	戸建・平屋	子夫婦+母(子2人別居)	84.0	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1207	2004	戸建・平屋	子夫婦+母(子別居)	100.2	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1208	1989	戸建・平屋	夫婦+子(親夫婦別居)	55.8	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1209	1988	戸建・平屋	夫婦+子(子2人別居)	70.1	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1213	1972	戸建・平屋	子夫婦+母+子(子別居)	76.4	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1214	2000	戸建・平屋	子夫婦+母(子別居)	70.2	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1216	2002	連続建・平屋	夫婦(子2人、孫2人別居)	92.9	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1217	2002	戸建・平屋	夫婦(子別居)	82.0	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道外区	H1218	2004	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫	84.1	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道里区	H0810	1981	戸建・平屋	夫婦(息子夫婦+孫、娘夫婦別居)	86.1	○	○	○
*	黒竜江省哈爾濱市道里区	H0811	1999	戸建・平屋	夫婦(子3人別居)	99.0	○		○
*	黒竜江省哈爾濱市道里区	H0812	1990	連続建・平屋	夫婦(息子夫婦、娘夫婦別居)	125.3	○	○	○

計21軒

2章 調査概要
2. Research Method

表 2-5 大連市甘井子区住居概要

調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注3)	3章	4章	5章
遼寧省大連市甘井子区	Li9307	1953	戸建・平屋	夫婦	37.4	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9308	1990	戸建・2階建	夫婦+子(3人)	140.0	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9309	1990	戸建・平屋	主人	30.0	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9310	1890	戸建・平屋	夫婦+子(息子敷地内同居)	55.5	○	○	
遼寧省大連市甘井子区	Li9311	1810	戸建・平屋	主人+主人兄弟+子夫婦	42.1	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9401	1924	連続建・平屋	主人	48.9	○	○	
遼寧省大連市甘井子区	Li9402	1980	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫	93.9	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9403	1954	戸建・平屋	夫婦	46.1	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9404	1980	戸建・平屋	主人	41.0	○	○	
遼寧省大連市甘井子区	Li9416	1984	連続建・平屋	主人+子夫婦+孫	31.7	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9417	1994	連続建・平屋	主人+孫	31.5	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9418	1986	戸建・2階建	夫婦+子	135.6	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9419	1988	戸建・2階建	親夫婦+子夫婦1+子夫婦2	131.6	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9420	1986	戸建・2階建	親夫婦+子夫婦+子+孫+主人親	-	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9421	1976	連続建・平屋	夫婦+親	36.2	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9422	1975	戸建・平屋	夫婦+子	63.9	○	○	
遼寧省大連市甘井子区	Li9423	1993	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫	66.3	○	○	
遼寧省大連市甘井子区	Li9424	1985	戸建・2階建	夫婦+子+子夫婦+孫	137.8	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9425	1992	戸建・2階建	夫婦+子(2人)+借家人(2人)	177.4	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9426	1984	戸建・平屋	夫婦+子	85.2	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9427	1985	戸建・平屋	夫婦+子+親	56.4	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9428	1983	戸建・平屋	夫婦+子	66.0	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9429	1981	戸建・平屋	夫婦+子	86.1	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9430	1985	戸建・平屋	夫婦+子	67.4	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9431	1984	戸建・平屋	夫婦	60.1	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9432	1980	戸建・平屋	夫婦	38.8	○		
遼寧省大連市甘井子区	Li9433	1982	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫(2人)	59.6	○		

計27軒

2章 調査概要
2. Research Method

表 2-6 大連市旅順口区住居概要

調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注3)	3章	4章	5章
遼寧省大連市金州区	K9301	1923	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫(2人)	44.3	○		
遼寧省大連市金州区	K9302	1983	戸建・平屋	夫婦+子	48.8	○		
遼寧省大連市金州区	K9404	1936	戸建・平屋	主人	44.9	○		
遼寧省大連市金州区	K9305	1890	戸建・平屋	夫婦	47.2	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9306	1800	戸建・平屋	主人+子夫婦+孫	73.7	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9405	1982	戸建・平屋	夫婦+子	38.0	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9406	1934	戸建・平屋	主人+子夫婦+孫	40.8	○		
遼寧省大連市金州区	K9407	1935	戸建・平屋	主人	23.2	○		
遼寧省大連市金州区	K9408	1984	戸建・平屋	夫婦+子	56.5	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9409	1925	戸建・平屋	夫婦+子	36.5	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9411	1987	戸建・平屋	夫婦+子	40.2	○	○	
遼寧省大連市金州区	K9412	1949	戸建・平屋	夫婦	27.0	○		
遼寧省大連市金州区	K9413	1990	戸建・2階建	夫婦+子(2人)	120.5	○		
遼寧省大連市金州区	K9414	1985	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	74.8	○		
遼寧省大連市金州区	K9415	1983	戸建・平屋	夫婦+子	68.7	○	○	

計15軒

表 2-7 哈爾濱市阿城区・賓県住居概要

調査地	住居番号	建設年	住居形式 注2)	家族構成	住居面積 注2)	3章	4章	5章
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0101	1991	戸建・平屋	夫婦	53.0	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0102	1987	戸建・平屋	夫婦+子	45.5	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0103	1993	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫	64.7	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0104	1999	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	76.2	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0105	1993	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	55.7	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0106	1995	戸建・平屋	夫婦+子	40.6	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0107	2000	連続建・平屋	親+子(2人)(+主人親)	42.0	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0108	1971	戸建・平屋	夫婦	49.0	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0109	1991	戸建・平屋	夫婦+子	41.6	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0110	1990	戸建・平屋	親夫婦+子夫婦+孫	80.4	○	○	
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0111	2001	一・平屋	夫婦	55.4	○		
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0112	1964	連続建・平屋	夫婦+子(息子2人、娘2人別居)	40.6	○	○	
黒竜江省哈爾濱市阿城市	H0113	2000	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	61.8	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0114	1997	戸建・平屋	夫婦+子(3人)	62.3	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0115	1992	戸建・平屋	主人+子夫婦	71.4	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0116	1991	戸建・平屋	主人+子夫婦+主人親	61.9	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0117	1998	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	72.6	○	○	
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0118	1960	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	67.3	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0119	2000	戸建・平屋	夫婦+子	77.1	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0120	1976	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	56.0	○	○	
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0121	1997	戸建・平屋	夫婦+子(2人)	63.5	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0122	1870	一・平屋	夫婦+子(3人)	107.1	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0123	1968	一・平屋	主人+子夫婦+孫	58.0	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0124	1986	戸建・平屋	主人+子夫婦+孫	68.4	○		
黒竜江省哈爾濱市賓県	H0125	1981	戸建・平屋	夫婦	44.1	○		

計25軒

3章 中国東北部の住居について

Typical house with Kang in northeast China

3-1. 本章の構成

3-2. 中国東北部のカンを持つ農村住居

3-3. 多様化するカンとカマドのある厨房

3章 中国東北部の住居について

Typical house with Kang in northeast China

3-1. 本章の構成

本章では、中国東北部に広く分布するカンを持つ農村住居の基本的な屋内外の空間構成、住まい方を示す。特に漢族のカンを持つ農村住居のカン上での生活、カンでの採暖方法、カマドのある厨房の利用方法などの概要を示す。また、本研究で対象とするカンとカマドのある厨房の調査住居141軒における形態的傾向について説明する。

3-2. 中国東北部のカンを持つ農村住居

中国の住宅建築は、劉敦楨の『中国の住宅』¹⁾の中で、平面形態を基準にして、円形、縦長方形、横長方形、曲屋、三合院、四合院、三合院と四合院の複合体、環形、窟洞式などに大別して紹介している。その中でも、横長方形住宅は、中国の小型住宅の最も基本的な形態としている。横長方形住宅の平面形式は、少しでも多くの日光を取り入れ、北からの寒気を避けるために、建物の長手面を南に向け、南面する入口と窓を設ける形式であるとしている。そのため、主要な居室は住居北側には配置されず、奥行き方向の居室を一段とする住居が多い。本研究が行った中国東北部の農村住居の多くも、南面する横長方形住宅の形式であった(写真3-1)。



写真 3-1 中国東北部のカンを持つ農村住居

3-2-1. カンを持つ農村住居の基本的な空間構成

カンを持つ農村住居の基本的な構成は、中央の入口空間でありカマドのある外地と南側にカンをもった臥室（一般に寝室）の東屋、西屋とで構成される左右対称の形式である。居室の幅は住居によって異なるが、幅3000mm程度、奥行き5000mm程度、住居室内の高さが、2500～2800mm程度である（図3-1）。居住者は母屋のことを正房あるいは瓦房（以下、正房）と呼んでいた。外地は、堂、堂屋、外地屋とも呼ばれており、住居によっては炊事を行っているために厨房と呼ばれることもある。単世帯の場合は、夫婦あるいは世帯主が利用する臥室を主臥室と呼び、二世帯で居住する場合、カマド隣の東屋が親世帯、西屋が子世帯の主臥室になることが多い。調査を行った中国東北部では、東西方向に部屋が三列に並ぶ横長方形住宅は、三間房と呼ばれ、列の数により二間房、四間房、五間房と住居の呼び方が変化する。また、四間房、五間房の住居では、調査した農村住居の多くで東屋の奥に東里屋、西屋の奥に西里屋といった臥室が列方向に増える。近年建設される農村住居では、2段、3段構成の住居も確認できるが、古い横長方形住宅は、基本的に段方向への空間構成は1段である（図3-2）。調査住居の一部には、入口を中央ではなく、東あるいは西に設置し、三間房で西屋と西里屋あるいは東屋と東里屋を設置し、空間を連続して利用する住居も確認できた。

本研究では、夫婦の寝室を主臥室と呼び、二世帯の場合は親と子どもの主臥室の区別を行う。また、一段構成の横長方形住宅で部屋の位置を指す場合には本研究で頻繁に確認できた、入口兼炊事空間を外地、その両隣の臥室を東屋、西屋、その奥の臥室を東里屋、西里屋という呼称を用いる。

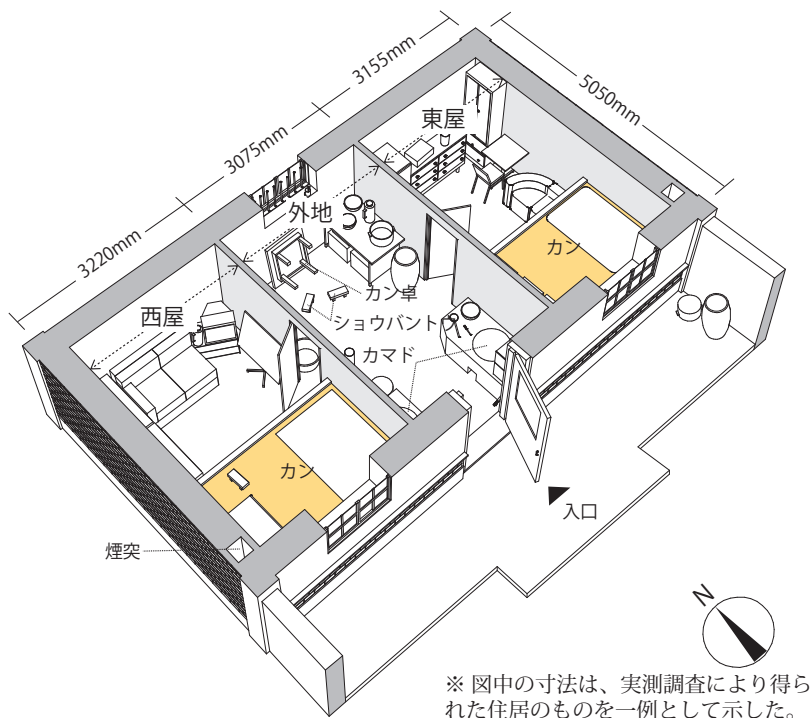


図 3-1 中国東北部のカンを持つ農村住居の基本的な空間構成

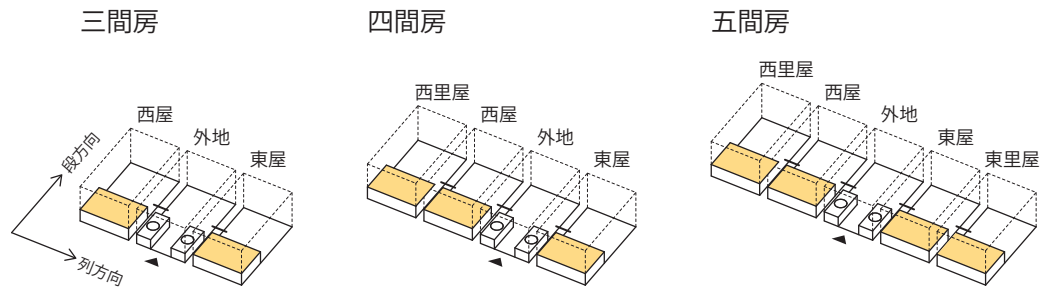


図 3-2 列構成の違いによる呼称

3-2-2. カンを持つ農村住居の屋外の空間構成

カンを持つ農村住居の屋外の基本的な構成は、敷地北側に正房、南側に畑や家畜小屋を配置している。近年、敷地南側を全面畑とする住居は少なく、家畜小屋の他に倉庫、トイレ、外部厨房、息子の住居や貸家などの建物で、正房前の庭を囲う配置となっている。新築時に倉庫や住居として別棟を同時に建設している住居が多く確認できたが、家族構成などの変化の影響を受け、正房の建設後数年経過してから別棟を建設する住居もある。建設年の比較的新しい農村住居では、倉庫や住居として別棟が建設され、正房前の庭にあった畑がなくなり、住居によっては庭の奥行きが短くなっている。

正房前には、住居下へ雨水の浸透を防ぐための石、レンガ、コンクリートによって作られた堡台、走台がある。一部の住居では、住居の基礎を高くすることで、住居への湿気の侵入に対処している住居もある。堡台や走台は、カンの維持管理の面からも重要である。

住居前の庭、堡台や走台は、住居によって異なるが、農作業、洗濯、歯磨き、洗面、簡単な地域住民との接客、団欒、夏の食事などの多様な行為が行われる場所でもある。

3章 中国東北部の住居について
3. Typical house with Kang in northeast China

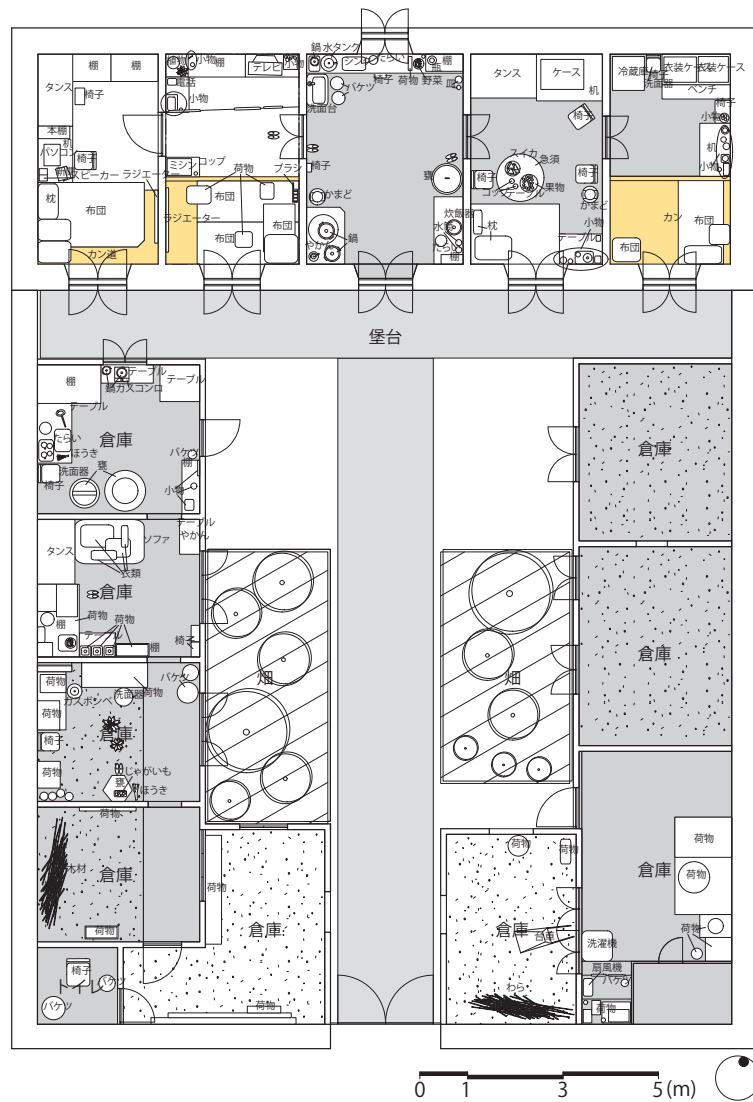


図 3-3 屋外の空間構成 (Lu0605)

3-2-3. 中国東北部の暖房設備カン

カンは、中国の金王朝(1115年-1234年)の時代にその記録があり²⁾、中国東北部では伝統的な暖房設備である。カンにはいくつかの種類があり、漢族、満族、朝鮮族で異なる形態、利用方法がとられている。『東北民居』³⁾によると漢族のカンは、住居手前に一文字のカンを1つあるいは前面と住居奥の両方に設置する形式をとる。満族のカンは、南側と北側にカンが配置され、それらを西側にあるカン(万字カン)で繋ぐ凹の字型の形式をとることが特徴である。カン上での生活は、漢族とほぼ同じであるが、儀礼などにも利用されている。漢族、満族のカンは、一般的に室内の地面からの高さが500mm前後とされている。また、カンは、カマドの利用により温められる。朝鮮族のカンは、漢族のカンと基本的な構造は同じであるが、室内全面にカンが設置されている。カン上での生活は、就寝、その他の生活、採暖が行われる他に、室全面がカンであるため動線としても利用される。カンまでの高さは、屋外の地面からカン上までの高さは200～300mmとされており、漢族、満族とは異なる(図3-4)。

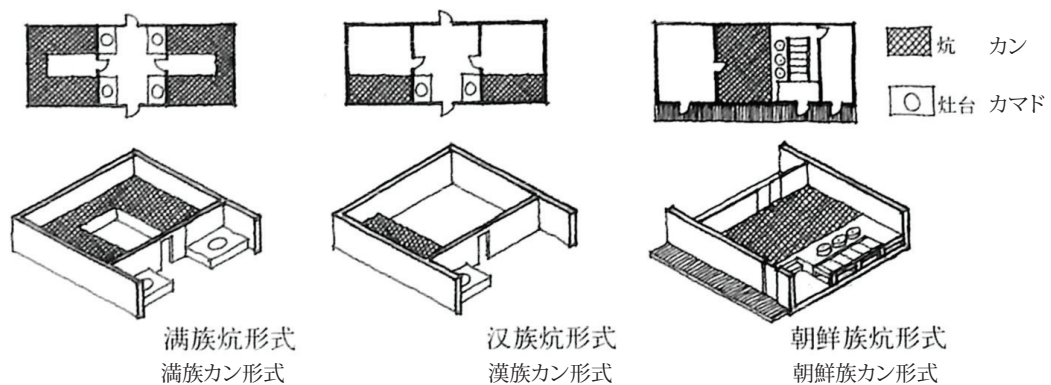


図 3-4 異なる民族のカン形式の比較 (『東北民居』²⁾ より)

本研究で対象とした漢族の住居でも、カンは臥室南側の窓下に配置され、煉瓦を積みできた床の空洞にカマドの排煙を通して暖房する形式である。調査住居のカンの高さは700mm程度、奥行きは2000mm程度、カンの幅は住居の幅や部屋の大きさによって変化するが基本的に3000mm程度である。カマドの排煙を利用するためカンとカマドは壁を挟んで隣り合って設えられる。カマド近くが一番温かくなるため、カマド近くのカン上が、住居の主人の就寝場所となることが多い(図3-5)。カン内部の煙道は、カン全面に効率的に煙を流すために、その構造により様々な形式があり、代表的な形式は煙道の仕切りを直線的に並べる直洞カン、放射状に並べる扇形カン、分散して並べる花洞カンなどである⁴⁾。

カンは、主に10月から翌年4月の冬の間に暖房設備として用いられるが、カンを乾燥させ、より長く維持するために夏でも温められることがある。カンの上は、就寝、団欒、食事、接客などに利用される空

間であり、靴を脱ぎ素足で生活する場所であることから特別な空間として認識されている。特に主臥室のカンは、家族の中心の場かつ接客、食事、団欒、就寝や餃子作りの場など、私的な行為から公的な行為まで多様な利用がされる。接客は主にカンの上で行われることが多いが、簡単な接客は、カンの縁、カン前のソファーを利用して行われることもある。食事は、主臥室のカン上にカン卓と呼ばれる小さなテーブルを置き平座で行われる(写真3-2、3-3)。炊事やカンの維持のためにカンを温める夏には、外地あるいは屋外の庭などでカン卓とショウバントウ(小板凳)と呼ばれる小さな椅子を用いて、仮設的な食事空間が設えられることもある。団欒は、接客同様にカン上で行われることが多いが、

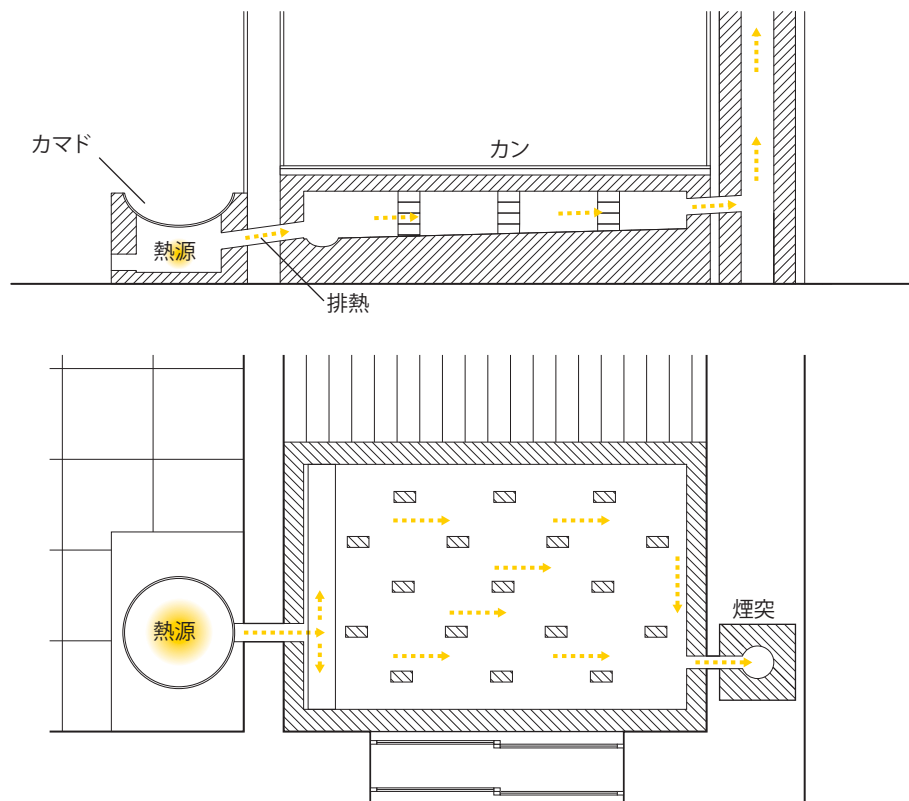


図 3-5 カンとカマドの関係と内部構造（花洞カン）（上：断面図、下：平面図）



写真 3-2 住居中央に設置されるカン



写真 3-3 カンの上での食事

カンの縁やカン前のソファーを利用して行われることもある。就寝は、就寝時にカン上に布団を敷いて行われ、カマド近くのカンの上を主人の就寝場所とすることが多い。

近年、新築される農村住居においてカンは、数の減少、規模の縮小、利用方法の変化などがみられるが、冬の生活に欠かせない暖房方式として残っている。特に高齢者はカンの輻射熱によって体を温めることが健康に良いという理由から積極的に利用を継続している住居も多い。

3-2-4. カンと繋がるカマドのある厨房とカンでの採暖方法

従来の農村住居の炊事空間である外地(カマドのある厨房)は、炊事だけでなく、夏の食事、簡単な接客、住居の入口、各臥室への通路、食料などの保管、水を使用する野菜洗い、洗濯、洗面、農作業など様々な用途に利用されるため、床は三和土であり、汚れても良い空間となっている。コンクリートやタイルなどの床仕上げとしている住居もあり、上足で生活する住居もみられるが、基本的に下足で生活する空間である。外地手前にはカマドが設置され、外地奥には、ガスコンロ、水瓶、収穫した野菜、食器棚などが置かれている。また、住居によって異なるが、漬け物用の瓶の設置、農作業や夏の食事なども外地奥の空間で行われることがある(写真3-4、3-5)。外地は、住居の内部でありながら、外での行為を行うことが出来るため、日本の農村住居のカマドと土間の空間に類似した特徴である。このようにカンとは生活行為の種類は異なるが、生活行為が重層する空間である。



写真 3-4 外地手前に設置される 2 基のカマド



写真 3-5 外地奥に置かれるコンロ、水瓶など

外地には、煮炊きを行うカマドが基本的に2基設置されており、世帯毎にカマドとカンを所有している。調査では、親世帯と子世帯の2基のカマドを使い分け、主世帯である親世帯のカンの温度調節をする住居がみられた。親世帯の利用するカンが就寝時に熱くなり過ぎないように、親世帯のカマドの利用を日中だけとし、夕方は、子世帯側のカマドを利用している。また、カマドとは別に設けられたカンの下にある焚き口を利用し、カンを直接温める住居もあるが、煙が漏れるなどの理由から多くの住居で使われなくなっている。カマドは依然として炊事に使われるが、正房に1基しかカマドを持たない

住居では、外地にコンロを設置し、カマドとコンロを併用して炊事が行われる。また、調査住居の中には、カマドを日常的に利用せずに、蒸し料理や新年の餃子を作る時のみに利用している住居がある。

カンを持つ農村住居の中で、奥行きが一段の横長方形住宅では、入口兼炊事空間を外地と呼び、炊事空間を入口空間から移動した建設年の新しい住居では、厨房と呼ぶことが多い。建設年の新しい住居の外地が、入口空間を兼ねないようになり、炊事空間の位置の変化によって、厨房と呼ばれ、外地とは呼ばれることがなくなっている。調査住居の住民の中には、外地は外という認識があり、改築を機に外地があった空間を庁と厨房に分割することで、外地とは呼ばなくなる傾向がある。外地は、入口空間を兼ねていたこと、屋外で行われる生活行為にも利用されることから外部空間として認識されているが、空間の細分化、生活行為の分化によって、利用方法や認識が変化していると考えられる。

本研究では、古い住居で頻繁に確認できる奥行き一段の横長方形住宅の入口兼炊事空間を特別に「外地」とし、炊事や洗濯などの機能を持つカンと繋がるカマドの設置された外地や厨房に対して「カマドのある厨房」という室名称を用いる。調査住居では、炊事を行う場所は外地や厨房以外でも確認でき、室名称と実際の利用方法に不一致が生じている。そのため、カマドのある厨房以外でガスコンロや電磁調理器(以下、コンロ)での炊事や調理加工を行う場所を「炊事場所」とする。また、カマドのある厨房も含め炊事を行う空間全体を指す場合には「炊事空間」とする。炊事場所と同様に洗濯を行う場所も、室名称と利用方法に不一致が生じることからも、カマドのある厨房以外の屋内で洗濯を行う場所を「洗濯場所」、洗濯をおこなう空間全体をさす場合には「洗濯空間」とする。

3-3. 多様化するカンとカマドのある厨房

中国東北部の農村住居では、横長方形住宅の左右対称な平面構成ではなく、左右非対称となり、また奥行き方向に1段であった住居が2段、3段になり、住居の形態がより複雑になっている。また、平面形態の変化と同時に、炊事空間、カン、入口空間などを従来の農村住居とは異なる位置に設ける住居が存在する。具体的な平面構成の事例を挙げると、以下の様な住居が挙げられる(図3-6)。中国の住居は基本的に住居正面が南面する住居が多いため、カンの位置は、方位との関係で示されることが多い。しかし、調査住居の中には、北面する住居、東面する住居が存在することから、本研究では、方位ではなく、住居内での位置でカンとカマドのある厨房を示すこととする。

K1302の住居では、カンは従来通り住居手前に設置され、カマドのある厨房は以前の位置と変化していない。また、平面構成は1段から2段になり、カマドのある厨房の奥に庁が設置され、食料の保管、物置などに利用されている。

P0511の住居でも、カンは従来通り住居手前に設置されているが、入口空間から炊事空間がなくなり、入口横にカマドのある厨房が設置されている。そのため、カマドのある厨房と隣接するカンのある臥室は、一部屋になり、カンの設置が制限されている。奥行き方向は、一段構成ではなく、主に2段構成となっている。また、3列の構成であるが、カマドのある厨房、カンの位置、西側の臥室が張り出ししていることで、左右非対称の住居となっている。

H1209の住居では、カンの位置が住居手前から住居中央、もう一方のカンは住居奥に設置され、異なるカンの位置が混在している。平面構成は1段と2段の左右非対称の住居である。カマドのある厨房は、住居手前から住居奥へとその位置を大きく変化させている。入口空間は、カマドのある厨房と臥室への前室の空間となっている。

K1313の住居は、カンが従来の住居と同様の住居手前、さらに住居中央に設置され、異なる位置にカンが設置されている。平面構成は、2段構成になり、住居手前と住居奥の複数にカマドのある厨房が設けられている。カンとカマドのある厨房が直接アクセス出来るように異なる入口を持つようになり、これら独立したカンとカマドのある厨房を廊下である走廊が繋いでいる。

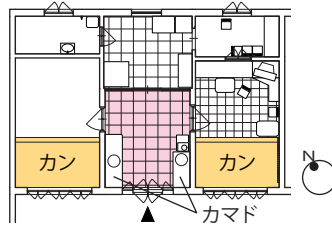
このように、カンとカマドのある厨房の位置は、中国東北部のカンを持つ農村住居の基本的な空間構成と異なってきている。しかし、カンとカマドのある厨房が、分離して配置されることはなく、隣り合わせの構成を保持したまま、空間構成が変容している。

3章 中国東北部の住居について
3. Typical house with Kang in northeast China

K1302(1984 年建設)

カンの位置：住居手前

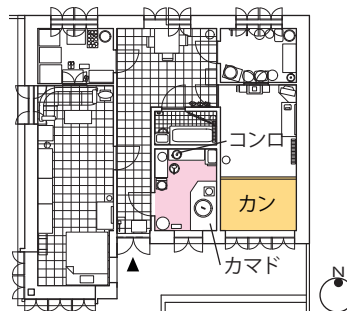
カマドのある厨房の位置：住居手前



P0511(1989 年建設)

カンの位置：住居手前

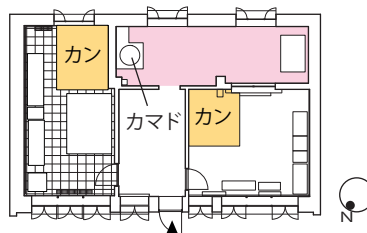
カマドのある厨房の位置：入口横



H1209(1988 年建設)

カンの位置：住居中央+住居奥

カマドのある厨房の位置：住居奥



K1313(2000 年建設)

カンの位置：住居手前+住居中央

カマドのある厨房の位置：複数化
(住居手前 + 住居奥)

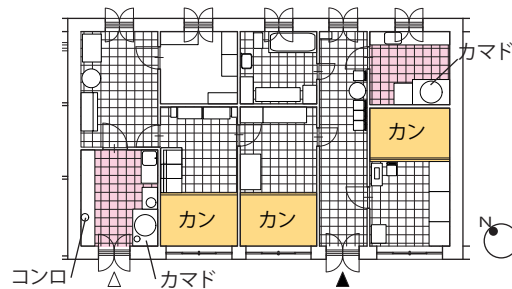


図 3-6 カンとカマドのある厨房の平面構成の多様化

3-3-1. カンの位置の変容

カンの位置は、住居手前、住居奥、住居中央に分けられ、さらにこれらを組み合わせることで住居を形成している(図3-7)。全調査住戸141軒に関して、カンの位置の年代別傾向を示すと以下の様になる。なお、改修、増築によって建設後に、カンの位置を変化させている住居もあり、改修、増築による空間構成の変容に関する詳しい分析は4章で行う。本章では、建設年代によるカンの位置の傾向を捉える。

住居手前にカンを設置する住居は、1979年以前には37軒と多いが、年代が進むにつれて、1980年代には20軒、1990年代には10軒、2000年以降には3軒と徐々にその数は減少している。一方、住居奥にカンを設置する住居は1980年代には7軒、1990年代には8軒、2000年以降には5軒となっている。住居中央にカンを設置する住居は、1980年代には12軒、1990年代には8軒、2000年以降には6軒となっており、住居奥と住居中央ともに調査住居で占める割合は大きい。しかし、依然としてカンの位置を住居手前に設置する住居は存在している。全体としての数は少ないが、異なるカンの位置を組み合わせる住居は、1979年以前では計6軒、1980年代は7軒、1990年代は5軒、2000年以降では5軒であり、調査住居軒数に対する割合が高くなっている(図3-8)。

住居手前に設置していたカンの年代が新しくなるにつれて割合は小さくなり、代わりに住居中央や住居奥にカンを設置する住居の割合が大きくなっている。また、中国東北部全体の傾向とは断定で

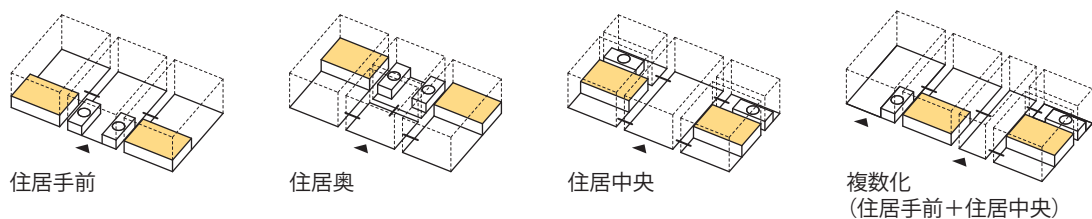


図 3-7 多様化するカンの位置

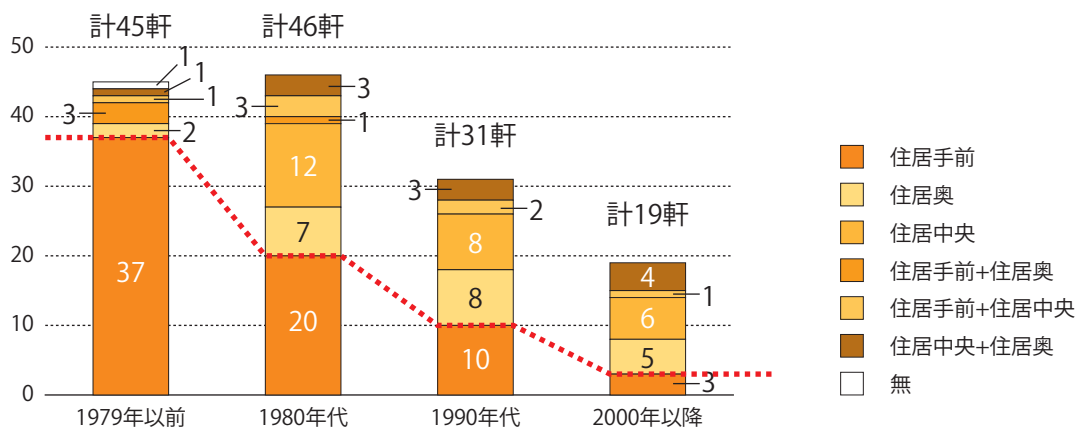


図 3-8 カンの位置の傾向

きないが、住居手前以外のカンの位置の住居や異なるカンの位置を組み合わせる住居が発生しており、従来の住居手前にカンを設置する住居から変化している。カン在住居手前に配置して南面させることは、暖かい空間を確保するための寒冷地域の住居ならではの工夫である。そのため、カンの位置の変化は、カンの住居内での役割や機能の変化を表していると考えられる。つまり、カン上での生活行為が新たな住要求により変化し、それに対応するために多様なカンの位置が発生していると考えられる。

3-3-2. カマドのある厨房の位置の変容

調査住居におけるカマドのある厨房の位置は、住居手前、入口横、住居奥の3つがあり、加えて正房内でカマドのある厨房を複数設置する住居が出現している(図3-9)。さらに、近年では、カマドのある厨房の位置の多様化に加え、コンロを利用する炊事場所の発生など、炊事空間が著しく変容している。詳しい分析は5章で行う。本章では、前項と同様に調査住居の年代的な傾向を捉える。

住居手前にカマドのある厨房を設置する住居は、1979年以前には35軒と多い。カンの傾向と

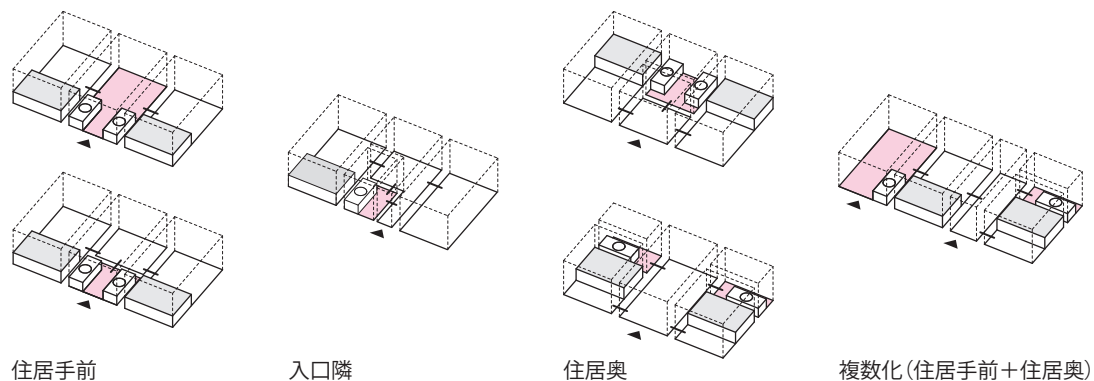


図 3-9 多様化するカマドのある厨房の位置

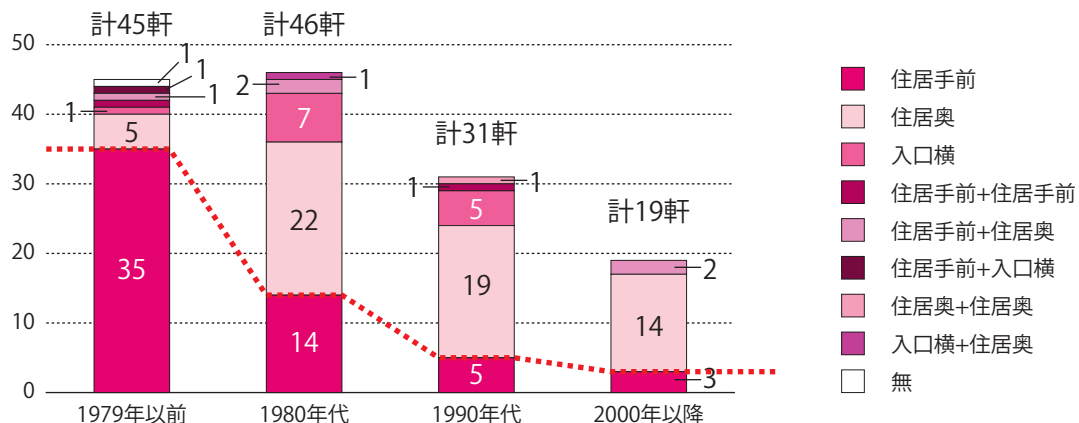


図 3-10 カマドのある厨房の位置の傾向

同様に1980年代には14軒、1990年代には5軒、2000年以降には3軒とその数は減少している。一方、住居奥にカマドのある厨房を設置する住居が1979年以前には5軒だったが、1980年代には22軒、1990年代には19軒、2000年以降には14軒と調査住居に占める割合が大きくなっている。また、入口横にカマドのある厨房を設置する住居が、1980年代に7軒、1990年代に5軒となっている(図3-10)。

カマドのある厨房の位置は、年代が新しくなるにつれて住居手前の割合が小さくなり、住居奥の割合が大きくなっている。しかし、住居手前にカマドのある厨房を設置する住居が少なくなっているが、入口横にカマドのある厨房を設置する住居が発生し、カンの位置を住居手前に設置できるようになっている。この他、カマドのある厨房を複数持つ住居が数は少ないが各年代に確認できる。このようにカンの位置の変化と同様に年代が新しくなるにつれて、様々な位置にカマドのある厨房が設置されるようになっており、カンの位置との変化の関連性が考えられる。

3-4. 小まとめ

カンを持つ農村住居を概観してきた。カンを持つ農村住居は、民族によって異なるカンの形態、利用方法がされていた。漢族の農村住居のカンの上では、就寝、団欒、食事、接客など公的な行為から私的な行為まで様々な用途で利用されていた。また、カマドのある厨房も、炊事以外に夏の食事、簡単な接客、住居の入口、各臥室への通路、食料などの保管、水を使用する野菜洗い、洗濯、洗面、農作業など様々な用途に利用されていた。さらに、近年、これら生活行為の重層するカンとカマドのある厨房の位置は多様に変化していた。

本研究で焦点を当てるカマドのある厨房は、カンとカマドのある厨房との密接な関係から、カンの位置、様々な行為の変化、家族形態などに影響を受け、変容していると考えられる。そのため、カマドのある厨房を含め炊事空間に着目することはカンを持つ農村住居の変容の仕組みを分析するに当たって重要である。

既往研究・参考文献

- 1) 劉敦楨：中国の住宅（田中淡、沢谷昭次訳），鹿島出版会，1976
- 2) 中国科学院自然科学史研究所：中国古代建築技術史，科学出版社，1985
- 3) 周立軍：中国民居建築丛书 東北民居，中国建築工業出版社，2009
- 4) 李世寬，李麗坤：家庭炊事采暖設備，黑龙江科学技术出版社，1983

4章 改修と増築によるカンと炊事空間の変容と機能分化 Transformation and functional differentiation on kang and cooking space by renovation and extension

4-1. 本章の構成

4-2. 改修と増築による農村住居の変化

4-3. 改修と増築による住まい方の変化

4-4. 小まとめ

4章 改修と増築によるカンと炊事空間の変容と機能分化

Transformation and functional differentiation on kang and cooking space by renovation and extension

4-1. 本章の構成

中国東北部のカンを持つ農村住居では、新たに建設される住居は多いが、改修や増築を行いながら従来の空間に少しずつ手を加えながら使い続けられている住居もある。これらの住居は、新たな住要求によって従来の農村住居の空間と住まい方を更新していると考えられる。

本章では、カンを持つ農村住居が行う改修や増築に着目して、空間構成と住まい方の変化からこれらの住居における新たな住要求を考察する。漢族の農村住居を対象とし、2005年から2008年の調査で得たデータに加え、1993年から2002年にかけて行われた住居のデータも利用して分析を行っている。調査住居113軒の内、改修や増築を行っている遼寧省大連市(甘井子区、金州区、旅順口区、普蘭店市)(34軒)、黒竜江省哈爾浜市(道外区、道里区、阿城区、賓県)(11軒)の住居(計45軒)を用いて、空間構成と住まい方の分析を行う(表4-1)。

表 4-1 調査住居

調査地域	改修・増築住居	調査期間
遼寧省大連市 (甘井子区、金州区、 旅順口区、普蘭店市)	34 軒	1993.9-1994.12, 2005.9-2007.9
黒竜江省哈爾浜市 (道外区、道里区 阿城区、賓県)	11 軒	2001.5-2002.1, 2008.7

4-2. 改修と増築による農村住居の変化

1993年から2008年までに調査を行った113軒の住居に対して、改修と増築を行った住居の傾向を示す。住居調査を実施した農村住居113軒のうち、建設年が1978年^{注1)}以前の住居は40軒、それ以降の住居は73軒であった。改修と増築を行う住居の内、1978年以前では改修のみを行う住居が13軒、改修と増築の両方を行う住居が12軒、増築のみを行う住居が1軒、計26軒であった。1978年以降では、改修のみが9軒、改修と増築が3軒、増築のみが7軒、計19軒であった。また、1978年以前の住居では、改修と増築の両方を行う住居が多くみられる(表4-2)。改修を行う住居の半数以上が1978年以前に建設された住居であり、従来の農村住居の空間構成や住まい方をそれぞれの要求に対して改修と増築によって変化させていると考えられる。

表 4-2 改修と増築の住居軒数

建設年	改修のみ	改修・増築	増築のみ	小計	変更無	合計
1978 年以前	13	12	1	26	14	40
1978 年以降	9	3	7	19	54	73

4-2-1. カンを持つ農村住居の主な改修

改修による農村住居の変化は、カンの取り壊しや暖房の新設・変更といった暖房に関する改修、間仕切りの設置、取り壊し、変更といった平面に関する改修、カマドの取り壊し、変更といったカマドに関する改修、内装の変更などが確認できた(図4-1)。

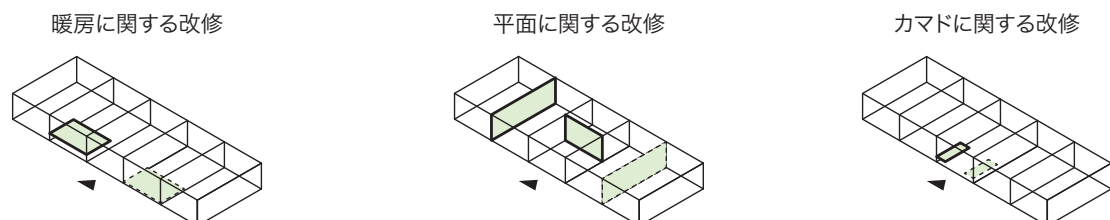


図 4-1 農村住居の主な改修

4-2-1-1. 暖房に関する改修(図4-2)

カンは、従来の住居では重要な空間であったが、改修によって西里屋、西屋、東里屋のカンを取り壊す住居が見られる。

【Lu0605】ではカンを取り壊した後、カン道と呼ばれる水平の煙道や煙突を設けている。改修後

は、ベッドが置かれ、孫の寝室として使用している。さらに、伝統的農村住居において主要な生活場所であった東屋のカンを取り壊し、寝室としての使用するのではなく、テーブルやイスが設置され客厅（接客室）としている。ベッドも設えられているが、イスの代わりとして、または主人の昼寝の場所、客用の臨時ベッドとして利用されている。

【Lu0604】では改修を行っているが、カンを取り壊すのではなく、縮小して更新している。西屋と西里屋の間の壁をガラスにし、ラジエーターを室の間に置いている。また、ソファを設置し、団欒を行っている。

この他にカンを新たに設置する住居がある。また、カンを取り壊した場所にカマドを設置して炊事空間としている住居などがある。

カンの取り壊しの理由として、東里屋あるいは西里屋のカンの効きが悪いことや、子どもがカンが嫌いだからという理由がインタビューで確認されている。さらに、ベッドの利用や客厅の設置などの新たな住要求の発生によって、カンが取り壊されている。



図 4-2 暖房に関する改修（カンの取り壊し（左、中央）、カンの変更（右））

4-2-1-2.平面に関する改修(図4-3)

【Lu0604】では、外地を分割して、外地奥に客厅を設置している。分割に使われる間仕切りの多くは、透明のガラスがはめ込まれており、空間を完全に分離していない。分割によって確保された外地奥の空間は、ソファや収納式家具が置かれ、恒常的な餐厅(食事室)として利用されている。また、外地と東屋を繋ぐ間仕切りを変更して、完全に分離する改修を行っている。

【H0110】の住居では、間仕切りを設置するのではなく、取り壊して一体的な空間を形成している。一体的な空間であるが、臥室奥の空間を就寝の場所、臥室手前の空間を接客や居場所として利用できるように設えられている。

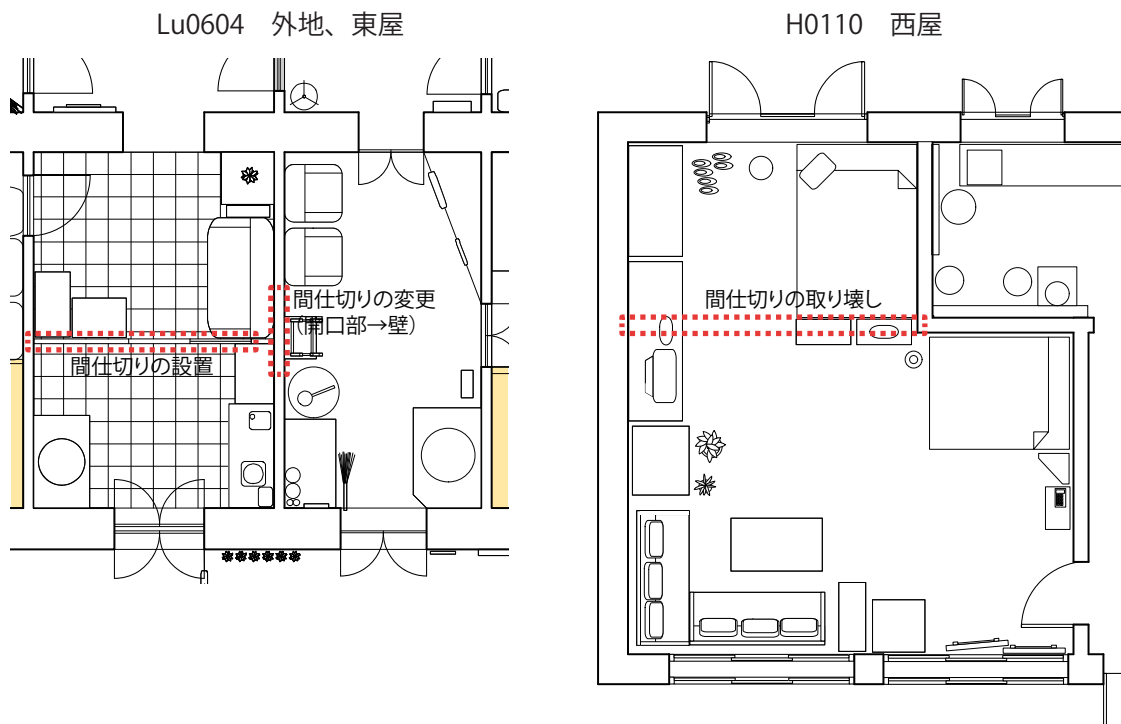


図 4-3 平面に関する改修 (間仕切りの設置、変更 (左)、間仕切りの取り壊し (右))

4-2-1-3.カマドに関する改修(図4-4)

カマドは、利用されなくなることにより取り壊されることもあるが、カンが取り壊される際に同時にカマドも取り壊されることが多い。そのため、生活の拠点となっている東屋、西屋につながるカマドを取り壊すことは少ない。カマドの代わりにガスコンロなどを利用することでカマドを取り壊すことも可能であるが、カマドの代わりにガスコンロなどの新しい炊事設備のみを利用する住居は殆ど確認できなかった。【Lu0611】は、外地にあった2つのカマドを取り壊す珍しい事例であるが、東屋のカンを取り壊した空間と住居西側に増築された空間にカマドを設置している。カマドの無くなった外地は、共通の接客、食事の場所、作業場、冬の漬け物用の瓶を置く場所として利用されている。

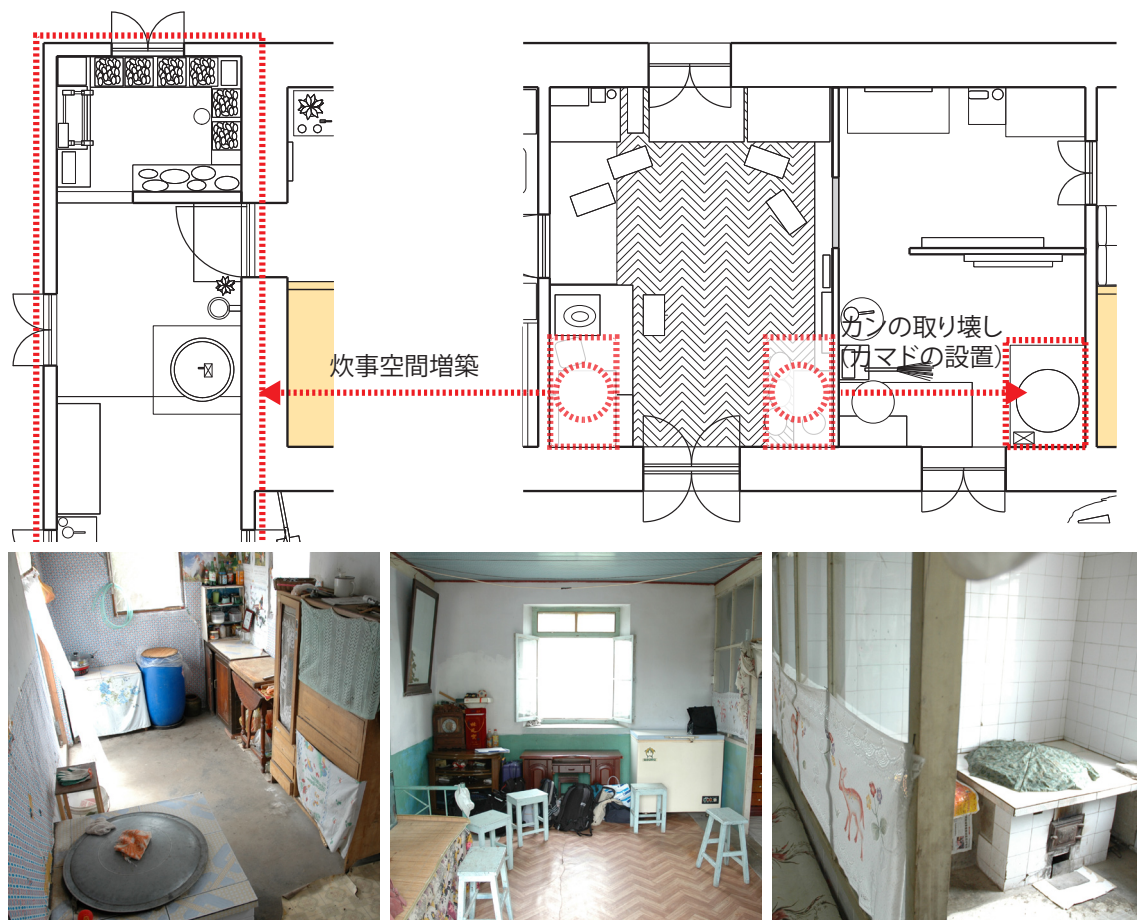


図 4-4 カマドに関する改修

4-2-1-4. その他の改修

その他の改修として、床、天井の張り替え、壁の塗装の変更などの内装に関する変更、屋根の葺き替え、基礎の改修など建物の維持に関する改修が行われていた。これらは、カンに関する改修、カマドに関する改修、平面に関する改修に対しては数は少なく、天井の張り替えや壁の塗装などは、定期的な維持に係わる改修である。

4-2-2. カンを持つ農村住居の主な増築

増築は、規模の大小はあるが、既存住居に建て増すもの、別棟として新築されるものの2つが存在する。また、建て増しには、住居前方と住居後方、住居東側と住居西側があり、さらに外部からアクセスできるものと内部からアクセスできるものがある。また、別棟の増築によって、炊事空間、倉庫、家畜小屋、子世帯の住居などの空間を設置している。

増築により、既存の住居に風呂や店舗などの機能を新たに追加し、あるいは既存住居で行われていた行為を分離している。増築は住居のどの場所にでも出来るが、南側への増築は、店舗の増築という例が確認できているが、生活空間として増築する際には、カンのある臥室への採光を確保するため、臥室南側への増築は殆ど確認できない。住居前方への増築の事例として、門頭厦や雨棚等と呼ばれる風除室の増築を外地南側に行っており、生活空間への影響が少ないものに限定されている。ま

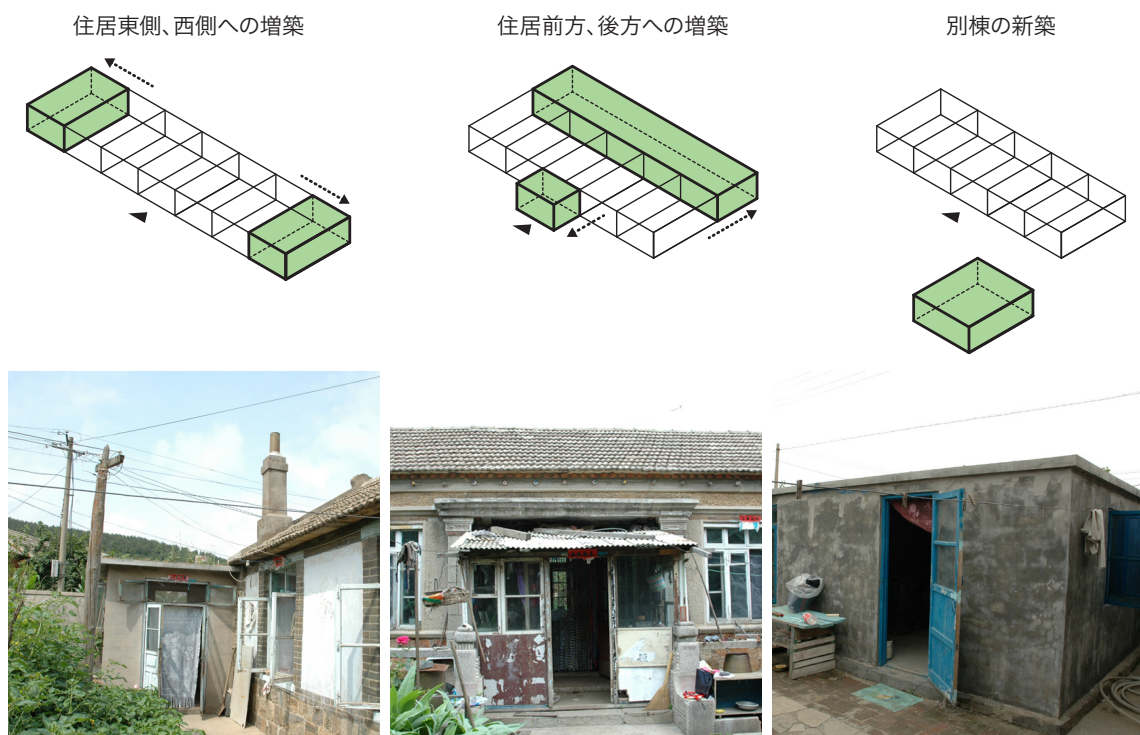


図 4-5 農村住居の増築

た、住居後方への増築は尾房と呼ばれる空間を住居間口と同じ幅に増築している住居もあるが、増築によって主要な臥室を増築する住居はなく、炊事空間、倉庫、作業場、風呂、予備の臥室などとして使われる空間を増築している(図4-5)。

4-2-3.改修による変化の特徴

インタビューから得られた改修内容と改修場所の特徴を捉える。改修を行った場所に関しては、横長方形住宅を基本として改修場所を示し、それ以外の空間構成に関しては、横長方形住宅以外の空間構成としてグラフ上に示した。

改修を行った37軒の住居で、72箇所の改修が確認できた。暖房に関する改修は、30件と最も多く確認でき、そのうちカンの取り壊しが23件、カンなどの暖房の新設や変更が7件であることから、カンの数の減少がうかがえる。平面に関する改修は17件確認でき、間仕切りの設置が12件と多く、間仕切りの変更が4件、空間を拡大する間仕切りの取り壊しは1件である。これは、空間を拡大して利用するよりも、間仕切りを設置し空間を細分化して利用する要求が強いと考えられる。カマドに関する改修は12件確認でき、そのうちカマドの取り壊しが11件と多くみられた。この他、内装の変更が6件、その他が7件となっている(図4-6)。

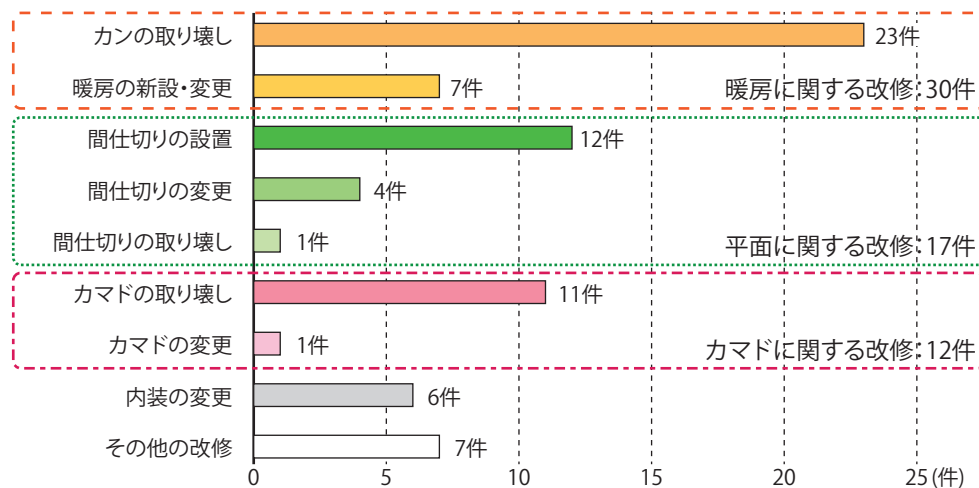


図 4-6 改修内容

改修箇所に関しては、外地を対象とした改修が23件、西屋の改修が10件、西里屋が9件、東屋が8件、東里屋が4件となっており、外地と住居西側を改修する住居が多い。また、改修内容と改修箇所の関係に着目すると、外地では間仕切りの設置が9件、カマドの取り壊しが10件、また外地と東屋の間仕切りの変更が3件で、複数の改修が集中する場所となっており、外地の変化がうかがえる。また、すべ

ての臥室において、カンの取り壊しが変化の中心となっている(図4-7)。

改修は、主に暖房に関する改修、カマドに関する改修、平面に関する改修が多く、特にカンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置がみられる。カマドに関する改修の数は少ないが、改修場所として外地に対して行われることが多く、カンとカマドが繋がっていることから、外地が住居の変化にとって重要な場所であると考えられる。

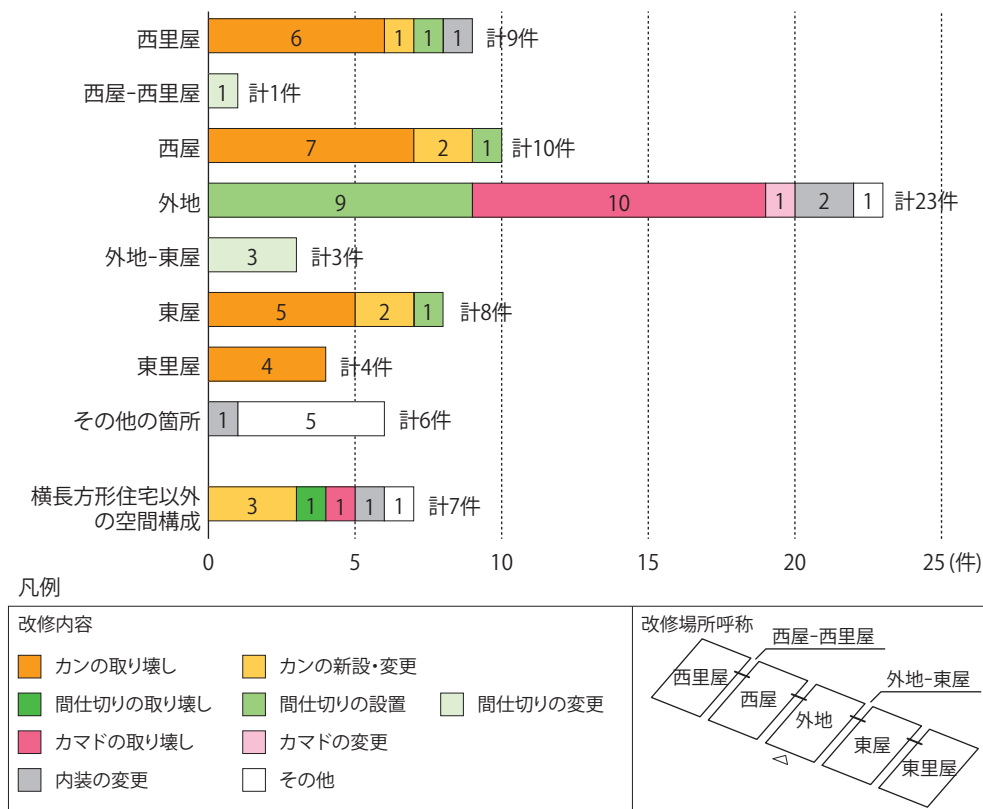


図 4-7 改修内容と箇所

4-2-4.正房の増築の特徴

増築は、正房の増築が12軒、別棟の新築が11軒、計23軒の住居で確認できた。建設年が1978年以前の増築を行っている住居は12軒中9軒あり、それ以降の住居は軒数が少ない(表4-3)。増築と改修を同時に行っている住居は、12軒中10軒で確認でき、改修との関係が考えられる。増築内容の特徴として、住居の前方と後方に対しては、外地の延長として利用できる炊事空間や農作業用空間などが増築されている。住居の東西への増築では、臥室や餐厅等の居室に加え、炊事空間、風呂、倉庫を増築しており、外地から離れた場所にも外地の一部の機能を持った空間が追加されている。特に、炊事空間を含んだ増築を行う住居は12軒中7軒あり、半数近くであった(表4-4)。敷地内での別棟の新築もあるが、炊事空間を正房に増築してその位置を外地から別の場所に移行する傾向があると考えられる。

表 4-3 増築の住居軒数

建設年	正房の増築	別棟の新築	増築無	計 (軒)
1978 年以前	9	4	13	26
1978 年以降	3	7	9	19
計 (軒)	12	11	22	45

表 4-4 正房の増築箇所と増築内容

増築住居	建設年	改修有無	増築箇所	増築内容
Lu0608	1760	○	住居東側	住居 (炊事空間有り)
Lu0610	1886	○	住居東側	倉庫
Li9310	1890	○	住居東側	炊事空間
Lu0611	1930	○	住居西側	炊事空間
			住居東側	倉庫 (耳屋)
Lu0604	1936	○	住居後方	風呂, 倉庫, 作業空間, 炊事空間, 臥室
Lu0609	1936	○	住居前方	農作業空間 (門頭厦)
Lu0612	1971	○	住居東側	風呂 (偏厦子)
Lu0704	1973	○	住居前方	炊事空間 (雨棚)
Lu0513	1978	×	住居前方	店舗
Li9404	1980	○	住居東側	主臥室
			住居後方	倉庫
H0810	1981	○	住居東側	炊事空間, 臥室, 餐厅
H0801	1983	×	住居西側	住居 (炊事空間有り)

4-2-5.改修と増築の組み合わせ

改修や増築を組み合わせた住居の変化に着目すると、特にカマドや外地など炊事に関わる空間の変化が顕著にみられる。改修や増築が1箇所から2箇所の住居では、カンの取り壊し、カマドの取り壊し、暖房の新設・変更、間仕切りの取り壊し、内装の変更が多くみられている。改修と増築が3箇所以上の場合では、カンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置を組み合わせる住居が多い。さらに、改修と増築箇所の多い住居では、炊事空間の増築を伴う住居もある(表4-5)。カンの取り壊しと共に、カマドや炊事空間に関わる改修と増築が同時に行われており、また、改修と増築を行う住居が1978年以前に建てられた一段構成の横長方形住宅に多いことから、従来の炊事空間である外地が住まい方と共に大きく変化していると考えられる。

表 4-5 改修・増築の組み合わせ

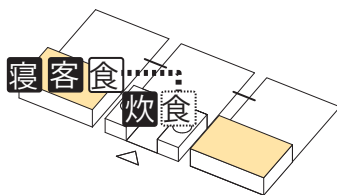
住居番号	横長方形住宅(一段)	建設年	変更内容	カンの取り壊し*	暖房の新設・変更	間仕切りの設置*	間仕切りの変更	間仕切りの取り壊し	カマドの取り壊し*	カマドの変更	内装	その他	正房の増築	正房の増築(炊事空間を含む)	改修と増築の組み合わせ(件)
Lu0608	○	1760年										1		1	2
K9306	○	1800年					1								1
Lu0610	○	1886年		1									1		2
Li9310	○	1890年		1					1					1	3
K9305	○	1890年			1										1
Li9401	○	1924年		1											1
K9409	○	1925年		1		2									3
Lu0601	○	1926年										1			1
Lu0611	○	1930年		2	1	1	1		1				1	1	8
Lu0604	○	1936年		2	1	1	2		1					1	8
Lu0605	○	1936年		2					1						3
Lu0609	○	1936年		2		1					1		1		5
Lu0602	○	1936年		1						1		1			3
Lu0603	○	1940年		1											1
Lu0607	○	1960年		1											1
Lu0512	○	1961年									1				1
H0112	○	1966年			1							1			2
Lu0612	○	1971年		1									1		2
Lu0703	○	1972年		1		1						1			3
Lu0704	○	1973年				1						1		1	3
Lu0706	○	1974年		1					1						2
Lu0707	○	1974年		1		1			1		1				4
Lu0708	○	1974年		1					1						2
Li9422	○	1975年		1					1						2
H0120	○	1976年		1					1						2
Lu0513	○	1978年											1		1
Li9404	○	1980年		1					1				2		4
H0803	-	1980年										1			1
H0810	-	1981年							1					1	2
K9405	○	1982年			1										1
H0801	-	1983年												1	1
Lu0709	○	1983年			1										1
K9408	○	1984年									1				1
P0504	-	1985年									1				1
K9411	○	1987年		1	1										2
H0110	-	1990年		1				1							2
Li9423	-	1993年		1											1
H0117	-	1998年		1											1
P0501	○	1999年									1				1

※ 塗り潰しは、改修と増築による変化の合計が3件以上の住居、“*”は主要な改修を示す。

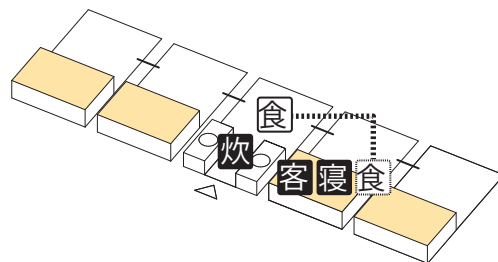
4-3.改修と増築による住まい方の変化

改修と増築による変化は、暖房に関する変更、平面に関する変更、カマドに関する変更で大別でき、主要な改修としてカンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置の3つが挙げられる。これらの改修と増築による空間構成の変化と基本的な生活行為である、炊事、接客、食事、就寝との関係进行分析していく。また、生活行為は、通年行う行為、夏や冬で変化する行為、利用者の人数や仮設的に設えられるなど状況に応じて行われる行為の分析を行っていく。住居によって異なるが、カンを持つ農村住居での基本的な住まい方のモデルを示すと図4-8のようになる。中国の農村住居では、外部の庭や敷地の外など、様々な場所で食事、接客、近隣住民との交流などが行われているが、以降の分析では、3つの主要な改修、正房の増築、正房での基本的な生活行為が確認できる横長方形住宅(23軒)を対象とした。

Lu0513



Lu0601



凡例	改修箇所	通年	冬	寝 就寝	炊 炊事	客 接客	食 食事
	増築箇所	状況	夏 季節による使い分け	----- 状況による使い分け		

図 4-8 カンを持つ農村住居での基本的な住まい方の事例（単世帯）

4-3-1.カンの取り壊しによる住まい方の変化

4-3-1-1.カンの取り壊しと就寝形態の変化

カンを取り壊す住居は、主臥室ではない臥室、特に外地から遠い西里屋や東里屋のカンを取り壊してベッドを設置している。これらの臥室は、従来から息子や娘の就寝のみの場所として使われており、日常生活において家族全員で共有することがない空間である。そのため、日常的に接客や食事空間として利用している主臥室のカンより、その他の臥室のカンを取り壊す方が生活への影響が小さく容易であったからだと推察できる。また、インタビューでは若い世帯や子どもはカンでの就寝を好まない傾向があり、カンを取り壊してベッド専用の臥室に改修している要因の1つとなっている(図4-9-A)

。

4-3-1-2. 季節による場所の使い分け

カンとカマドに関する改修を組み合わせる住居では、殆どの住居でカマドと東屋や西屋のカンを取り壊してベッドを設置している。カンの取り壊された西屋と東屋は、主世帯が夏に利用する生活空間としてカンとの使い分けが行われている(図4-9-B)。

4-3-1-3. カン上の生活行為の分化

カンを取り壊した後に客厅として設え、生活の中心的な場所としてカンを利用しない住居が現れている。増築を同時に行う住居の中には、外地のカマドを取り壊して正房に別の炊事空間を増築している住居がみられる。外地以外に炊事空間を増築する住居は、一年を通じて外地ではなく増築した炊事空間を利用し、外地を餐厅とすることで、外地から炊事機能を移行させている(図4-9-C)。

4-3-1-4. カンとカマドの改修と増築による生活行為の分化

カンを取り壊した住居は、改修後にカンからベッドへと就寝形態を変化させているが、すべてのカンを取り壊す住居は存在せず、カンとベッドの両方を利用している。特に生活行為が集中する主臥室のカンは取り壊されることはなく、カン上は就寝を中心に利用され続けている。この他、東屋や西屋のカンとカマドの改修により、従来はカンの上で行われていた食事や接客がカン上の空間から独立して餐厅や客厅で行われている住居、炊事行為が新たな炊事空間に完全に移行している住居がある。これにより、複数の生活行為が重層し成立していた従来のカン及び外地の空間から食事、接客または炊事が分化していると考えられる。

4-3-2. 空間の分割による生活行為の分化

4-3-2-1. 分割による季節の使い分け

間仕切りを設置する住居には、外地を分割する住居、また数は少ないが臥室を分割して就寝場所を使い分ける住居がみられる。臥室を分割する住居では、カンとカン前を間仕切り、夏と冬の就寝行為を分離していた(図4-10-A)。

4-3-2-2. 外地奥への生活行為の分化

外地を分割する住居では、南側の炊事空間を間仕切り、外地奥を食事、接客などの生活行為が行える客厅や餐厅として設えている。また、小さくなった炊事空間を補う空間として新たに炊事空間を住居入口に増築している住居もみられる。外地奥の空間にカン上から食事、接客の生活行為が移行する住居がみられる。中には主として外地奥の空間を利用し、季節によりカン上も利用する住居がみられる(図4-10-B)。

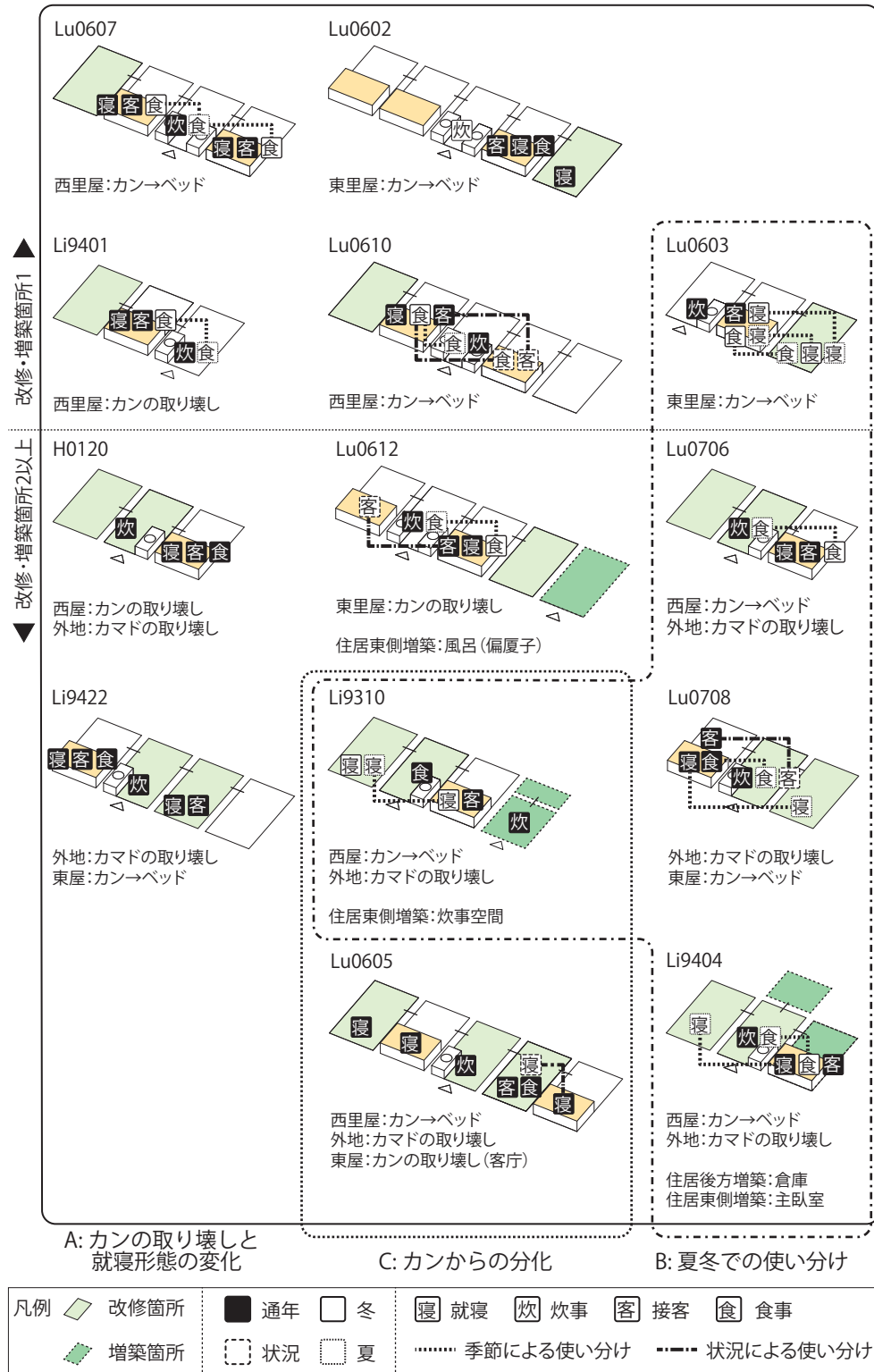


図 4-9 カンとカマドの改修と増築による生活行為の分化

4-3-2-3.空間の分割によるカン上の生活行為の分化

外地を分割している住居では、分割により炊事空間は縮小しているが、カマドの取り壊しや炊事空間の増築で空間を確保すると同時にカン上で行われていた接客や食事などの生活行為を外地奥の空間に移行している。外地の分割は、食事、接客といった生活行為を独立させることができ、同時に食事や接客といった生活行為をカン上から移行してカン上を就寝専用の場所としていく変化であると捉えられる。臥室の分割は、カンを取り壊してベッドを設置することでも就寝機能の独立が可能であるために、カンの数が多い住居ではあまり行われていないと考えられる。

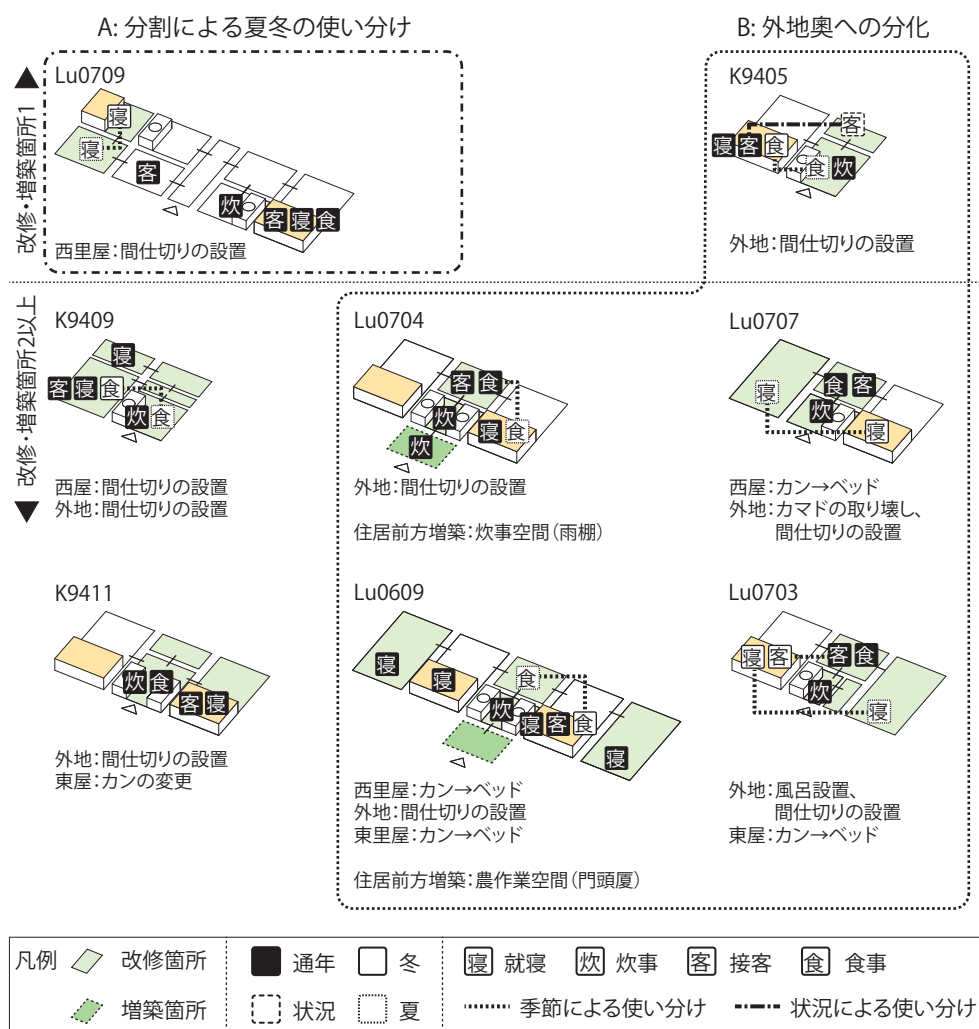


図 4-10 空間の分割によるカン上の生活行為の分化

4-3-3.改修と増築による世帯の独立

カンの取り壊しや外地の分割を組み合わせ、カマドを移動させることにより各世帯を独立させ、各世帯の動線が重ならないようにしている住居がみられた。外地のカマドを別の場所に移動する際に、複数あるカンを利用して主臥室を新たに設け、世帯間の距離を確保している。また、カン上の生活行為の移行の仕方が各世帯で異なり、カンを中心とした生活を行う世帯とカンでの生活を就寝のみとしている世帯がみられる。そのため、住居に複数の主臥室と炊事空間が存在することで、各世帯が就寝、炊事、食事、接客のための場所を持ち、異なる住まい方を行っている(図4-11)。

外地の2基のカマドの移動は、炊事空間を分離させると同時に、各世帯の空間を分離することにもなり、各世帯で異なる生活行為の移行を可能としている。カマドの移動は、各世帯の異なる住まい方の影響を受けており、カンの取り壊しのみの改修に比べてカンを持つ農村住居の空間構成を大きく変化させる要因であると考えられる。

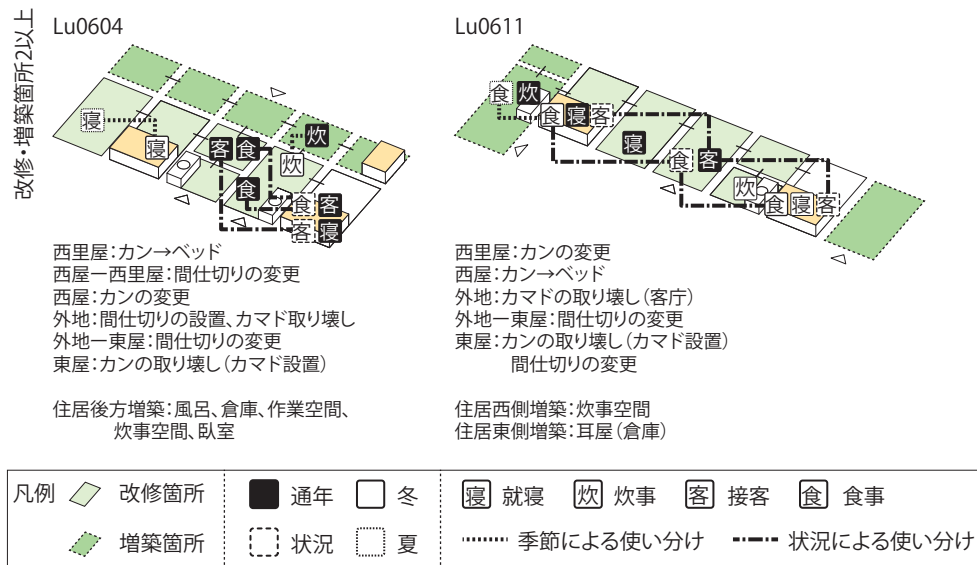


図 4-11 改修と増築による世帯の独立

4-3-4.改修と増築による生活行為の分化と場所の使い分け

改修と増築を行う住居にはカン上の生活行為を分化させてカン上での行為を少なくする傾向がみられるが、生活行為の一部を残して場所の使い分けを行っている住居もみられ、一様にカン上の行為が分化されるのではない。カン上の機能に関する変容には、カン上から完全に生活行為を移行する分化、季節による場所の使い分け、利用者の人数や仮設的に利用されるなどの状況による場所の使い分けといった機能分化がみられた。これらの変化を主世帯に着目して分析を行っていくが、複数の世帯で異なる主臥室を持つ場合には、世帯毎に分析していく。

4-3-4-1.生活行為の分化と場所の使い分け

これらの機能分化には、生活行為の分化が14件、季節による場所の使い分けが24件、状況による場所の使い分けが10件確認できた。生活行為の分化は主に接客と食事であり、カン上から就寝が分化する事は少なく、カン上を継続して利用していることがうかがえる。カンを利用するためにカマドが必要であることから、カマドのある空間から炊事が分化することは2件と少ない。季節による場所の使い分けでは、就寝と食事が特徴として挙げられる。就寝は10件確認でき、カンの取り壊しによるベッドの設置にみられるように場所の使い分けが多い。また、食事は11件確認でき、従来の外地での仮設的な食事に加え、間仕切りの設置により外地奥の空間が確保されたことが理由として考えられる。状況による場所の使い分けでは、季節による場所の使い分けとは異なり、生活行為の分化と同様の接客と食事が多いことが挙げられる(図4-12)。

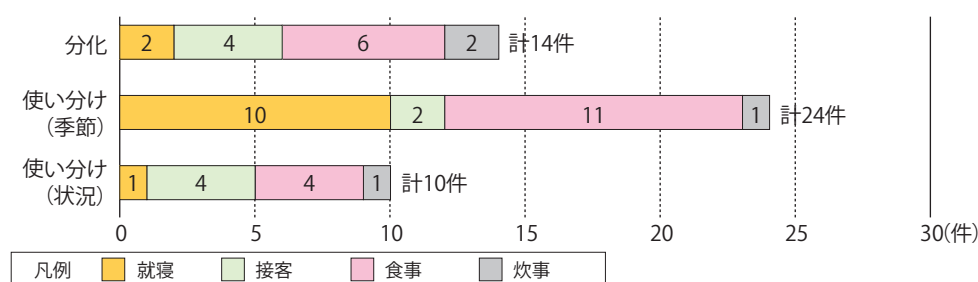


図 4-12 生活行為の分化と場所の使い分け

4-3-4-2.接客と食事のカン上からの移行

生活行為の分化と場所の使い分けで違いがみられた食事と接客に着目し、改修の行われている外地との関係进行分析。カン上からの食事のみが移行する住居では、基本的に外地で季節による場所の使い分けが行われている。しかし、外地奥の空間、東屋、東里屋への生活行為の分化、状況による場所の使い分けも共にみられている。食事は、カン上から分化するよりも、カン上の食事を残す住居が多い(図4-13-A)。

一方、接客をカン上から移行する住居は、外地奥や炊事をしなくなった外地へ分化する住居、状況による場所の使い分けを行いカン上に残す住居がみられ、季節による場所の使い分けは少ない。接客は、食事との混在はみられるが、炊事との混在が殆どみられない(図4-13-B)。

食事と接客の両方がカン上から移行する場合では、外地奥の空間のように新しくつくられた空間へ移行しており、炊事との行為の混在がない。これらの住居ではカン上からの生活行為の分化が行われているが、補助的な空間または正式な接客の場として主臥室や他世帯のカン上を利用した使い分けもみられる(図4-13-C)。

食事は、従来からカン卓を利用してカン上や外地で行われるなど場所を特定しない生活行為であったため、多くの住居で季節による場所の使い分けという機能分化が行われると考えられる。一方、接客は、炊事と空間を共有しないため、外地奥の空間の設置、外地からの炊事の分化により、接客空間とすることが可能であると考えられる。また、接客は、主要な接客空間としてカンの上を利用するため、状況による場所の使い分けが行われていると考えられる。

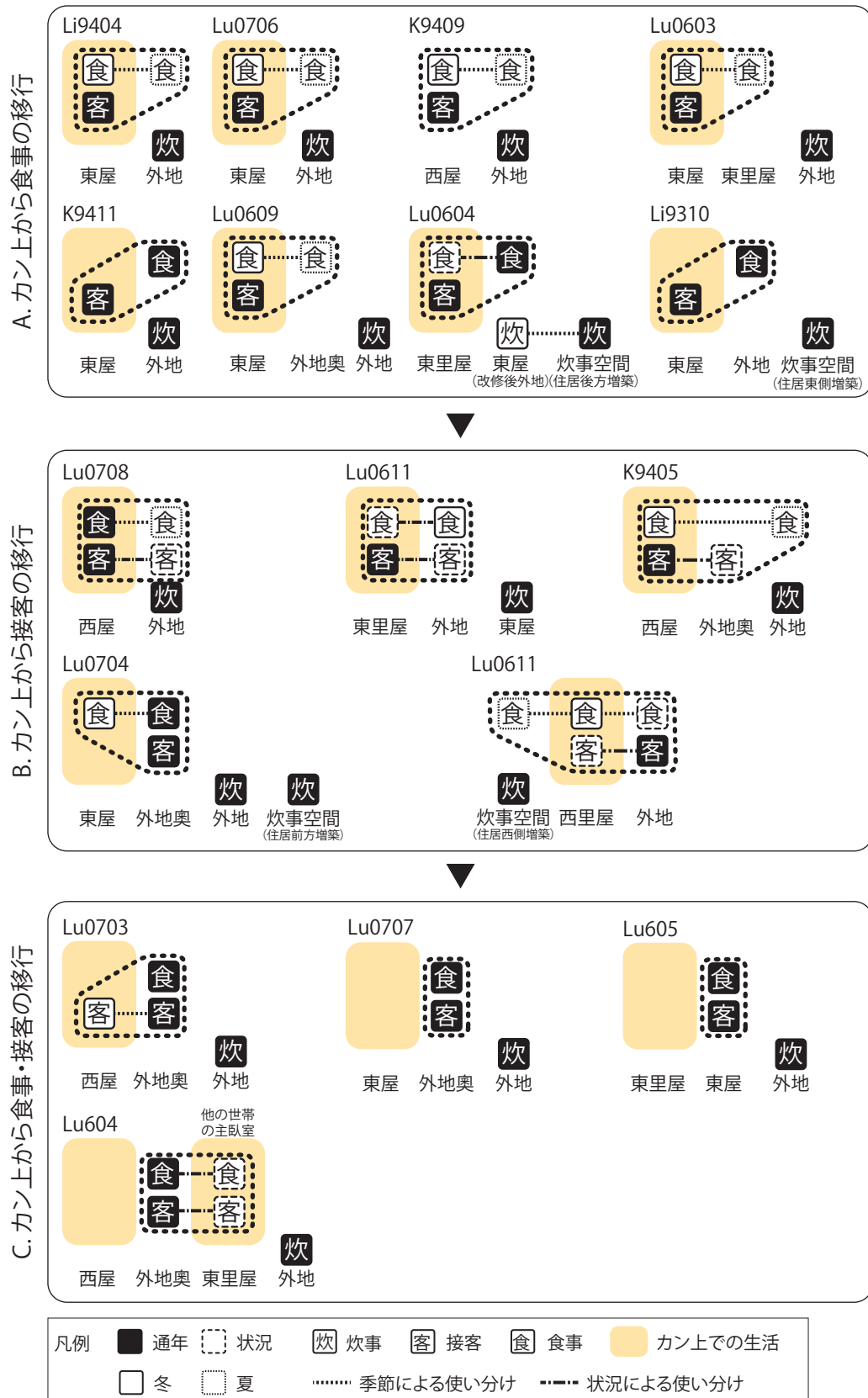


図 4-13 接客と食事のカン上からの移行

4-3-5.改修と増築による機能分化の特徴

このように改修と増築によって機能分化し、就寝とその他のカン上の行為では、その移行の仕方に違いがみられた。就寝の機能分化には2種類あり、住居奥の東里屋、西里屋のカンの取り壊しによる機能分化、カンとカマドの取り壊しによる機能分化がある。いずれにおいても、夏と冬で使い分けられる空間を確保するための操作であると考えられ、その空間に当てられるのは使用頻度の低い住居奥の空間である。また、カンとカマドを取り壊す場合には、外地に食事、接客をする空間が確保できることから、就寝以外の生活行為の機能分化を誘発すると考えられる。一方、就寝以外の機能分化は、3種類みられ、炊事空間への機能分化、炊事空間の変化による機能分化、カンの取り壊しによる機能分化がみられた。炊事空間への機能分化は、接客が少なく、食事のみみられる特徴である。また、接客は、炊事行為との混在を避けるため、外地奥や炊事をしなくなった外地へ分化していると考えられる(図4-14)。このように就寝、食事、接客に対してカンと炊事空間は多様に変容しており、空間の変容に関連しながら異なる機能分化をすることで、カンを持つ農村住居の変容に大きく影響を与えている。

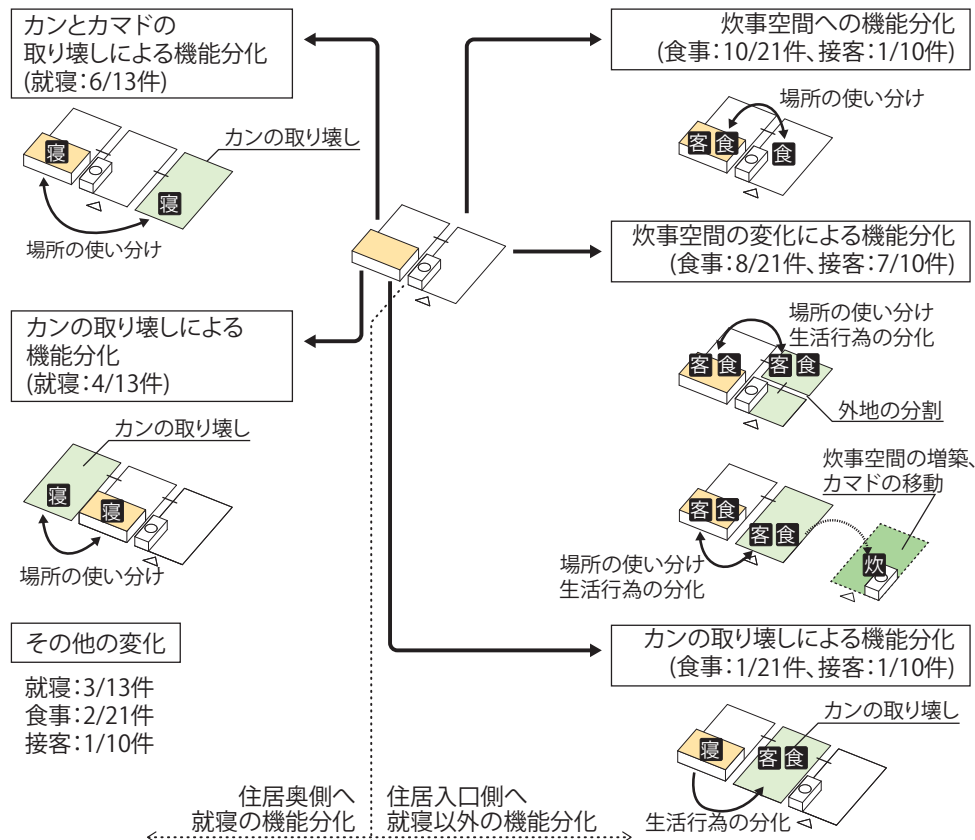


図 4-14 改修と増築による機能分化の特徴

4-4.小まとめ

中国東北部のカンを持つ農村住居における改修と増築による空間の変化として以下のことが捉えられた。

- 1) 改修による主要な変化としてカンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置があり、また、主要な改修場所として外地が多いことから、カンを持つ農村住居の変化にとって重要な役割を担う空間であると捉えられる。
- 2) 正房の増築は、1978年以前に建設された住居に対して行われており、新たに炊事空間を増築して、その位置を外地から別の場所に移行している。
- 3) 改修と増築を組み合わせる住居は、1978年以前に建設された住居に多くみられ、カマドや外地といった炊事に関わる空間と関連して変容している。
- 4) 改修と増築に伴い、就寝、接客、食事を中心とした生活行為が機能分化しているが、一様に分化しているのではなく季節や状況に応じてカン上と他の空間を使い分けている。就寝は、カン上から分化することは少なく、夏と冬の場所の使い分けを行い継続してカン上を利用している。食事は、多くの住居で季節による場所の使い分けを行っているが、接客は、外地奥の空間やカマドの無くなった外地のように炊事空間と分けられることによって生活行為の場所を移行している。
- 5) 就寝の機能分化には2種類あり、カンの取り壊しと関連していた。一方、就寝以外の生活行為の機能分化には3種類があり、外地での改修と炊事空間の増築に関連していた。このようにカン上での住まい方の変容に関連してカンと炊事空間が変化し、さらに機能分化が行われていた。

中国東北部のカンを持つ農村住居の改修と増築による変化は、新たな住要求のために主臥室以外のカンと外地を中心に起こっていた。これらカンと外地の改修と増築による空間の変化に加え、主要なカン上での生活を充実させるためにカン上での住まい方を変化させることで、カンを持続的に利用していた。このように改修と増築による空間変化と機能分化を行うことが、カンでの生活を維持する仕組みであったことを明らかにした。

注釈

注 1) 本調査で実測を行った住居の平面構成が1970年代後半を境に大きく変容していることから、本章では改革開放政策の施行された1978年を変容の分岐点と仮定し分析を行った。

5章 カンを持つ農村住居の炊事空間の変容

Transformation of cooking space with Kamado on farm-house with Kang

5-1. 本章の構成

5-2. 従来の外産からの行為の分離

5-3. 炊事空間の形態変容

5-4. 炊事設備とその使い分け

5-5. 炊事空間の利用形態の変容

5-6. 小まとめ

5章 カンを持つ農村住居の炊事空間の変容 Transformation of cooking space with Kamado on farmhouse with Kang

5-1. 本章の構成

中国東北部の農村住居では、横長方形住宅の左右対称な平面構成ではなく、炊事空間、カン、入口空間などを従来の農村住居と異なるかたちで設ける住居が存在する。3章で示した通り、調査住居におけるカマドのある厨房の位置は、住居手前、入口横、住居奥の3つがあり、加えて正房内でカマドのある厨房を複数化する住居もある。同時にカン位置は、従来の農村住居でみられた住居手前以外にも、住居奥、住居中央にカンが配置されており、カマドのある厨房の位置との関連性がうかがえる。さらに、近年では、カマドのある厨房の位置の多様化に加え、コンロのみを利用する炊事場所の発生など、炊事空間が著しく変容している。本章では、カンと密接な関係にあり、多様な変容がみられる炊事空間をカマドのある厨房、炊事場所と洗濯場所、そしてそこでの生活行為との関係を手がかりに分析・考察を行う。

本章では、2005年から2013年までの遼寧省大連市(47軒)、黒竜江省哈爾濱市(21軒)の計68軒の住居を対象とした炊事空間に関する分析結果を報告する(表5-1)。2005年以降は、カンを持つ農村住居の基本的な生活行為に加え、改修と増築、炊事空間での行為を居住者に詳しく質問している。そのため、5章では、炊事空間の分析のための生活様態に関するデータが十分に得られなかった2004年以前の調査データは用いていない。また、4章では用いていない2011年以降の調査住居のデータを新たに分析の対象に加えている。

表 5-1 調査住居 (5 章)

調査地域	分析対象住居	調査期間
遼寧省大連市 (金州区、旅順口区、普蘭店市)	47 軒	2005.9 - 2007.9, 2011.7, 2013.7
黒竜江省哈爾濱市 (道外区、道里区)	21 軒	2008.7, 2012.7

5-2. 従来の外地からの行為の分離

外地は、炊事の他にも洗濯、洗面、野菜洗い、夏の食事などの行為を行う空間でもあった。調査住居の中には、炊事を住居外部に設けられたカマドで行っている住居などがみられるが、基本的に炊事を外地で行い、屋外など他の場所を利用している住居は殆ど確認できなかった(写真5-1)。しかし、近年確認出来る横長方形住宅以外の空間構成の住居では、カマドのある厨房以外で炊事を行う住居が現れ、屋内に炊事場所を新たに設置してガスコンロや電磁調理器を利用している。また、外地で行われていた洗濯に関しても行為場所の変化がみられる。洗濯は外地の他に、屋外や住居近くの川や池などでも行われる行為であったが、近年、カマドのある厨房の変容と共に、浴室である洗濯間、トイレと浴室の機能を持つ衛生間などの屋内空間でも行われている(写真5-2,5-3)。

従来のカンを持つ農村住居でも、外地以外の空間を利用することがあったが、正房内部あるいは別棟などに空間を準備していなかった。カマドのある厨房の位置の変化と共に、炊事や洗濯といった外地で行われていた行為が外地以外の空間で行われるようになっていく。



写真 5-1 外部に設けられる
カマド



写真 5-2 屋外での洗濯
(住居前)



写真 5-3 屋外での洗濯
(近隣の池)

5-2-1. 炊事場所・洗濯場所の発生

正房内には、カマドのある厨房以外で設けられることがなかった炊事や洗濯の場所が室数の増加により設けられるようになっていく。炊事場所では、ガスコンロや電磁調理器を利用した炊事、食材の加工などが行われている。この炊事場所は、カマドのある厨房に隣接するように設置され、これらの空間を行き来して利用しており、炊事空間を拡張するような変化である。また、増築にみられるように、敷地内の別棟にコンロを利用する厨房を設置する住居も現れており、炊事場所がカマドのある厨房とは分離した場所に配置されている(写真5-4,5-5)。洗濯場所は、依然屋外の空間が使われるが、カマドのある厨房が使われなくなる傾向があり、代わりにトイレである衛生間や、風呂である洗濯間で行われるようになる。これ

らの衛生間、洗濯間は、設置されるが、トイレ、風呂として利用せずに洗濯の場所として利用している住居が多く確認できた(写真5-6,5-7)。また、洗濯機などの設備を所有している住居は多いが、殆どの住居で実際利用しておらず、従来通り手で洗濯を行っている。屋内で行われる洗濯は、炊事のようにカマドのある厨房に隣接するのではなく、正房内のカマドのある厨房に隣接しない場所や別棟で行われるようになる。

炊事場所、洗濯場所をカマドのある厨房との関係で示すと、カマドのある厨房に隣接する「拡張」と隣接せず離れた場所に設置される「分離」に分けることが出来る。これらを行為との組合せで、炊事拡張、炊事分離、洗濯拡張、洗濯分離と分類することが出来る(図5-1)。



写真 5-4 カマドのある厨房に隣接する炊事場所



写真 5-5 住居前方に設けられる炊事場所



写真 5-6 洗濯場所としての衛生間

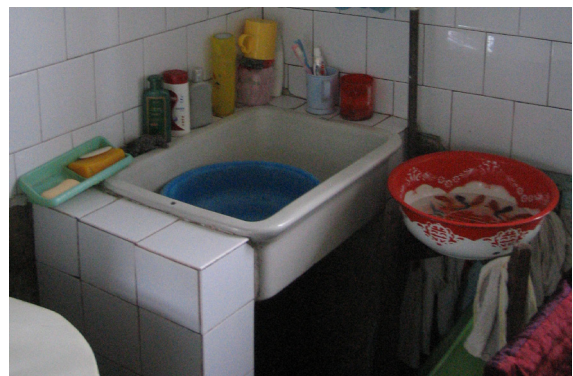


写真 5-7 餐厅と混在する洗濯場所

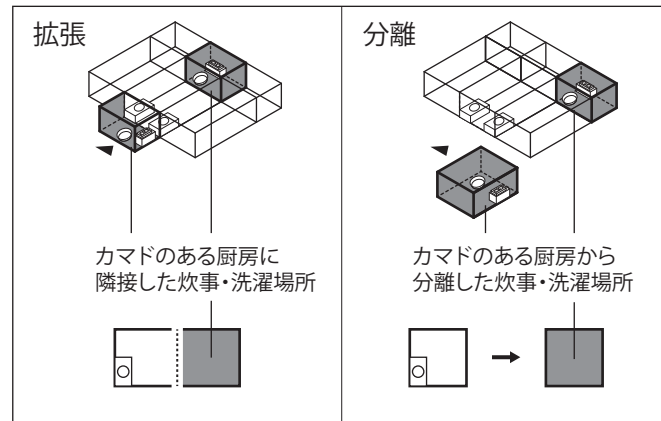


図 5-1 空間の変容モデル

5-2-2. 複数化するカマドのある厨房

炊事と洗濯の拡張と分離によって、カマドを設置していない炊事空間が拡大している。これらはいずれもカマドが無いためにカンとつながっていない空間である。炊事空間を拡大していく変容とは別に、カマドのある厨房が同一住居の中で複数設置している住居も出現している。親世帯と子世帯でカンとカマドをそれぞれ所有し、外地に2基のカマドを設置して空間を共有していた。しかし、カマド厨房の複数化によって、それぞれの世帯が別々のカマドのある厨房を所有することが可能になっている。そのため、複数化を行う住居では、従来通り入口の空間を中心として左右対称にカマドのある厨房を設置する事が可能であるが、左右非対称にカンとカマドのある厨房を設置する事も可能となっている(図5-2)。また、カマドのある厨房の複数化を行う住居の中には、炊事拡張と炊事分離、また洗濯拡張、洗濯分離と組み合わせる住居も存在している(写真5-8)。

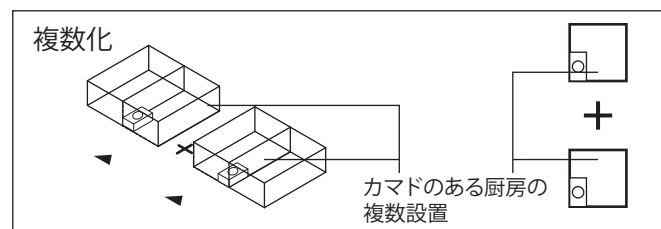


図 5-2 カマドのある厨房の複数化の変容モデル



写真 5-9 複数化するカマドのある厨房と炊事場所

5-2-3 カマドのある厨房の位置の変容

本章の調査住居でのカマドのある厨房の位置に着目すると、横長方形住宅で確認できる住居手前は、調査住居の中でも68軒中24軒確認できた。一方、入口横は、住居手前とその位置が類似するが、入口空間から部屋として独立する構成であり、調査住居68軒中10軒で確認できた。カン位置の住居中央、住居奥への移行により入口空間から分離した住居奥のカマドのある厨房は68軒中25軒と調査住居の中で最も多い。複数化する住居は、68軒中9軒と少ないが、1つの住居内に複数設ける点で特徴的である(図5-3)。カマドのある厨房の位置は、従来の住居手前は多いが、住居奥に設置し入口空間から離す住居も多い。また、カマドのある厨房の複数化、特に異なる位置に設置する住居が現れていた。これらの炊事空間の位置の変化は、炊事空間の使われ方が従来の横長方形住宅とは異なることに起因すると考えられる。

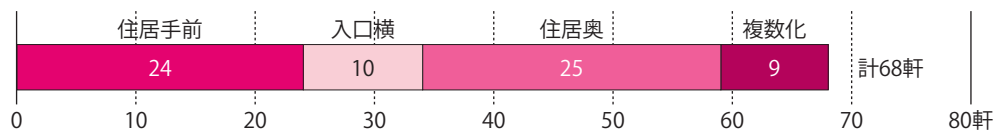


図 5-3 異なるカマドのある厨房の位置

5-2-4. カマドのある厨房の位置と炊事場所の数

炊事場所を設置しない住居は68軒中53軒であり、その内カマドのある厨房の位置が住居手前は19軒、入口横は9軒、住居奥は21軒であった。炊事場所を設置しない住居の中に、住居奥との組合せで複数化する住居が計4軒であった。従来の農村住居でみられる住居手前より住居奥が多くなっていることがわかる。炊事場所が1箇所の住居は14軒、2箇所の住居は1軒であり、計15軒の住居でカマドのある厨房に加え炊事場所を設置していた。炊事場所を1箇所設置する住居の内、カマドのある厨房

が1つの住居は、住居手前が4軒、入口横が1軒、住居奥が4軒であり、炊事場所を2箇所設置する住居は1軒のみであった。複数化して炊事場所を設置する住居は住居手前との組合せで計5軒あった(表2)。調査住居において、カマドのある厨房のみで炊事をする住居が多いが、炊事場所の設置、カマドのある厨房の複数化などの炊事空間を拡大する住居が住居手前と住居奥で確認できた。特に複数化と炊事場所の設置を行う住居は、主に住居手前との組合せであった。カマドのある厨房を住居手前に残しながら、複数化と炊事場所の設置により従来の横長方形住宅の炊事空間の改善と拡大を行っていると考えられる。

表 5-2 カマドのある厨房の位置と炊事場所の数

		炊事場所の数			計 (軒)
		無	1 箇所	2 箇所	
カマドのある厨房の位置	住居手前	19	4	1	24
	入口横	9	1		10
	住居奥	21	4		25
	カマドのある厨房の 複数化	住居手前 + 住居手前	2		2
		住居手前 + 入口横	1		1
		住居手前 + 住居奥	2		4
		入口横 + 住居奥	1		1
		住居奥 + 住居奥	1		1
	計 (軒)		53	14	68

5-3. 炊事空間の形態変容

炊事空間を拡大する変容を行う住居を抽出し、炊事と洗濯に着目して、カマドのある厨房に隣接する空間(炊事拡張、洗濯拡張)、分離して設置される空間(炊事分離、洗濯分離)、カマドのある厨房の複数化の3種類の変容を分析する。

5-3-1. カマドのある厨房での行為の拡張と分離

炊事空間を拡大している住居の内、炊事拡張は計7軒、炊事分離が計3軒であった。炊事拡張を行う住居の殆どは、炊事場所を1箇所増加しているが、1軒の住居だけが炊事場所を2箇所増築している住居も存在している。正房内で炊事分離を行う住居は確認できず、別棟に炊事場所を新たに設けるのみであった(図5-4)。

洗濯拡張が計11軒で、その内、炊事場所と混在する住居が3軒、炊事場所を介して間接的に接続する住居が2軒であった。また、洗濯分離は計16軒(内別棟3軒)であり、炊事分離とは異なり、正房内でのカマド厨房からの分離がみられた(図5-5)。

炊事空間の拡大は、炊事拡張が多くを占め、炊事分離の住居は別棟を利用して炊事場所を設置し

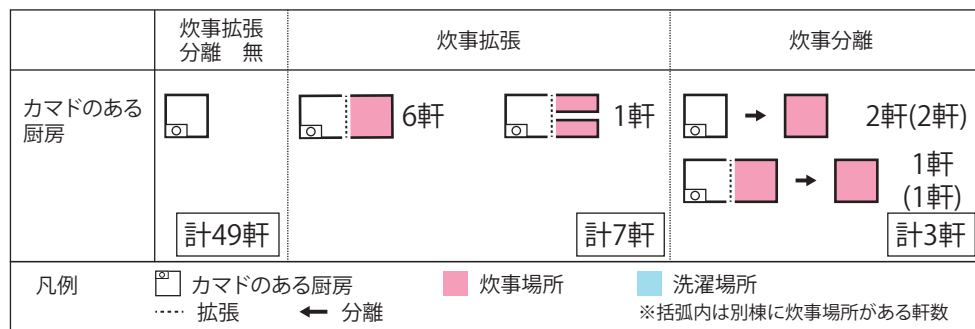


図 5-4 炊事空間の拡張と分離

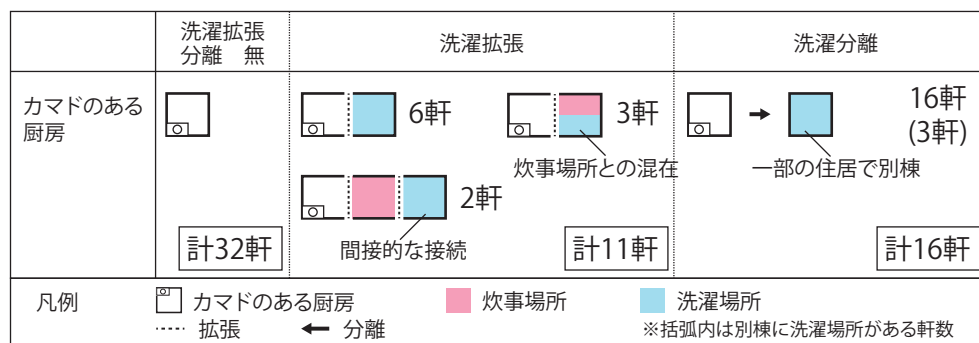


図 5-5 洗濯空間の拡張と分離

ていた。正房内に新たに炊事場所を設置し、且つ炊事場所を分離する住居が殆どないことから、正房内で炊事場所が拡張される際にはカマドのある厨房と炊事場所での利用の連続性が意識されていると考えられる。一方、洗濯は、洗濯分離が正房内でも多くみられ、炊事場所と混在する住居は少ない。洗濯拡張と分離によってカマドのある厨房から洗濯を離すだけではなく、洗濯場所と炊事場所の混在を避ける傾向がある。

5-3-2. 複数化したカマドのある厨房での行為の拡張と分離

カマドのある厨房を複数化する住居は、9軒確認でき、炊事拡張は計4軒、炊事分離は別棟の計1軒であった。炊事拡張の住居では、片方のカマドのある厨房に対して炊事拡張を行っているが、もう一方のカマドのある厨房に対しては、炊事拡張を行っていない。また、1軒であるが、2つのカマドのある厨房を炊事場所で繋ぐ住居が存在している(図5-6)。

カマドのある厨房を複数化する住居では、洗濯分離が計6軒(内別棟1軒)であり、間接的な接続による洗濯拡張が計1軒であり、洗濯分離する住居が多い。また、炊事場所と洗濯場所の混在が複数化していない住居どうように確認出来ない(図5-7)。

カマドのある厨房を複数化する住居の炊事場所は、炊事拡張を行う住居が多く、炊事分離する住居の場合、別棟で行われており、複数化する住居でもカマドのある厨房との繋がりを意識した変容となっている。一方、洗濯場所は、カマドのある厨房から分離して空間的な繋がりがなくなり、炊事場所との混在を避ける変容となっている。

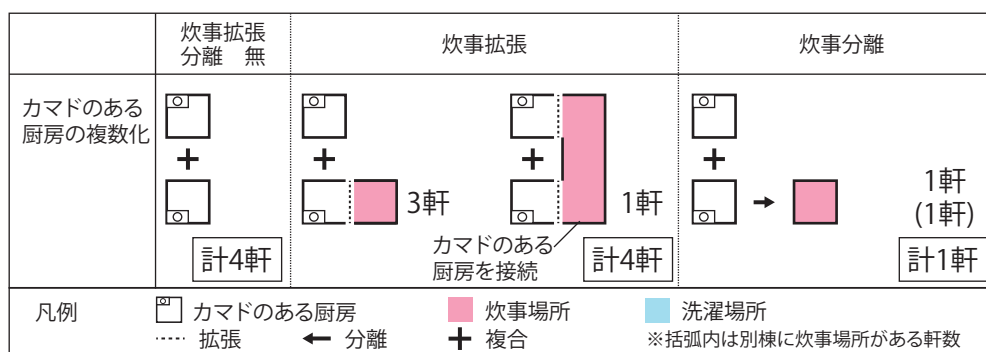


図 5-6 カマドのある厨房の複数化と炊事場所

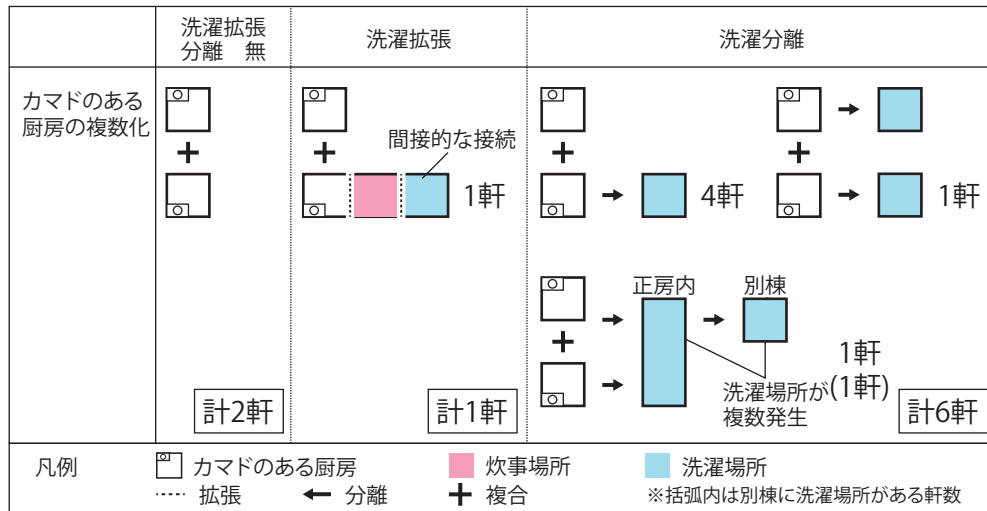


図 5-7 カマドのある厨房の複数化と洗濯場所

5-3-3. 炊事や洗濯を行う場所と行為の関係

炊事場所や洗濯場所が設えられるが、炊事、洗濯の行為は一樣にこれらの空間のみで行われるのではなく、カマドのある厨房を併用し続ける住居も存在している。次に、炊事と洗濯の行為、カマドのある厨房や炊事場所と洗濯場所といった空間との関係进行分析する。

炊事を行う場所は、カマドのある厨房では68軒、その内炊事場所も用いる住居が15軒であり、すべての住居でカマドのある厨房を継続して利用し、一部の住居は炊事場所も併用していた(図5-8)。一方で、洗濯は、屋外、カマドのある厨房、洗濯場所の様々な空間で行われており、屋外で洗濯を行う住居は50軒、カマドのある厨房は27軒、洗濯場所は34軒であった。また、洗濯を行う場所の組合せをみると、屋外・カマドのある厨房の組合せが20軒と最も多く、次に屋外・洗濯場所が14軒であった。屋外・カマドのある厨房・洗濯場所の組合せは4軒、また、カマドのある厨房・洗濯場所の組合せは1軒であった(図5-9)。炊事では、炊事場所が設置される住居でもカマドのある厨房が併用され続けており、洗濯では、屋外、カマドのある厨房、洗濯場所で行われている。しかし、洗濯場所とカマドのある厨房を組み合わせる住居は少なく、洗濯場所は、炊事とは別の空間として設けられている。

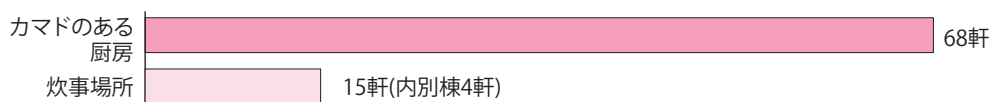


図 5-8 炊事を行う場所

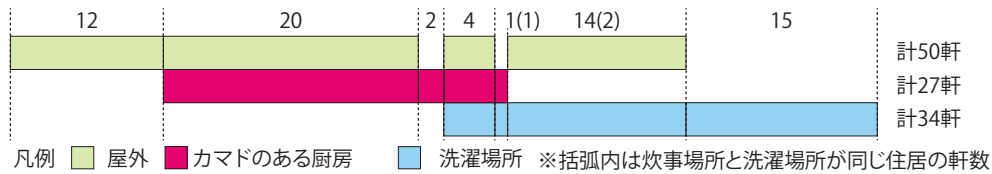


図 5-9 洗濯を行う場所とその組合せ

5-3-4. 炊事と洗濯の空間利用

炊事と洗濯の空間利用と、拡張や分離といった変容との関係进行分析する。炊事と洗濯の空間を拡張や分離をしない住居は計30軒、いずれかの空間を拡張や分離をする住居は計38軒であった。炊事と洗濯との関係を示すと、炊事や洗濯を拡張あるいは分離しない住居では、カマドのある厨房での炊事と洗濯の混在が30軒の住居の内20軒であった。一方、拡張または分離する住居では、38軒の住居の内、カマドのある厨房での混在が7軒、炊事場所での混在が2軒、両方で混在する住居は1軒、炊事と洗濯を混在しない住居が28軒であった(図5-10)。炊事と洗濯の空間利用は、拡張や分離を行う場合には、カマドのある厨房や炊事場所での混在がなくなり、炊事と洗濯を明確に分け、またカマドのある厨房を炊事に限定する傾向がある。

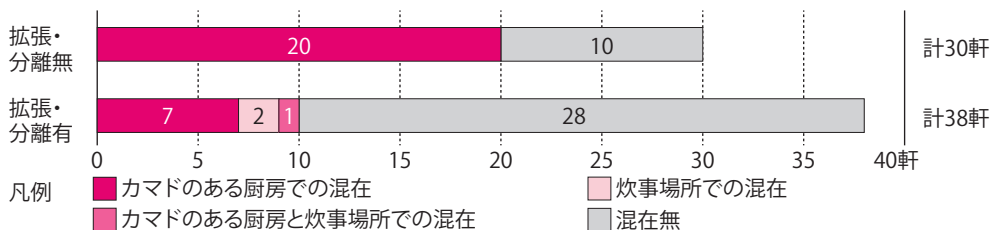


図 5-10 炊事と洗濯の空間利用

5-3-5. 炊事空間の拡大と洗濯場所の分離

炊事空間は、カマドのある厨房の位置の多様化、炊事空間の拡張と分離、複数化といった空間を拡大する変化がみられた。炊事場所を設置する住居でも、カマドのある厨房での炊事を継続しており、一方、洗濯は、洗濯場所の設置による洗濯分離を行い、炊事空間との混在を避ける傾向が強い。炊事と洗濯は、共にカマドのある厨房とは別に炊事場所や洗濯場所を設け、空間を1箇所にとめるのではなく、行為を行う場所を拡大するように変化していた。

5-4. 炊事設備とその使い分け

調査住居では、1基のカマドのみ、複数のカマド、コンロといった異なる炊事設備の利用がされている。さらに、カマドのある厨房と炊事場所など複数の場所でのコンロの利用が確認できることなどから、炊事設備の利用方法の変化も影響していると考えられる。そのため、コンロとカマドの使われ方についてその傾向を把握する。

5-4-1. 炊事設備の利用

調査住居での炊事設備の利用は、1基のカマドのみの利用は11軒、コンロの併用は48軒、コンロのみは1軒、複数のカマドとコンロの併用は6軒であった(図5-11)。カマドの利用状況とコンロを利用する場所との関係は、1基のカマドを利用する住居でのコンロの利用は、カマドのある厨房が39軒、炊事場所が4軒であった。また、その両方が5軒確認できた。複数のカマドを利用する住居では、カマドのある厨房での利用が3軒、炊事場所での利用が3軒であった(図5-12)。カマドのみ、コンロのみで炊事を行う住居は少なく、複数のカマドを利用する住居においてもコンロとの併用がされている。カマドのある厨房でカマドとコンロを併用する住居が多く、少数であるがカマドとコンロで利用する場所を分ける住居も確認できた。カマドのある厨房及び炊事場所でコンロが利用されているが、完全にコンロでの炊事に移行するのではなく、コンロはカマドの補助的な炊事設備として利用されていると考えられる。

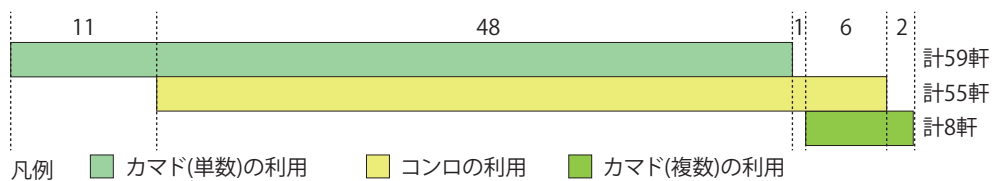


図 5-11 カマドとコンロの利用

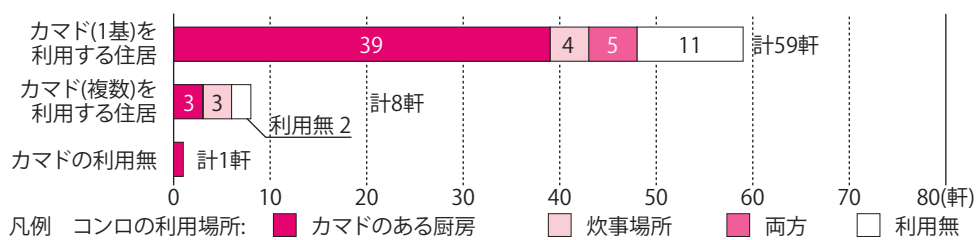


図 5-12 コンロの利用場所

5-4-2.炊事設備の使い分け

調査住居での炊事設備の使い分けは、複数のカマドの使い分けが計8軒、カマドとコンロの使い分けが計54軒であった。これらの使い分け理由には、季節による使い分けに加え、炒め料理や蒸し料理など調理工程によるもの、朝、昼、夕方など利用する時間帯によるもの、さらにこれらを複合したものなどがある。複数のカマドを使い分ける住居では、使い分ける理由として、季節による使い分けが8軒中5軒であった。また、カマドとコンロの使い分けには、季節による使い分けは24軒、調理工程による使い分けは13軒、季節と調理工程の両方による使い分けは1軒であった。時間帯による使い分けが2軒、使い分けに特別な理由が確認できない住居は14軒であった(図5-13)。複数のカマドを使い分ける理由として、季節による使い分けが多く、同様にカマドとコンロを使い分ける理由も季節によるものが多い。これは2基のカマドの使い分けにより行っていたカンの温度調節を、カマドとコンロを併用することで行っていると考えられる。また、調理工程によるカマドとコンロの使い分けが多くみられる理由として、カンの温度調節とは別に、カマドの煙や油汚れなどの炊事に伴う問題への対処を行う住居が増加していると推察できる。

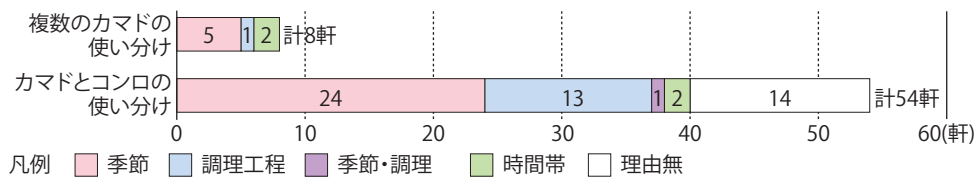


図 5-13 炊事設備の使い分け理由

5-5. 炊事空間の利用形態の変容

炊事と洗濯では、カマドのある厨房との関係が異なり、炊事は炊事場所を併設するのに対して、洗濯は洗濯場所を分離する傾向があることを捉えた。また、カマドとコンロを併用する住居が多く、コンロを炊事場所で利用する住居が現れ、これらの使い分けはカンの温度調節以外の目的でも行われていると考えられる。そのため、炊事に関わる空間はカンの利用とカマド、コンロの使われ方が相互に関連し、より複雑な変容をしていると考えられる。拡張、分離、複数化の代表的な住居を取り上げ、特に炊事の利用形態と拡張と分離した空間との関連性を分析することで、炊事空間の変容の特徴を捉える。分析には、空間と炊事と洗濯の空間利用をモデル化した図を用いる。

5-5-1. 季節による空間の使い分けと炊事空間の改善 (図5-14)

炊事拡張や炊事分離によって炊事空間が拡大しているが、これらの空間のみを利用するのではなく、コンロを利用する場所、また、季節、調理、時間帯によって使い分けを行う空間としている。このように炊事空間の拡大、利用形態の多様化によって空間と行為の対応関係が異なってきている。そこで、カマドとコンロの併用、季節によるカマドのある厨房と炊事場所の使い分けといった空間利用を分析する。

K1302では、炊事は主に住居手前のカマドのある厨房で行われ、コンロは利用せず、カマドのみを用いていた。カマドのある厨房の奥に炊事場所を設けることで、炊事と食材の保管や調理加工の空間を分離し、調理の工程によって空間を使い分けていた。また、夏の食事は炊事場所で行っていた。洗濯は、冬の洗濯を屋内の洗濯場所、夏の洗濯を屋外で行い、季節によって場所を使い分けており、カマドのある厨房からの洗濯の分離がされていた。

H0810では、住居奥にあるカマドのある厨房にカマドとコンロを設置し、カマドは冬、コンロは夏といった季節による炊事設備の使い分けを行っていた。さらに、その奥の室を食事する空間とし、食材の保管と調理加工などを行う炊事場所としても利用していた。カマドとコンロを使い分けることでカンを温めすぎない配慮がなされ、K1302と同様に炊事に関わる空間の一部をカマドのある厨房から移行していた。

H1201は、住居奥に設置した洗面間を炊事場所として利用するようになり、カマドのある厨房と併用していた。カマドのある厨房は、カマドは冬の炊事、コンロは夏に利用され、炊事場所は調理加工のみに利用されていた。洗濯は、冬は走廊と呼ばれる廊下空間、夏は屋外で行われ、炊事空間から分離していた。

カマドのある厨房の位置は異なるが、炊事場所はカマドのある厨房の奥に設置され、炊事の動線がカンへの生活動線と交わらないように、炊事拡張によって連続性を確保していた。カンの温度調節のためのカマドとコンロの使い分けだけではなく、調理の工程による空間の使い分けを行い、調理加

工を別の空間で行っていた。この使い分けはカマドを利用する際の汚れを調理加工の空間に持ち込まないためである。一方、洗濯は、季節による場所の使い分けが行われ、加えて炊事空間から分離していた。

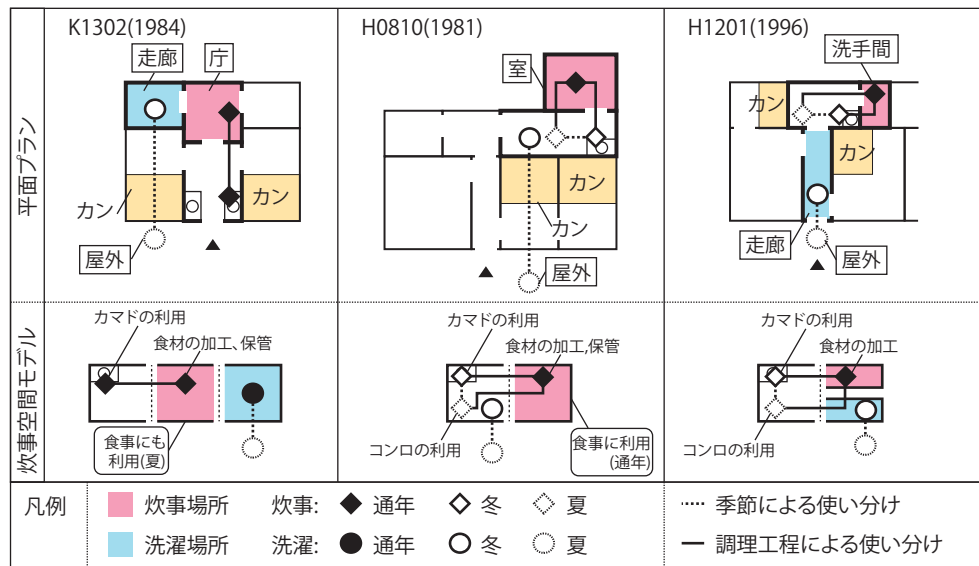


図 5-14 季節による空間の使い分け

5-5-2.カマドのある厨房からの炊事と洗濯の分離(図5-15)

炊事を分離する住居は、カマドのある厨房と別棟の炊事場所を季節によって使い分けていた。

K1309の住居では、冬にカマドのある厨房でカマドを利用し、夏に別棟などの炊事場所でコンロを利用していた。調理加工は、通年で正房前の炊事場所で行われていた。

洗濯も分離しているLu0707やP0509の住居では、炊事空間で洗濯を行うことは無く、別棟や屋外を利用して洗濯を行っていた。

カマドのある厨房内でのカマドとコンロの使い分けではなく、正房と別棟での使い分けを行っていた。これらの住居では、正房外部に炊事場所や洗濯場所を設置することで、夏のカンの温度調節によるカン上の生活改善に加え、入口空間からの炊事と洗濯の分離を行っている。

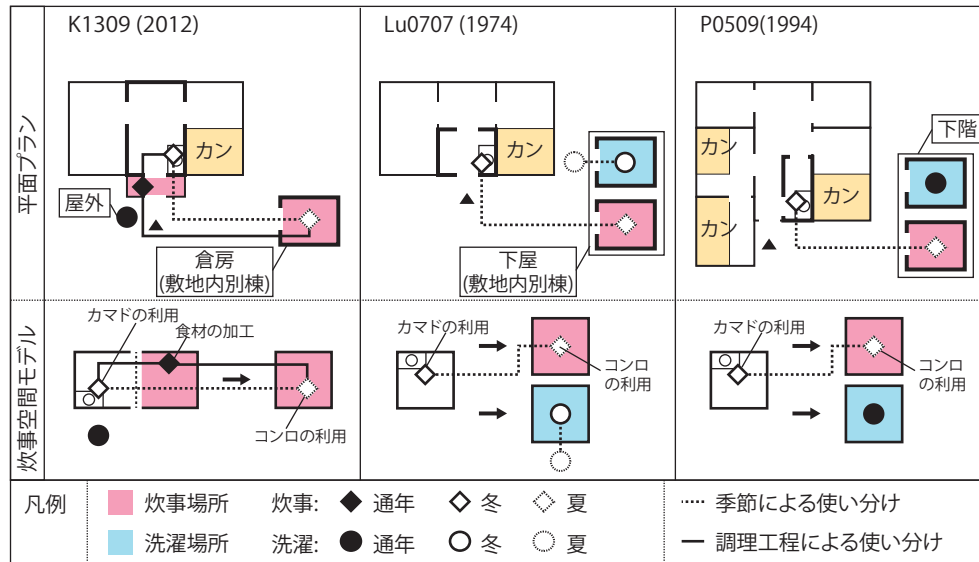


図 5-15 カマドのある厨房からの炊事と洗濯の分離

5-5-3.カマドのある厨房の機能の変容 (図5-16)

カマドのある厨房のカマドと炊事場所のコンロの使い分けには、季節による使い分けと調理工程による使い分けがあった。また、カマドのある厨房で行われていた行為を分離する使い分けの他に、炊事場所を組合せて利用することで、新たな機能を付加している住居がみられた。

Lu0705は炒菜屋という炊事場所が住居奥に設置され、夏の炊事空間として利用している。また、カマドのある厨房では、2つのカマドが日常的な炒め料理と蒸し料理にそれぞれ専用化して使い分けられていた。住居手前のカマドのある厨房は、夏には蒸し料理以外には使われず、炊事や洗濯による汚れが少ない空間となり、イスとテーブルが常設されて夏の日常的な食事空間として設えられていた。洗濯は、K1302と同様に屋内の洗濯場所と屋外を夏と冬で使い分け、カマドのある厨房は利用していない。

Lu0711では、住居手前の2つのカマドのある厨房を繋ぐように炊事場所を設置していた。炊事場所ではコンロを通年で利用しており、日常的な炊事でカマドを利用することはない。カマドは新年など特別な日の饅頭などの蒸し料理を作る際に利用されるのみで油を使うような炊事を行っていない。そのため、カマドのある厨房は常に清潔な状態に保つことが可能となっている。洗濯は、炊事空間では行われず、住居奥の衛生間を洗濯場所として利用していた。

住居手前のカマドのある厨房での行為を限定してカマドとコンロの使い分けを行うことで、入口空間は食事などを行う場所やカンへの生活動線として綺麗に保たれ、従来の外地とは異なる空間へ変化していた。これらは、炊事空間の変化だけではなく、カン上での食事の移行やカンへの移動動線を意識した変化と関連していると考えられる。

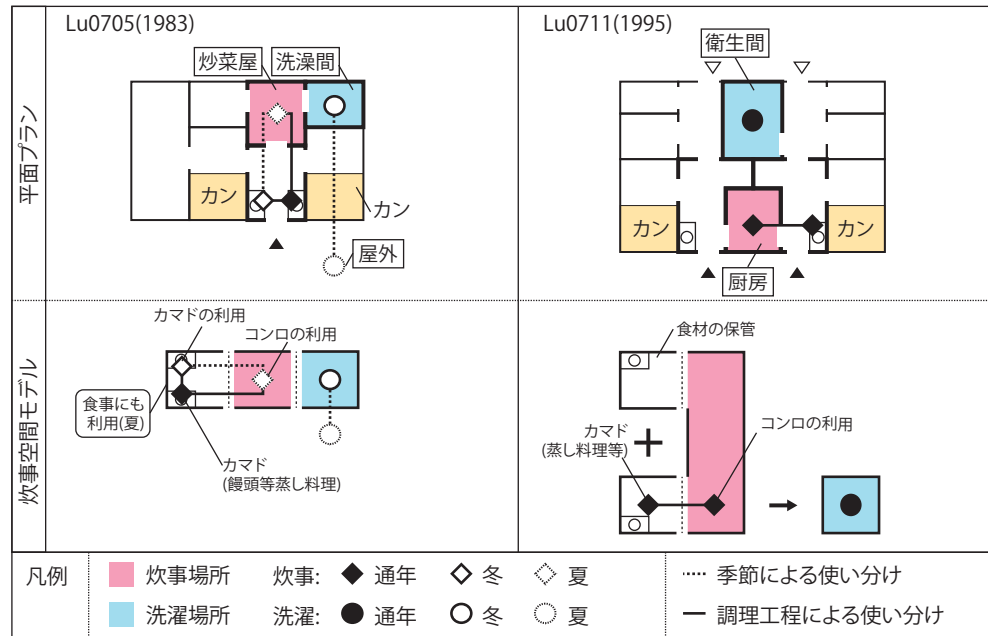


図 5-16 カマドのある厨房の機能の変容

5-5-4.カマドのある厨房の複数化と2世帯同居 (図5-17)

炊事場所を拡張、分離する変容の他に、カマドのある厨房を複数設置する住居が現れている。直江広治⁹⁾によると、カマドを分けることは、日本と同様に中国でも分家することを意味しており、分家を「分火」・「分煙」・「析煙」などと呼ぶように、カマドを異にすることは居を異にすることであるとされている。カンを持つ従来の農村住居では、カンを温める為にカマドを2基で一對として扱い、カマドのある厨房を2世帯で共有している。調査住居の多くではカマドのある厨房を異なる世帯で共有しているが、入口を別々に設けて生活空間を分離しながら同居する住居も存在している。そのため、カマドのある厨房を複数設置する住居では、家族構成と空間との関係が変容していると考えられる。そこで、カマドのある厨房を複数持つ住居の住まい方について家族形態に着目して分析を行う。

Lu0604では、世帯毎のカマドのある厨房とコンロの設置された共有の炊事場所、洗濯場所として住居奥に庁を設置し、住居手前のカマドのある厨房には個別にアクセス出来るようになっている。親世帯は、冬の炊事と通年の食事を自世帯のカマドのある厨房で行い、夏の炊事を炊事場所で行っていた。子世帯は、カマドのある厨房は利用せず、炊事場所で通年の炊事を行っていた。また、洗濯は共有の洗濯場所である庁で行われ、カマドのある厨房から分離している。親世帯と子世帯がカマドのある厨房を個別に所有し、さらに炊事空間から洗濯場所を分離しているが、冬の炊事場所、通年の洗濯場所を世帯の共有空間としており、各世帯の生活を明確に分離していない。

Lu0709は、カマドのある厨房を住居手前と住居奥に複数設置しているが、炊事拡張を行っていない住居であった。親世帯、子世帯共にカマドのある厨房を所有しているが、子世帯のカマドはカン

温める時に使われるのみで、通常の炊事は親世帯のカマドのある厨房を利用していた。また、親世帯のカマドのある厨房では、カマドの利用は食事の加熱用に限られ利用頻度が少なく、主にコンロでの炊事が行われていた。カマドのある厨房を複数所有するが、炊事空間や炊事設備の使い分けはせず、基本的には親世帯のカマドのある厨房でコンロを利用している。親世帯と子世帯で独立した生活を送ることが可能であるが、炊事空間を共有することで世帯を明確に分離していない。

K1315は、2世帯同居している住居ではないが、カマドのある厨房を住居手前と住居奥、炊事場所を住居手前にあるカマドのある厨房の奥に設置しており、それぞれ個別にアクセスが可能である。炊事は、冬には住居手前のカマドのある厨房、夏には炊事場所で行われ、住居奥のカマドのある厨房は利用していない。洗濯は、洗濯場所で通年で行われており、炊事空間とは分離していた。住居奥のカマドのある厨房は現在利用されていないが、子世帯が将来同居する可能性があるとの理由から設置されていた。

近年、複数世帯で同居する住居が少なくなり、親世帯のみが住む住居が多くなっている。近隣に住居を建設する子世帯も存在するが、調査住居の多くでは子世帯が都市部で働いている。そのため、老後の生活に不安を抱え、将来的な2世帯同居を望んでいる親世帯も少なくない。カマドのある厨房の複数化は、新しい炊事空間の設置や各世帯で明確に生活空間を分離するという要求よりも、自立して異なる生活を送るためにカマドのある厨房を世帯毎で別々に所有することを重要とする新たな同居の在り方であると考えられる。また、カマドのある厨房の複数化は、同居せずとも将来的な子世帯との同居を視野に入れた変容でもある。

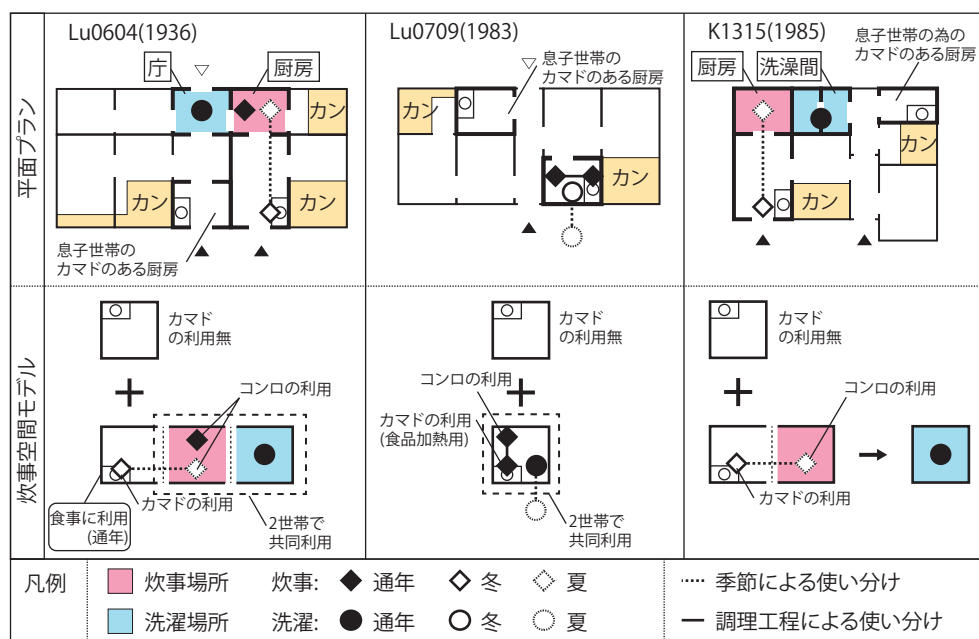


図 5-17 カマドのある厨房の複数化と 2 世帯同居

5-5-5.住まい方の変容と拡大する炊事空間

炊事は、カマドとコンロの使い分けにより、季節、時間帯、調理加工による使い分け、空間の利用形態が複雑になっていた。多くの住居で確認できたカマドとコンロの使い分けは、夏のカン上での生活を改善し、炊事空間を清潔に保つ工夫であった。また、一部の住居ではカマドのある厨房での行為を限定するために使い分けは行われており、入口空間を食事室や移動空間へと役割を変更する工夫もあった。カマドのある厨房の複数化は、カマドのある厨房を世帯毎で別々に所有することにより、生活の一部を共有しながらも同居しながらも子世帯の生活空間を確保し、また将来的な2世帯同居を視野に入れた変容でもあった。一方、炊事と同様にカマドのある厨房で行われていた洗濯は、炊事ほど複雑な変化はみせておらず、カマドのある厨房から分離した空間を設置し、炊事とは混在しない生活行為となっていた。炊事空間は、カマドのある厨房の改善だけではなく、カンでの生活を含めた居住環境の改善、入口空間の役割の変更、新たな家族形態への対応といった要望に関連して空間構成を変容していた。

5-6. 小まとめ

本稿では、炊事空間の変容に着目して、中国東北部のカンを持つ農村住居の変容を分析し、以下の特徴を明らかにした。

- 1) カマドのある厨房が、住居手前以外にも、住居奥、入口横に設置され、さらに炊事空間を複数設置する住居が出現し、炊事空間を拡大する傾向がみられる。
- 2) 炊事空間は、カマドのある厨房の炊事拡張、炊事分離、また複数化といった形態の変容があった。また、洗濯場所はカマドのある厨房から分離し、炊事場所との混在を避けている。
- 3) カマドのある厨房と炊事場所、カマドとコンロを季節、時間帯、調理工程により使い分け、カン上での生活と炊事空間の改善が行われている。さらに、カマドのある厨房が炊事空間だけではなく、食事や移動を意識した空間利用がされ、その役割を変化させている。一方、洗濯は、炊事ほど複雑な利用形態とはならず、洗濯場所で炊事とは混在させない利用形態となっていた。
- 4) カマドのある厨房の複数化は、子世帯の生活空間を確保する変容であり、将来的な2世帯同居を考慮に入れた変容でもあった。
- 5) 炊事空間は、カマドのある厨房の改善だけではなく、カンでの生活を含めた居住環境の改善、入口空間の役割の変更、新たな家族形態への対応といった要望に関連して空間構成を変容していた。

中国東北部のカンを持つ農村住居では、都市部の発展によるガスや電気などのインフラの整備、

生業の変化や、農村から都市への子世帯の移動によって、従来の複数世帯で同居する住まい方から大きく変化している。しかし、本研究で対象とするカンを持つ農村住居は、単に都市部での生活様式の流入による住環境の向上だけではなく、炊事行為とカン上での生活の改善、入口空間としての利用形態の変更、現在の家族形態に対応するために、カンと繋がるカマドのある厨房を変容させ、また炊事と洗濯の利用形態を変化させていた。このように、カンを持つ農村住居の炊事空間の拡大とその利用形態の変容によって、カンという空間を持続的に利用することが可能となっていると考えられる(図5-18)。

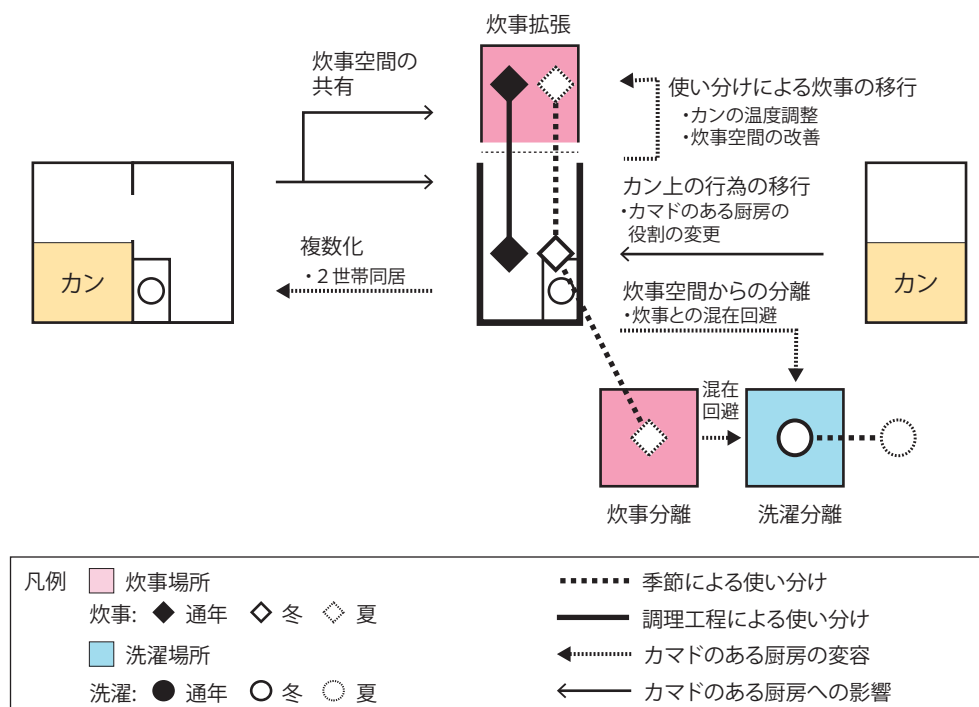


図 5-18 カマドのある厨房を中心とした変容の仕組み

既往研究・参考文献

- 1) 直江広治：中国の民俗学，民族民芸双書，1967.3

6章 結論 Conclusion

6章 結論 Conclusion

カン、金王朝からあるとされている中国東北部の暖房設備である。そのため、古い形式の暖房節設備であるため近年利用しないという若者や住民の声があるものの、完全に取り壊され無くなることなく、継続的に利用されている。本研究の目的は、中国東北部のカンを持つ農村住居という庶民の住居に焦点を当て、改修と増築による空間構成の変化と炊事空間の変容を通して、新たな住要求の実態を考察すると共に、カンを持続的に存続させている仕組みを捉えることであった。

カンと炊事空間の相補的な関係が、カンを持つ農村住居の変容に関係していた。カンを持つ農村住居には、カンでの生活の変容を受けるために、改修と増築による炊事空間が変化しており、また、炊事空間の改善を行うと共にカンでの生活を保持するために、炊事拡張、炊事分離、洗濯分離などの炊事空間の変容と利用形態の変化が起こっていた。さらに、異なる家族形態に対応するためにカマドのある厨房の複数化が行われていた。新たな住要求に対して、炊事空間の形態と利用形態を変えることで、カンへの支え方を変化させ、カンを軸にした変容の仕組みを形成していった。

3章から5章までを要約し、得られた研究成果からカンを持つ農村住居の持つ持続性について明らかにする。

3章では、カンを持つ農村住居の基本的な空間構成と住まい方を示すとともに、カンとカマドの年代による形態的な変容の傾向を説明し、カンとカマドの変容の関連性を示唆した。

中国東北部のカンを持つ農村住居は、入口兼厨房である外地とカンが設置されている臥室で構成されている。外地に設置されているカマドは、カンと隣り合う構成であるため緊密な関係である。カンは、カマドの排煙を利用するために、毎日必ず温められる。カン自体に焚き口が設置される住居もあり、カンは、直接温めることも可能であるが、そのように利用する住居は調査住居では確認できなかった。そのため、カンを持つ農村住居の変容を考察するためには、カンとカマドとの関係あるいはその変化は重要である。

カン上では接客、就寝、食事、団欒などが行われ、入口兼炊事空間の外地では炊事、洗濯、夏の食事、簡易な接客が行われており、これらの空間では、様々な行為が重層している。そのため、これらの生活行為の変容が、カンとカマドのある厨房の変容に影響を与えられられる。また、各世帯でカンとカマドを所有しているため、居住者や世帯の変化との関連が考えられる。さらに、ガスコンロや電磁調理器などの新しい炊事設備の利用により、カン上の状態を調整できるようになってきている。カマドのある厨房は、カンとカマドのある厨房との密接な関係から、カンの位置、様々な行為の変化、家族形態などの影響を受け、変容していると考えられる。そのため、カマドのある厨房を含め炊事空間に着目することはカンをもつ農村住居の変容の仕組みを分析するに当たって重要である。

4章では、農村住居の新たな住要求による改修と増築による空間構成の更新を捉えた。

改修による主要な変化としてカンの取り壊し、カマドの取り壊し、間仕切りの設置があり、主要な改修場所として外地(カマドのある厨房)が多いことから、カンを持つ農村住居では炊事空間の改善は、重要であると考えられる。また、正房の増築でも、新たに炊事空間を増築して、その位置を外地から別

の場所に移行することからも読み取れる。複数の改修と増築を組み合わせる住居では、様々な組合せが確認できるが、炊事空間を伴う変化が多く、炊事空間が変容の中心であることがわかる。これらの改修と増築の変化により、カンとカマドの改修と増築による生活行為の分化、空間の分割によるカン上の生活行為の分化、改修と増築による世帯の分離が主な変化として捉えられた。カンの取り壊しによる生活行為の分化において、就寝は、カンの取り壊しによりベッドが設置されることによって、夏と冬で使い分けられるようになり、同様に食事の場所も季節によって使い分けられる。接客は、カンを取り壊した場所に客庁を設置する住居はあるものの、殆ど確認できない。そのため、カンの取り壊しのみによる変化は、客庁や餐庁を確保する為に行われているわけではなく、就寝形態の変化に対応したものである。空間の分割による変化としては、主に外地奥の空間を確保する為に行われている。外地奥では、食事、接客などの行為がカン上から移行し、特に夏の行為を行う場所として利用されるようになり、カン上での行為が限定的になっている。このように外地奥の空間を確保する事で、カン上の行為を受容する空間となっている。さらに改修と増築を組み合わせる住居では、カマドをカンの取り壊した臥室に設置して、各世帯が独立した生活が送れるように変容している住居も出現している。改修や増築により親世帯は、カンを中心とした従来通りの生活を送り、子世帯はカンを就寝の場所として利用するといったように異なる住まい方の影響を受けている。このように、就寝、接客、食事を中心として生活行為が機能分化しているが、これらの行為は、単純に分化しているのではなく、使い分けを行いながら季節や状況に応じて空間を利用している。特に、食事と接客の異なる行為の性質により、食事は季節による使い分けが多く、接客は状況による使い分けが特徴として挙げられる。

中国東北部のカンを持つ農村住居の改修と増築による変化は、新たな住要求のために主臥室以外のカンと外地を中心に起こっていた。これらカンと外地の改修と増築による空間の変化に加え、主要なカン上での生活を充実させるためにカン上での住まい方を変化させることで、カンを持続的に利用していた。このように改修と増築による空間変化と機能分化を行うことが、カンでの生活を維持する仕組みであったことを明らかにした。

5章では、改修や増築を行う住居で変化の中心であった炊事空間に焦点を当て、炊事空間の形態的変容とその利用形態との関係性を分析した。

カマドのある厨房は、その位置を変化させることに加え、カマドのある厨房に隣接する炊事場所を設けることによる炊事拡張、別棟など隣接しない炊事場所を設ける炊事分離、また、カマドのある厨房を複数設ける複数化といった炊事空間の拡大が起こっていた。炊事専用の空間を設ける住居も存在するが、多くの住居は、炊事拡張を行い他の行為と場所を共有する事で炊事空間を拡大している。一方、洗濯場所はカマドのある厨房から分離し、炊事場所との混在が避けられるようになっている。また、炊事を行う空間を準備するだけでなく、カマドのある厨房と炊事場所、カマドとコンロを季節、時間帯、調理工程による使い分けを行い、状況による利用形態が異なっている。さらに、炊事拡張を行うことで、カマドのある厨房が炊事空間だけではなく、食事や移動を意識した空間利用がされ、その役割を変化させている。一方、洗濯は、炊事ほど複雑な利用形態とはならず、洗濯場所で炊事とは混在させない利用形態となっていた。カマドのある厨房の複数化は、世帯毎の独立した生活を確保しつつ、生

活の一部を共有する住まい方も可能とする住居形態であった。また、改修と増築でも2世帯を分離するために外地からカマドを移動させていたが、炊事空間を複数化する住居は、将来の同居の準備として複数化していた。

このように炊事空間の変容は、カマドのある厨房の改善だけではなく、カンでの生活を含めた居住環境の改善、入口空間としての利用形態の変更、新たな家族形態への対応といった要望に関連して空間構成を変容していった。

カンを持つ農村住居は、カン上の生活の変容を受容するため、あるいはカン上での生活を保持するために、炊事空間の利便性と衛生面の改善を図ると共に、改修と増築あるいは炊事空間の変容を行い、炊事形態を変化させていった。さらに、家族構成の変容に対しても従来の住まい方を継承するだけではなく、世帯毎で異なる住まい方を行えるようにカマドのある厨房を複数化することで対応していた。炊事空間は、カンの空間に繋がるだけではなく、カン上の生活を支えるように空間や利用形態を変化させて、個々の住居の状況にあった変化をしている。これらの変容は、無秩序に行われているのではなく、カンを中心とした住まい方を保持し、異なる住要求を持った家族との同居を可能とするため、炊事空間が柔軟にカンとの関係の取り方を変化させていた。中国東北部のカンを持つ農村住居では、カンと炊事空間の相補的な関係が動的な機能分化を引き起こし、カンのある空間を軸とした炊事空間の変容が行われ、持続的な仕組みを形成していることが明らかになった。住居の持続性は、単に空間や住まい方を変えずに継続されることではなく、社会の変化に影響を受けない自立した仕組みを持つことでもないとする。住居の持続性は、カンを持つ住居のようにカンという中心となる空間を時代に適応したかたちにしていくために、新たな住要求を柔軟に受け入れる空間と住まい方の動的な変容の仕組みを持つことであると考えられる。

本研究では、カンを持つ農村住居の分析を、改修と増築を行う住居、炊事空間に関わる変容のみを対象として行ってきた。日常的な生活行為を対象として炊事空間の多様な変容とその仕組みを捉えることはできたが、本研究では、カン自体の変容、祭祀等の非日常の炊事空間を対象として住環境全般に関しての詳細な分析には至っていない。特に、カン位置や入口空間の変容と住まい方、祭祀時における炊事空間とカンの空間利用は、カンを持つ農村住居の住環境形成に大きな影響を与えていると考えられる。また、3章で述べたが、カンを持つ農村住居は、民族毎に異なる形態、住まい方をしているため、漢民族以外の民族の住居を対象として比較研究を行うことも重要である。さらに、中国東北部の農村住居の空間変容は、カン上での生活、炊事などの住まい方の変容だけではなく、都市の発展と拡大による農村の産業形態、農村や住居の維持管理、近隣関係、家族形態の変化などにも深い関係があり、集住体として社会的な視点から捉える事も必要である。炊事空間とカンを持つ農村住居のカンでの住まい方と関連した詳細な空間分析、中国東北部の住居や農村を取り巻く社会的な変容をふまえた考察を今後の課題としたい。

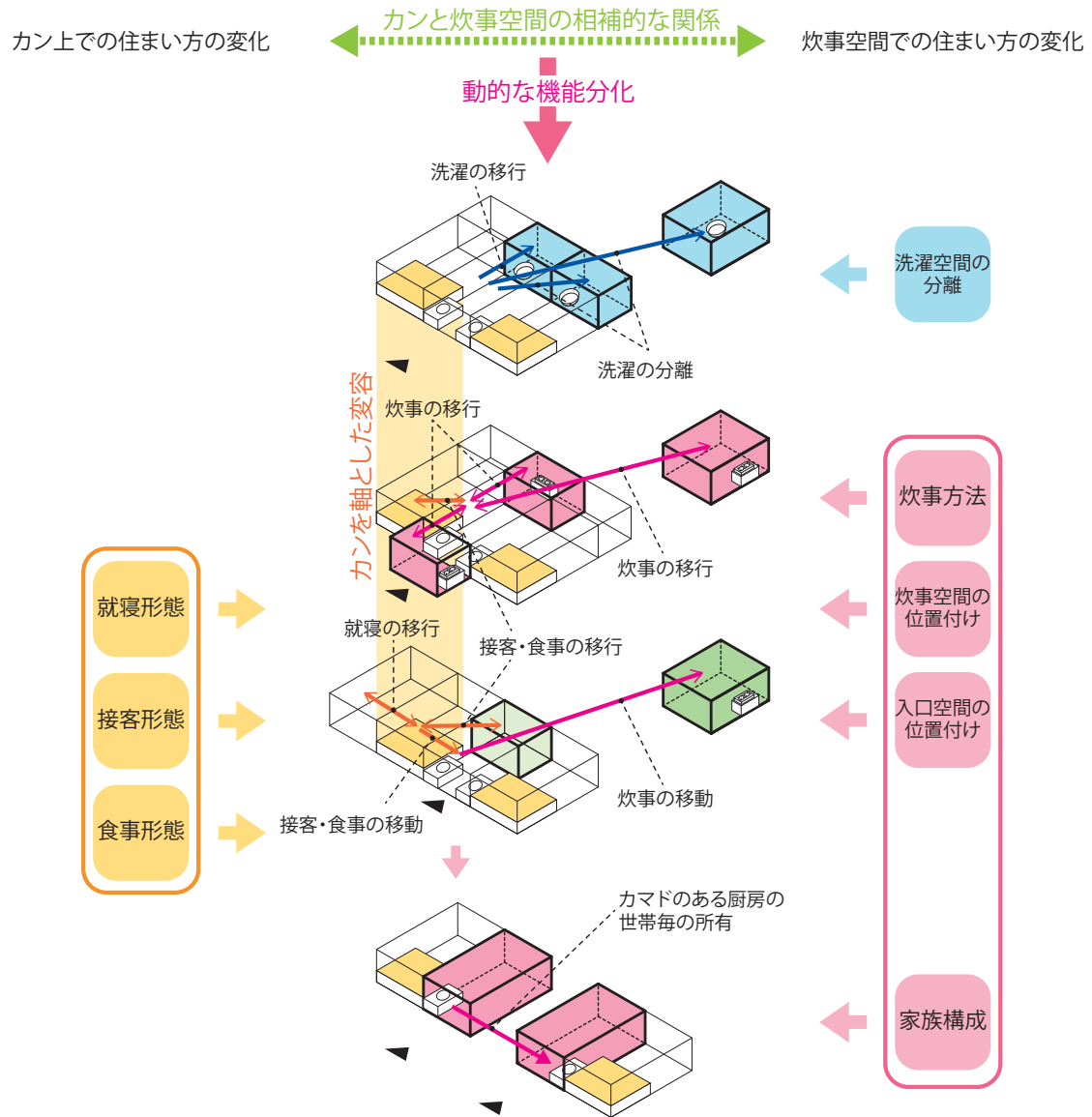


図 6-1 炊事空間の変容によるカンの持続性の仕組み

あとがき
Postscript

あとがき Postscript

中国のカンを持つ農村住居の研究を始めて、8年が経過した。この間、日本の中越地方の町家や農村住居を調査する機会に恵まれた。日本と中国という全く異なった国の農村住居であるが、その違いはとても興味深かった。外地と台所空間に付属する土間空間は、炊事とは別に、農作業、貯蔵、洗濯がおこなわれる空間であった。日本を中心とした台所研究を行っている山口昌伴の「台所空間学」¹⁾によると、食料加工調製から始まる調理、食料備蓄の確保、食の延ばしのための保存食加工の可能な空間を備え、また食料自給とリサイクルの仕組みが、農山漁村の屋外と半屋外を含む食べる営みの空間に存在していたとしている。しかし、近代的な炊事設備の導入により西洋式キッチンが農村住居で導入される際に、多くの台所が狭小化し、台所空間と土との縁が薄れ、様々な機能を住居外部へと押し出し、食べる営みが農村住居の台所空間から分離していったと述べている。私が、調査した日本の農村住居や町家の多くも、土間にあったカマドのある台所空間から板の間に移行して、残された土間は作業場というより物置となっていることが多かった。また、農村住居では、大きなイロリを設け、炊事が行われるが、これらのイロリも上部に蓋をして使われなくなっていた。山口の示すように、食べる営みの一部である炊事が、住居から分離していく様子があった。一方、中国東北部のカンを持つ農村住居のカマドのある厨房である外地は、炊事空間を狭小化するのではなく、カマドを利用し続け、炊事空間を拡大していた。さらに、外地の床が三和土からコンクリートやタイル張りになり上足への履き替えを行い、家の中と外を分離する変容がみられている。しかし、日本の台所空間の高床のように明確な土離れをしておらず、履き替えは状況によって変化している。本研究で明らかのように、カマドのある厨房は、炊事空間の改善のみならず、カンとの関係、家族形態によって、炊事空間の形態、炊事場所や炊事設備の使い分けが行われ、農村住居が持つそれぞれの状況により支え方を変化させていた。

本研究のはじめに示した空間と住まい手、環境と行動が相互に影響し合いながら成立する住居の仕組みがカンを持つ農村住居に形成していたと考えられる。カンとカマドのある厨房の様に相補的な関係を築き、住まい手の状況にあった柔軟な変化、または従来の住まい方と新しい住要求が共存できる仕組みを形成することで、住居の持続性は獲得できるのではないかと考える。

参考文献

- 1) 山口昌伴：台所空間学〈摘録版〉，建築資料研究社，2000.5

謝辞 Acknowledgement

はじめて中国に渡航してから10年、本研究に取り組み始めてから、8年が経過しました。その間、8回中国へ行き、調査を実施しました。本研究を通して、実際に生活している住居を調査できたこと、住民の生の声を聞けたことは、私にとって非常に貴重な経験でした。中国の行政関係者や多く農村住居の住民の協力があつたから実施できた研究であります。また、研究を進めるにあたり、中国の文化や住居に関する情報提供、調査住居の選定、日程の調整など多大なご協力を頂きました、中国・大連理工大学の陸偉教授、周博教授、哈爾濱工業大学の鄒広天教授、清華大学の周燕珉教授、北方工業大学の林文潔副教授、華僑大学の費迎慶副教授に心よりお礼申し上げます。また、本研究は、平成5年財団法人第一生命財団都市とくらしの分野研究助成、日本学術振興会科学研究費基盤研究B(12574009)、基盤研究B(23404021)の助成を受けて行われた研究の一部であり、ご支援に感謝致します。

指導教員である西村伸也教授には学部4年からこれまでの10年間、研究に限らず、設計活動、まちづくりなど様々な活動にご一緒させて頂き、これらが形になるプロセスに関わらせて頂いたことは、多くのことを学ぶことが出来た貴重な経験でした。物事の捉え方、分析方法、表現方法、様々な場面での立ち振る舞い方など多くのことをご指導頂きました。特に、「物事の複雑な状況を担保しつつ単純にわかりやすく表現する」「常に提案的に議論をする」ということを常に考え続けた10年間でした。そして、至らない自分に対して辛抱強く、繰り返し、ご支援、ご指導頂きましたことを心より感謝致します。博士課程において、全面的に研究室の運営をさせて頂けたことは、研究者、教育者としての自分を大きく成長させることが出来ました。特に、高橋鷹志先生、西出和彦先生、篠崎正彦先生、月舘敏栄先生、森下満先生などの様々な研究者とお会いし、議論する機会も与えて頂き、充実した研究活動が行えました。この他、デルフト工科大学への留学や職業能力開発総合大学校への就職に関しても多大なご助言を頂き、感謝しきれません。今後は、一研究者として、西村先生に刺激を与えられるよう精進致します。今後も、研究、仕事、プライベートでお付き合い頂ければ幸いです。

高橋鷹志先生、岡崎篤行先生、黒野弘靖先生、岩佐明彦先生、岡徹雄先生には、お忙しい中、私の博士論文の審査をして頂き、心よりお礼申し上げます。

高橋鷹志先生には、私の建築理論の構築のために、学部時代から様々な著書を拝読させて頂き、いつも知的刺激を頂いておりました。博士論文の研究背景や結論に関してより深く考えさせられるご助言頂き、論文の位置づけがより明確になりました。岡崎篤行先生には、学部3年の時より都市的、地域的に俯瞰する視点をお教え頂くと共に、博士論文の中間発表の際に、韓国にあるオンドルとの違いを指摘して頂いたことは、本研究で扱うカンの特徴を明確化する切っ掛けになりました。黒野弘靖先生には、農村や町家研究など住居に関する研究の調査方法から分析方法を学ばさせて頂きました。

岩佐明彦先生には、隣の研究室であったにもかかわらず研究室の活動に誘って頂き、調査の立ち上げから論文になるまでのダイナミックなプロセスは、いつも学ぶことばかりでした。黒野弘靖先生、岩佐明彦先生には、研究以外にも様々なことに対して、貴重なご意見、ご助言を頂き、大変お世話になりました。岡徹雄先生には、中国東北部の調査に同行して頂き、他分野からのシンプルで鋭い視点は、いつも私の研究を再考する切っ掛けとなっていました。

西出和彦先生、篠崎正彦先生には、中国の農村住居の調査時に議論を交わし、それぞれ異なる研究分野からのご意見は大変参考になりました。月舘敏栄先生、森下満先生には、スペインの集落調査で一緒にさせて頂き、建築計画、さらに歴史学的な視点より、集落の見方を示して頂き、非常に参考になりました。また、月舘先生には、その後、能登の集落調査にお誘い頂き、日本の伝統的住居やまちづくりに関して議論させて頂きました。

小林勉先生には、小林先生の博士論文作成時から8年間、研究、設計活動、就職など公私にわたり、様々なことでご支援頂きました。また、近年では、研究協力者として、また小林先生が主催のまちづくり活動の委員の一員として関わらせて頂き、私に不足している実務者としての経験をさせて頂き感謝しております。改めて、多くの先生方にご指導、ご支援頂きましたことを心より感謝申し上げます。

橋本都子先生には、審査会にて貴重なご質問をして頂きました。お忙しい中、ご参加頂き、ありがとうございます。

本調査を実施するにあたり、数え切れない日本と中国の学生の皆様のご協力頂きましたことを心よりお礼申し上げます。李楽茄、周端佳はじめとする中国大連理工大学、于戈(現副教授)を中心とした中国哈爾濱工業大学の多くの学生の協力がなければ、調査を実施する事が出来ませんでした。ご協力に感謝致します。中国からの留学生である喻曉、白帆、王富青、邱婷、呉道彪、弋念祖、呉楠、劉銘、徐敏には、中国語や中国の文化や建築の話などを教えて頂き、特に、呉楠、邱婷、徐敏には調査時の通訳、中国語文献の翻訳など多くの協力を頂き、本当にありがとうございます。また、友人のPaul-Johnsonには、いつも急なお願いにもかかわらず、海外発表、英文の校正などを手伝っていただき、本当に感謝しております。

荒木智氏には、中国で研究する切っ掛けを与えて頂き、川岸昇氏には、空間を分析する方法論を教えて頂きました。また、門岩由布子氏、工藤裕氏、堀江龍弘氏、後藤洋平氏、北山達也氏、寺田慎二氏とは、中国住居を調査し、多くの議論を交わし、とても貴重な時間を共に過ごさせて頂きました。特に、北山達也氏、寺田慎二氏には、論文の内容に関する議論、データベース化の作業等に嫌な顔をしながら文句を言わず多くの時間を費やしてくれました。両氏がいなければ、私の研究は完成していな

謝辞
Acknowledgement

かったのではない考えるほどです。感謝すると共に今後の活躍を期待しています。また、小谷亮太氏、山田文宏氏、齋藤力氏、榎潟晃宏氏、半澤祐介氏、野澤明美氏、渡邊郁氏、間遼一氏、横山大樹氏、荒木裕太氏、薄久保大造氏、桑原ゆかり氏、岡本拓朗氏、岩根祐介氏、米山直希氏には、現地調査、図面の作成など、お手伝い頂きました。心より感謝致します。

最後に、長かった私の学生生活、研究活動、また留学を支えてくれた両親、家族に深く感謝致します。

改めまして、本研究に関わってくれました多くの方々に心より感謝申し上げます。

付章
Appendix

2005年～2013年調査住居
データシート
図面

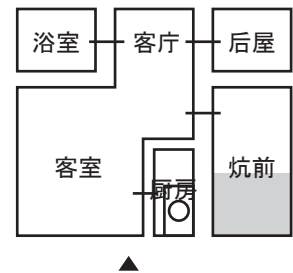
住居番号:P0501

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子

☐ 空間構成に関して

建設年: 1999年

住居形式: 戸建・2階建

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 87.1㎡

間口寸法 : 10020mm

奥行寸法 : 8695mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方庁

カマドのある厨房位置: 入口横

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.72㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

(東屋)

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 客厅、炕前(東屋)

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:客厅、炕前(東屋))

食事空間: 客厅、炕前(東屋)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅(餐厅)/冬(客厅、炕前(東屋))

団欒空間: 客厅、炕前(東屋)

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:炕前(東屋))

就寝空間: 后屋、炕前(東屋)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:后屋/冬:炕前(東屋))

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

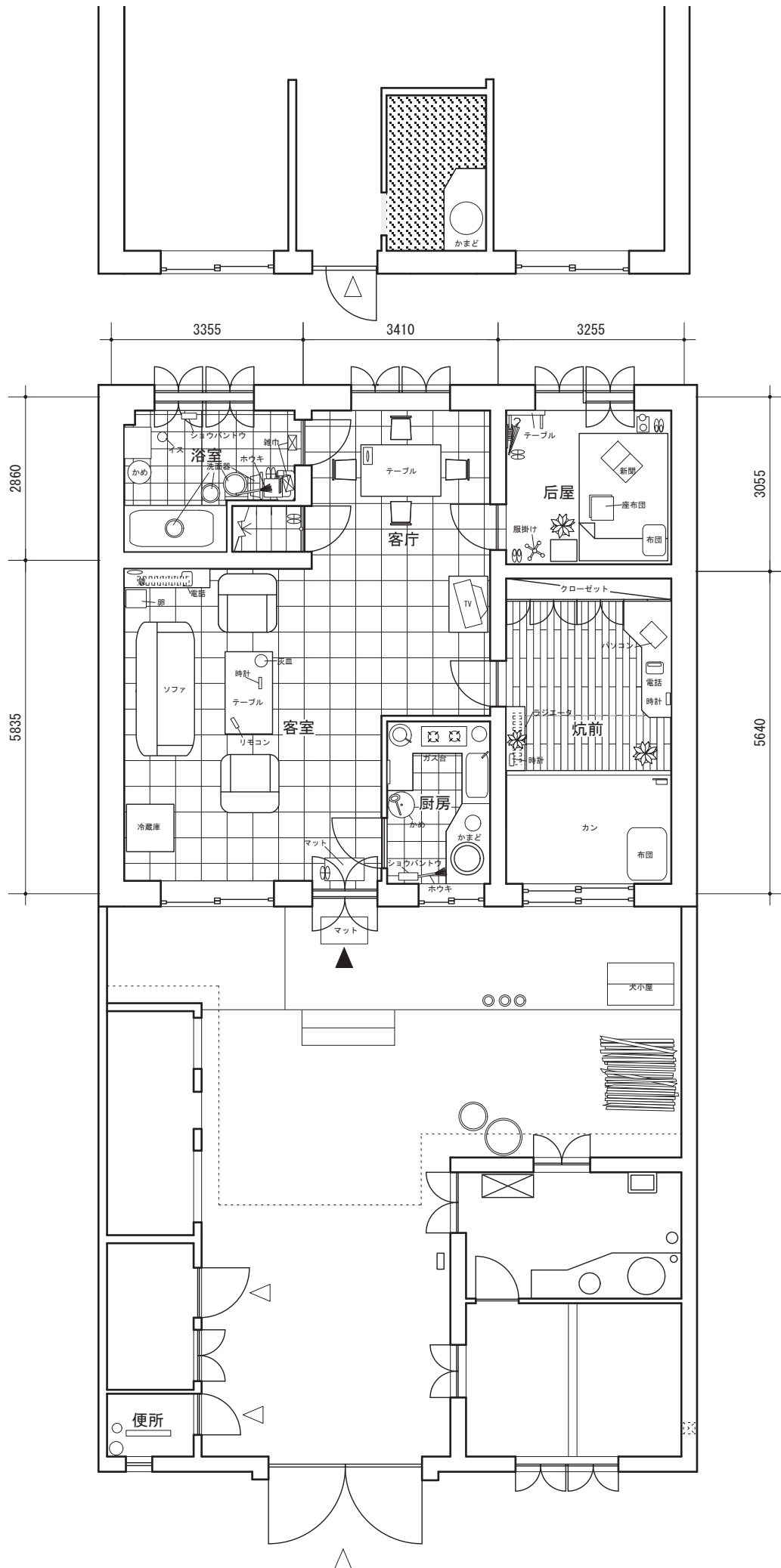
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 浴室(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



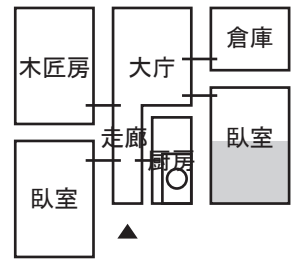
住居番号:P0502

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子

☐ 空間構成に関して

建設年: 1980年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 79.8㎡

間口寸法 : 10385mm

奥行寸法 : 6850mm

張り出し寸法 : 2835mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.87㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 厨房(カマドのある厨房)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 大庁、臥室

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:大庁/冬:臥室)

団欒空間: -

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

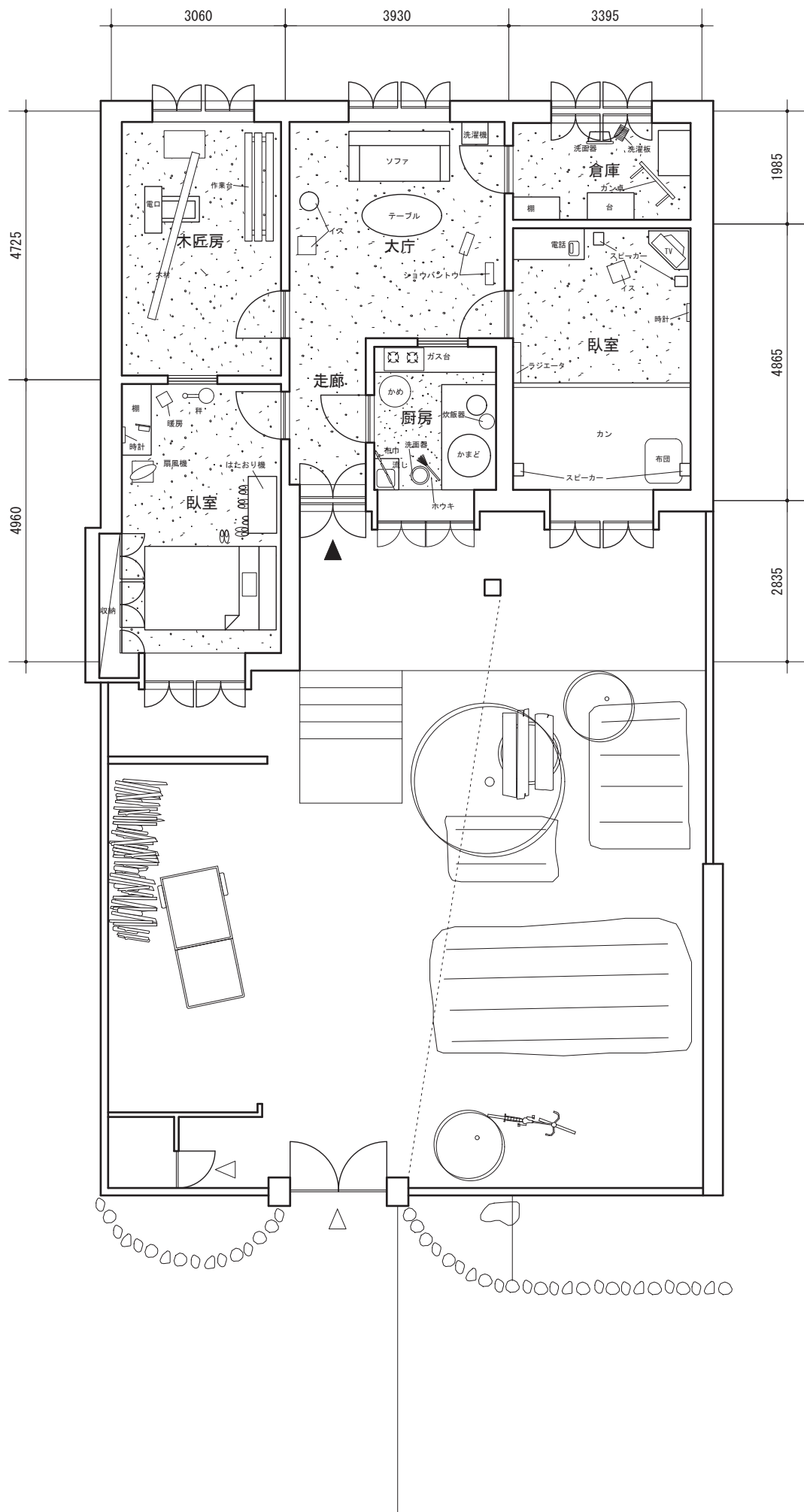
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他



住居番号: P0502

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

4 章:

5 章:○

S = 1 : 100



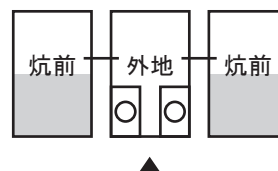
住居番号:P0503

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+子(娘別居、祖母輪居)

☐ 空間構成に関して

建設年: 1975年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 55.5㎡

間口寸法 : 10060mm

奥行寸法 : 5520mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.74㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 外地(カマドのある厨房)、北庭、炕前(西)

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地、北庭/冬:炕前(西))

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、炕前(西)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:炕前(西))

団欒空間: 炕前(西)、炕前(東)

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:炕前(西)/冬:炕前(東))

就寝空間: 炕前(西)、炕前(東)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:夫婦が炕前(西)、息子が炕前(東)/冬:炕前(西))

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

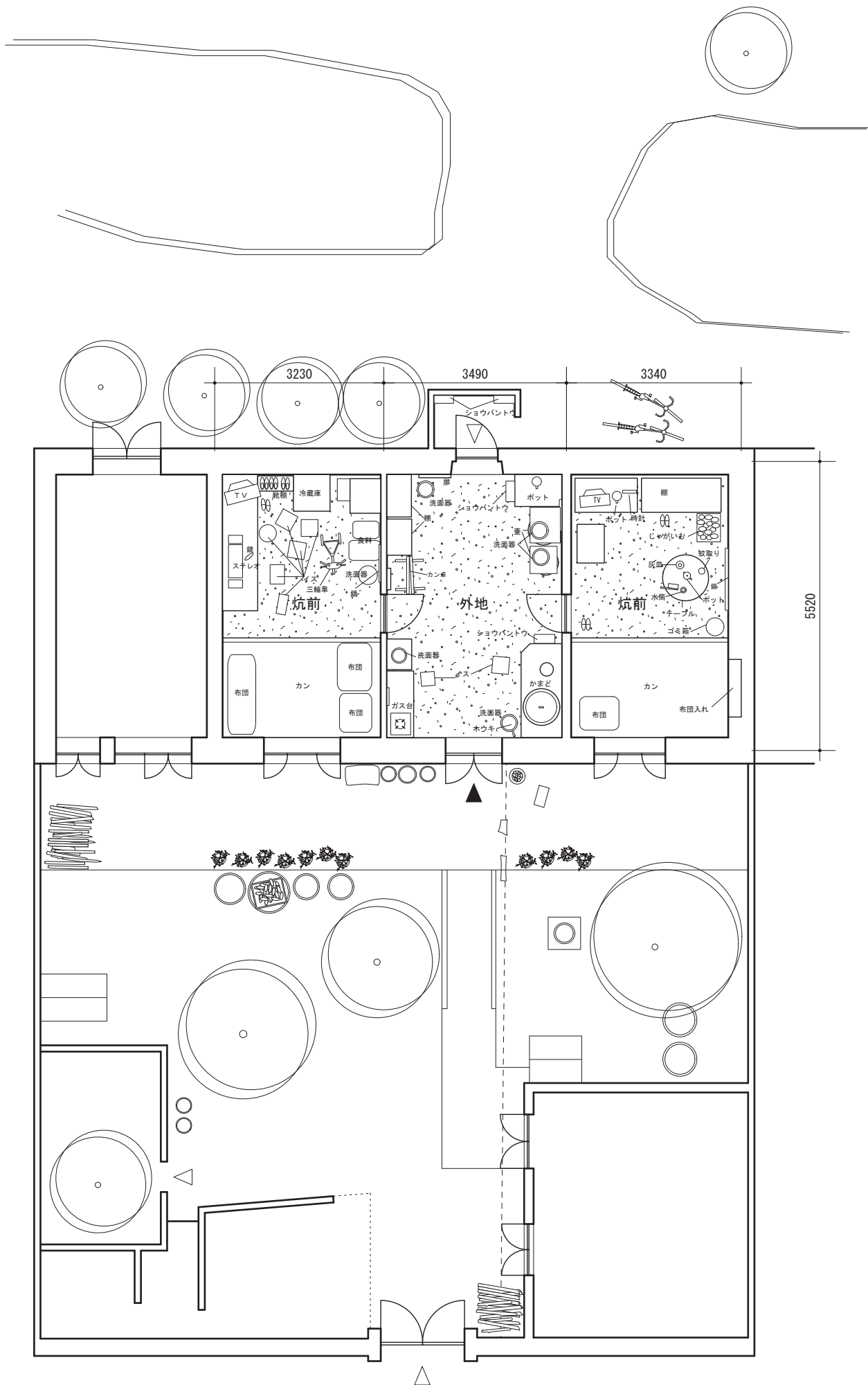
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他



住居番号： P0503

調査地： 遼寧省大連市普蘭店市

4 章：

5 章：○

S = 1 : 100



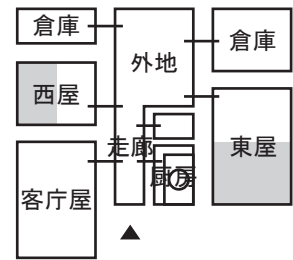
住居番号:P0504

調査年:2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 5人

家族構成: 主人+娘+息子夫婦+孫



□ 空間構成に関して

建設年: 1985年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 85.0㎡

間口寸法 : 9980mm

奥行寸法 : 7610mm

張り出し寸法 : 2465mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: 5.15㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西屋:その他

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 外地、東屋

接客空間の使い分け : あり

食事空間: 外地、東屋

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 客厅屋、西屋、東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

客厅屋は主人、西屋は娘、東屋は子世帯が就寝



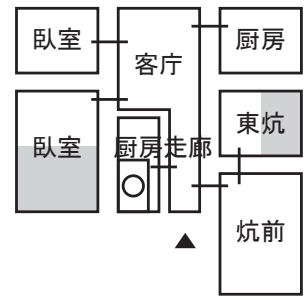
住居番号:P0505

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子



□ 空間構成に関して

建設年: 1994年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 86.0㎡

間口寸法 : 9980mm

奥行寸法 : 7840mm

張り出し寸法 : 2350mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: 4.55㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 客厅、炕前、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅、炕前/冬:臥室)

食事空間: 客厅

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室、臥室(北側)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:臥室、息子だけ臥室(北側)/冬:臥室)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

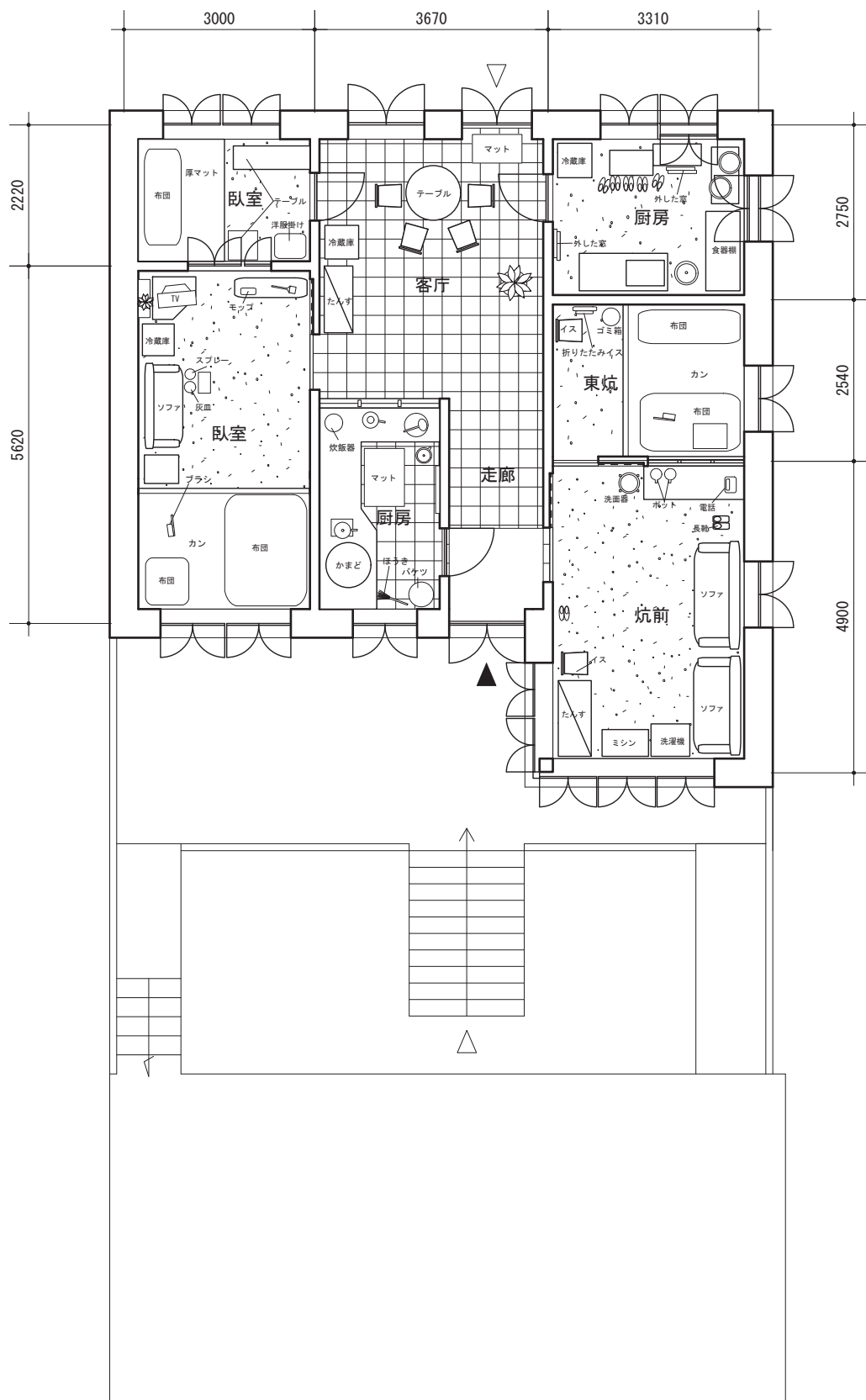
炊事空間の使い分け : 季節、調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



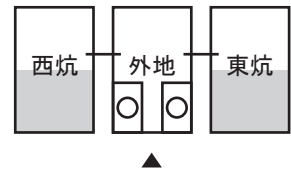
住居番号:P0506

調査年:2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦



□ 空間構成に関して

建設年: 1905年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 47.7㎡

間口寸法 : 9450mm

奥行寸法 : 5050mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.40㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 西炕

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、西炕

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地(カマドのある厨房)/冬:西炕)

団欒空間: -

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西炕

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

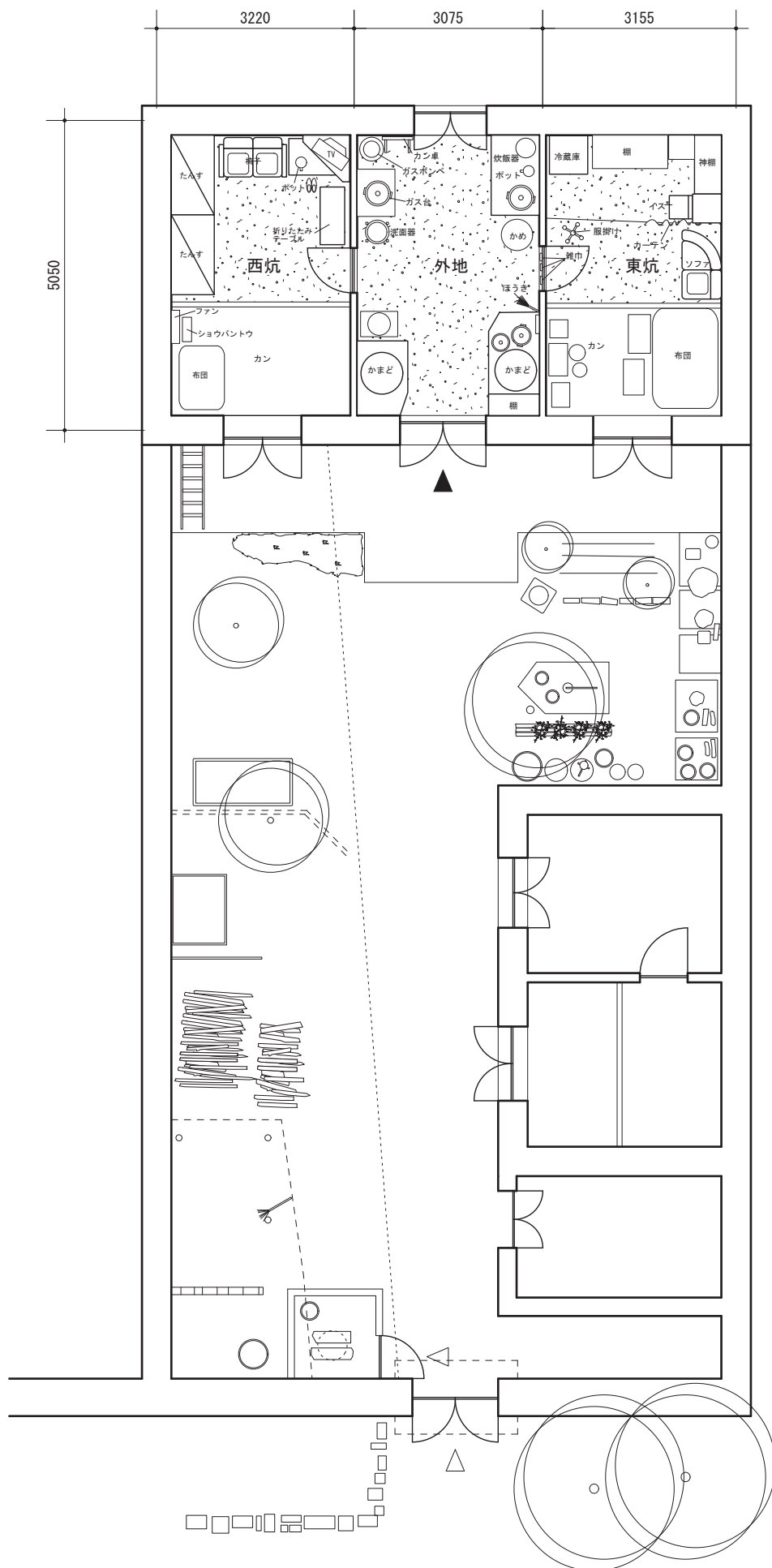
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



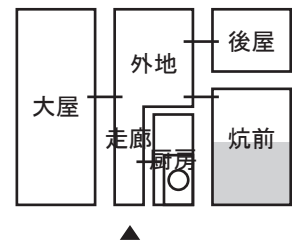
住居番号:P0507

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子



□ 空間構成に関して

建設年: 1987年 住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 西4列南西張り出し 段数 : 2段

住居部分面積: 63.4㎡

間口寸法 : 9880mm

奥行寸法 : 6415mm

張り出し寸法 : 2097mm (張り出し部分は倉庫)

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.96㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 外地、後庭、炕前

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地、後庭/冬:炕前)

食事空間: 後庭、炕前

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:後庭/冬:炕前)

団欒空間: 炕前

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 大屋(親)、後屋(子)、炕前

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:大屋(親)、後屋(子)/冬:炕前)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



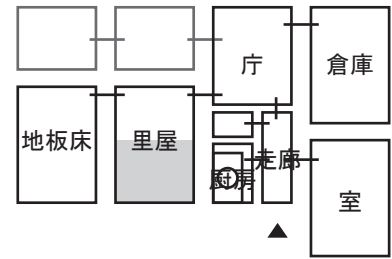
住居番号:P0508

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子



□ 空間構成に関して

建設年: 1996年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 西 4 列南東張り出し 段数 : 2段

住居部分面積: 110.1㎡

間口寸法 : 13080mm

奥行寸法 : 7670mm

張り出し寸法 : 2990mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 6.50㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 庁、里屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:庁/冬:里屋)

食事空間: 里屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 里屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 里屋、室

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:室、里屋/冬:里屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

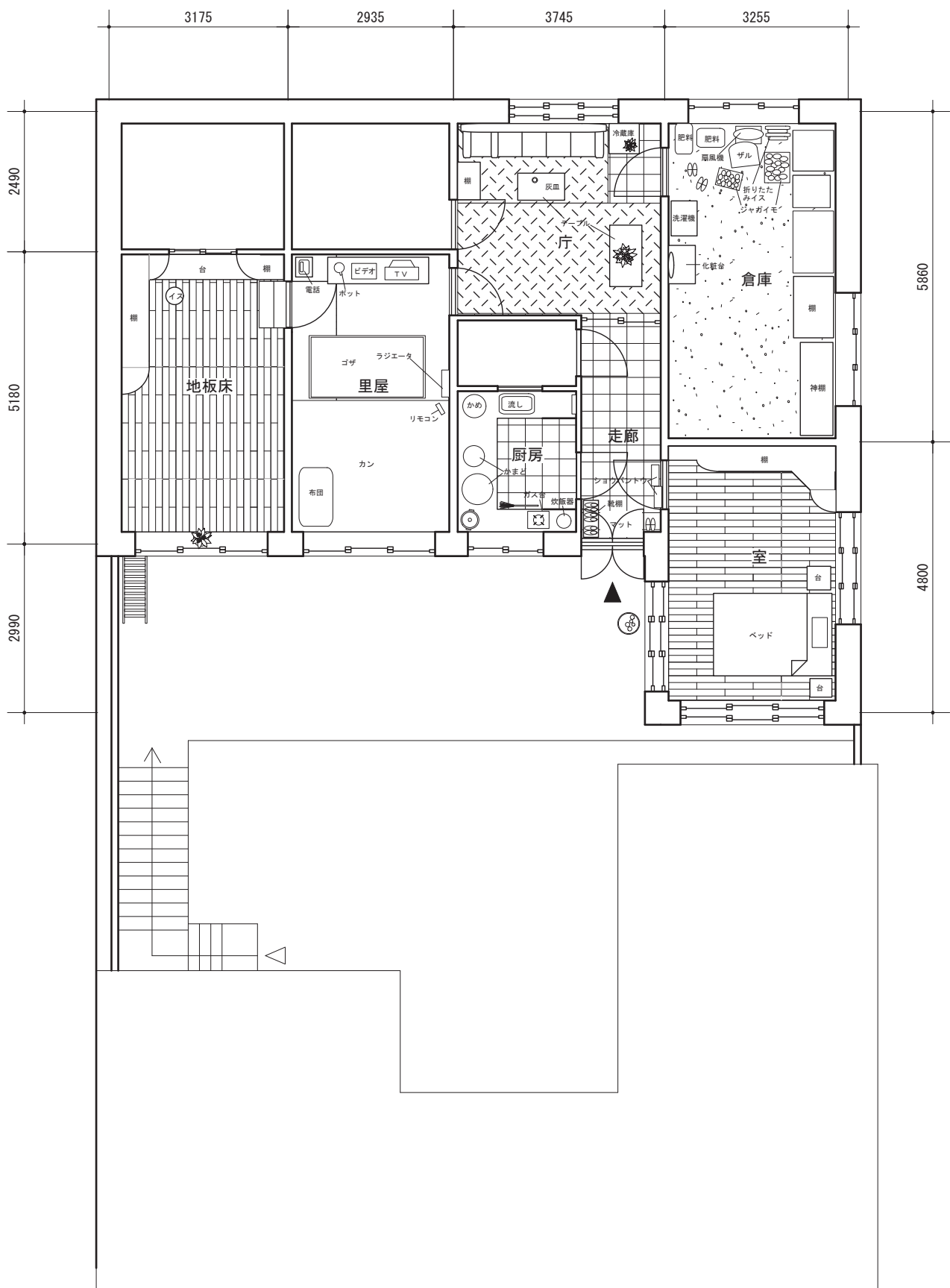
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



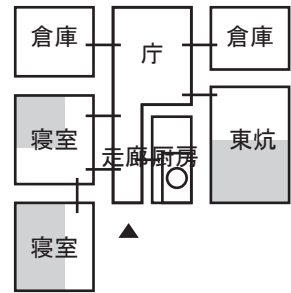
住居番号:P0509

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子(2人)



□ 空間構成に関して

建設年: 1994年

住居形式: 戸建・2階建

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 133.2㎡

間口寸法 : 12090mm

奥行寸法 : 7630mm

張り出し寸法 : 3020mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 6.66㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 3基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 庁、東炕

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏: 庁/冬: 東炕)

食事空間: 1階、東炕

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏: 1階/冬: 東炕)

団欒空間: 店(親)、西南寝室(子)、東炕

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏: 店(親)、西側寝室(子)/冬: 東炕)

就寝空間: 西中央寝室(親)、西南寝室(子)、東炕

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏: 西中央寝室(親)、西南寝室(子)/冬: 東炕)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)、一階(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離

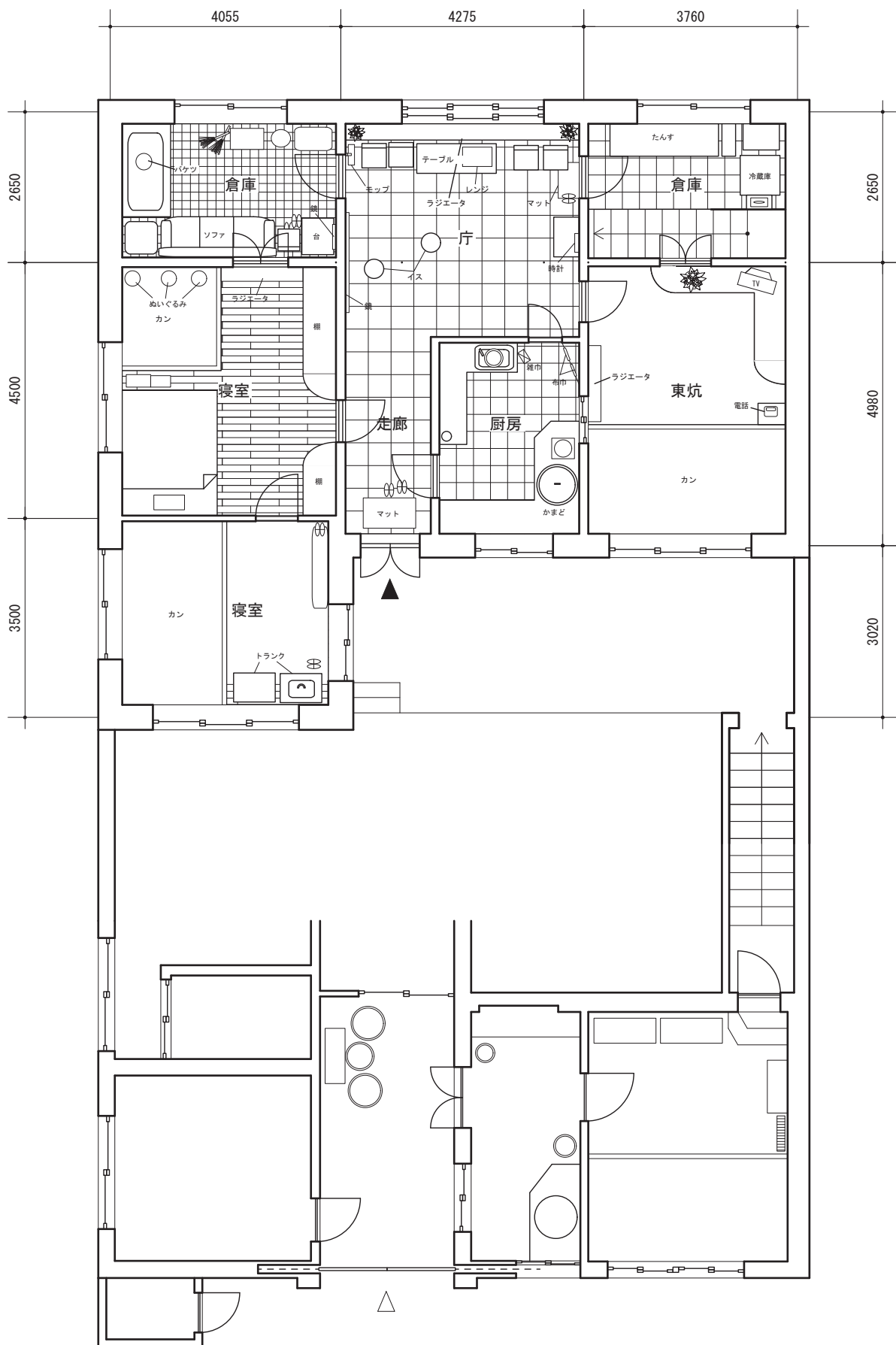
炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 一階(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他



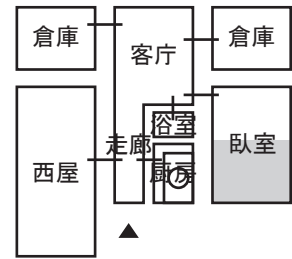
住居番号:P0510

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子(2人)

☐ 空間構成に関して

建設年: 1989年

住居形式: 戸建・平屋(高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 81.5㎡

間口寸法 : 9760mm

奥行寸法 : 7715mm

張り出し寸法 : 2025mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.21㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 臥室

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 庁、臥室

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:庁/冬:東屋)

団欒空間: 臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋(子)/冬:東屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

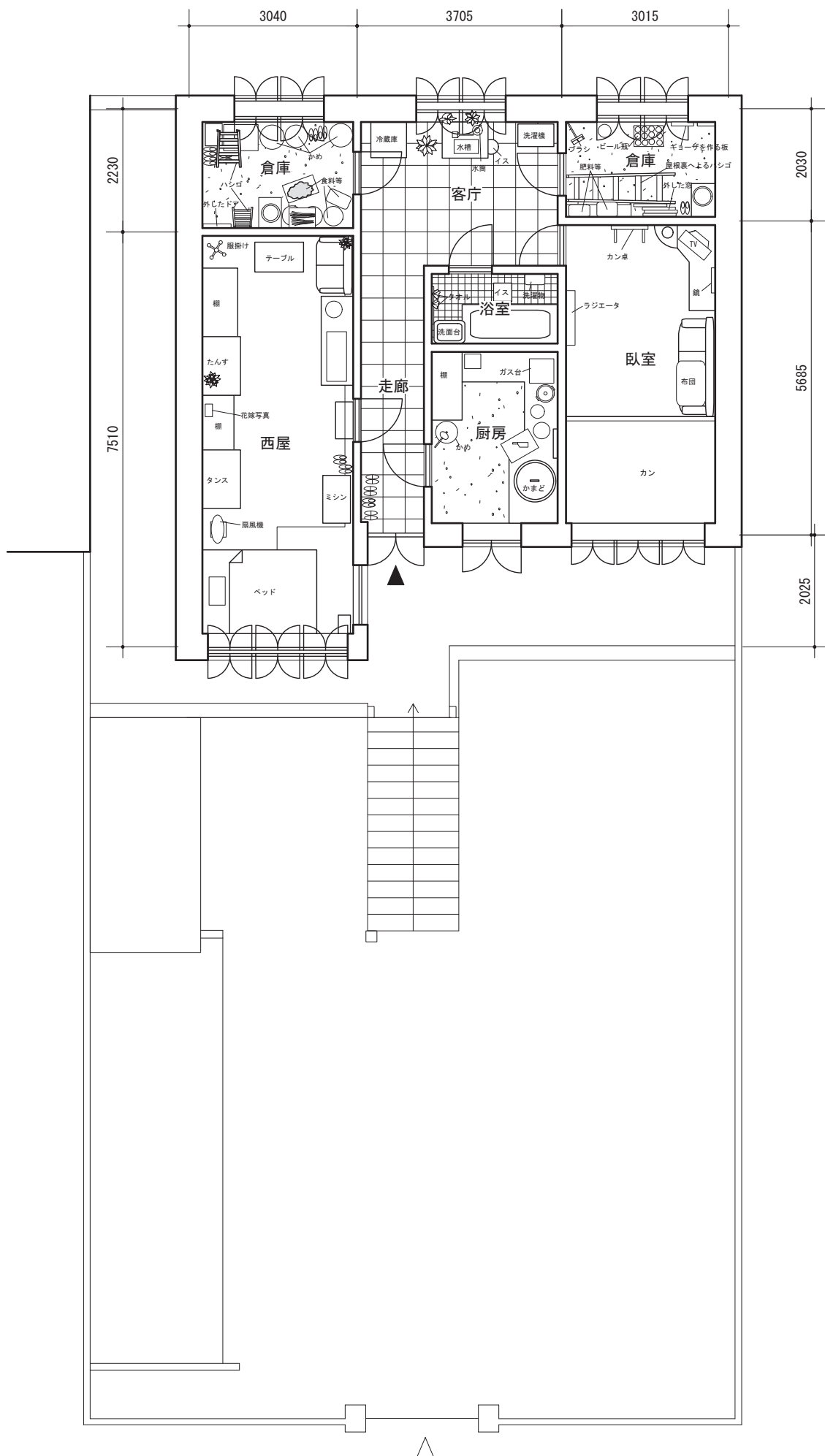
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、客厅(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



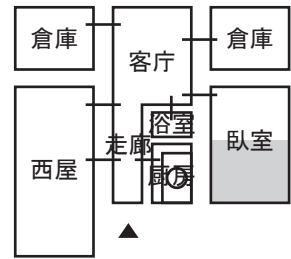
住居番号:P0511

調査年: 2005年

調査地 : 遼寧省大連市普蘭店市

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子

☐ 空間構成に関して

建設年: 1989年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 81.6㎡

間口寸法 : 9770mm

奥行寸法 : 7740mm

張り出し寸法 : 1980mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.27㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 西屋、客厅、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋、客厅/冬:臥室)

食事空間: 客厅、臥室

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:臥室)

団欒空間: 臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:臥室、西屋/冬:臥室)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

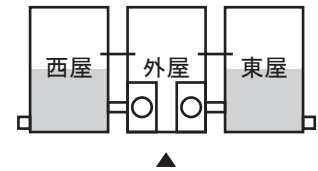
☐ その他

住居番号:Lu0512 調査年:2005年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 1人

家族構成: 主人(息子3人、娘3人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1961年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 45.0㎡

間口寸法 : 8785mm

奥行寸法 : 5120mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.85㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 西屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 外屋(カマドのある厨房)、西屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外屋(カマドのある厨房)/冬:西屋)

団欒空間: 西屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外屋(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

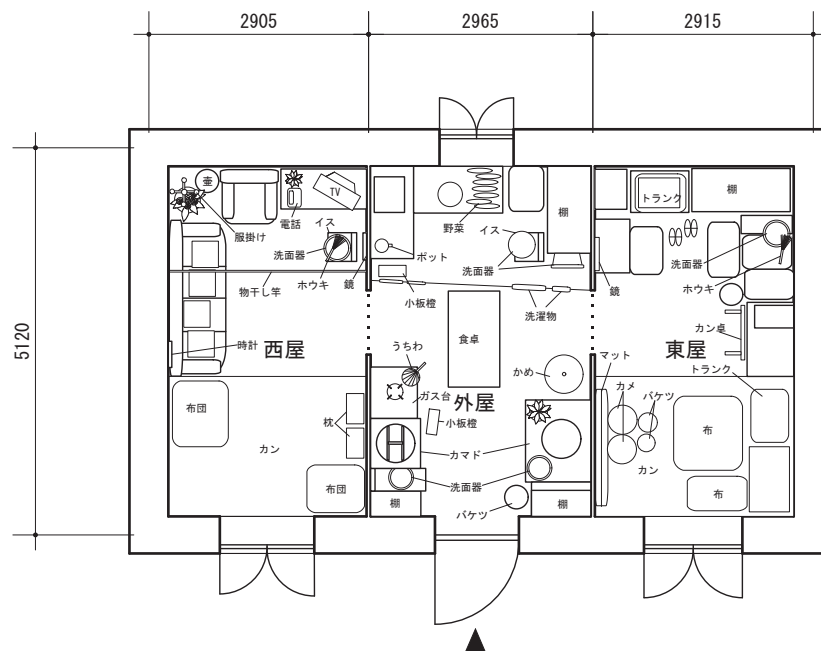
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 外屋(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

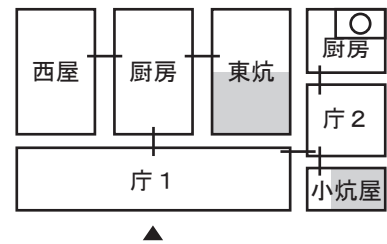


住居番号:Lu0513 調査年:2005年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子



☐ 空間構成に関して

建設年: 1978年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 2段

住居部分面積: 124.8㎡

間口寸法 : 13120mm

奥行寸法 : 9510mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方庁

カマドのある厨房位置: 住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: ㎡

ラジエータの数: 基

カン室のラジエータ: 基

ペチカの数 : 基

カン室のペチカ : 基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居前方(店舗)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 庁1

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 庁2

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 庁1

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 庁1、小炕屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:庁/冬:小炕屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

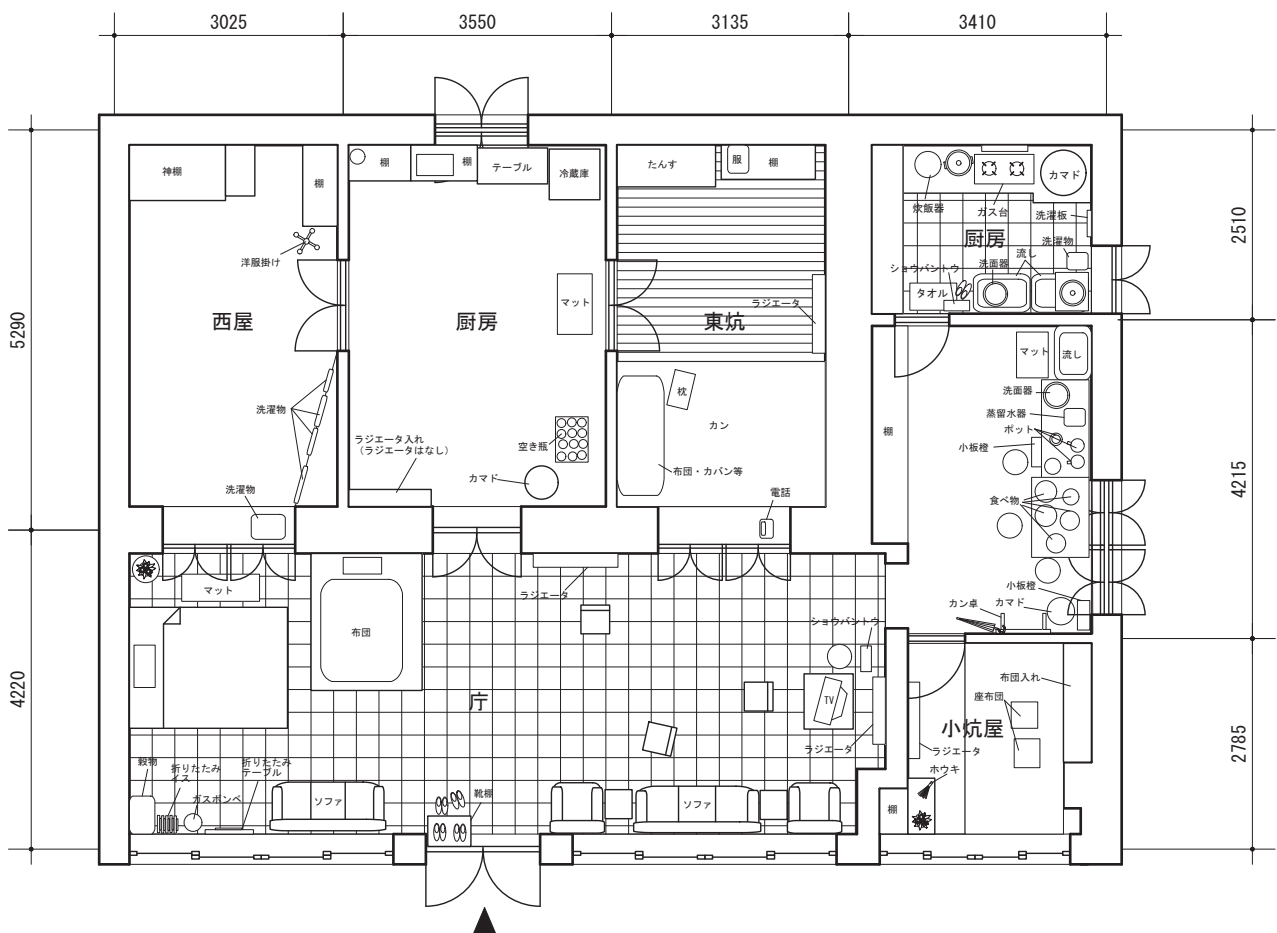
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 庁2(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 拡張

☐ その他



住居番号: Lu0513

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:

S = 1 : 100

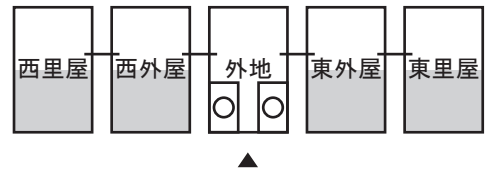


住居番号: Lu0601 調査年: 2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 1人

家族構成: 主人



☐ 空間構成に関して

建設年: 1926年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 1段

住居部分面積: 70.7㎡

間口寸法 : 14755mm

奥行寸法 : 4790mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 4基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.11㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:屋根の葺き替え

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東外屋(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、東外屋(東屋)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地(カマドのある厨房)/冬:東外屋(東屋))

団欒空間: 東外屋(東屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東外屋(東屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

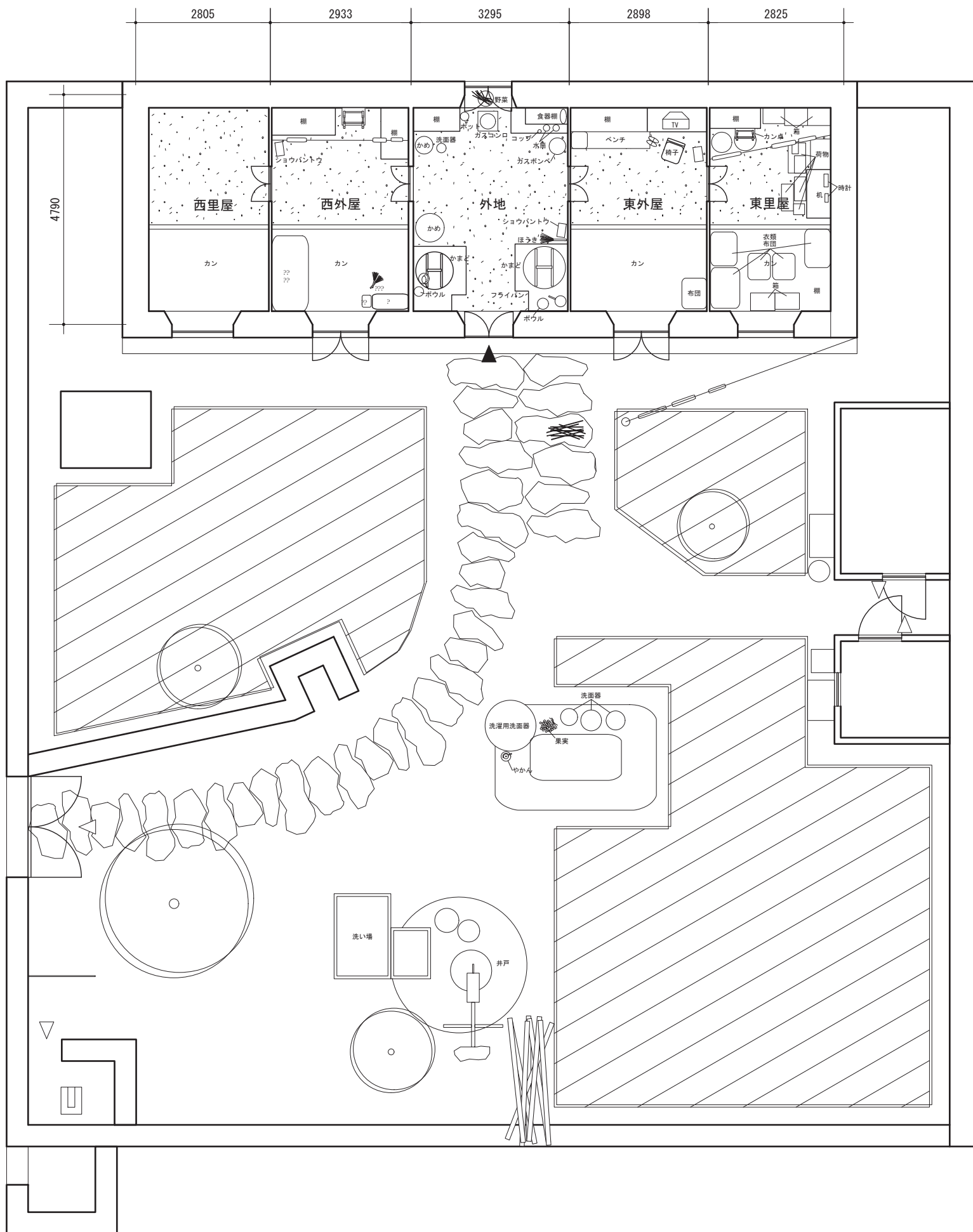
炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他



住居番号: Lu0601

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

S = 1 : 100

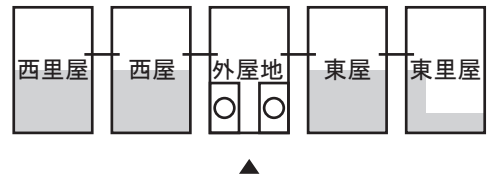


住居番号:Lu0602 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 7人

家族構成: 夫婦+子+息子夫婦+孫(2人)



□ 空間構成に関して

建設年: 1936年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 1段

住居部分面積: 77.3㎡

間口寸法 : 14780mm

奥行寸法 : 5230mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.85㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外屋地:カマド変更
その他:その他

東里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、東里屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外屋地(カマドのある
厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : 季節

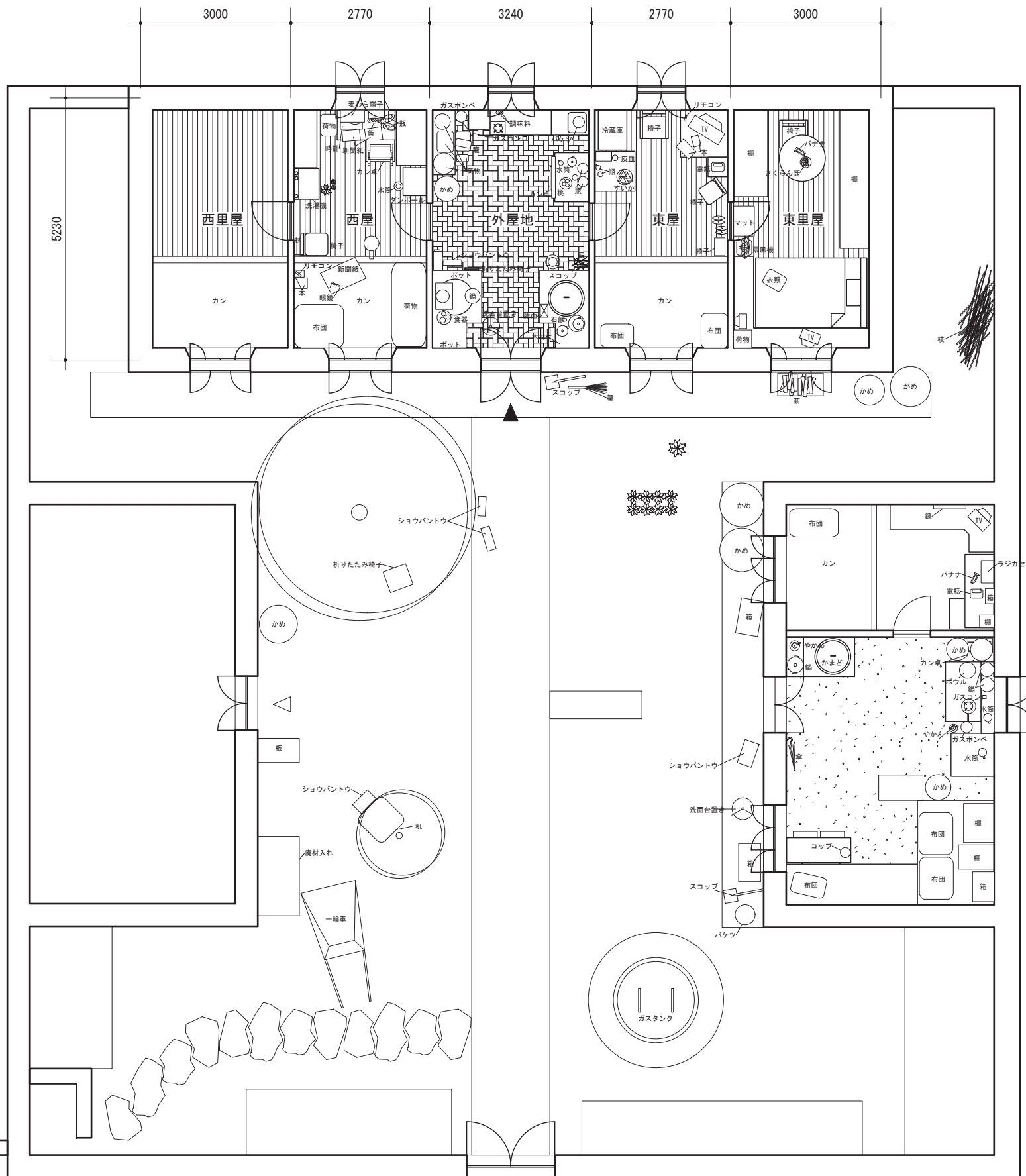
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

東里屋は子どもの臥室として利用している。



住居番号：Lu0602

調査地：遼寧省大連市旅順口区

4章：○

5章：○

S = 1 : 100

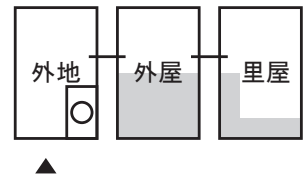


住居番号:Lu0603 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子(息子敷地内同居、娘2人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1940年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 38.0㎡

間口寸法 : 9100mm

奥行寸法 : 4180mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.64㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 里屋(東里屋):カン取り壊し

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 外屋(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 外屋(東屋)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 外屋(東屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 外屋(東屋)、里屋(東里屋)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:里屋(東里屋)/冬:外屋(東屋))

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: -

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

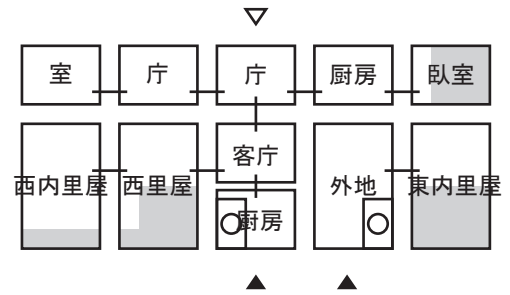
外屋は親世帯の臥室、里屋は子どもの臥室である。夏には、この就寝場所が逆転する。

住居番号:Lu0604 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+息子夫婦+孫



☐ 空間構成に関して

建設年: 1936年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 125.3㎡

間口寸法 : 15020mm

奥行寸法 : 8340mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前+住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居手前+住居奥

主要カン面積: 5.20㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地一東屋:間仕切り変更

外地:間仕切り設置

外地:カマド取り壊し

東屋:カン取り壊し(カマド設置)

西屋一西里屋:間仕切り設置

西屋:暖房の新設・変更

西里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居後方(一)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 客厅、東内里屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(夫婦の客や目上の客:東内里屋/息子の客:客厅)

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、東内里屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 東内里屋、厨房(カマドのある厨房)、西里屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西内里屋、西里屋、東内里屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:息子世帯が西里屋/冬:息子世帯が西里屋)

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)、厨房(カマドのある厨房)、厨房(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 季節、世帯

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 庁(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 拡張

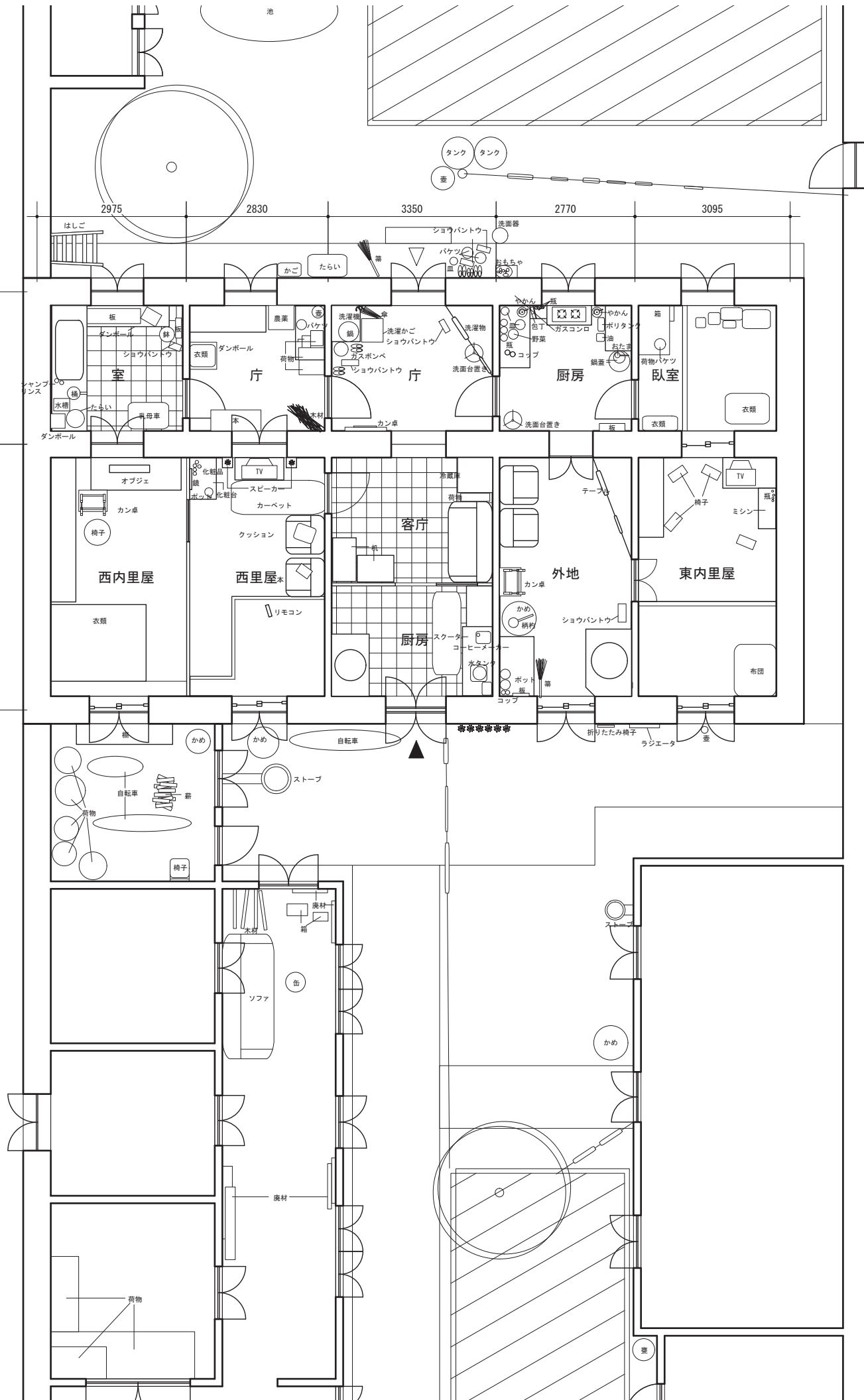
☐ その他

子世帯は主に厨房(炊事場所)を利用している。

親世帯は、外地(カマドのある厨房)と厨房(炊事場所)を季節によって使い分けている。

厨房(炊事場所)横の庁は、洗濯場所として両方の世帯で利用されている。

食事は、普段各世帯の世帯の厨房、全員では東内里屋を利用する。



住居番号: Lu0604

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

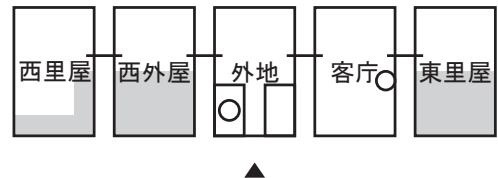
S=1:100

住居番号:Lu0605 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 4人

家族構成: 主人+息子夫婦+孫



□ 空間構成に関して

建設年: 1936年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 74.5㎡

間口寸法 : 15060mm

奥行寸法 : 4950mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.64㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地(カマドのある厨房):カマド取り壊し 客厅(東屋):カン取り壊し(客厅設置)
西里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 客厅(東屋)、屋外

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 客厅(東屋)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 客厅(東屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 客厅(東屋)、東里屋、西里屋、西外屋(西屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)、別棟(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離

炊事空間の使い分け : 季節

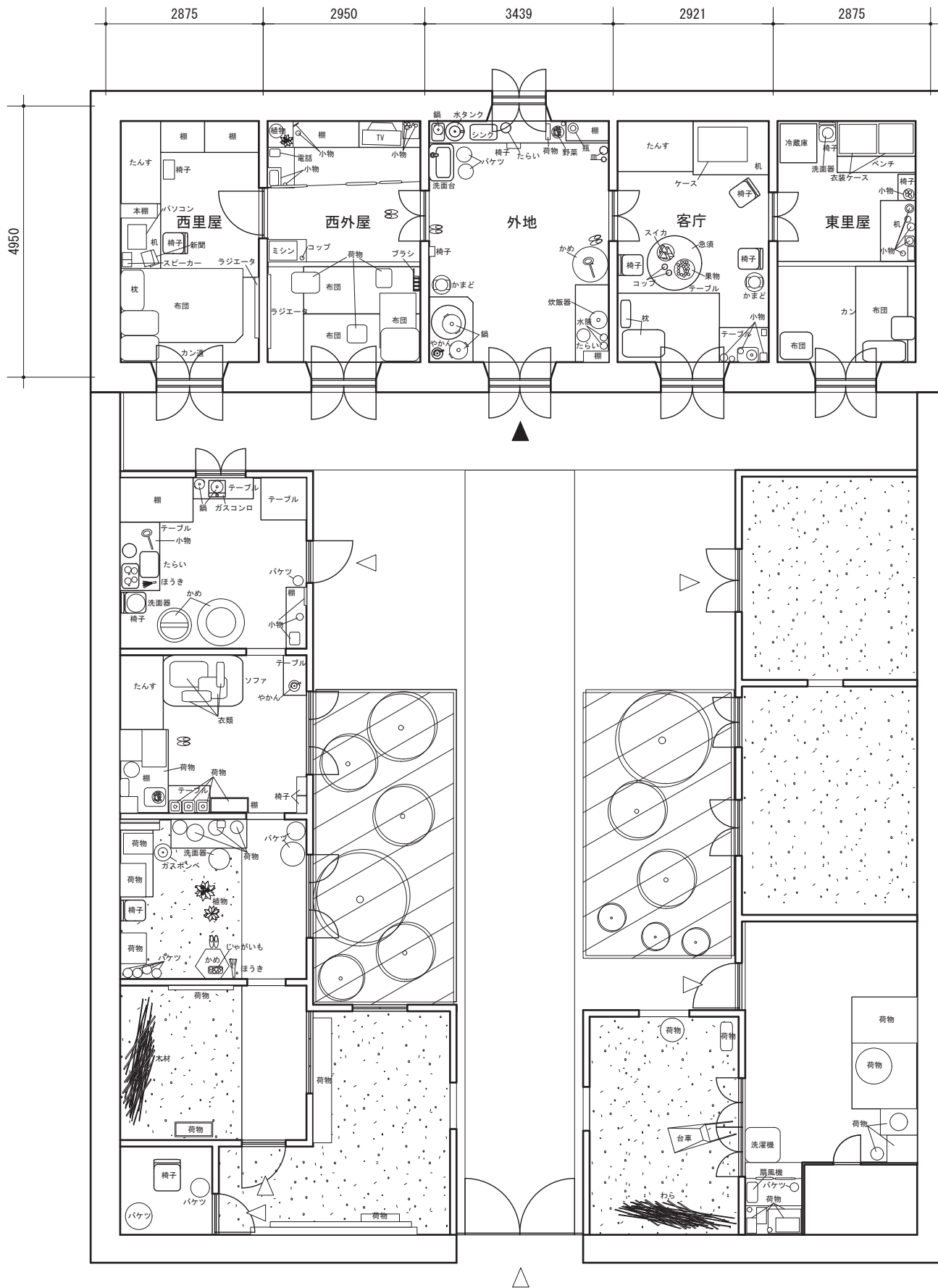
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: -

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

祖父は東里屋、子世帯は西里屋、孫は西外屋で就寝している。
祖父が客厅で昼寝をする。

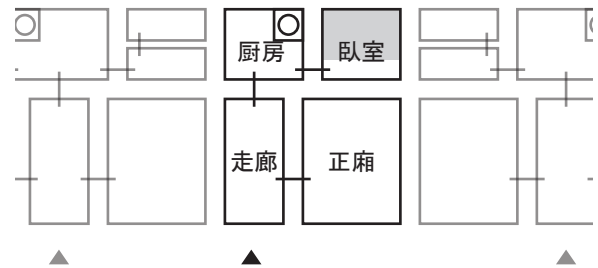


住居番号:Lu0606 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 8人

家族構成: 夫婦(息子夫婦敷地内同居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1986年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 2列

段数 : 2段

住居部分面積: 159.1㎡

間口寸法 : 21820mm

奥行寸法 : 7290mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積: 3.97㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 臥室

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 走廊

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 臥室、正廂

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 家族(人数が多いときは臥室も使う)

就寝空間: 正廂、臥室

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:正廂/冬:臥室)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

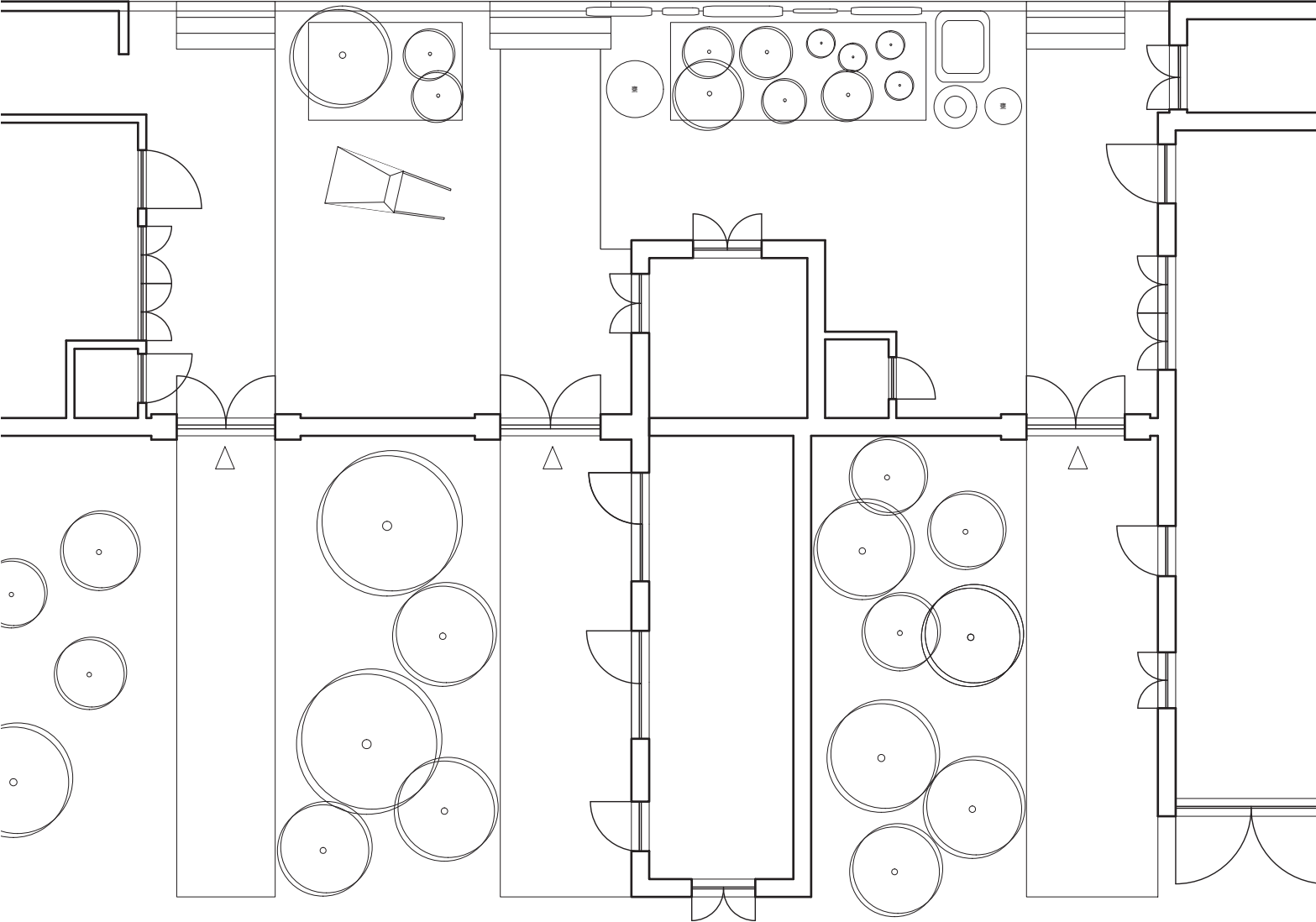
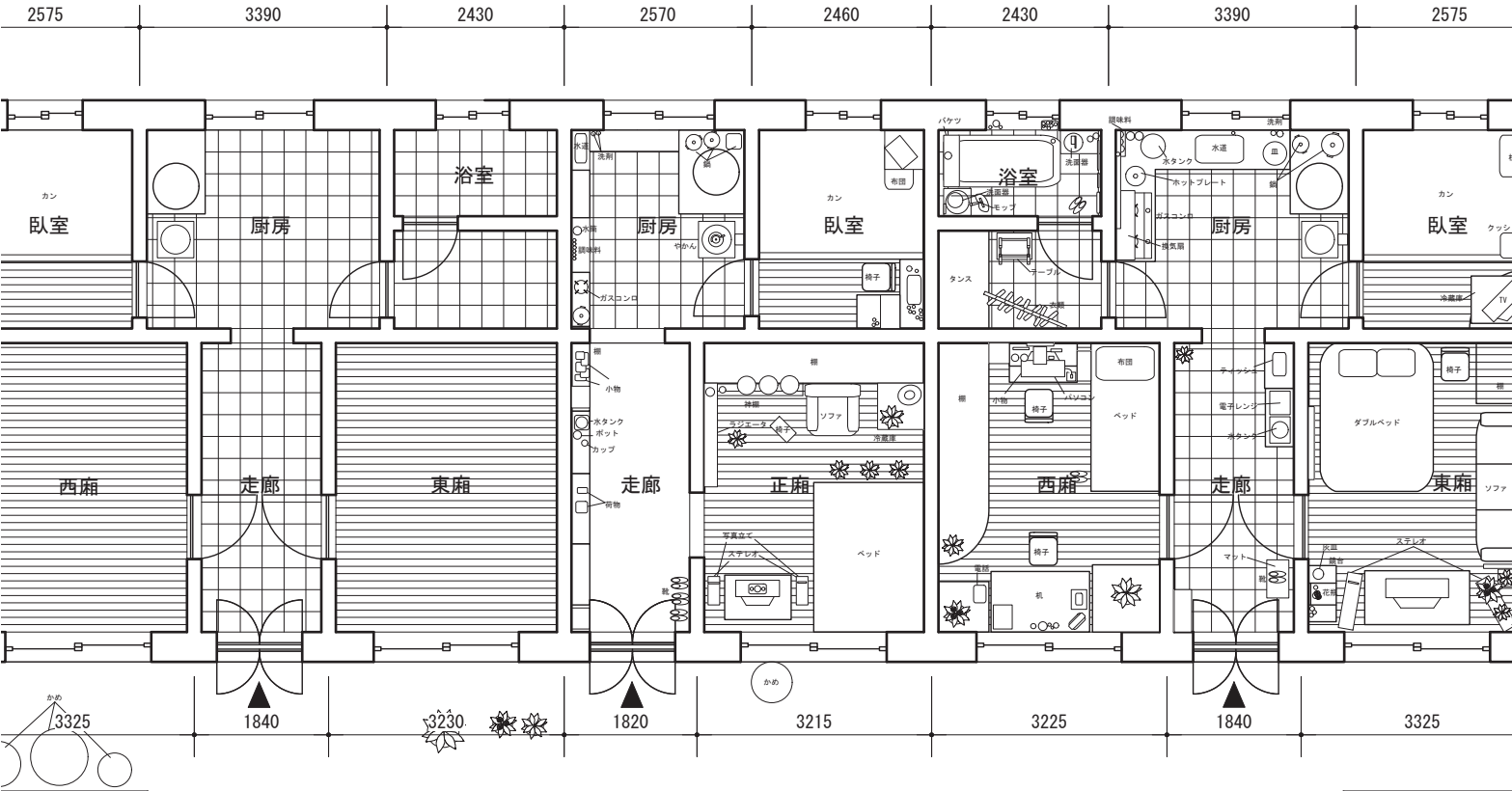
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

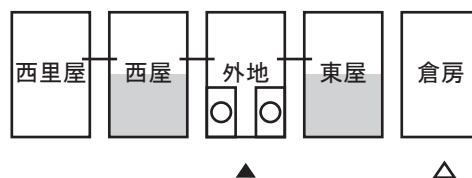


住居番号: Lu0607 調査年: 2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 5人

家族構成: 主人+息子夫婦+孫2人



□ 空間構成に関して

建設年: 1960年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積: 65.3㎡

間口寸法 : 13129mm

奥行寸法 : 4977mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.51㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間: 西屋、東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由: 来客(息子の客:西屋/夫婦の客:東屋)

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、西屋、東屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地(カマドのある厨房)/冬:西屋、東屋)

団欒空間: 西屋、東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西里屋、西屋、東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)、別棟(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離

炊事空間の使い分け : 季節

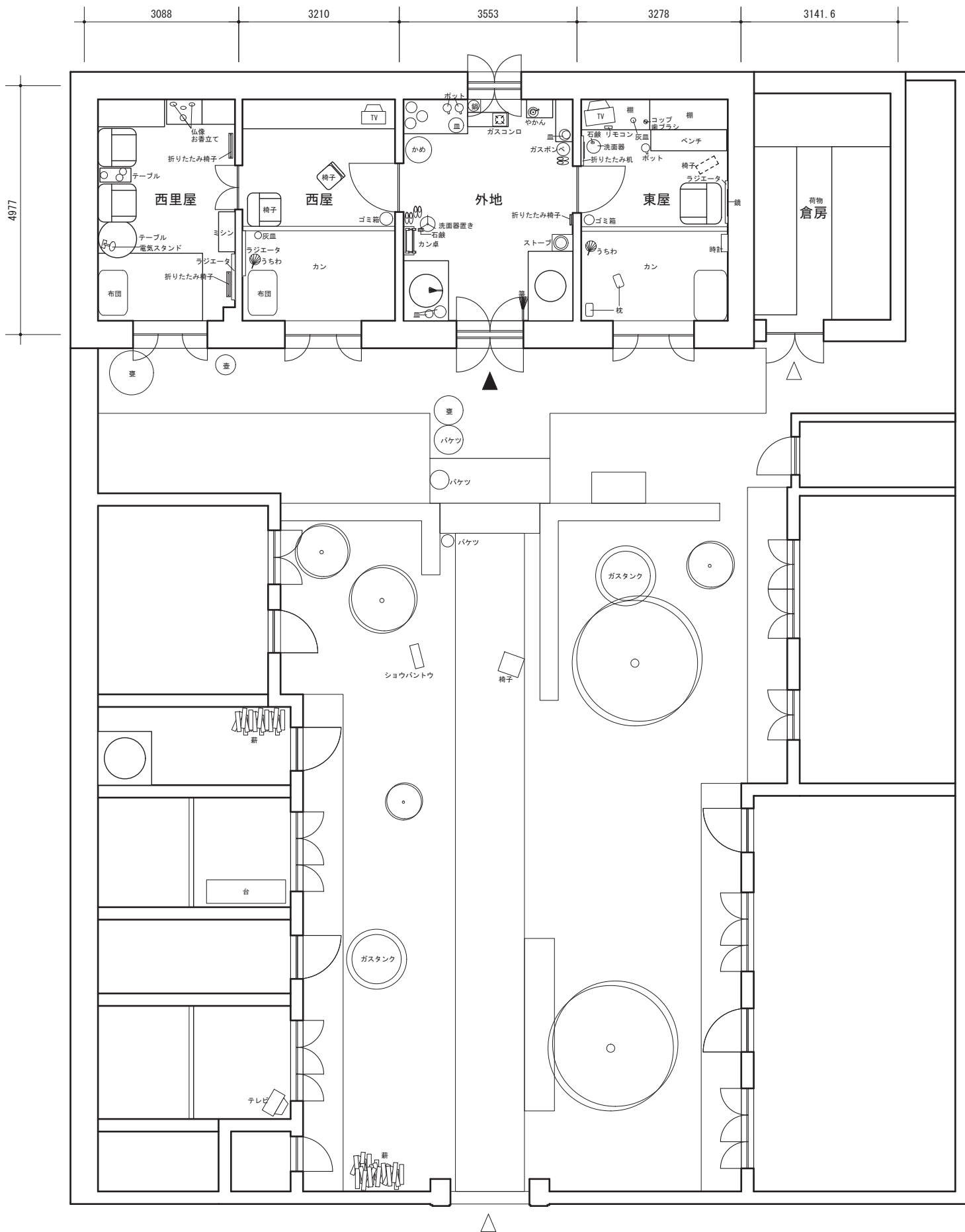
炊事設備の使い分け : ストーブとコンロ(季節)

洗濯空間: ー

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

親が東屋、子世帯が西屋を利用している。



住居番号: Lu0607

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章: ○

5章:

S = 1 : 100

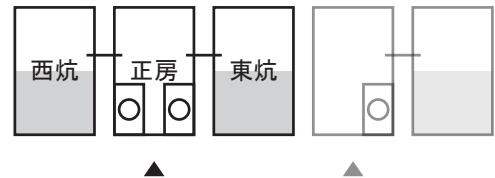


住居番号: Lu0608 調査年: 2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 5人

家族構成: 主人+息子夫婦+孫2人



☐ 空間構成に関して

建設年: 1760年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列+2列

段数 : 1段

住居部分面積: 62.6㎡

間口寸法 : 13750mm

奥行寸法 : 4550mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.08㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:屋根の葺き替え

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居東側(住居(炊事空間有り))

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東炕(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東炕(東屋)、正房(カマドのある厨房)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: カンが熱いときに正房で食事

団欒空間: 東炕(東屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東炕(東屋)、西炕(西屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 正房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無) カマドとカマド(時間)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

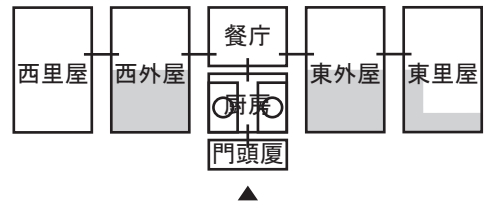
東炕は主人が利用、西炕は子世帯が利用している。
西側の住居は現在は利用していない。

住居番号: Lu0609 調査年: 2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 7人

家族構成: 主人+息子夫婦+孫3人



□ 空間構成に関して

建設年: 1936年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 1段

住居部分面積: 84.3㎡

間口寸法 : 15190mm

奥行寸法 : 7068mm

張り出し寸法 : 1868mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.61㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切り設置
東里屋:カン取り壊し

西里屋:カン取り壊し
西里屋:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居前方(農作業空間(門頭厦))

□ 生活行為に関して

接客空間: 東外屋(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 餐厅、東外屋(東屋)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:餐厅(洗濯場所)/冬:東外屋(東屋))

団欒空間: 餐厅

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西里屋、西外屋(西屋)、
東外屋(東屋)、東里屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

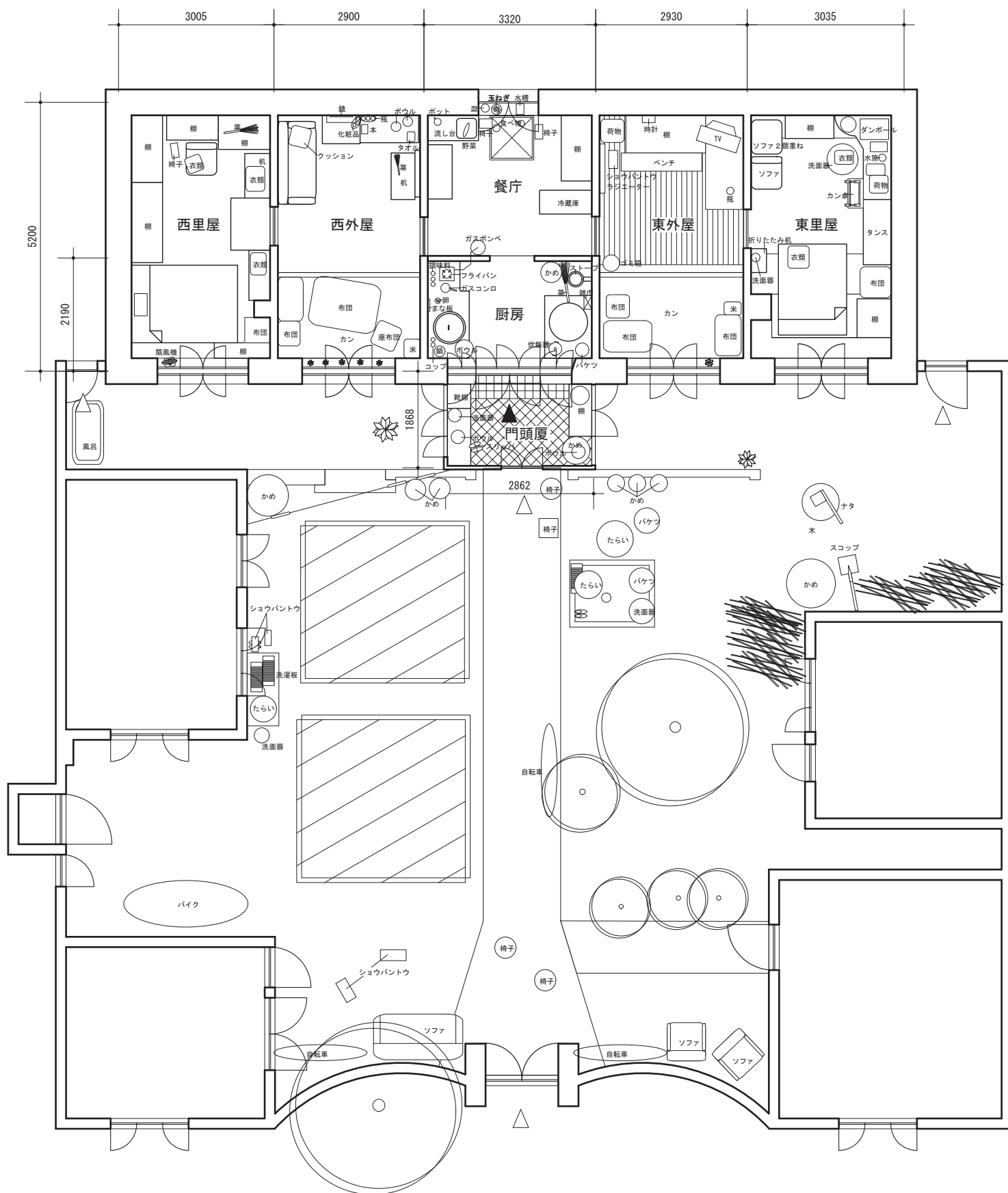
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無) カマドとカマド(時間)

洗濯空間: 餐厅(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他

子世帯が西側、親世帯が東側の室を使って就寝している。



住居番号：Lu0609

調査地：遼寧省大連市旅順口区

4章：○

5章：○

S = 1 : 100

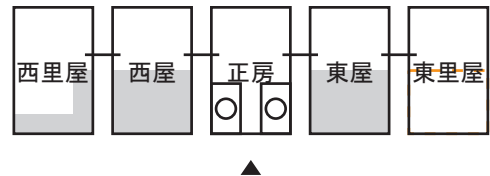


住居番号:Lu0610 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 3人

家族構成: 主人+息子夫婦(孫別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1886年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 1段

住居部分面積: 69.2㎡

間口寸法 : 14530mm

奥行寸法 : 4760mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.10㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居東側(倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 主人が居る際は東屋を使う

食事空間: 正房(カマドのある厨房)、東屋、西屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:正房/冬:東屋)、家族(西屋:主人が居ないとき)

団欒空間: 東屋、西屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 正房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

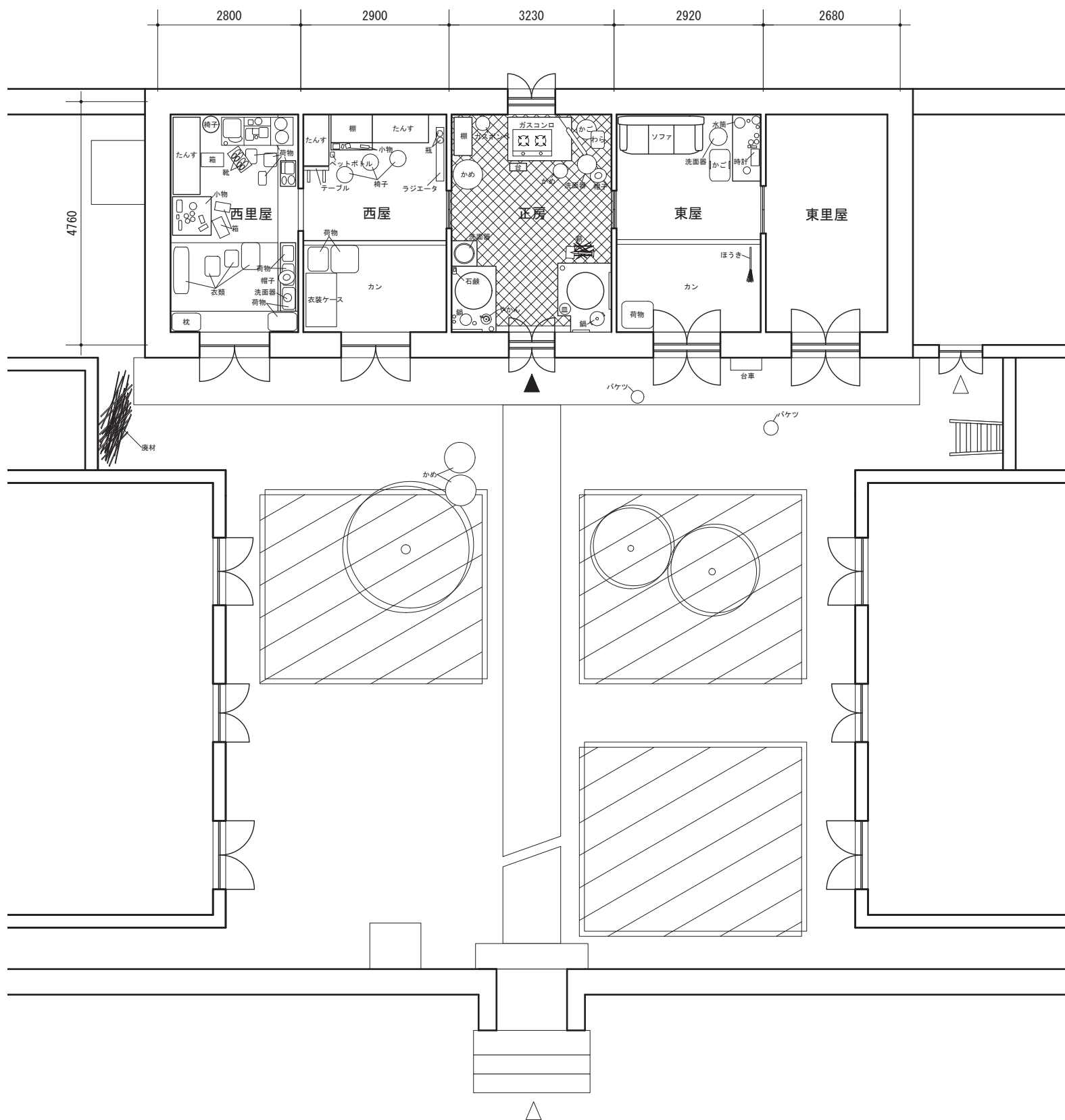
炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

東屋は、主人の臥室、西屋は、子世帯の臥室である。
主人は、子どもの住居を移動して生活している。



住居番号: Lu0610

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章: ○

5章:

S = 1 : 100

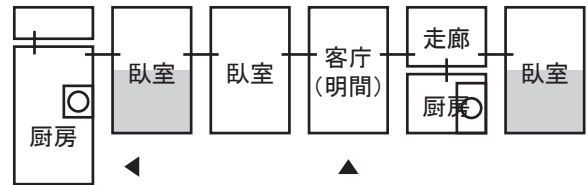


住居番号:Lu0611 調査年:2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 6人

家族構成: 夫婦+次男夫婦+孫(次男)+孫(長男)



□ 空間構成に関して

建設年: 1930年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 6列

段数 : 1段

住居部分面積: 85.3㎡

間口寸法 : 17385mm

奥行寸法 : 4745mm

張り出し寸法 : 2425mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方庁+カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前+入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.97㎡

ラジエータの数: 5基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地一東屋:間仕切りの設置
東屋:カン取り壊し(カマド設置)
西屋:カン取り壊し

外地:カマド取り壊し(客庁)
東屋:間仕切り設置
西里屋:暖房の新設・変更

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居西側,住居東側(炊事空間,倉庫(耳屋))

□ 生活行為に関して

接客空間: 客庁、臥室(西)、臥室(東)

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(主人の客:臥室(西)/息子の客:臥室(東)、簡単な接客:客庁)

食事空間: 厨房(カマドのある厨房)、臥室(西)、臥室(東)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:親は厨房、息子世帯は別棟/冬:それぞれの臥室)

団欒空間: 厨房(カマドのある厨房)、客庁

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室(西)、臥室(中央)、臥室(東)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:子世帯は別棟/冬:子世帯は臥室(東))

炊事空間: 厨房西(カマドのある厨房)、厨房東(カマドのある厨房)、別棟(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離(厨房東)

炊事空間の使い分け : 季節(厨房東)、世帯

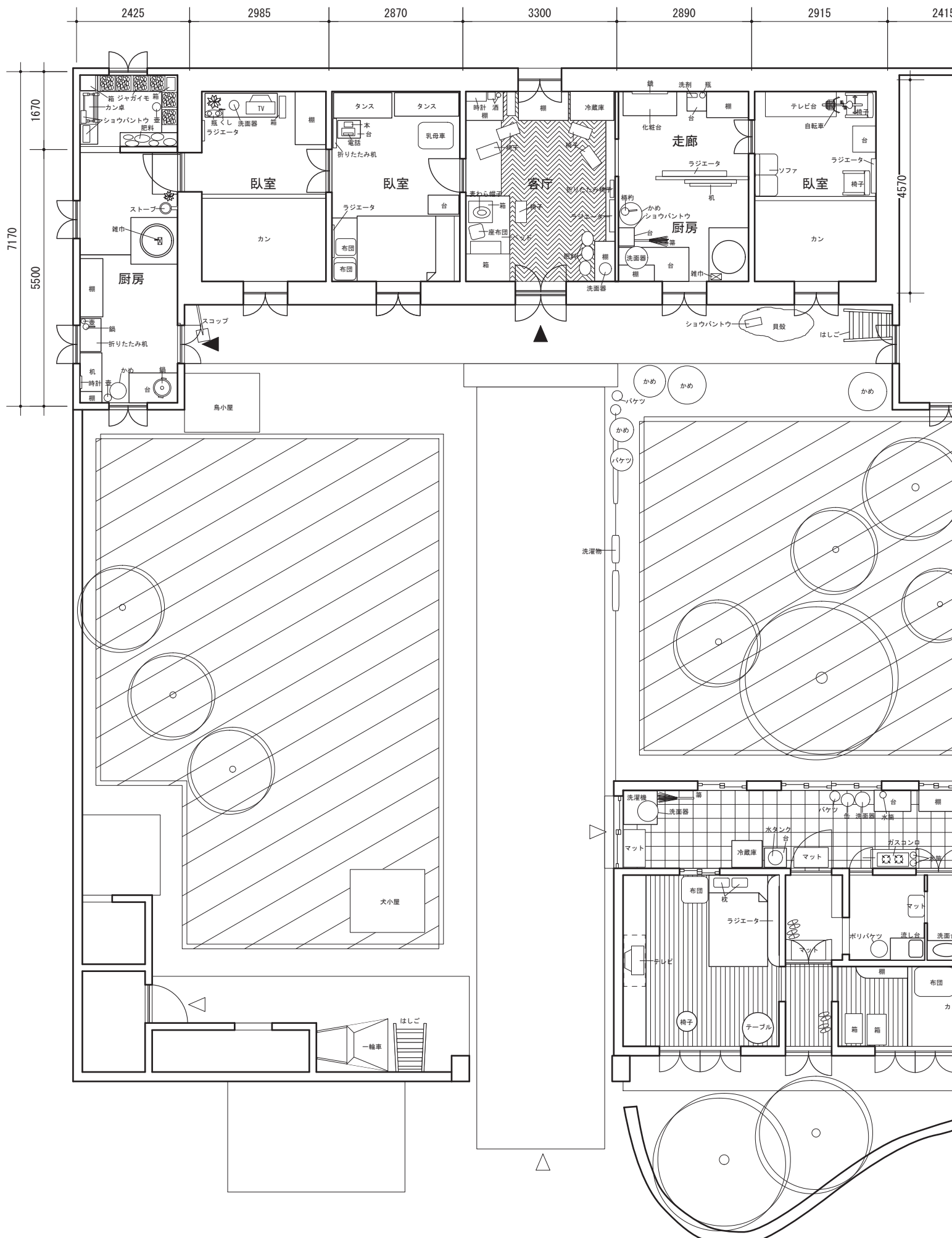
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程)(厨房西)

洗濯空間: 客庁(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

子世帯は、夏に正房の東側の臥室で生活し、冬は、別棟で生活している。



住居番号: Lu0611

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

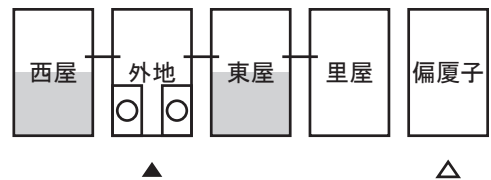
S = 1 : 100

住居番号: Lu0612 調査年: 2006年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦



☐ 空間構成に関して

建設年: 1971年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列+1列

段数 : 1段

住居部分面積: 80.3㎡

間口寸法 : 15990mm

奥行寸法 : 5020mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.82㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 東里屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居東側(風呂(偏厦子))

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(人数によって東屋→西屋→別棟)

食事空間: 外地(カマドのある厨房)、東屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地(カマドのある厨房)/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

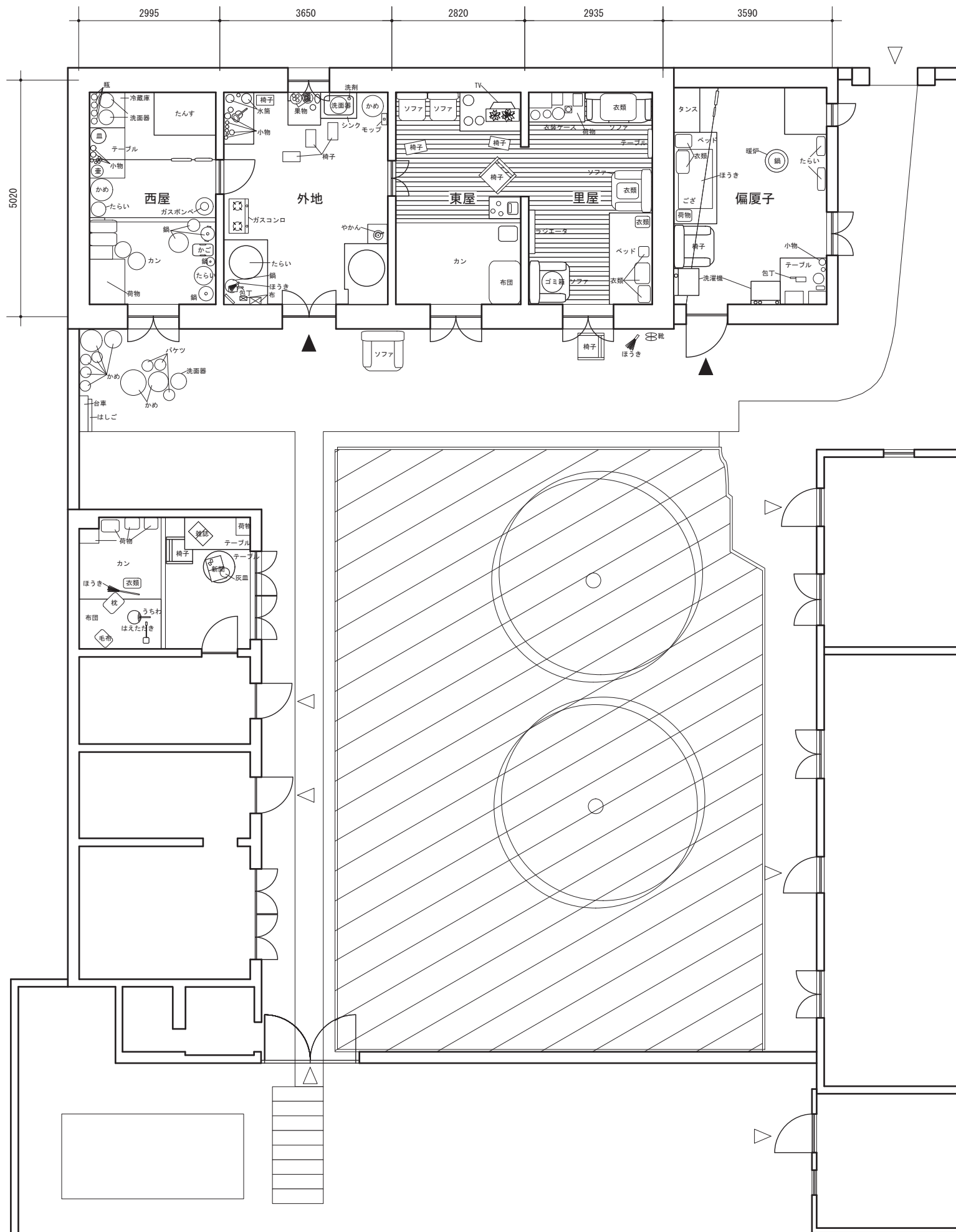
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 偏厦子(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



住居番号: Lu0612

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

S = 1 : 100



住居番号:Lu0701 調査年:2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子(2人)

□ 空間構成に関して

建設年: 2002年

住居形式: 戸建・平屋(高基礎)

列数 : 4列

段数 : 3段

住居部分面積: 168.6㎡

間口寸法 : 16776mm

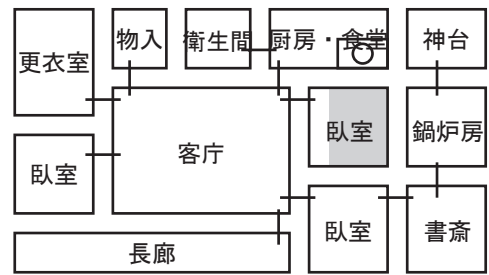
奥行寸法 : 10063mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居奥



□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 5.05㎡

ラジエータの数: 9基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 客庁、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(夏:客庁/冬:臥室のカンの上(仲の良い友人))

食事空間: 厨房

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 客庁

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房・食堂(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他

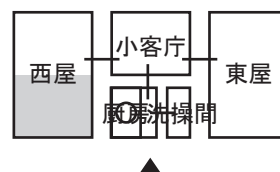
子どもたちは別々の臥室で就寝している。



住居番号:Lu0703 調査年:2007年

居住者数：2人

家族構成：夫婦(息子2人別居)

☐ 空間構成に関して

住居形式：戸建・平屋

段数 : 1段

住居部分面積：42.8m²

奥行寸法 : 4655mm

張り出し寸法 : 0mm

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置：住居手前

☐ 暖房に関して

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.61m²

カン室のラジエータ：2基

カン室のペチ力 : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修場所(内容) : 外地:その他

外地:間仕切り設置

東屋：カン取り壊し

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由：季節（夏：小客厅/冬：小客厅、西屋）

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団樂空間の使い分け : なし

団練空間の使い分け理由:

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由：季節（夏：東屋のベッド/冬：西屋）

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(時間)

洗濯拡張と分離 : なし

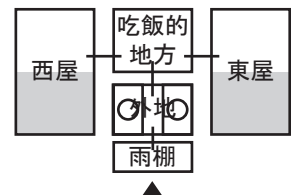
☐ その他

住居番号: Lu0704 調査年: 2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(娘4人別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1973年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 51.7㎡

間口寸法 : 9560mm

奥行寸法 : 5055mm

張り出し寸法 : 1480mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.97㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切り設置

その他:基礎

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居前方(炊事空間(雨棚))

□ 生活行為に関して

接客空間: 吃飯的地方

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 吃飯的地方

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 吃飯的地方

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)、吃飯的地方、雨棚

炊事拡張と分離 : 拡張

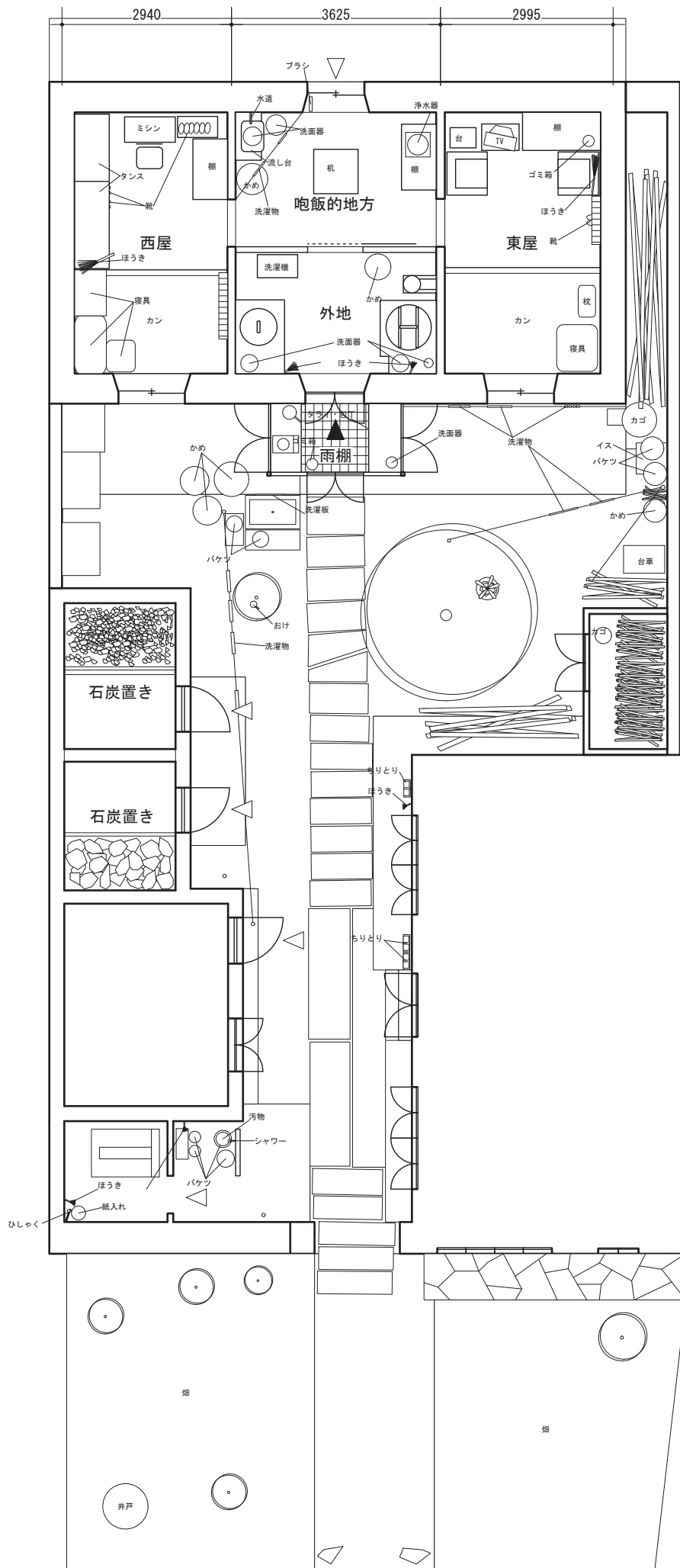
炊事空間の使い分け : 調理工程(外地と吃飯的地方)

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程) カマドとカマド(季節)

洗濯空間: 外地(カマドのある厨房)、吃飯的地方(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他



住居番号: Lu0704

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

S = 1 : 100

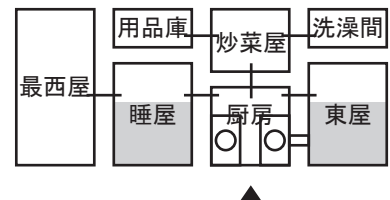


住居番号:Lu0705 調査年:2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 主人+息子夫婦(孫別居)敷地内で同居



☐ 空間構成に関して

建設年: 1983年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 2段

住居部分面積: 74.7㎡

間口寸法 : 11508mm

奥行寸法 : 6517mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.64㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 厨房(カマドのある厨房)、東屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:厨房(カマドのある厨房)/冬:東屋)

団欒空間: 睡屋(西屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 最西屋(西里屋)、睡屋(西屋)

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:最西屋(西里屋)ベッド/冬:睡屋(西屋))

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)、炒菜屋(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

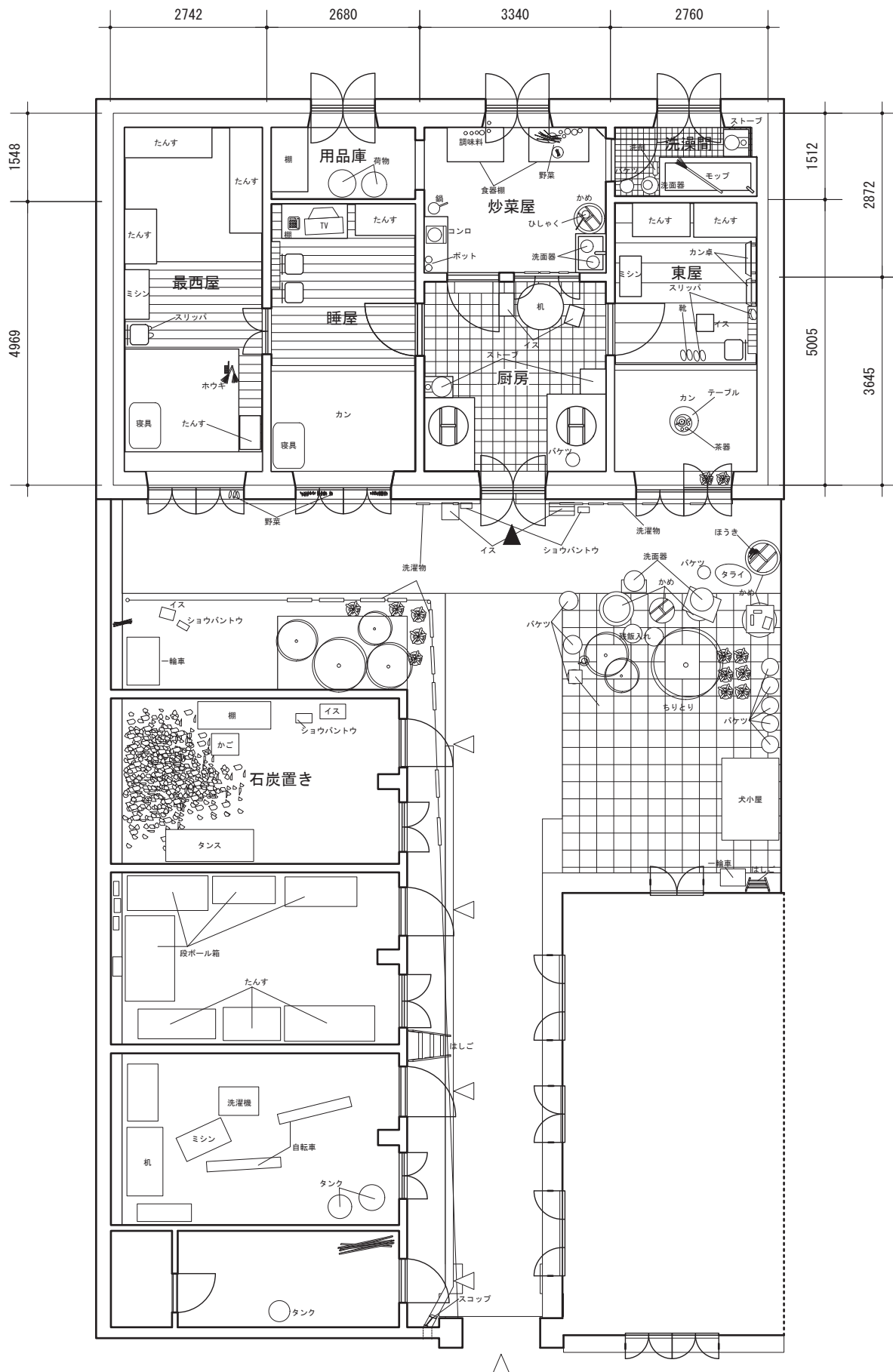
炊事空間の使い分け : 季節、調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程) カマドとカマド(調理工程)

洗濯空間: 洗濯間(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

☐ その他



住居番号：Lu0705

調査地：遼寧省大連市旅順口区

4章：○

5章：○

S = 1 : 100

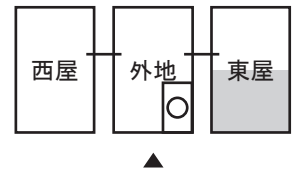


住居番号:Lu0706 調査年:2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦



☐ 空間構成に関して

建設年: 1974年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 43.7㎡

間口寸法 : 9471mm

奥行寸法 : 4622mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.09㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:カマド取り壊し

西屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(店舗)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東屋、外地(カマドのある厨房)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地(カマドのある厨房)/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

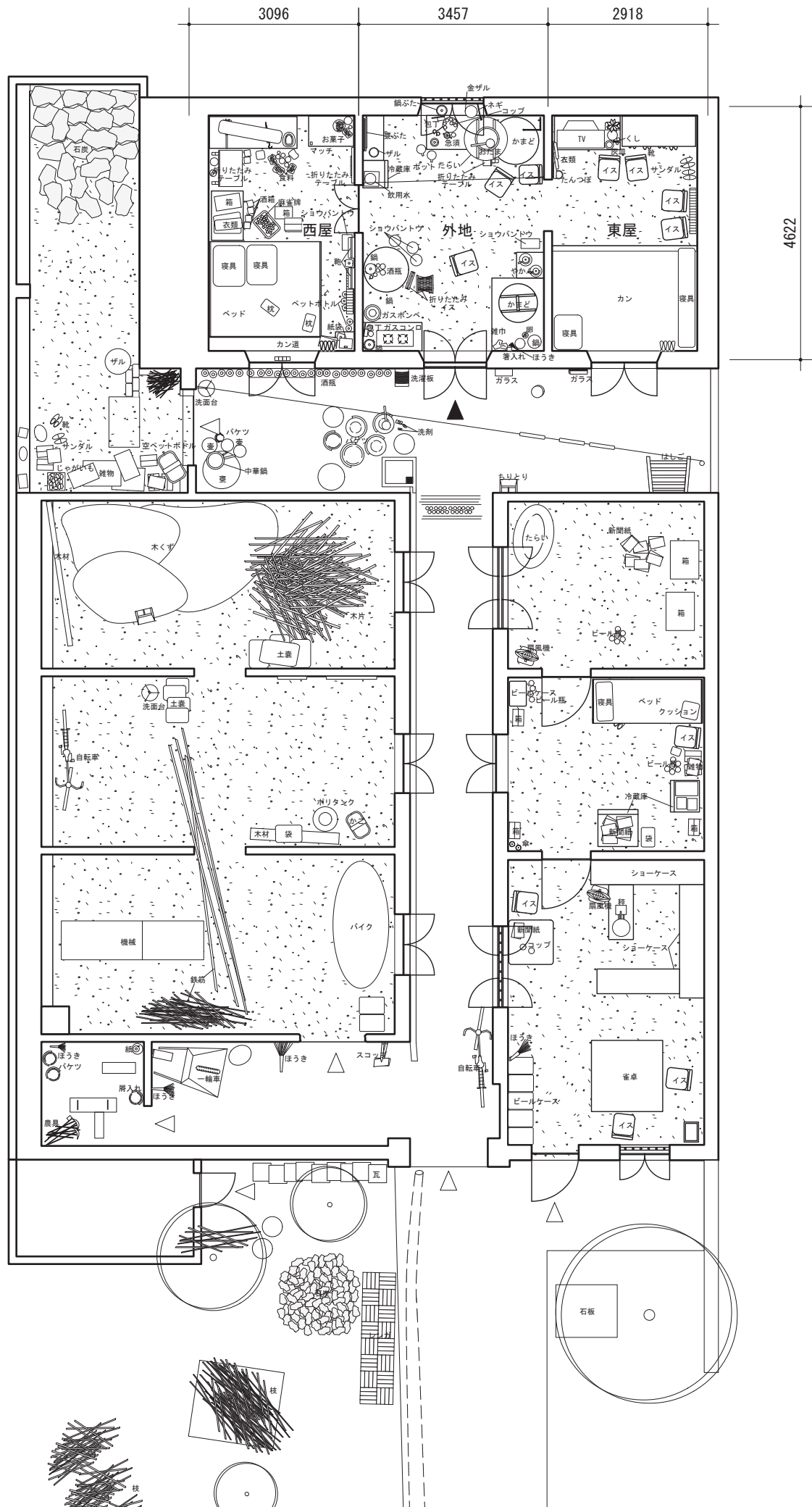
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他



住居番号: Lu0706

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

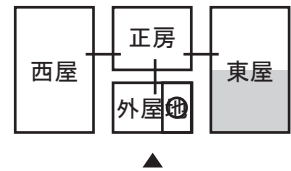
S=1:100

住居番号: Lu0707 調査年: 2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(長女、長男、孫2人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1974年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 51.7㎡

間口寸法 : 10211mm

奥行寸法 : 5065mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.95㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外屋:カマド取り壊し
西屋:カン取り壊し

外屋:間仕切り設置
その他:内装

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 正房

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 正房

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋ベッド/冬:東屋)

炊事空間: 外屋地(カマドのある厨房)、別棟(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離

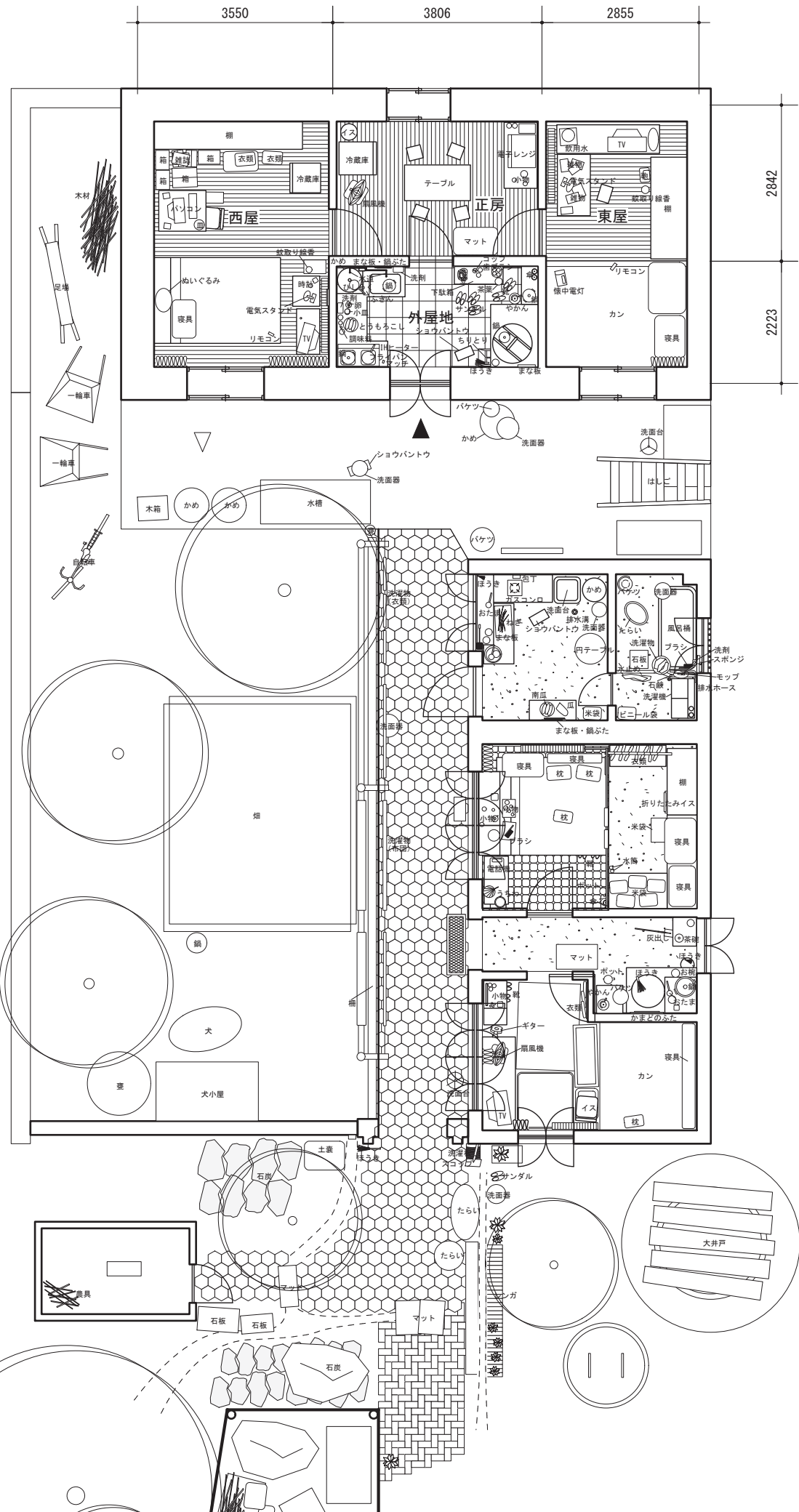
炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 外屋地(カマドのある厨房)、別棟(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



住居番号: Lu0707

調査地: 遼寧省大連市旅順口区

4章:○

5章:○

S=1:100

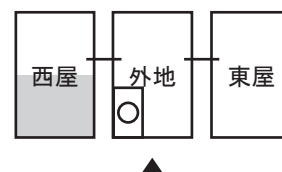


住居番号: Lu0708 調査年: 2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦



☐ 空間構成に関して

建設年: 1974年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 49.7㎡

間口寸法 : 9911mm

奥行寸法 : 5013mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.10㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:カマド取り壊し

東屋:カン取り壊し

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 西屋、外地(カマドのある厨房)、西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋、外地/冬:西屋)、来客(人が多いときは、全部使う)

食事空間: 西屋、外地(カマドのある厨房)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋炕前、外地/冬:西屋)

団欒空間: 西屋、外地(カマドのある厨房)

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋、外地/冬:西屋)

就寝空間: 西屋、東屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:主人だけ東屋のベッド/冬:西屋)

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

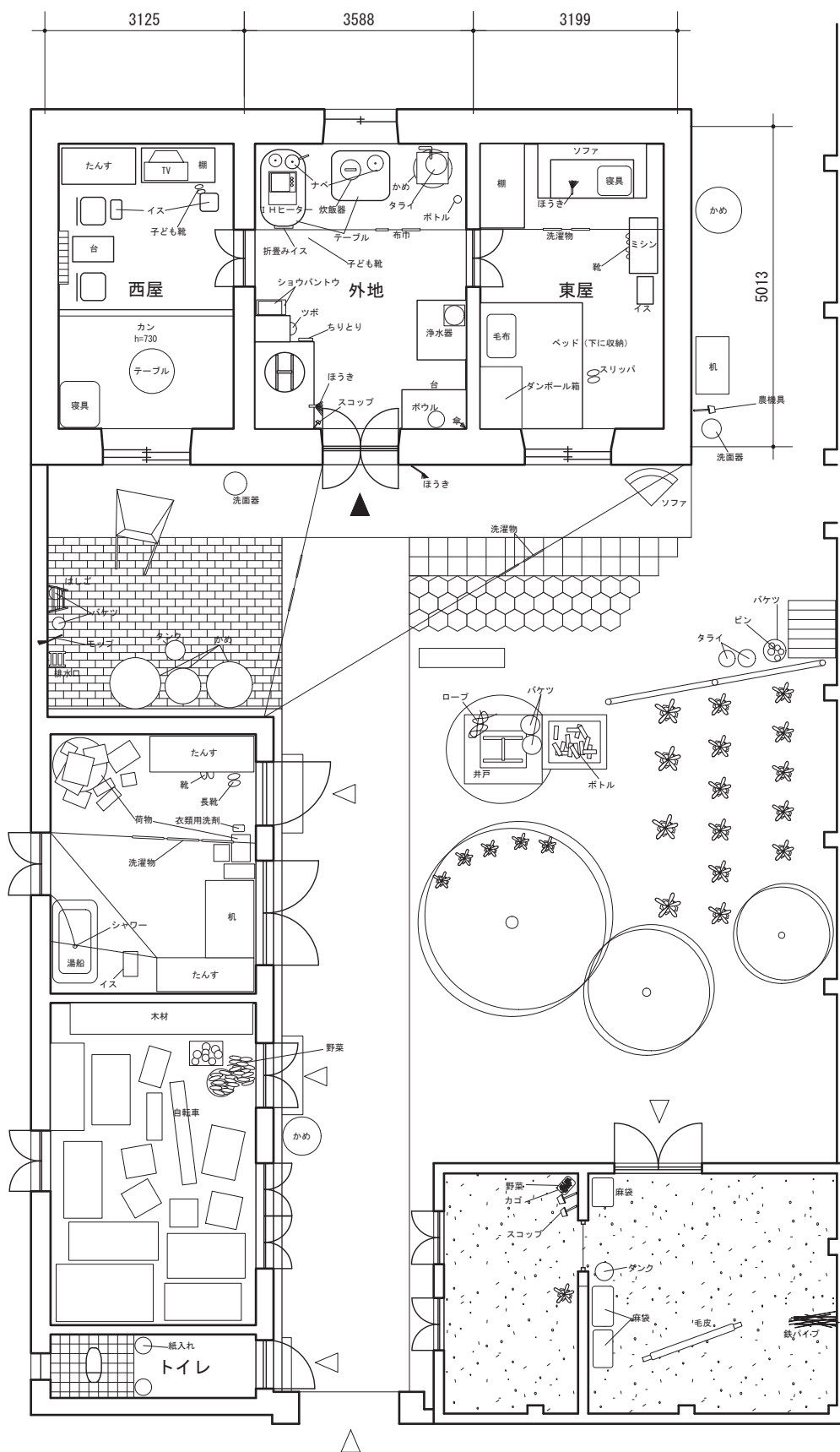
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 外地(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

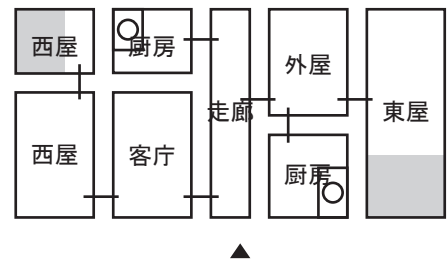


住居番号:Lu0709 調査年:2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+母親+息子夫婦+孫



☐ 空間構成に関して

建設年: 1983年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 93.9㎡

間口寸法 : 15570mm

奥行寸法 : 6029mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横+住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居奥

主要カン面積: 6.32㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西屋(西里屋):間仕切り設置

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:炕前/冬:カン上)

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

住居番号:Lu0710 調査年:2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦

□ 空間構成に関して

建設年: 1995年

住居形式: 戸建・平屋 (高基礎)

列数 : 4列

段数 : 3段

住居部分面積: 161.2㎡

間口寸法 : 13594mm

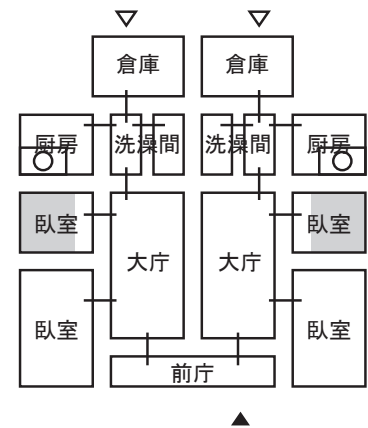
奥行寸法 : 13179mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居奥+住居奥



□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 4.22㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : - (-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 大庁、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:大庁/冬:臥室)

食事空間: 大庁、臥室

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:大庁/冬:臥室)

団欒空間: 大庁、臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房東(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 洗濯間東(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

夏はベッドのある臥室、冬はカンのある臥室で就寝する。
西側の住居には誰も居住していない。



住居番号: Lu0711 調査年: 2007年

調査地 : 遼寧省大連市旅順口区

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+息子夫婦(娘敷地内同居)

□ 空間構成に関して

建設年: 1995年

住居形式: 戸建・2階建(高基礎)

列数 : 5列

段数 : 3段

住居部分面積: 92.6㎡

間口寸法 : 11645mm

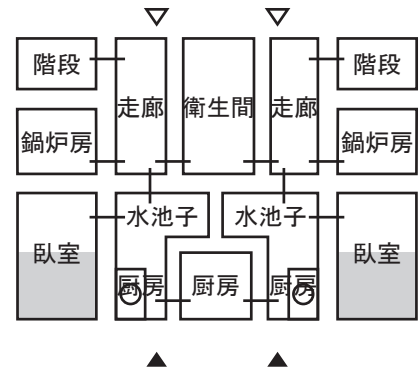
奥行寸法 : 7950mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前+住居手前



□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.45㎡

ラジエータの数: 5基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 客厅、臥室

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 走廊、臥室(東)、臥室(西)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:走廊/冬:それぞれの世帯の臥室)

団欒空間: 臥室(東)、走廊

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 臥室

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:それぞれの臥室のベッド/冬:それぞれの臥室のカン)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)、厨房(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

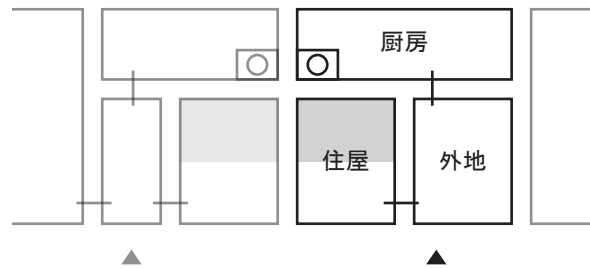
冬に人が少ないときは臥室で接客する。
子世帯が住居西側を利用し、親世帯は住居東側を利用している。

住居番号:H0801 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦(息子夫婦+孫敷地内同居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1983年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 3列+2列+1列

段数 : 2段

住居部分面積: 128.0㎡

間口寸法 : 19815mm

奥行寸法 : 6460mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊+方庁

カマドのある厨房位置: 住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 5.53㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居西側(住居(炊事空間有り))

□ 生活行為に関して

接客空間: 外地、住居(西屋)

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:住居(西屋))

食事空間: 住居(西屋)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 住居(西屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 住居(西屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 外地(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他

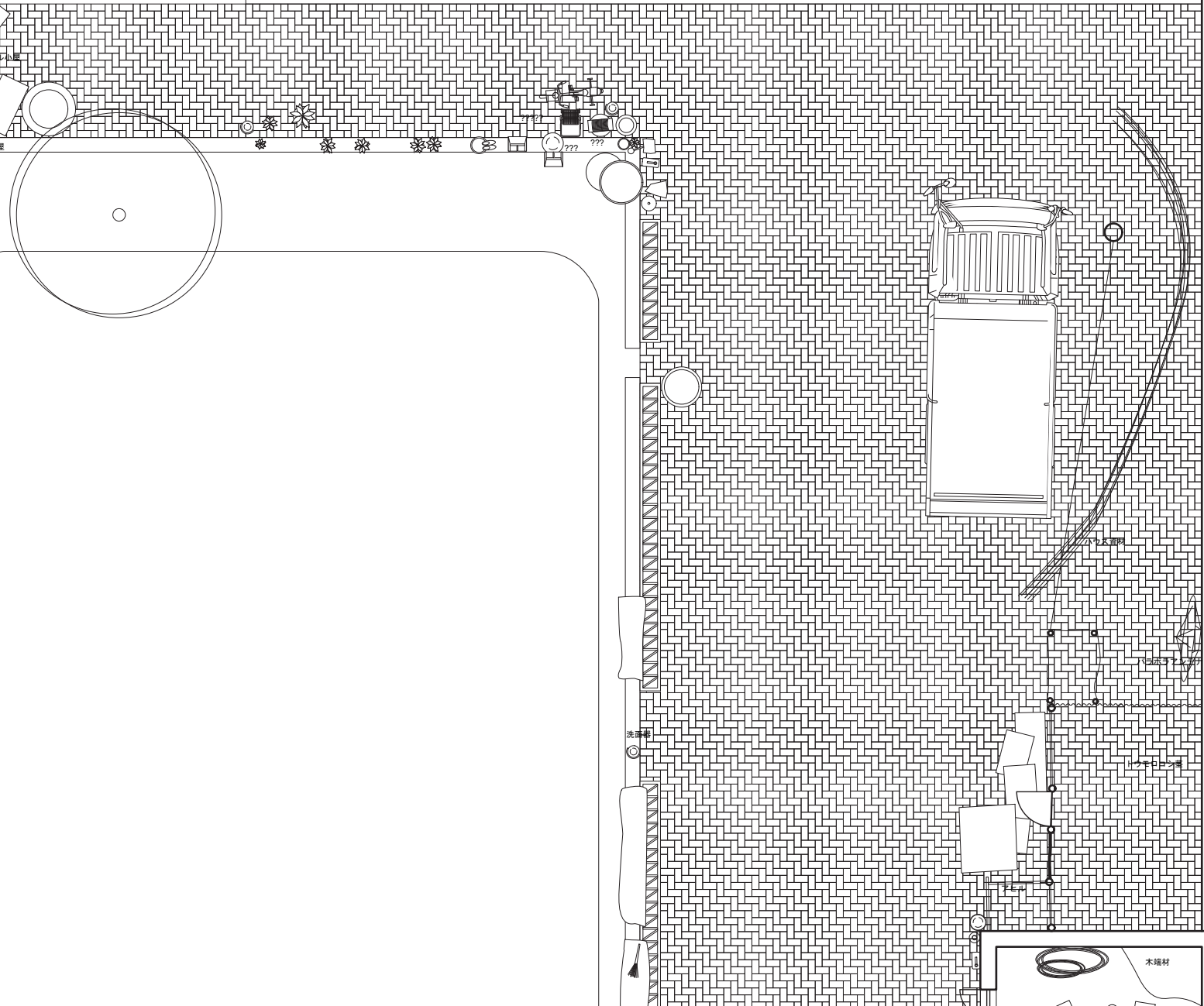
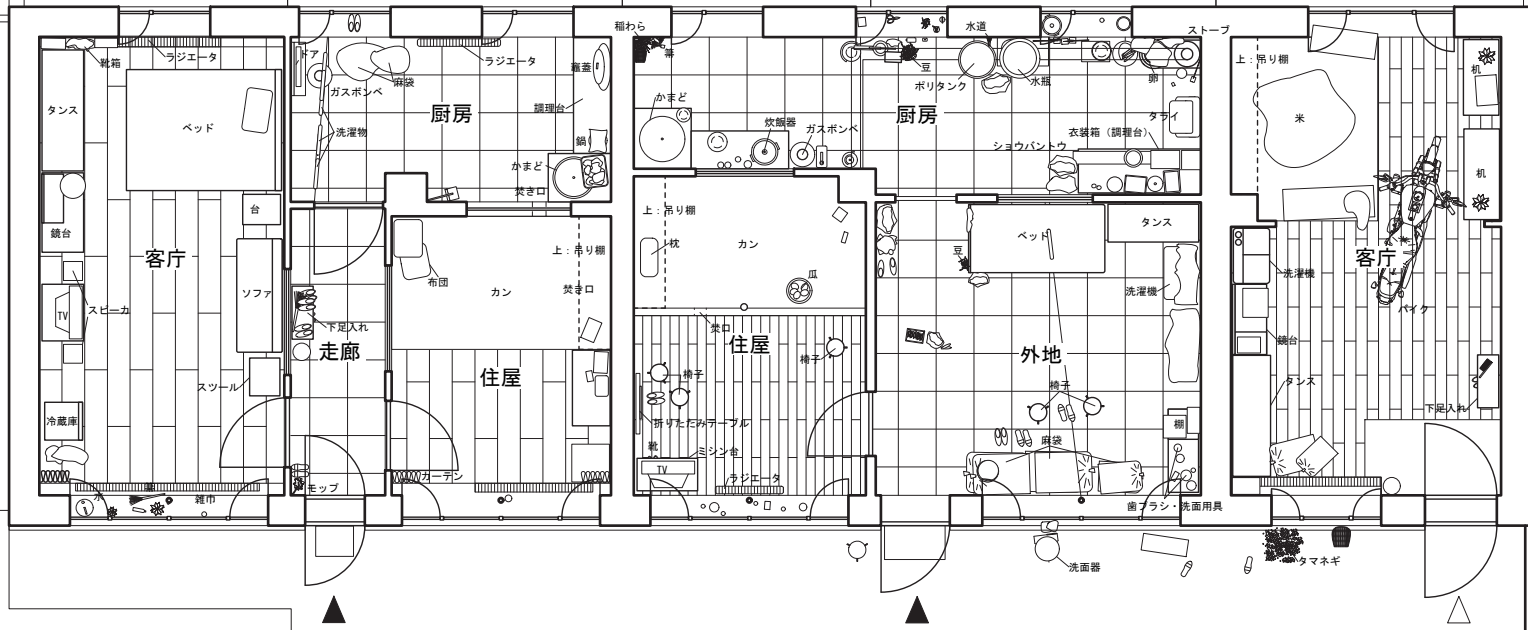
3483

4428

3285

4565

4067



住居番号: H0801

4章:○

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

5章:○

S = 1 : 100

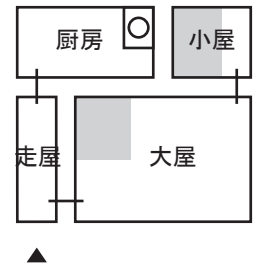
住居番号:H0802

調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(娘夫婦+孫別居)

☐ 空間構成に関して

建設年:1980年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 2列

段数 : 2段

住居部分面積:52.8㎡

間口寸法 : 8015mm

奥行寸法 : 6588mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:2.72㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 1基

カン室のペチカ : 1基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間:大屋(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:大屋(東屋)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:大屋(東屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:大屋(東屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

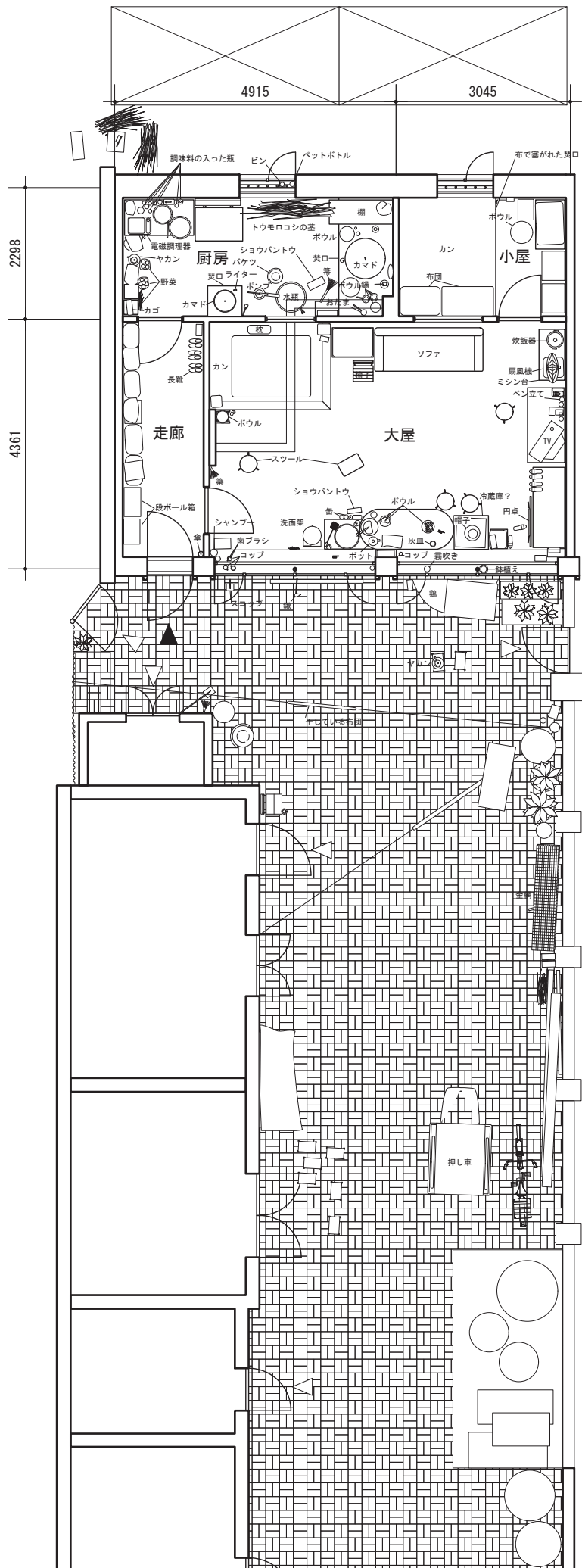
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程) カマドとカマド(季節)

洗濯空間:大屋(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

☐ その他



住居番号：H0802

調査地：黒竜江省哈爾濱市道外区

4章：○

5章：○

S = 1 : 100



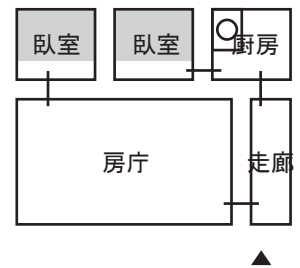
住居番号:H0803

調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:5人

家族構成:主人+息子夫婦(親、次男敷地内同居)

☐ 空間構成に関して

建設年:1980年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:53.6㎡

間口寸法 : 8140mm

奥行寸法 : 6590mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:4.81㎡

ラジエータの数:2基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西屋:その他

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

☐ 生活行為に関して

接客空間:房庁

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:厨房(カマドのある厨房)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:房庁、臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

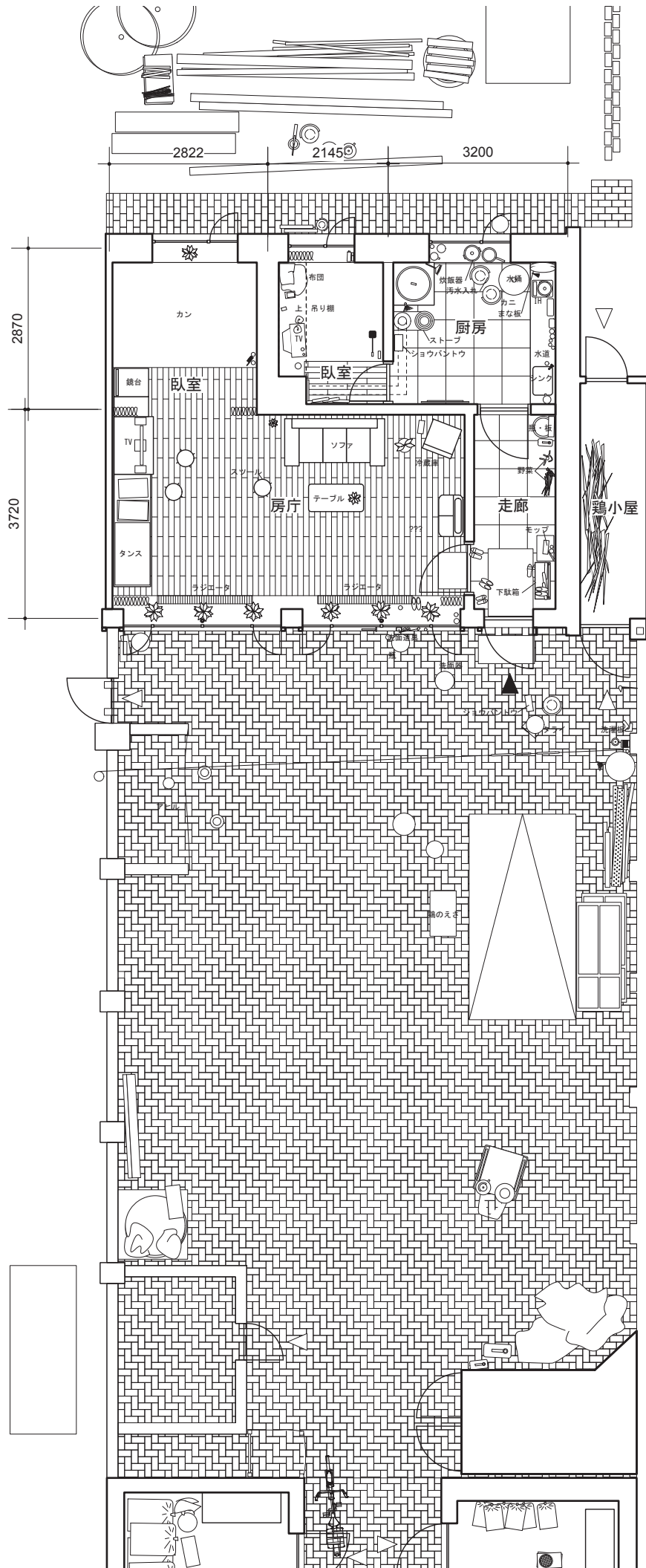
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

主人は、厨房横の臥室を利用し、子世帯が房庁奥の臥室を利用している。



住居番号：H0803

調査地：黒竜江省哈爾濱市道外区

4章：○

5章：○

S=1:100

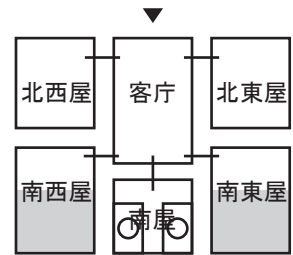


住居番号:H0804 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:4人

家族構成:夫婦+子(親敷地内同居)



☐ 空間構成に関して

建設年:2007年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:109.2㎡

間口寸法 : 12583mm

奥行寸法 : 8680mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 北

入口空間 : 方庁

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:8.00㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間:南東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:南屋(厨房)、南東屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:南屋(厨房)/冬:南東屋)

団欒空間:南東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:南東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:カマドのある厨房

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:カマドのある厨房、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

住居番号:H0805 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:2人

家族構成:夫婦

□ 空間構成に関して

建設年:1998年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:57.5㎡

間口寸法 : 7423mm

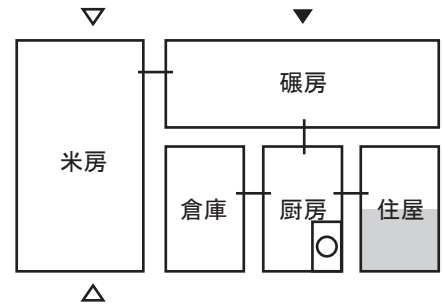
奥行寸法 : 7750mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 北

入口空間 : 方庁

カマドのある厨房位置:住居奥



□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:4.79㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 1基

カン室のペチカ : 1基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

□ 生活行為に関して

接客空間:住居(西屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:住居(西屋)

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:住居(西屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:住居(西屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

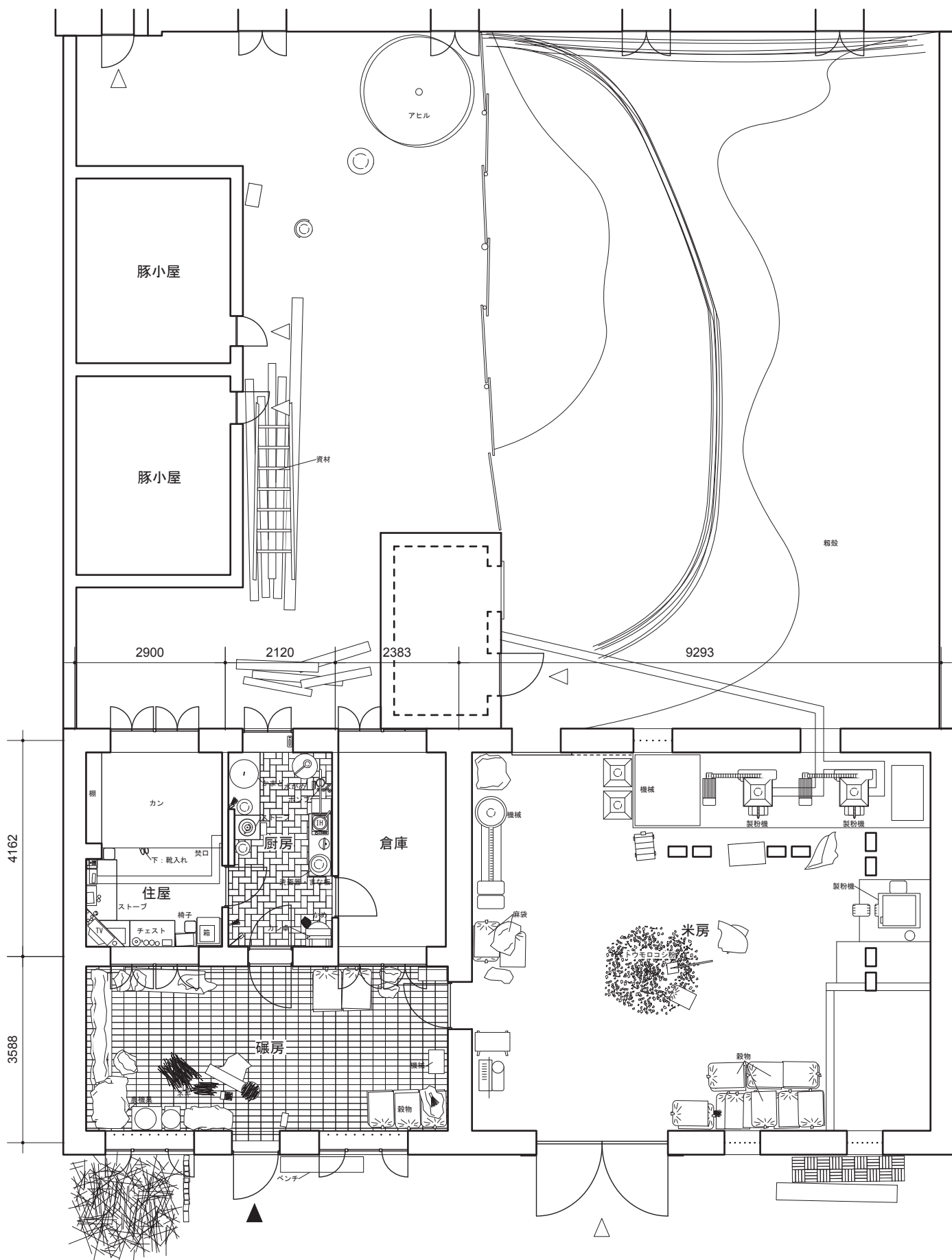
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号: H0805

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

4章:○

5章:○

S = 1 : 100



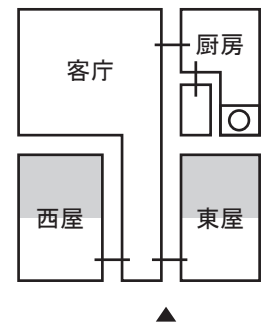
住居番号:H0806

調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:5人

家族構成:主人+娘夫婦+孫2人

☐ 空間構成に関して

建設年:2007年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:67.9㎡

間口寸法 : 8025mm

奥行寸法 : 8455mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:4.84㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 1基

カン室のペチカ : 1基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

☐ 生活行為に関して

接客空間:東屋、客厅

接客空間の使い分け : なし

食事空間:東屋、客厅

接客空間の使い分け理由:来客(主人:東屋/若者:客厅)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:客厅/冬:東屋)

団欒空間:東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:東屋、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由:家族(夫婦:東屋/娘:西屋)

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)、客厅(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 季節

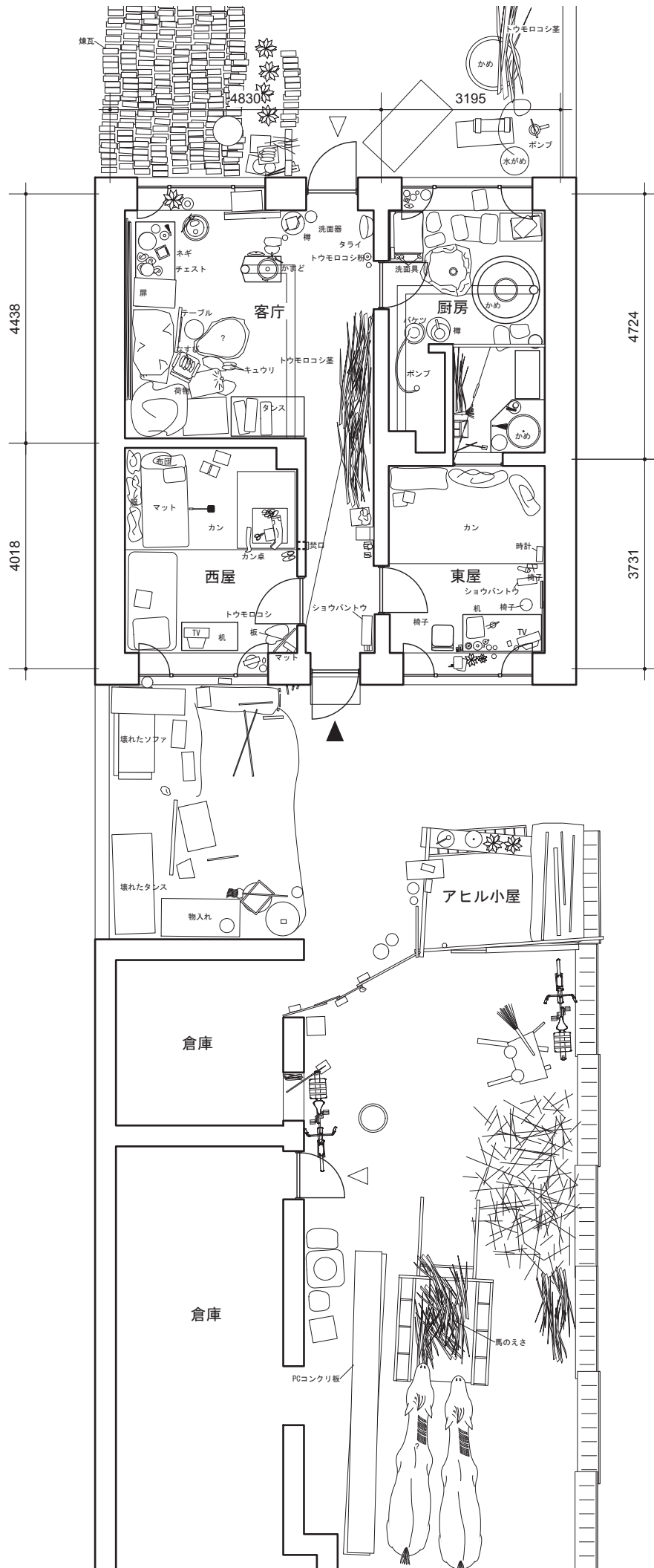
炊事設備の使い分け : カマドとカマド(季節)

洗濯空間:客厅(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

☐ その他

客厅にカンと繋がっていないカマドがある。



住居番号： H0806

調査地 ： 黒竜江省哈爾濱市道外区

4章：○

5章：○

S = 1 : 100

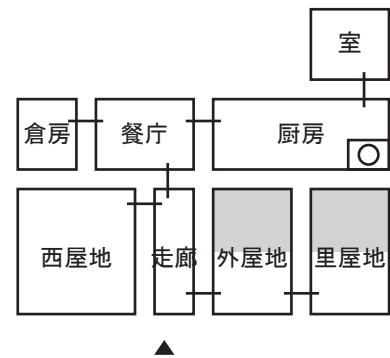


住居番号:H0810 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道里区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(息子夫婦+孫、娘夫婦別居)



☐ 空間構成に関して

建設年:1981年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 2段

住居部分面積:86.1㎡

間口寸法 : 11263mm

奥行寸法 : 6633mm

張り出し寸法 : 3180mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:4.43㎡

ラジエータの数:7基

カン室のラジエータ:2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 厨房:カマド取り壊し

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):あり

増築場所(内容) : 住居東側(炊事空間,臥室,餐厅)

☐ 生活行為に関して

接客空間:外屋地(東屋)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:室

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:西屋地(西屋)

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:外屋地(東屋)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)、室(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

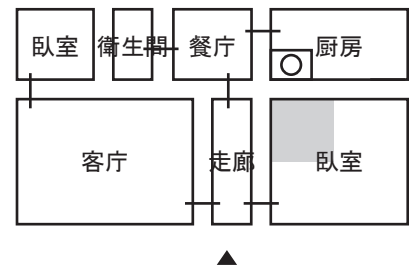
☐ その他

住居番号:H0811 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道里区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(子3人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年:1999年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:99.0㎡

間口寸法 : 13013mm

奥行寸法 : 7610mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:4.01㎡

ラジエータの数:5基

カン室のラジエータ:1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間:客厅、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由:季節(夏:客厅/冬:臥室)

食事空間:餐厅、臥室

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:餐厅/冬:臥室)

団欒空間:臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:臥室、客厅奥の臥室、客厅

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:家族(夫婦:臥室/長女:客厅奥の臥室/次女:客厅のベッド)

炊事空間:カマドのある厨房

炊事拡張と分離 : なし

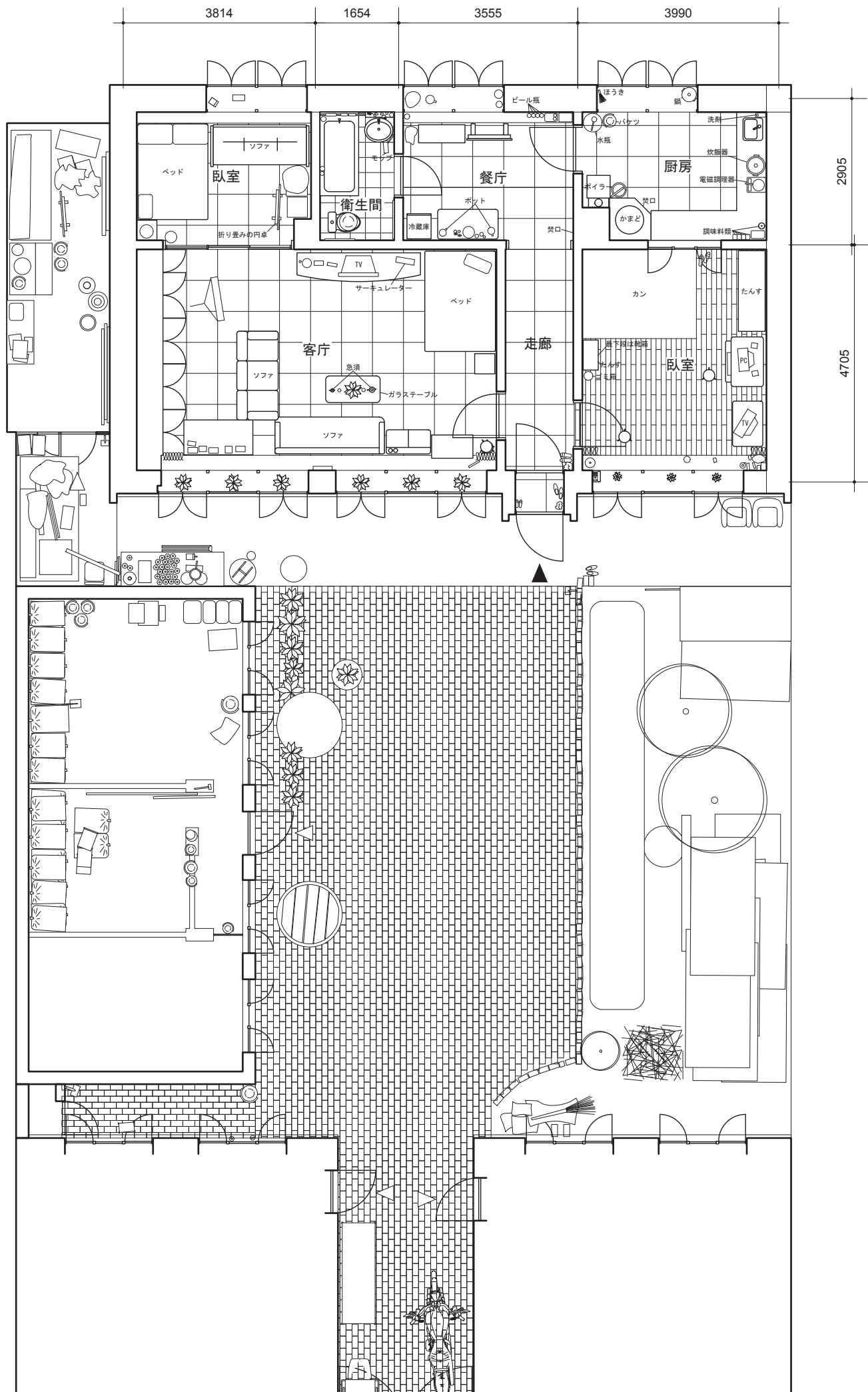
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:洗濯場所

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



住居番号: H0811

4章:

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道里区

5章:○

S = 1 : 100

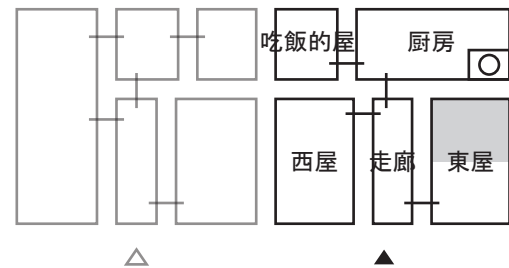


住居番号:H0812 調査年:2008年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道里区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(息子夫婦、娘夫婦別居)



□ 空間構成に関して

建設年:1990年

住居形式:連続建・平屋

列数 : 3列+3列

段数 : 2段

住居部分面積:125.3㎡

間口寸法 : 16886mm

奥行寸法 : 7422mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:6.06㎡

ラジエータの数:5基

カン室のラジエータ:2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:東屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

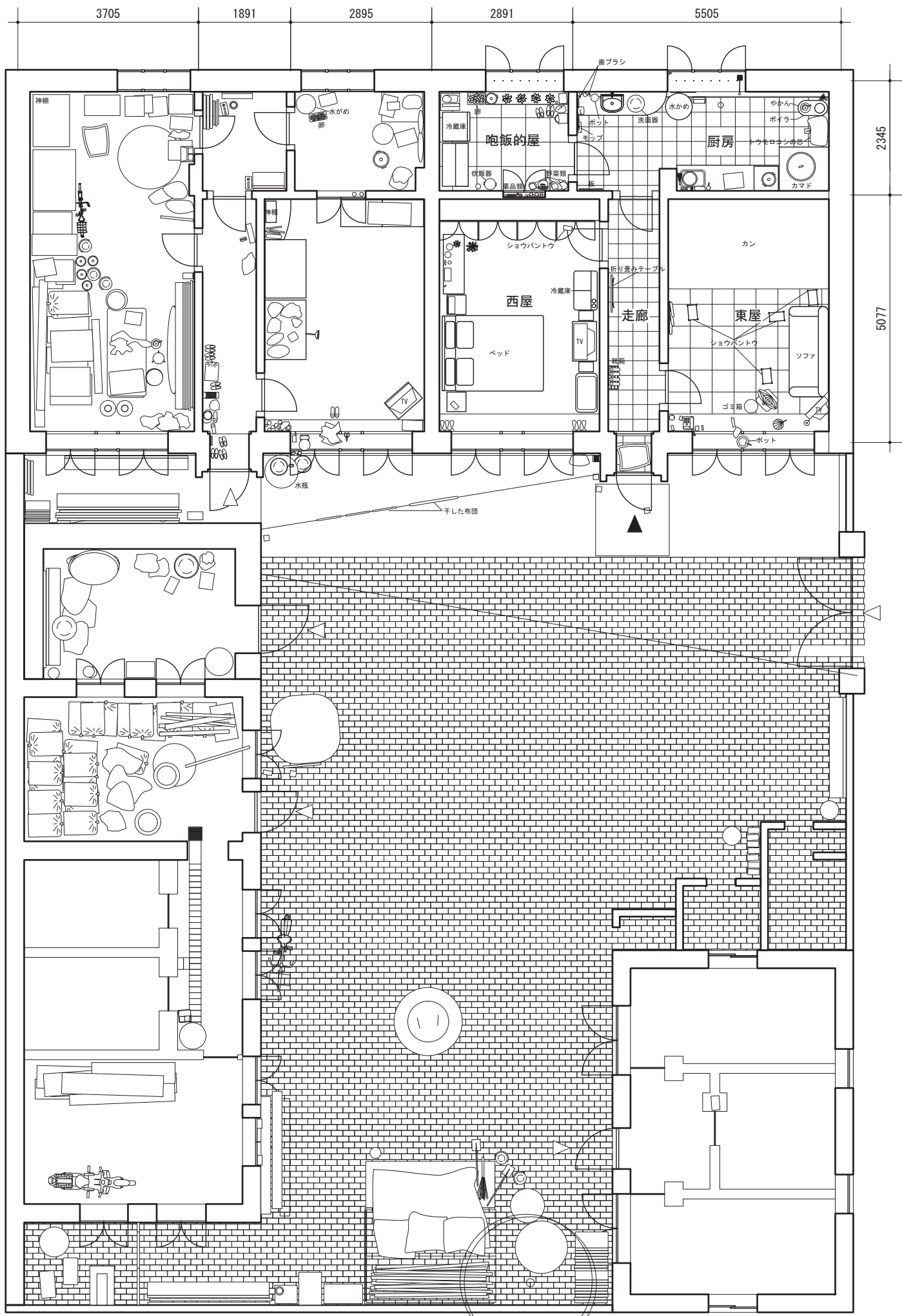
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号: H0812

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道里区

4章:○

5章:○

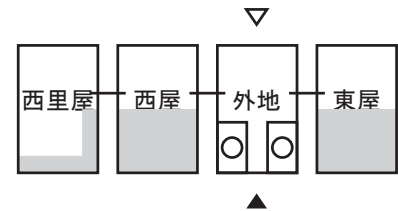
S = 1 : 100

住居番号:K1101 調査年:2011年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子2人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1911年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積: 58.4㎡

間口寸法 : 11853mm

奥行寸法 : 4930mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.95㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 東屋:カン新設
その他:間仕切り設置

西屋:カン新設
その他:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東屋、外地

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

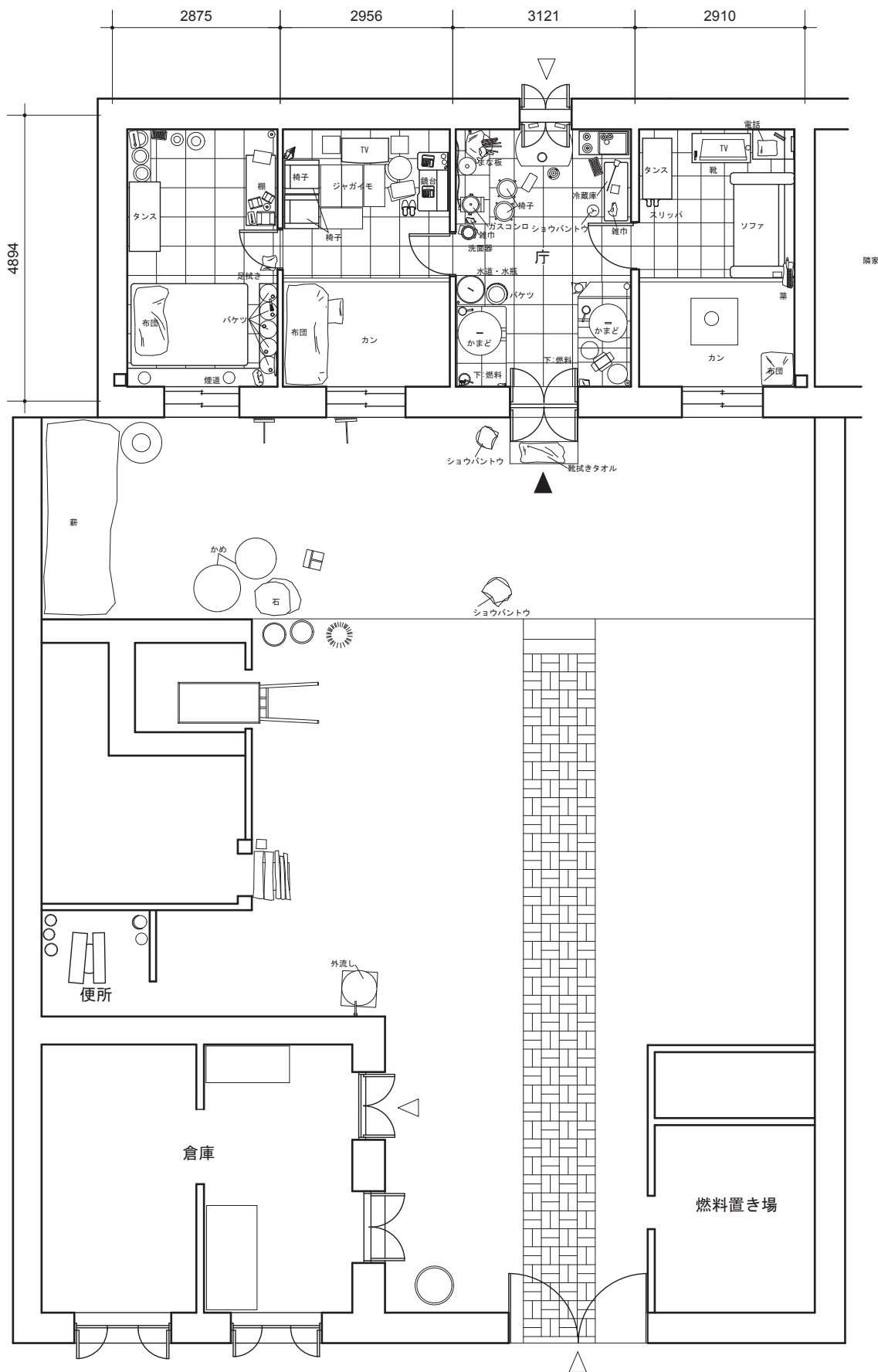
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他



住居番号: K1101

調査地: 遼寧省大連市金州区

4章:

5章:○

S = 1 : 100



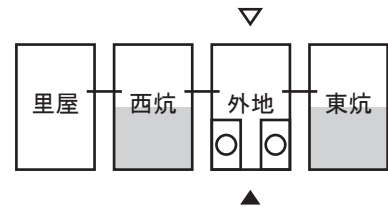
住居番号:K1102

調査年: 2011年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子2人



□ 空間構成に関して

建設年: 1983年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積: 57.5㎡

間口寸法 : 11890mm

奥行寸法 : 4835mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.73㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西屋ー西里屋:間仕切り設置

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東炕

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東炕、外地

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東炕)

団欒空間: 東炕

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東炕

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

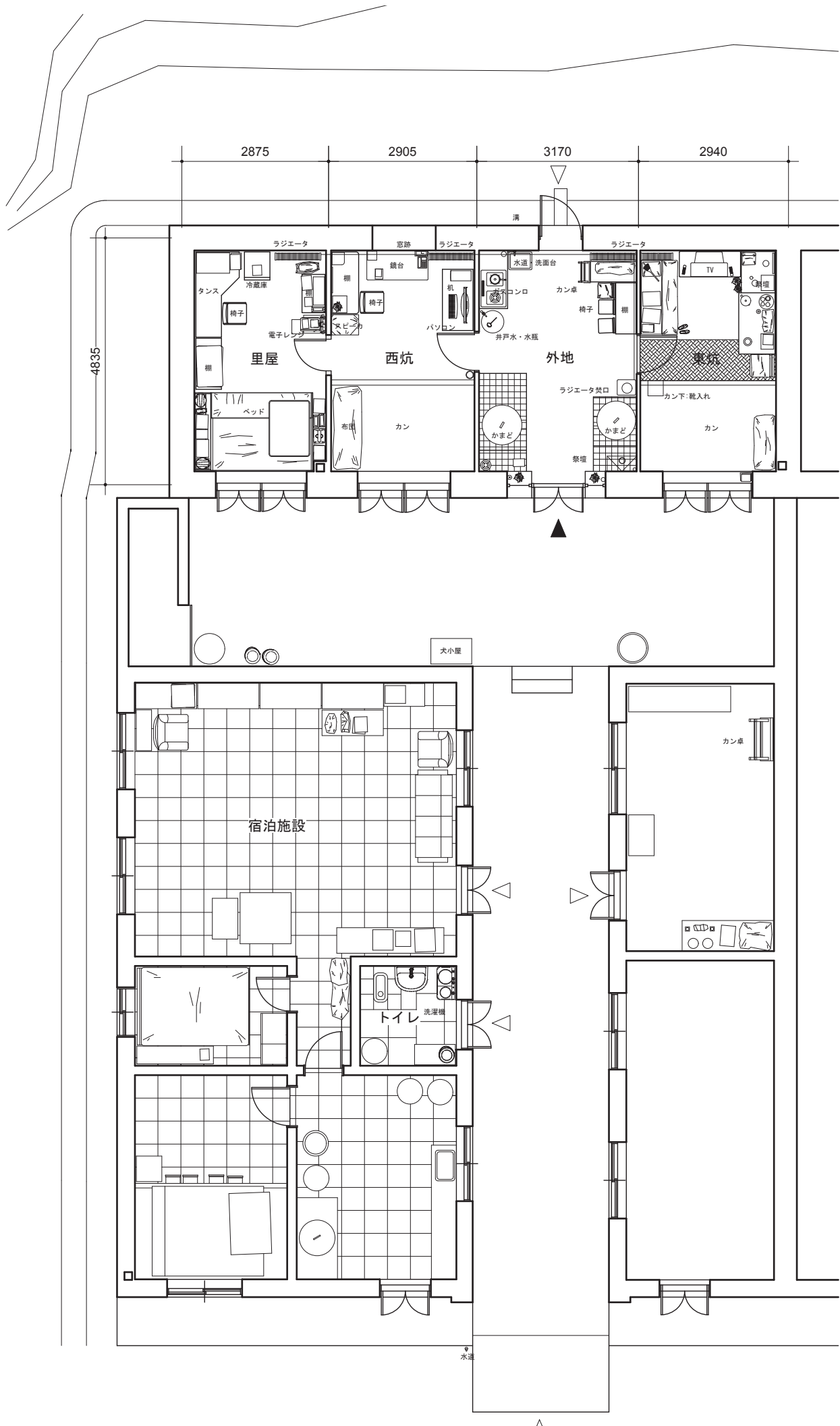
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(時間)

洗濯空間: 外地(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号:K1104(=K1309) 調査年:2011年,2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(息子別居)

☐ 空間構成に関して

建設年: 1979年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 43.5㎡

間口寸法 : 8741mm

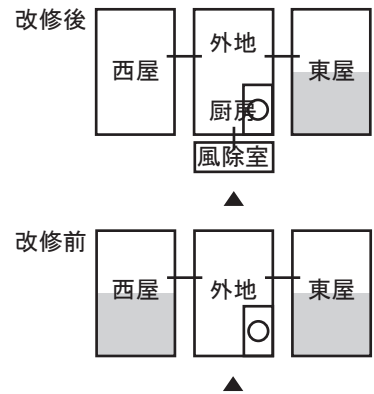
奥行寸法 : 4971mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前



☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.02㎡

ラジエータの数: 0基

カン室のラジエータ: 0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居前方、別棟(風除室(炊事空間)、倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、外地

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

食事空間: 東屋、外地

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 外地(カマドのある厨房)、別棟(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 分離

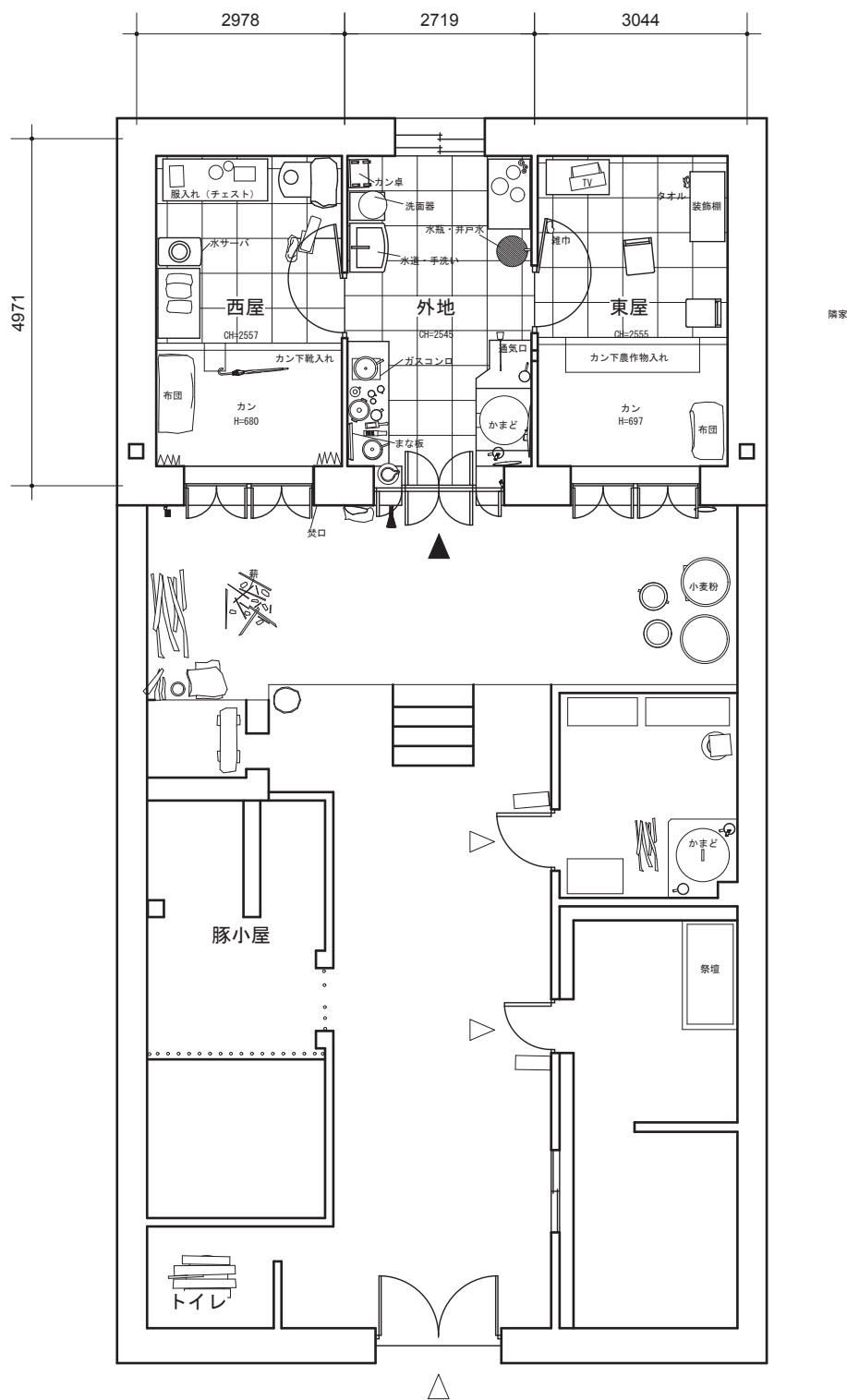
炊事空間の使い分け : 季節、調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程)

洗濯空間: 外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

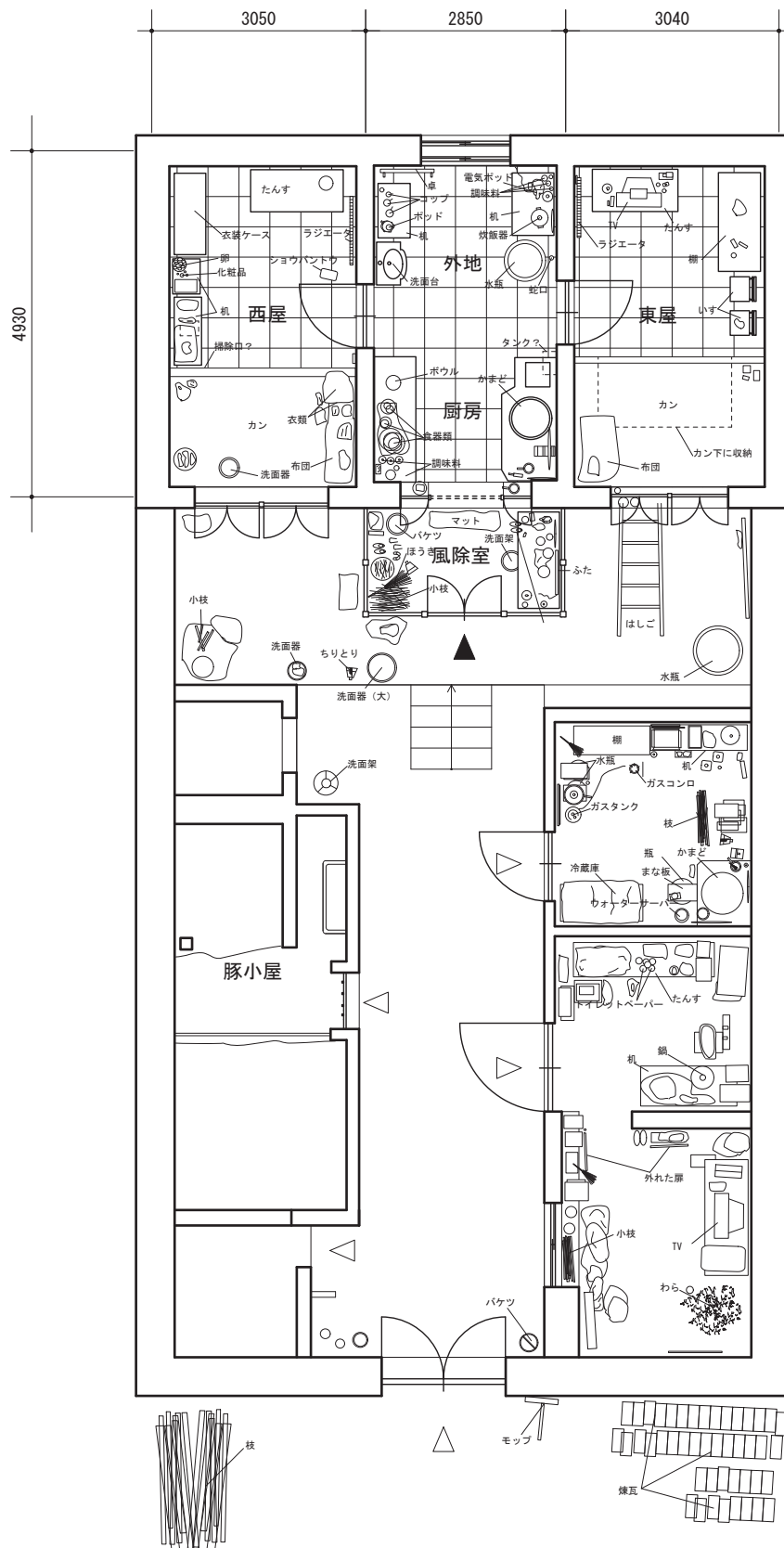


住居番号：K1104

調査地：遼寧省大連市金州区

S = 1 : 100



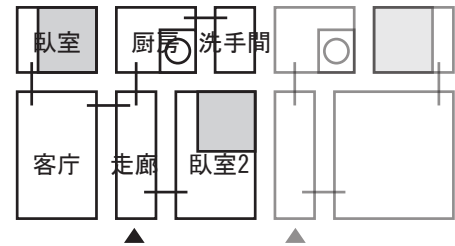


住居番号:H1201 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数: 6人

家族構成: 夫婦+息子夫婦+子(2人)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1996年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 81.3㎡

間口寸法 : 11445mm

奥行寸法 : 7105mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 北

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積: 3.72㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 洗手間:内装(炊事空間)

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(店)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 客厅、臥室2

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:客厅、臥室2カン)、来客(若い世代:客厅/高齢者:臥室2カン/主人の友人:客厅/女性:臥室2カン、臥室2カンの縁(夏))

食事空間: 厨房、臥室2

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:厨房/冬:臥室2)

団欒空間: 客厅、臥室2

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由: 両方使う

就寝空間: 臥室2

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)、手洗間(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 走廊(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

☐ その他

3185

3595

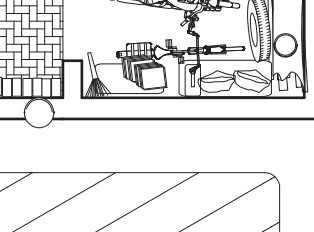
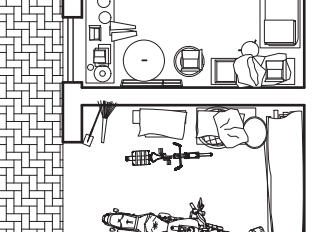
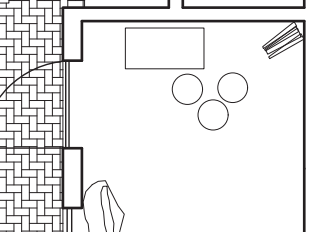
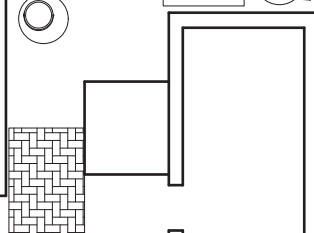
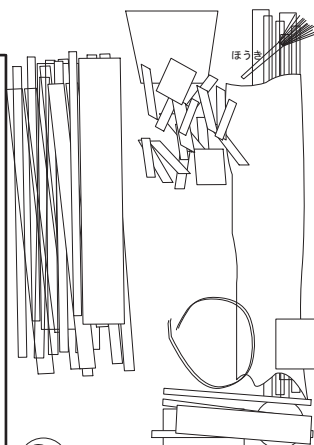
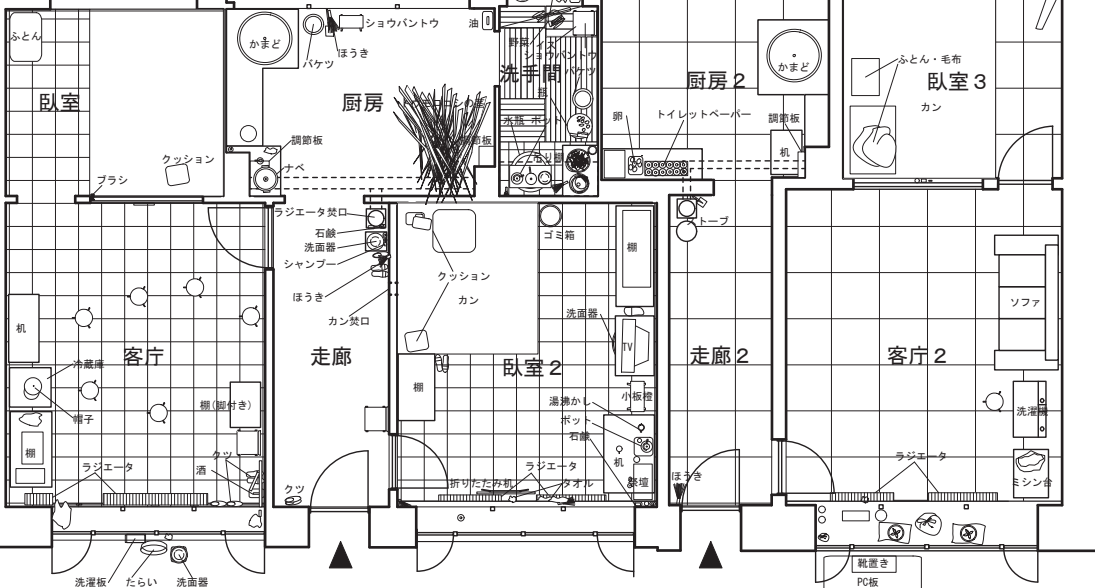
1365

3095

3403

2835

4270



住居番号: H1201

4章:

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

5章:○

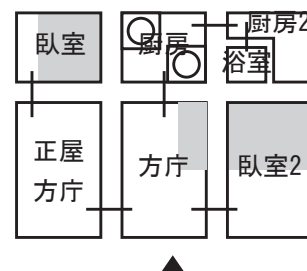
S = 1 : 100

住居番号:H1202 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+息子夫婦+子



☐ 空間構成に関して

建設年: 2003年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 90.4㎡

間口寸法 : 12080mm

奥行寸法 : 7480mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 北

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置: 住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積: 5.94㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 臥室2

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 臥室2、厨房、前庭

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:臥室2、厨房、前庭/冬:臥室2、厨房)

団欒空間: 臥室2、前庭

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:前庭/冬:臥室2)

就寝空間: 臥室2

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、方厅(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他

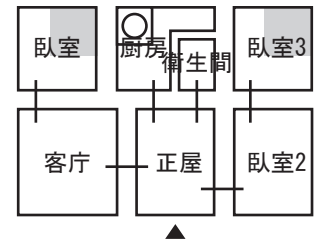


住居番号:H1203 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(娘別居)



□ 空間構成に関して

建設年:2003年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:95.0㎡

間口寸法 : 11900mm

奥行寸法 : 7980mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:5.78㎡

ラジエータの数:4基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:客厅、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由:季節(夏:客厅/冬:臥室)

食事空間:正屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:人が多いときはテーブルを出す

団欒空間:臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:臥室3、臥室2

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由:季節(夏:臥室3/冬:臥室2カン)

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)、正屋(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

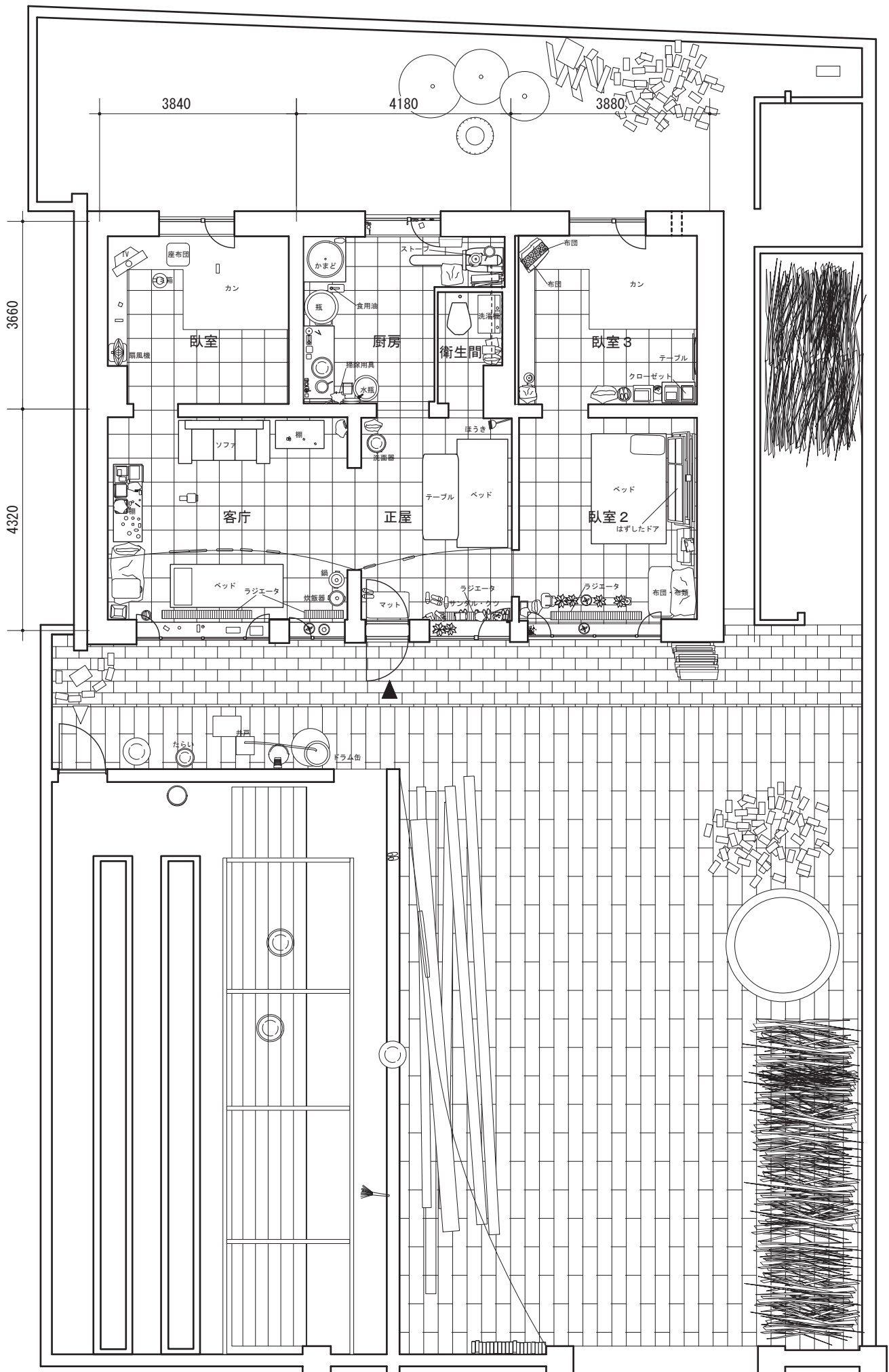
炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:正屋(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他



住居番号： H1203

4 章：

調査地 ： 黒竜江省哈爾濱市道外区

5 章：○

S = 1 : 100

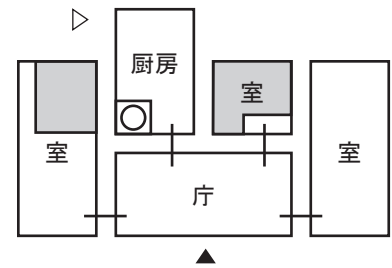


住居番号:H1206 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:3人

家族構成:夫婦+母(子2人別居)



□ 空間構成に関して

建設年:1983年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積:84.0㎡

間口寸法 : 12080mm

奥行寸法 : 6210mm

張り出し寸法 : 3439mm

入口位置 : 北

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:4.08㎡

ラジエータの数:2基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 東屋:カン新設

西屋:カン新設

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):あり

増築場所(内容) : 住居前方(炊事空間)

□ 生活行為に関して

接客空間:西の室

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:西の室、中央の厅

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:中央の厅/西の室のカン)

団欒空間:西の室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:西の室、中央の室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

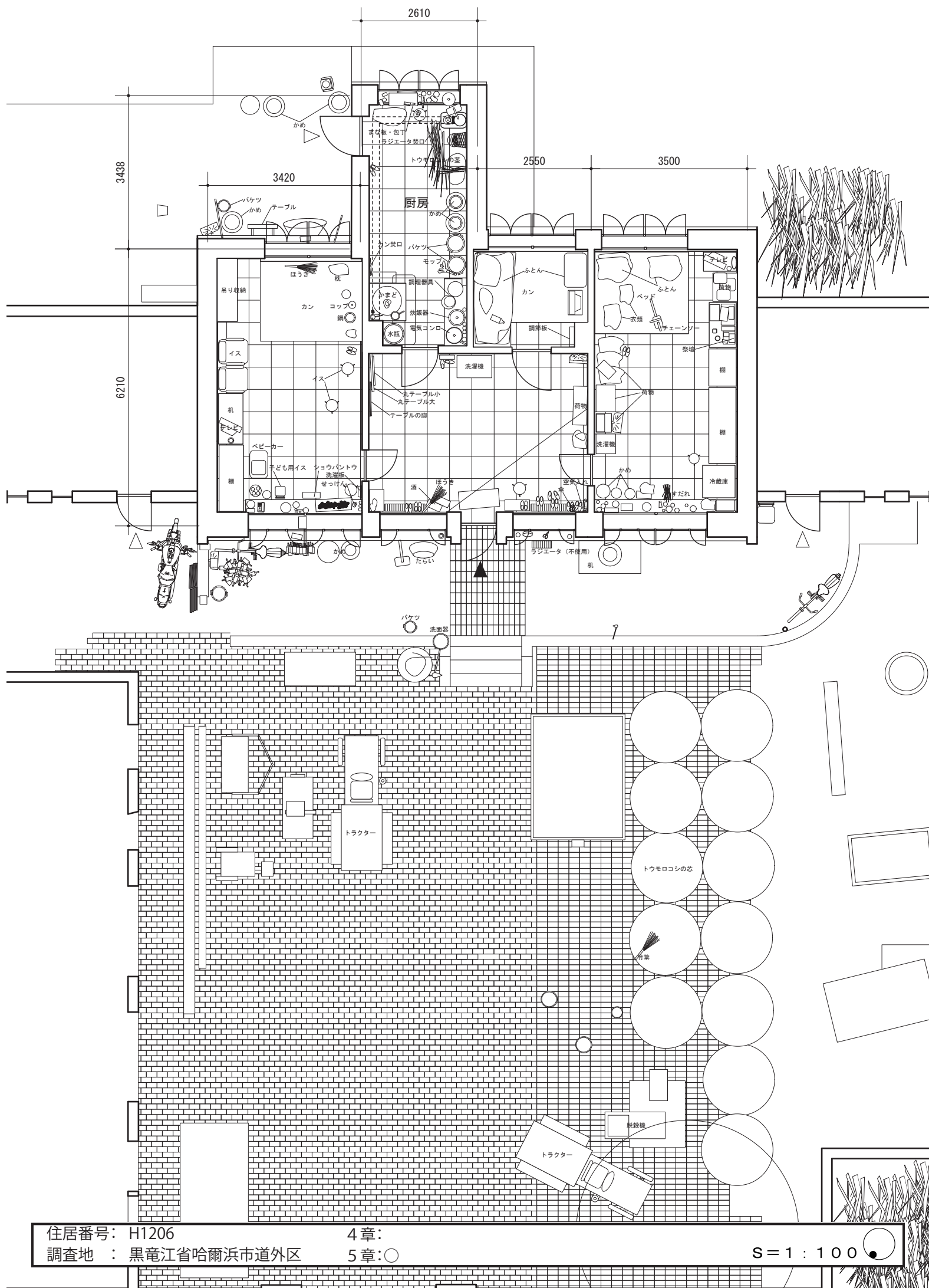
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号: H1206

4章:

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

5章:○

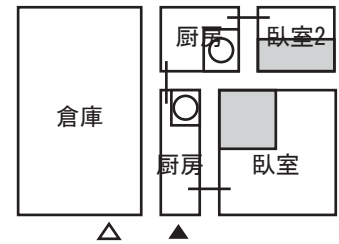
S=1:100

住居番号:H1207 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:3人

家族構成:夫婦+母(子別居)



□ 空間構成に関して

建設年:2004年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 1列+2列

段数 : 2段

住居部分面積:100.2㎡

間口寸法 : 13320mm

奥行寸法 : 7520mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居手前+住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:4.69㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 東屋:カン新設

走廊:カマド設置

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間:臥室、前庭

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由:季節(夏:臥室、前庭/冬:臥室)

食事空間:臥室、厨房

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:忙しいとき厨房

団欒空間:臥室、前庭

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由:季節(夏:臥室、前庭/冬:臥室)

就寝空間:臥室2、臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房住居手前(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

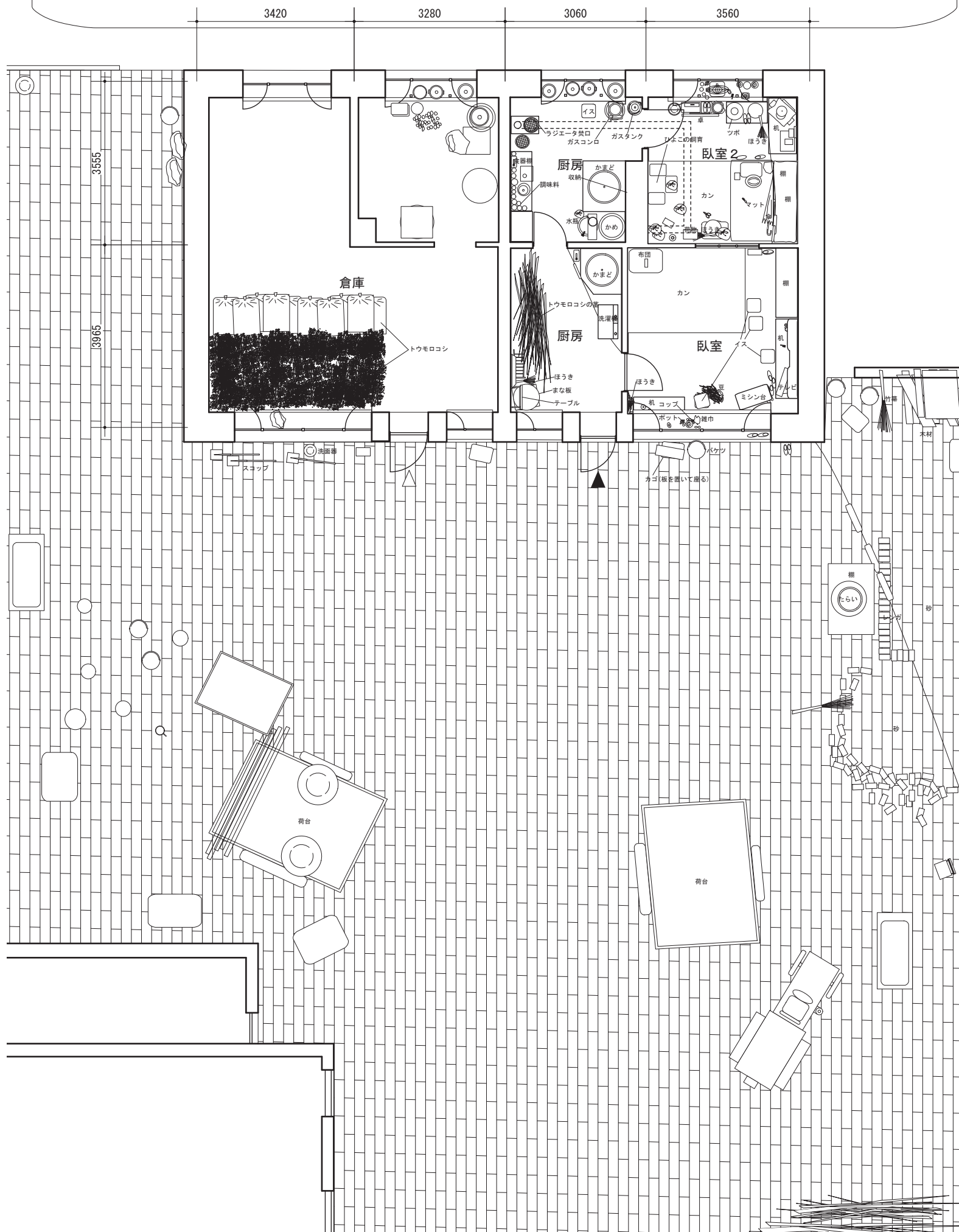
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:厨房住居手前(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号: H1207

4章:

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

5章:○

S = 1 : 100

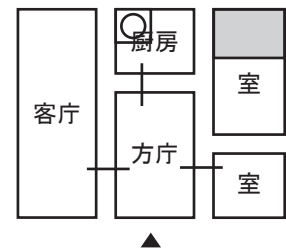


住居番号:H1208 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:3人

家族構成:夫婦+子(親世帯別居)



□ 空間構成に関して

建設年:1989年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:55.8㎡

間口寸法 : 10320mm

奥行寸法 : 4963mm

張り出し寸法 : 668mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:2.92㎡

ラジエータの数:6基

カン室のラジエータ:1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:室(カン)

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:客厅

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:客厅

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:室(カン)、客厅(ベッド)

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

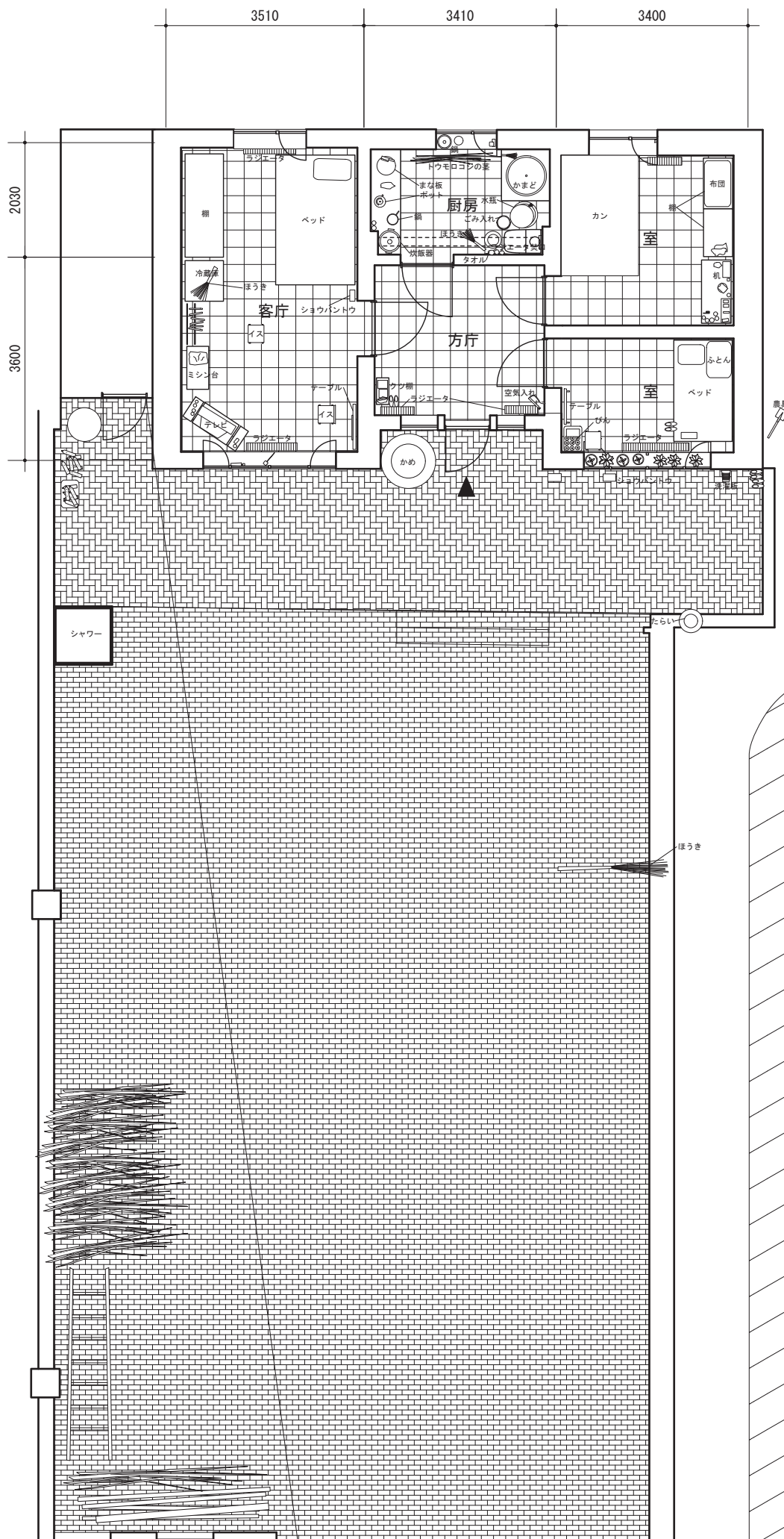
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間:方厅(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他

夫婦は室のカン、息子は客厅のベッドで就寝する。



住居番号： H1208

調査地： 黒竜江省哈爾濱市道外区

4章：

5章：○

S = 1 : 100

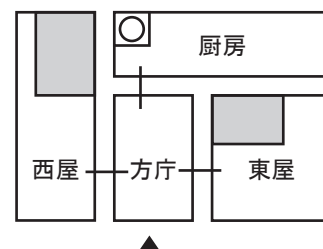


住居番号:H1209 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:3人

家族構成:夫婦+子(子2人別居)



□ 空間構成に関して

建設年:1988年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:70.1㎡

間口寸法 : 10660mm

奥行寸法 : 6580mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 北

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積:3.72㎡

ラジエータの数:5基

カン室のラジエータ:4基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 西屋:内装
厨房:カマド設置

西屋:カン新設

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:西屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:東屋、方厅

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:方厅(暖房の東側)/東屋カン)

団欒空間:東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:東屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:方厅(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 拡張

□ その他

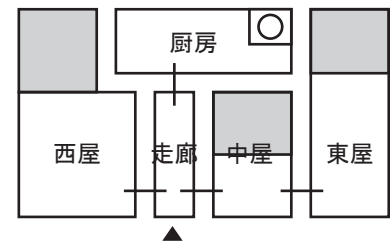
夫婦が東屋、息子が西屋で生活する。

住居番号:H1213 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:4人

家族構成:夫婦+母+子(子別居)



☐ 空間構成に関して

建設年:1972年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積:76.4㎡

間口寸法 : 11522mm

奥行寸法 : 6631mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積:4.79㎡

ラジエータの数:4基

カン室のラジエータ:4基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、西屋、

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(母の客:東屋カン、母の客で大人数:西屋ソファ、息子の客:西屋ソファ)

食事空間: 西屋、中屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 家族(母のみ:中屋、息子世帯:西屋カン、全員:西屋カン)

団欒空間: -

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 中屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

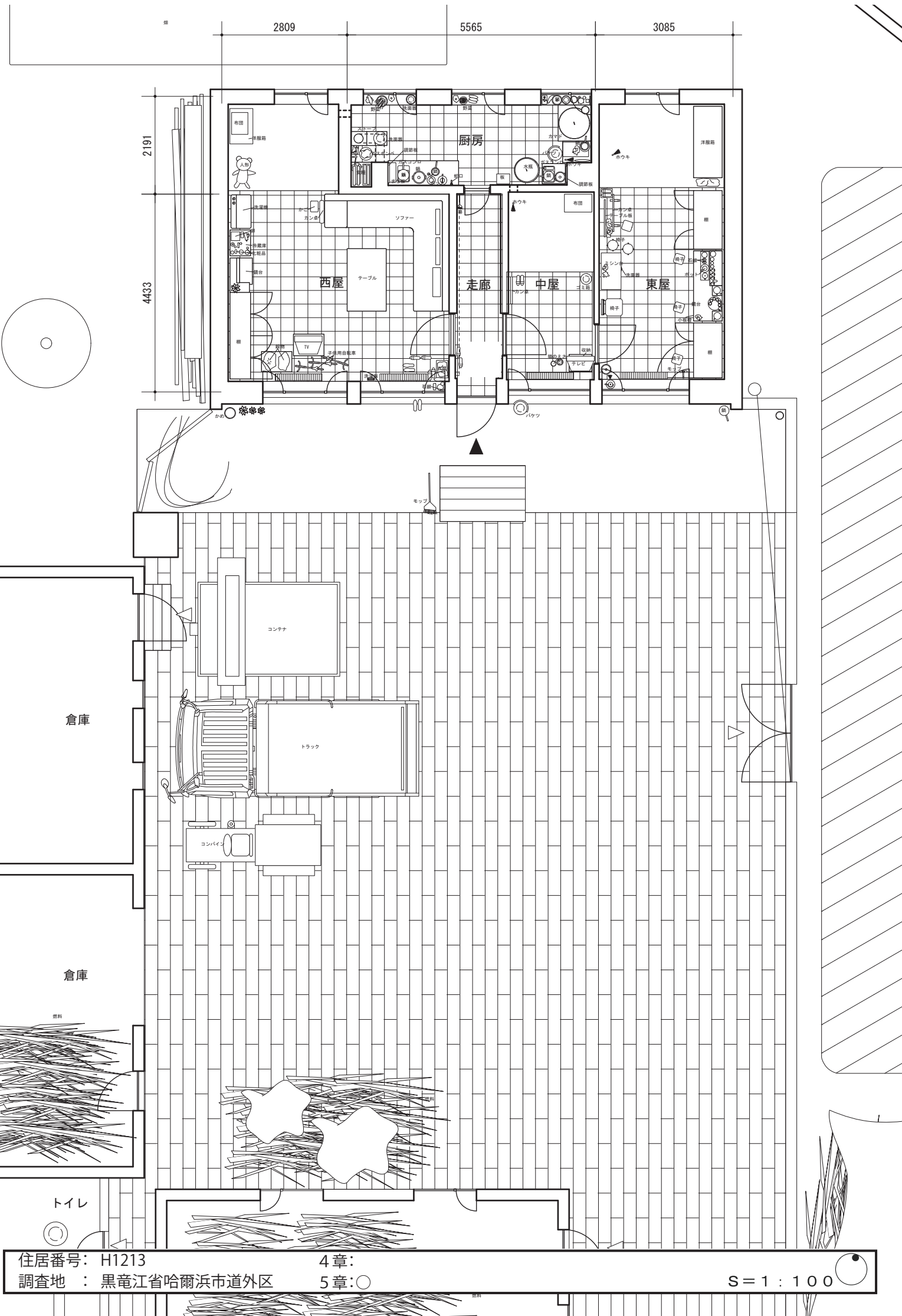
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 西屋(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他

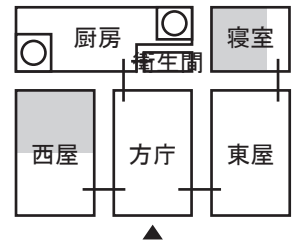


住居番号:H1214 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:3人

家族構成:夫婦+母(子別居)



□ 空間構成に関して

建設年:2000年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:70.2㎡

間口寸法 : 9528mm

奥行寸法 : 7367mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積:4.86㎡

ラジエータの数:4基

カン室のラジエータ:1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:方厅、寝室、外

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由:来客(母の客:寝室カン、その他:方厅)たまに外

食事空間:厨房、方厅

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:人数が多いときは方厅

団欒空間:西屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:西屋、寝室、東屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

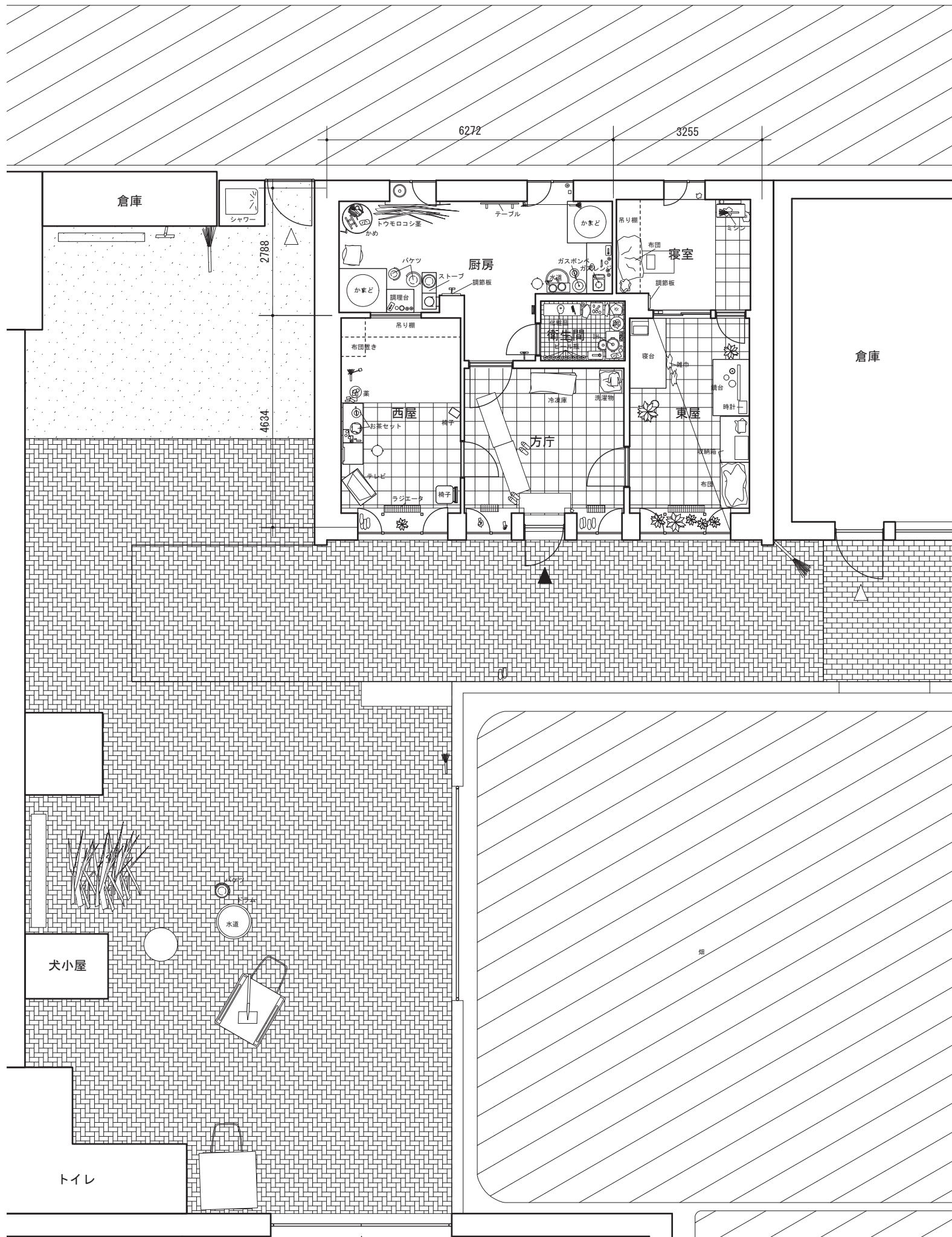
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節、調理工程)

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

主人は寝室、子世帯は西屋、娘が来たときは東屋のベッドで就寝する。



住居番号：H1214

調査地：黒竜江省哈爾濱市道外区

4章：

5章：○

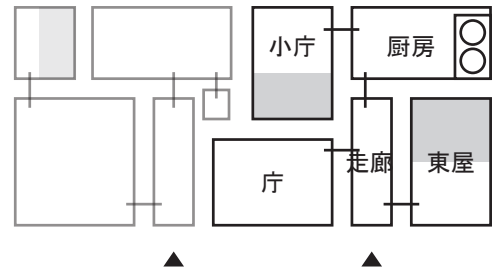
S = 1 : 100

住居番号:H1216 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(子2人、孫2人別居)



□ 空間構成に関して

建設年:2002年

住居形式:連続建・平屋

列数 : 2列+3列

段数 : 2段

住居部分面積:92.9㎡

間口寸法 : 13238mm

奥行寸法 : 7015mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積:7.13㎡

ラジエータの数:0基

カン室のラジエータ:0基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内):あり

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間:東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:東屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間:東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:東屋、庁

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

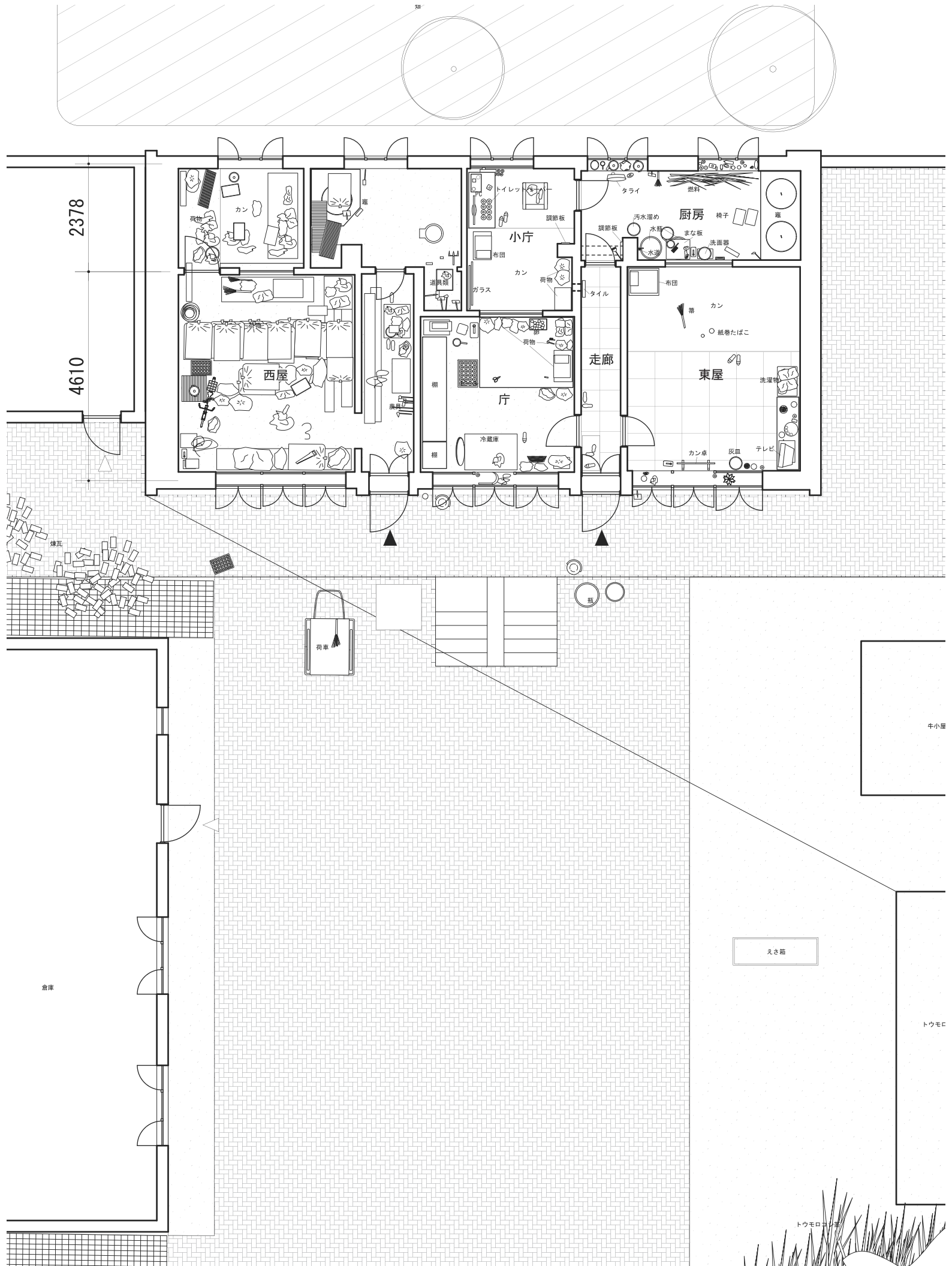
炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、東屋(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

子どもたちが、帰省したときに庁で就寝する。



住居番号: H1216

調査地: 黒竜江省哈爾濱市道外区

4章:

5章:○

S = 1 : 100

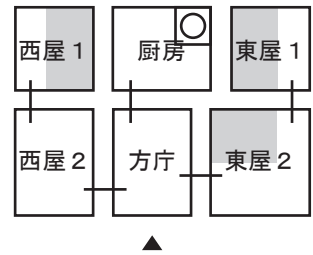


住居番号:H1217 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数:2人

家族構成:夫婦(子別居)



□ 空間構成に関して

建設年:2002年

住居形式:戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積:82.0㎡

間口寸法 : 11191mm

奥行寸法 : 7324mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置:住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居奥

主要カン面積:3.64㎡

ラジエータの数:3基

カン室のラジエータ:2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内):なし

増築の有無(正房):なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間:東屋2

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間:東屋1、方厅

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由:季節(夏:方厅でテーブル/冬:東屋カンまたはテーブル)

団欒空間:-

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間:東屋1、東屋2

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由:季節(夏:東屋2/冬:東屋1)

炊事空間:厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

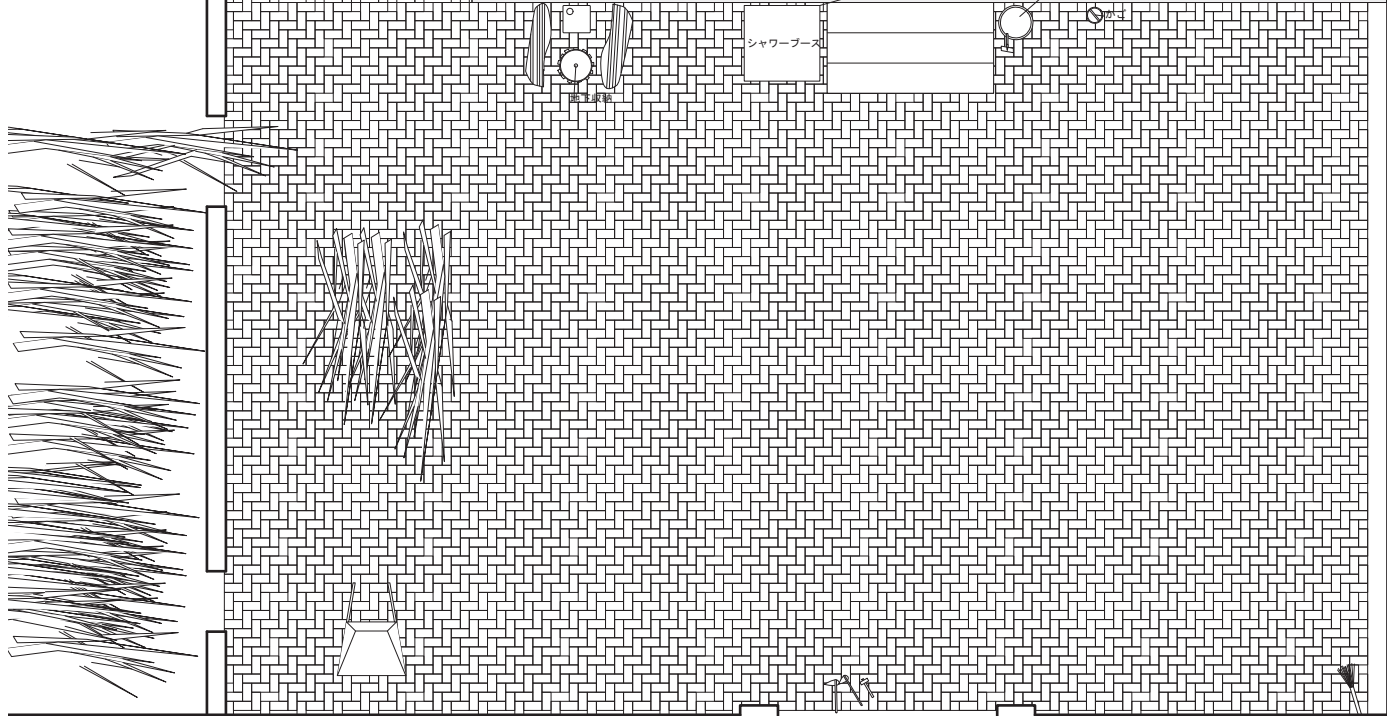
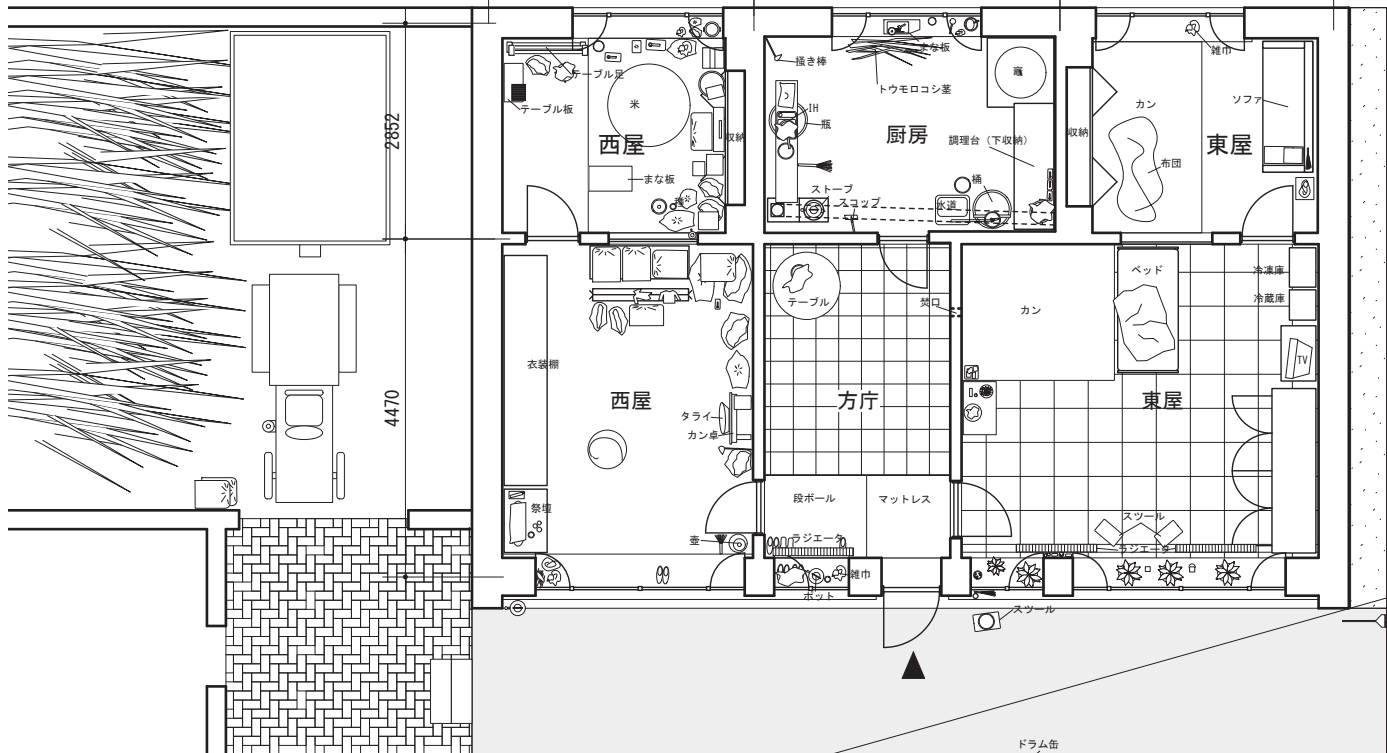
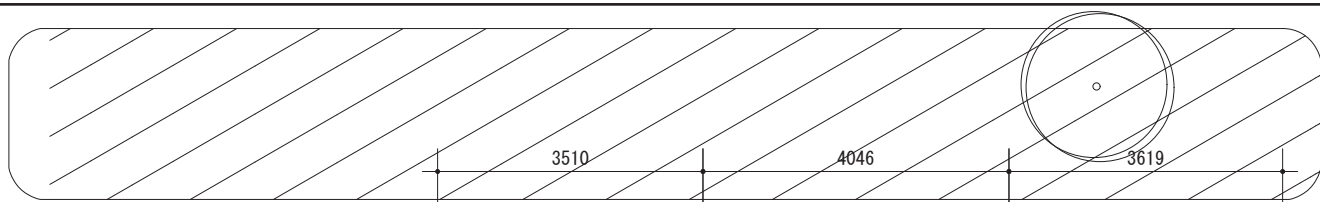
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間:厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他



住居番号： H1217

調査地 ： 黒竜江省哈爾濱市道外区

4 章：

5 章：○

S = 1 : 100

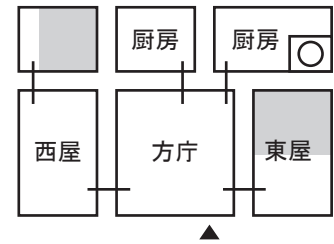


住居番号:H1218 調査年:2012年

調査地 : 黒竜江省哈爾濱市道外区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+息子夫婦+孫



□ 空間構成に関して

建設年: 2004年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 84.1㎡

間口寸法 : 11232mm

奥行寸法 : 7489mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方厅

カマドのある厨房位置: 住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居中央+住居奥

主要カン面積: 6.11㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: -

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 方厅、東屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:方厅/冬:東屋)、人数が多いときは東屋の炕前

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

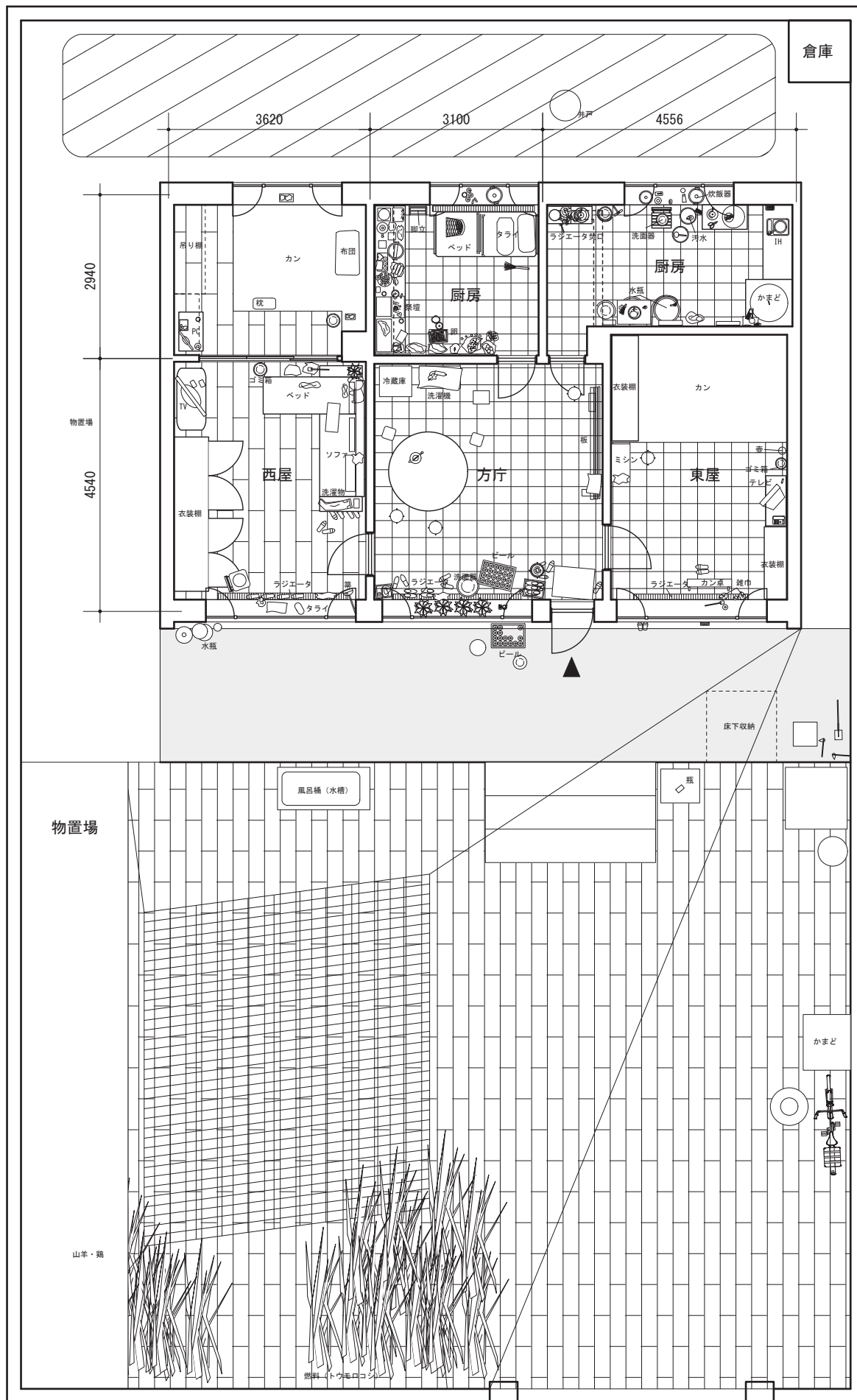
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(時間帯、季節)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

夫婦は東屋、息子家族は西屋で就寝する。



住居番号：H1218

調査地：黒竜江省哈尔滨市道外区

4章：

5章：○

S = 1 : 100



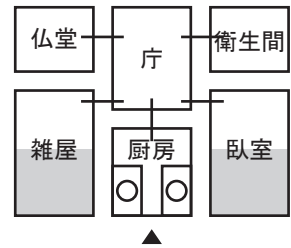
住居番号:K1301

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 3人

家族構成: 夫婦+子



□ 空間構成に関して

建設年: 2002年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 96.8㎡

間口寸法 : 11822mm

奥行寸法 : 8187mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.02㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(カン:親しい人、炕前:その他)

食事空間: 臥室、厅

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由: 人が多いときは炕前も利用

団欒空間: 臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由: 人が多いときは炕前も利用

就寝空間: 臥室

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

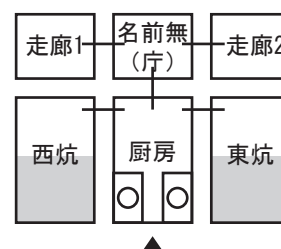
□ その他

住居番号:K1302 調査年:2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子2人別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1984年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 62.1㎡

間口寸法 : 9691mm

奥行寸法 : 6410mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.42㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切り設置

倉庫:内装

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東炕

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 人数(多いとき:炕前、少ないとき:カン上)

食事空間: 東炕、名前無(庁)

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:名前の無い庁、冬:東炕)

団欒空間: 東炕、名前無(庁)

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:名前の無い庁/冬:東炕)

就寝空間: 東炕

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)、庁

炊事拡張と分離 : 拡張

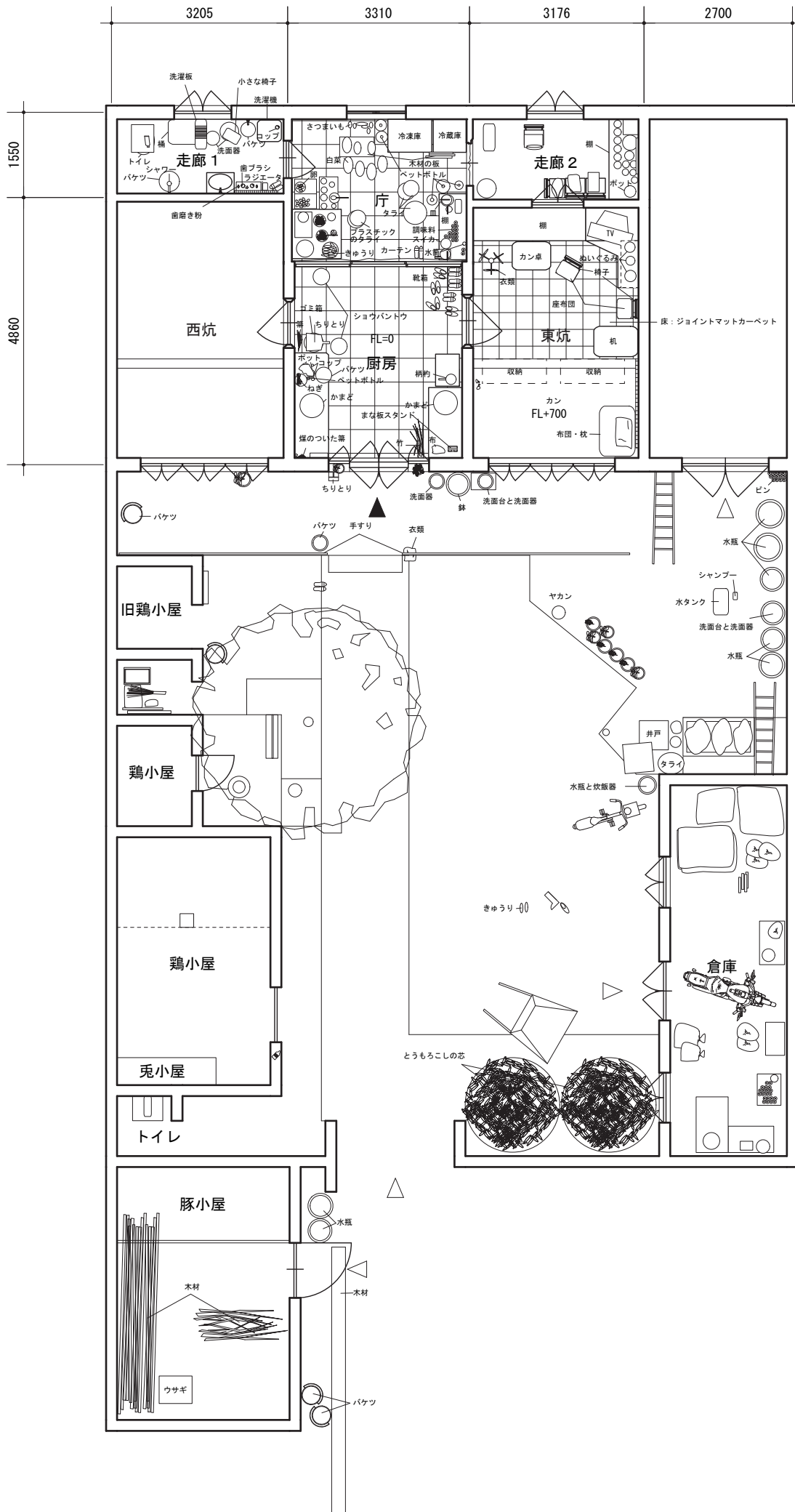
炊事空間の使い分け : 調理工程

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 走廊1(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他



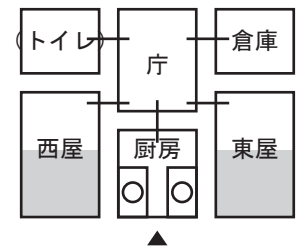
住居番号:K1303

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子、母別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1976年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 79.0㎡

間口寸法 : 9969mm

奥行寸法 : 7921mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.61㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切り設置

倉庫:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間: 西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:炕前、庁/冬:西屋、西屋炕前)

食事空間: 庁、西屋

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:庁/冬:西屋カン上)

団欒空間: 西屋、東屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:東屋/冬:西屋)

就寝空間: 西屋、東屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:東屋/冬:西屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: トイレ(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

夏は夫婦のみ東屋で、冬は西屋で就寝する。家族が帰省した際には家族全員西屋で就寝する。

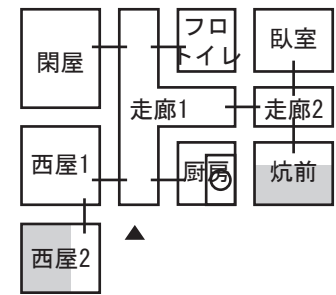
住居番号:K1304

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 4人

家族構成: 主人+息子夫婦+孫



□ 空間構成に関して

建設年: 1987年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 4列

段数 : 3段

住居部分面積: 92.3㎡

間口寸法 : 10419mm

奥行寸法 : 7965mm

張り出し寸法 : 2560mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 入口横

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.91㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 廊下:間仕切り設置
東屋:内装

その他:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、走廊1、臥室

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:走廊1、臥室/冬:東屋)

食事空間: 東屋

食事空間の使い分け : なし

食事空間の使い分け理由:

団欒空間: 東屋、臥室

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋、臥室

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:臥室、東屋/冬:東屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

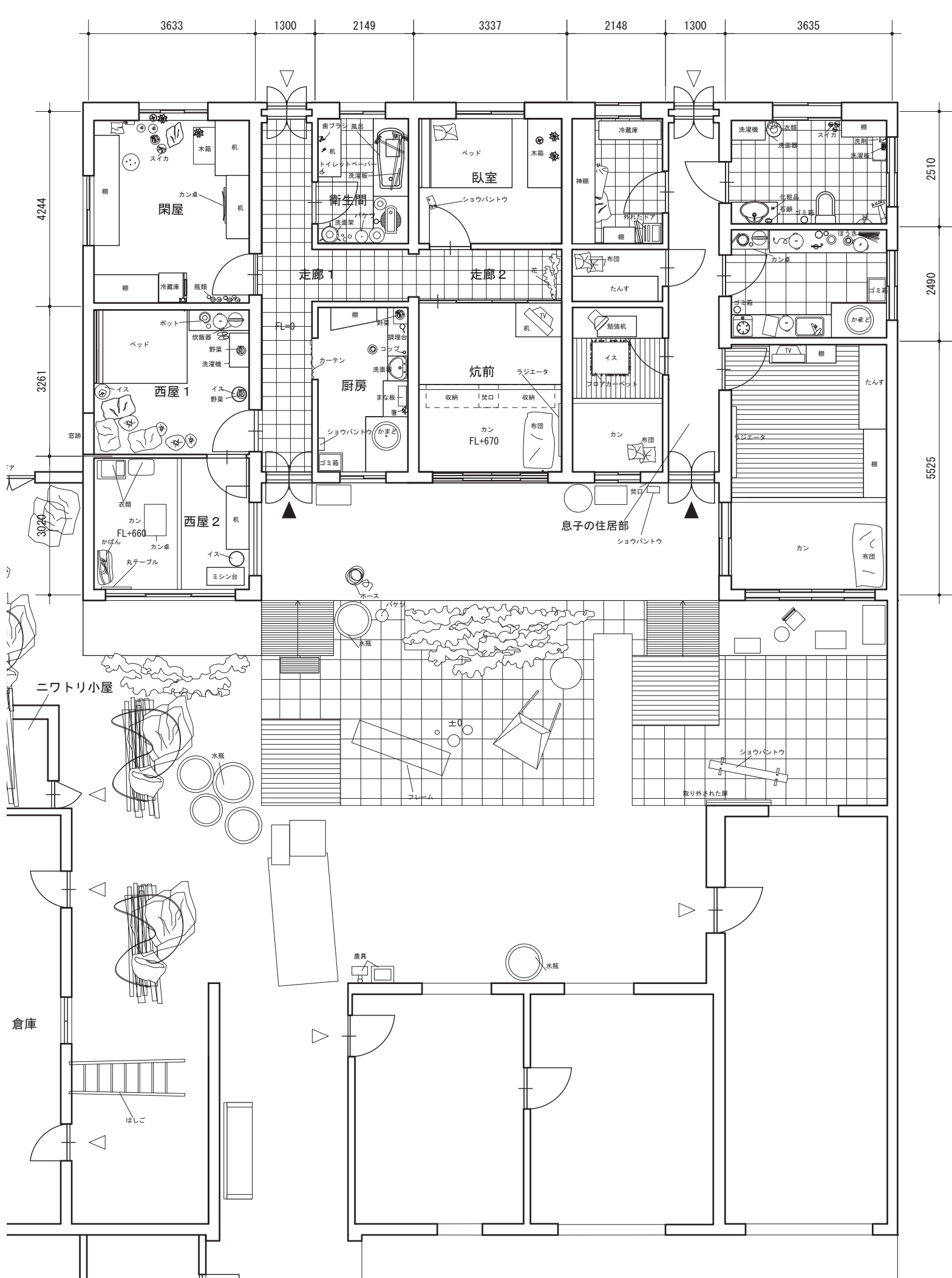
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : なし

洗濯空間: 風呂・トイレ(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他



住居番号: K1304

調査地: 遼寧省大連市金州区

4章:

5章:○

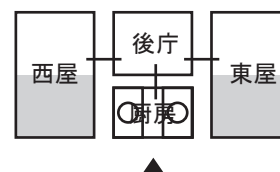
S = 1 : 100

住居番号:K1305 調査年:2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子3人別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1988年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 72.5㎡

間口寸法 : 11602mm

奥行寸法 : 6250mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 4.89㎡

ラジエータの数: 1基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切り取り壊し

後庁:壁の間仕切り取り壊し

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : - (一)

□ 生活行為に関して

接客空間: 西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:後庁、西屋のカン/冬:西屋のカン)

食事空間: 西屋、後庁

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 時間(朝:西屋のカン、後庁/昼:後庁/夜:西屋のカン)

団欒空間: -

団欒空間の使い分け :

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

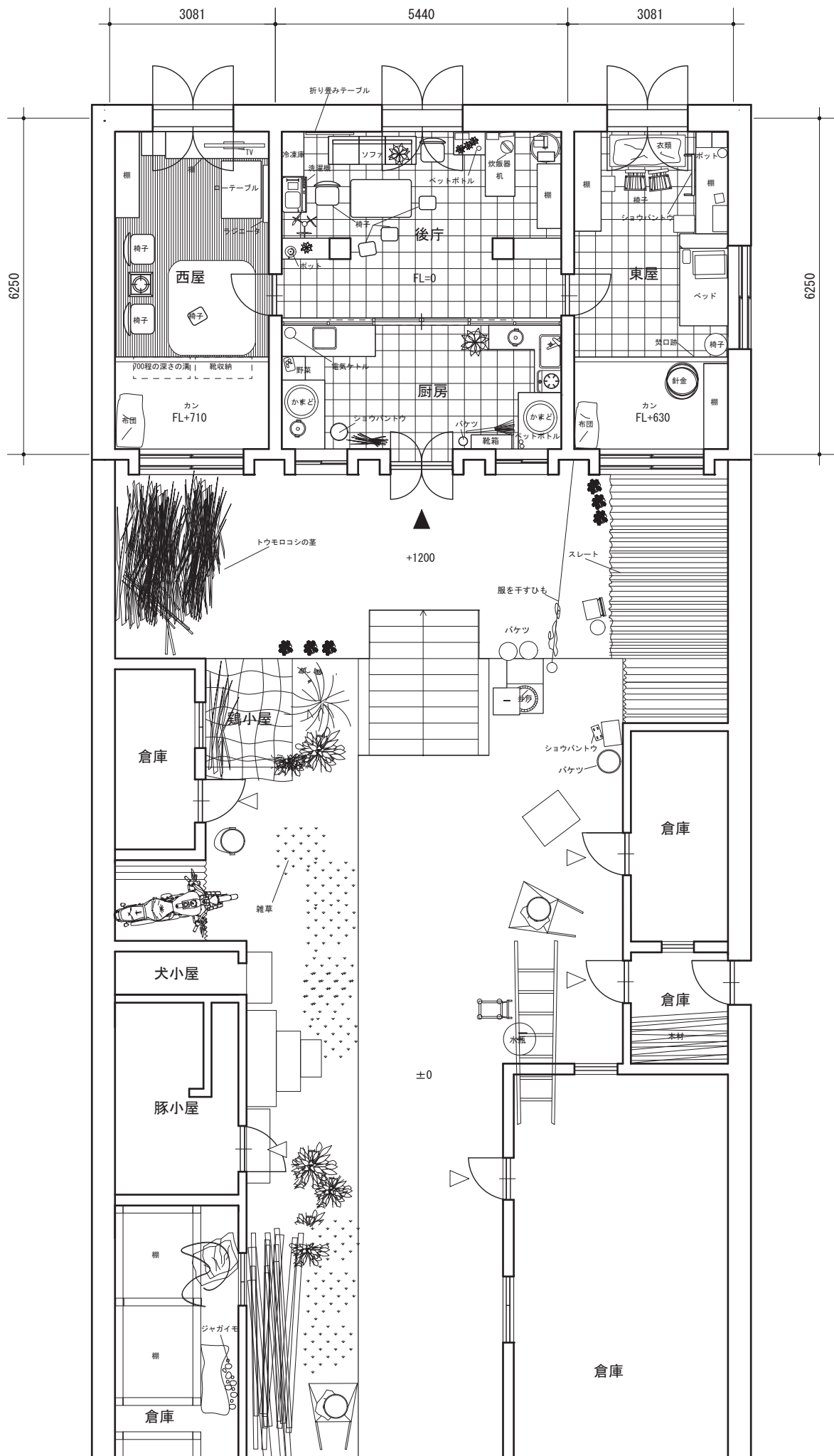
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程) カマドとカマド(季節)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

家の東側に鶏小屋を造った際に、東屋から西屋に主臥室を変更した。



住居番号: K1305

調査地: 遼寧省大連市金州区

4章:

5章:○

S = 1 : 100

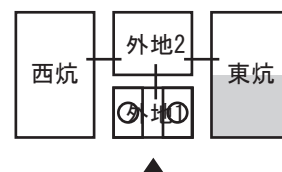


住居番号:K1307 調査年:2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 1人

家族構成: 主人(子2人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 2012年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 1段

住居部分面積: 42.2㎡

間口寸法 : 8537mm

奥行寸法 : 4938mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.19㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

☐ 生活行為に関して

接客空間: 外地2

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 東炕

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東炕)

団欒空間: -

団欒空間の使い分け :

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東炕

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

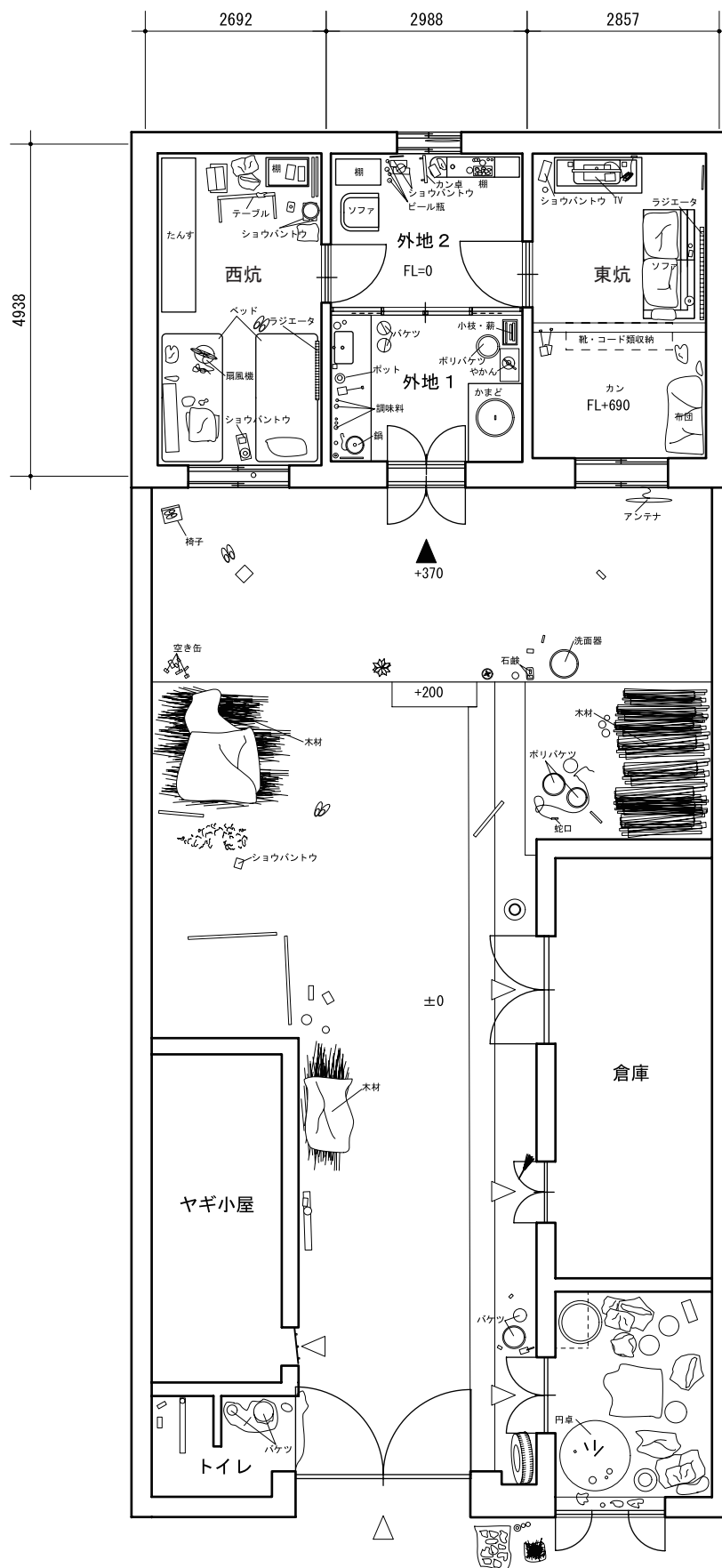
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(理由無)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

☐ その他

子世帯が来たときは子世帯が西炕で就寝する。



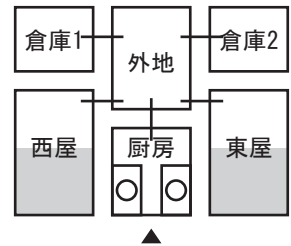
住居番号:K1308

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(息子夫婦、子、孫別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1990年

住居形式: 連続建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 86.1㎡

間口寸法 : 10130mm

奥行寸法 : 8500mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 6.14㎡

ラジエータの数: 2基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(住居)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、外地

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

食事空間: 東屋、外地

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋)

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由:

就寝空間: 東屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:東屋/冬:西屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとカマド(季節)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : なし

□ その他

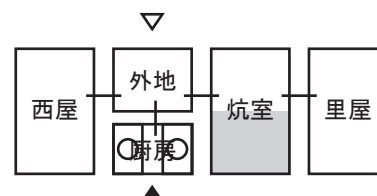


住居番号:K1310 調査年:2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 4人

家族構成: 夫婦+子+母(輪居)(娘別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1990年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 1段

住居部分面積: 60.3㎡

間口寸法 : 12671mm

奥行寸法 : 4755mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : カマドのある厨房

カマドのある厨房位置: 住居手前

□ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前

主要カン面積: 5.36㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 外地:間仕切りの設置

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由: -

食事空間: 東屋、外地

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:外地/冬:東屋、西屋)

団欒空間: 東屋、西屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 居住者(家族:東屋/祖母:西屋)

就寝空間: 東屋、西屋、里屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:両親は東屋、娘はベッド、祖母は西屋、/冬:家族は東屋、祖母は西屋)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

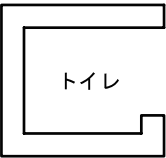
炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 厨房(カマドのある厨房)、外

洗濯拡張と分離 : -

□ その他

祖母が滞在中は西屋で食事する。

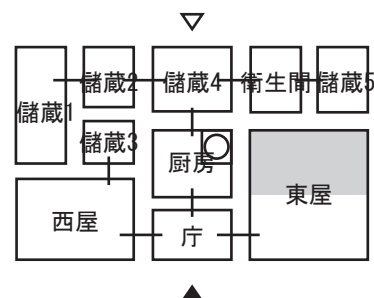


住居番号:K1311 調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 1993年

住居形式: 戸建・平屋(高基礎)

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 113.5㎡

間口寸法 : 11760mm

奥行寸法 : 9655mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 方庁

カマドのある厨房位置: 住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 6.68㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、西屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 来客(都市部の来客: 西屋、村の来客: 東屋)

食事空間: 庁、厨房

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏: 庁と厨房/冬: 東屋)

団欒空間: 東屋、庁

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 人数が多いときはカン

就寝空間: 東屋、ベッド

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏: カンとベッドの両方を利用/冬: カンのみ)、人(息子は西屋のベッド)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

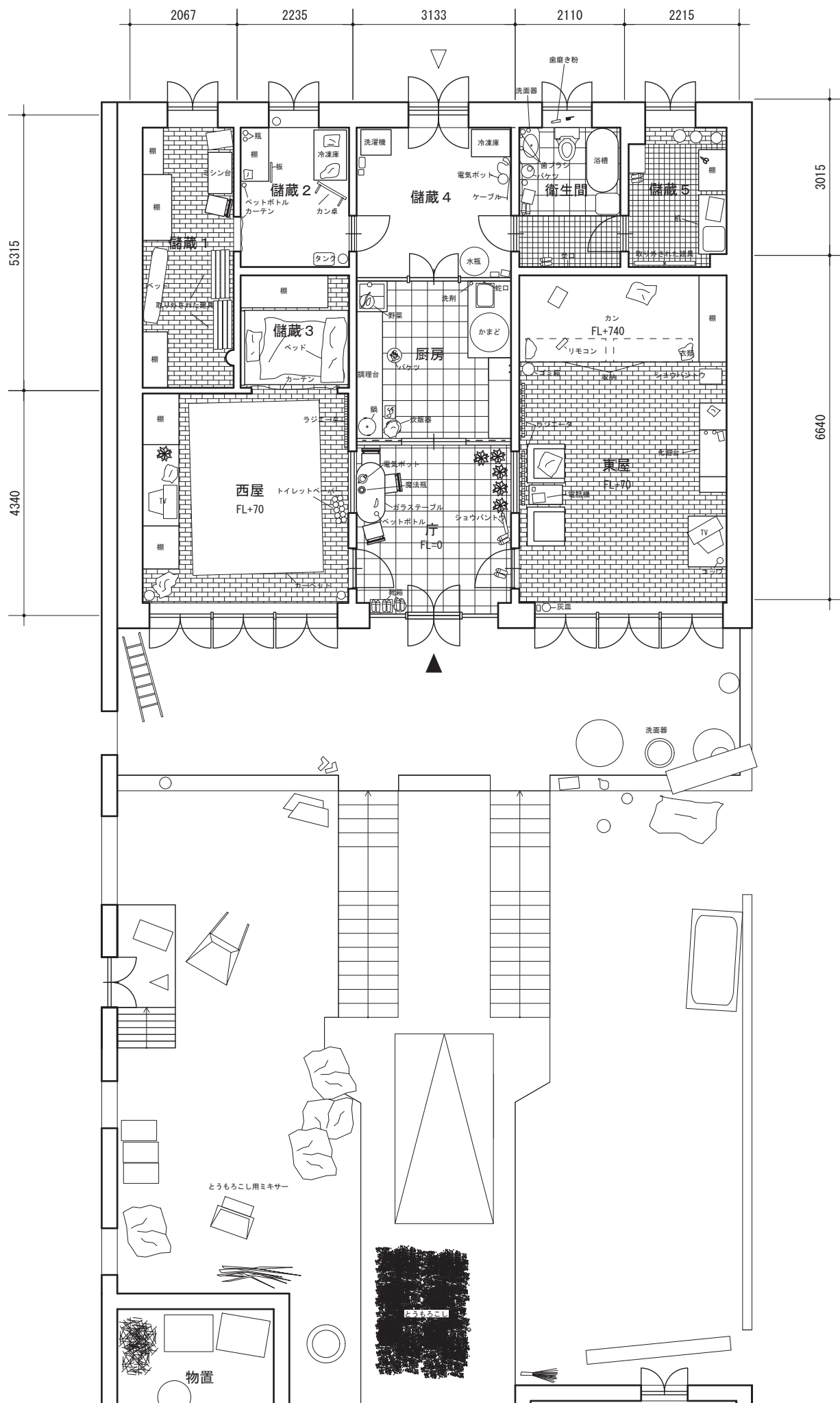
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他



住居番号: K1311

調査地: 遼寧省大連市金州区

4章:

5章:○

S = 1 : 100

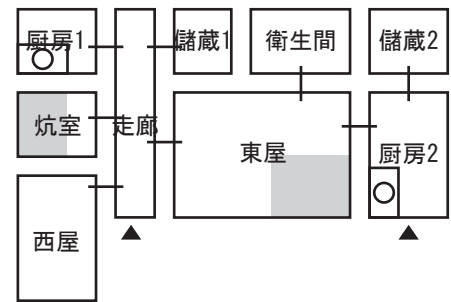


住居番号:K1312 調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 3人

家族構成: 息子夫婦+孫(夫婦敷地内同居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1982年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 101.2㎡

間口寸法 : 12720mm

奥行寸法 : 7355mm

張り出し寸法 : 2468mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 住居手前+住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: 4.27㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : その他:内装

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 東屋

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:ソファ、冬:カン)、来客(親戚はカン)

食事空間: 諸蔵2・門房、外

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:諸蔵2・外もあり/冬:東屋)、家族(奥さんは門房)、

団欒空間: 東屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 親戚:ソファとカン/奥さんだけノ時:門房

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : なし

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房1(カマドのある厨房)、厨房2(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

炊事空間の使い分け : 調理工程

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)、外

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他

息子が帰省したときは西屋のベッドで就寝する。

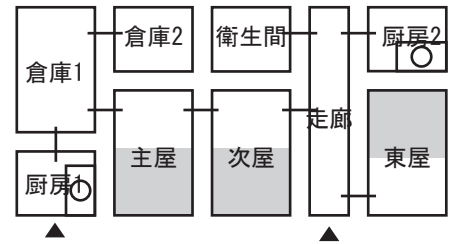
住居番号:K1313

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子4人別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 2000年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 5列

段数 : 2段

住居部分面積: 44.7㎡

間口寸法 : 5456mm

奥行寸法 : 8190mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 住居手前+住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 3基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: 5.32㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 2基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): あり

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : 別棟(倉庫)

□ 生活行為に関して

接客空間: 次屋、主屋、走廊

接客空間の使い分け : あり

接客空間の使い分け理由: 季節(夏:次屋、冬:主屋)、来客(トランプの時は走廊)

食事空間: 主屋、倉庫1

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 人数(人が多いときは倉庫1)

団欒空間: 主屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:次屋/冬:主屋)

就寝空間: 主屋、次屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由:

炊事空間: 厨房1(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他



住居番号:K1314 調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 5人

家族構成: 夫婦+母+子2人

☐ 空間構成に関して

建設年: 1980年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 3列

段数 : 2段

住居部分面積: 122.8㎡

間口寸法 : 10025mm

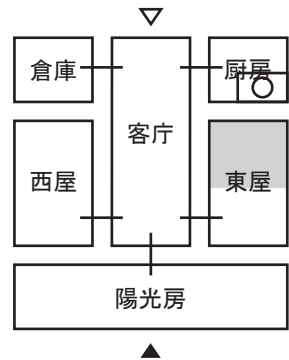
奥行寸法 : 12254mm

張り出し寸法 : 0mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居奥



☐ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 5.72㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 着庁一外地:間仕切り取り壊し その他:内装
東屋:カン取り壊し、カンの設置(南カンから中カン)

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): あり

増築場所(内容) : 住居前方(作業場、風呂)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 客庁

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由:

食事空間: 客庁、外

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:人が多いとき外)

団欒空間: 客庁、東屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:客庁/冬:東屋)

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋ベッド/:冬:東屋カン)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

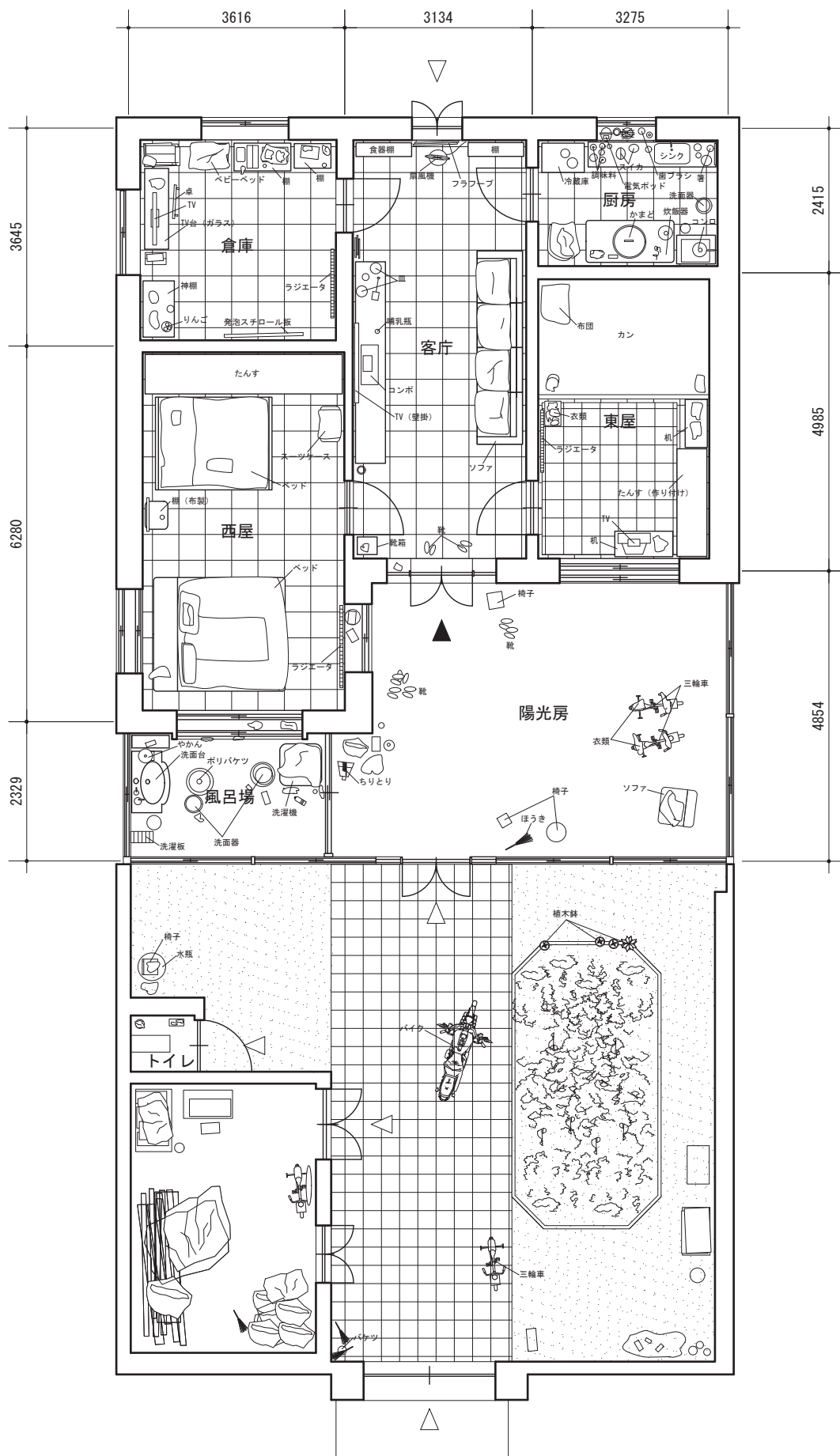
炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(調理工程)

洗濯空間: 陽光房(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他

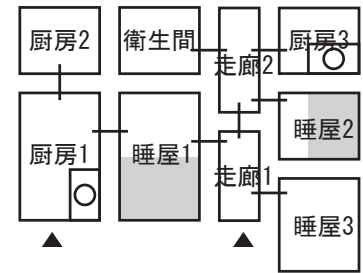


住居番号:K1315 調査年:2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子4人別居)



☐ 空間構成に関して

建設年: 1982年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 2段

住居部分面積: 85.0㎡

間口寸法 : 10033mm

奥行寸法 : 7781mm

張り出し寸法 : 1940mm

入口位置 : 南

入口空間 : 走廊

カマドのある厨房位置: 住居手前+住居奥

☐ 暖房に関して

カンの数 : 2基

カン位置 : 住居手前+住居中央

主要カン面積: 6.26㎡

ラジエータの数: 3基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

☐ 改修・増築に関して

改修の有無 : あり

改修場所(内容) : 走廊:間仕切りの設置
その他:屋根の葺き替え

その他:内装

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -(-)

☐ 生活行為に関して

接客空間: 睡屋1

接客空間の使い分け : なし

接客空間の使い分け理由: 人数が多いときは炕前も使う

食事空間: 睡屋1

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 夏:炕前、冬:カン

団欒空間: 睡屋1

団欒空間の使い分け : なし

団欒空間の使い分け理由: 人数が多いときは炕前も使う

就寝空間: 睡屋1、睡屋3

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:夫はベッド、妻はカン/冬:二人ともカン)

炊事空間: 厨房1(カマドのある厨房)、厨房2(炊事場所)

炊事拡張と分離 : 拡張

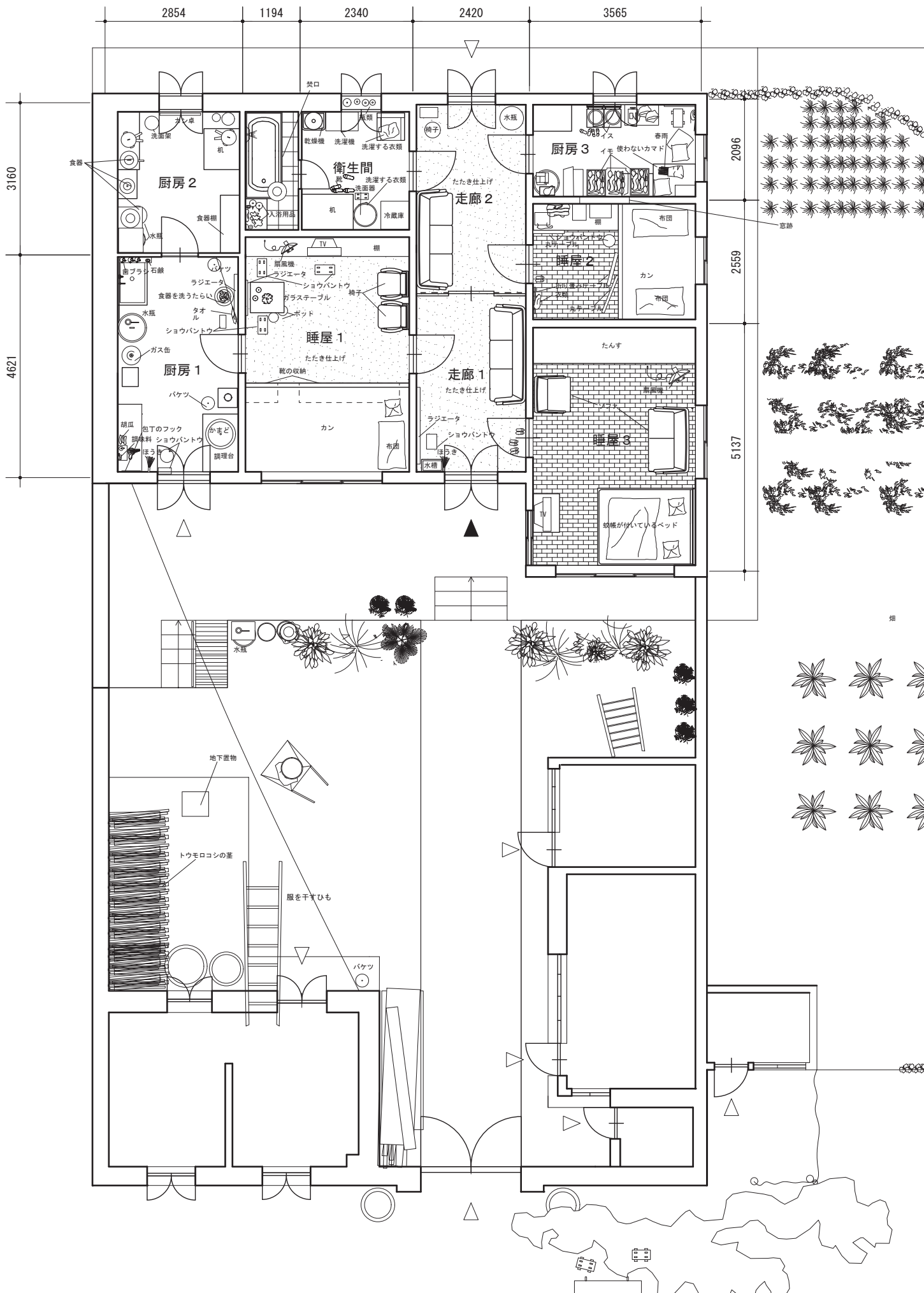
炊事空間の使い分け : 季節

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

☐ その他



住居番号: K1315

調査地 : 遼寧省大連市金州区

4章:

5章:○

S = 1 : 100



ショウパントウ

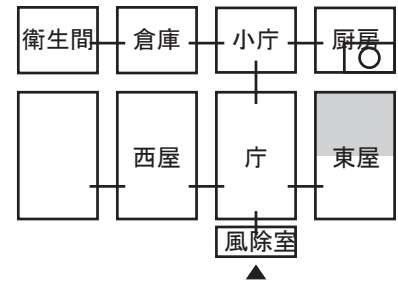
住居番号:K1316

調査年: 2013年

調査地 : 遼寧省大連市金州区

居住者数: 2人

家族構成: 夫婦(子別居)



□ 空間構成に関して

建設年: 2007年

住居形式: 戸建・平屋

列数 : 4列

段数 : 2段

住居部分面積: 112.8㎡

間口寸法 : 13599mm

奥行寸法 : 7985mm

張り出し寸法 : 1620mm

入口位置 : 南

入口空間 : 前庁

カマドのある厨房位置: 住居奥

□ 暖房に関して

カンの数 : 1基

カン位置 : 住居中央

主要カン面積: 6.72㎡

ラジエータの数: 4基

カン室のラジエータ: 1基

ペチカの数 : 0基

カン室のペチカ : 0基

□ 改修・増築に関して

改修の有無 : なし

改修場所(内容) :

増築の有無(敷地内): なし

増築の有無(正房): なし

増築場所(内容) : -()

□ 生活行為に関して

接客空間: 東屋、客厅

接客空間の使い分け : あり

食事空間: 厨房

接客空間の使い分け理由: 時間が短いときは客厅

食事空間の使い分け : あり

食事空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:東屋)

団欒空間: 客厅、東屋

団欒空間の使い分け : あり

団欒空間の使い分け理由: 季節(夏:客厅/冬:東屋)

就寝空間: 東屋、西屋

就寝空間の使い分け : あり

就寝空間の使い分け理由: 季節(夏:西屋ベッド/冬:東屋カン)

炊事空間: 厨房(カマドのある厨房)

炊事拡張と分離 : なし

炊事空間の使い分け : なし

炊事設備の使い分け : カマドとコンロ(季節)

洗濯空間: 衛生間(洗濯場所)

洗濯拡張と分離 : 分離

□ その他

